クボタコンバイン

取扱説明書

ご使用前に必ずお読みください
いつまでも大切に保管してください

操作装置のシンボルマーク

運転操作及び保守管理のために，操作装置のシンボルマークが使用されています。シンボルマークの意味は下記のとおりですのでよく理解して戴き誤操作のないようご注意ください。

- ホーン
- エンジン回転数“低回転”
- エンジン回転数“高回転”
- ウインカランプ
- ヘッドランプ

- エンジン停止
- 燃料

専門用語の説明

用語	説明
● ＨＳＴ	油圧式の無段変速装置
● 枕こぎ台	手刈りした作物を脱こくするときにわらを置く台
● もみデッキ	もみ袋を置く台
● ステアリングワンレバー	操向操作レバーと刈取部昇降レバー
● デバイダ	穀かんを分けすくい上げる部分
● 畦越（あぜごえ）	圃場への出入り，あぜ越え，機械の積込み・積降し等をする時の走行速度
● 駐車ブレーキレバー	機械から降りて移動・走行する時に使用する駐車ブレーキ装置
● 給油台	燃料を給油する時，燃料缶を置く台
● ドレーン（プラグ）	エンジンオイル・トランスミッションオイルの排油栓・ラジエータの排水栓
● スローブローヒューズ	バッテリ近くに設けたメイン回路保護のためのヒューズ
● １番スクリュ	精選されたこく粒を横搬送するスクリュコンベア
● ２番スクリュ	粗選されたこく粒やわらくずを横搬送するスクリュコンベア
● トウミ	選別風を発生させるファン
● こぎ胴	脱こくするドラム
● フィードチェーン	稲を挟持搬送するチェーンコンベア
● 縦スクリュ	精選されたこく粒を縦搬送するスクリュコンベア
● 揺動板（シーブケース）	揺動運動してこく粒を選別する装置
● チャフシーブ（選択板）	こく粒を粗選する桟状の板
● チャフシーブ	こく粒を精選するあみ体
● 送じん量調節ノブ	こぎ室内の作物移動速度を調節するノブ
● 排じん調節板	選別されたわらくずの排出に抵抗をかける板

はじめに

このたびはクボタ製品をお買上げいただきありがとうございました。
この取扱説明書は本製品の正しい取扱い方法，簡単な点検及び手入れについて説明しています。ご使用前によくお読みいただいてじゅうぶん理解され，お買上げの製品がすぐれた性能を発揮し，かつ安全で快適な作業をするためこの冊子をご活用ください。また，お読みになったあとも，もみデッキ後方にあるポケット部に収納し，わからないことがあったときには取出してお読みください。なお，品質・性能向上あるいは安全上，使用部品の変更を行なうことがあります。その際には，お買上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので，あらかじめご了承ください。

⚠安全第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた⚠の表示があるラベルは，人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
なお，⚠表示ラベルが汚損したり，はがれた場合はお買上げの販売店に注文し，必ず所定の位置に貼ってください。

注意表示について

本取扱説明書では，特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について，次のように表示しています。

注意事項を守らないと，死亡又は重傷を負うことになるものを示します。

注意事項を守らないと，死亡又は重傷を負う危険性があるものを示します。

注意事項を守らないと，ケガを負うおそれのあるものを示します。

重　要

注意事項を守らないと，機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。

補　足

その他，使用上役立つ補足説明を示します。

本製品の使用目的について

本製品は，稲・麦の刈取・収穫用の作業機としてご使用ください。
使用目的以外の作業や改造はしないでください。
使用目的以外の作業や改造をした場合は，保証の対象になりませんのでご注意ください。（詳細は保証書をご覧ください。）

仕様について

この取扱説明書では，仕様の異なる製品を下記のように表示していますので，お買上げの製品の仕様をお確かめのうえ，お間違いのないようお願いいたします。
なお，説明は“ AR-J211W-S50 仕様 ”を基本とし，“ AR-J211W-S50 仕様 ”と取扱いが異なる場合はそのつど追加説明してあります。従って，機種及び仕様区分によっては付いていない装置の説明もあります。

【例】 AR ー J211 W ー S50
｜ ｜
① ②

①クローラによって
・標準クローラ･･･表示なし
・ワイドクローラ･･･“ W仕様 ”

②わら処理によって
・標準カッタ･･･“ S50仕様 ”
・短切カッタ･･･“ SS35仕様 ”
・結束機･･･････“ K仕様 ”
（結束機部分の取扱説明書は別冊子となっています。）

目　次

⚠安全に作業するために

サービスと保証について

小型特殊自動車について

装置の名称と取扱い

自動化装置の名称と取扱い

運転前の点検

移動走行と輸送

収穫作業のしかた

目　次

メンテナンス

コンバインの不調と処置

付　表

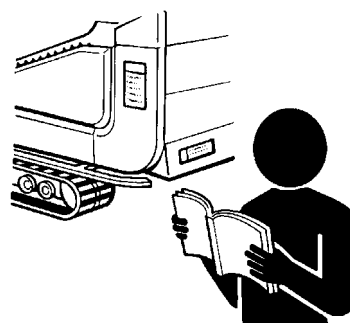
⚠安全に作業するために　　必ず読んでください。

本機をご使用になる前に，必ずこの『取扱説明書』をよく読み理解した上で，安全な作業をしてください。安全に作業をしていただくため，ぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りですが，これ以外にも，本文の中で⚠危険・⚠警告・⚠注意・重要・補足としてそのつど取上げています。

1.　安全作業をするため次のことがらを必ず守ってください。

◆一般的な注意事項

⚠取扱説明書及び機械に貼付けている⚠表示ラベルをよく読み，正しい運転，作業方法を覚える。

● 本書記載事項以外についても，安全には細心の注意を払ってください。警告ラベルはいつもきれいにしておいてください。

【守らないと】

死亡又は傷害を負うおそれがあります。

⚠体の状態が悪いときには運転操作をしない。

● 運転操作には的確な判断が必要です。下記状態の方は，機械の運転操作を行わないでください。

- **・お酒を飲んでる方**
- **・睡眠不足の方**
- **・妊娠中のご婦人**
- **・過労，病気の方**
- **・16 歳未満の方**

【守らないと】

思わぬ事故の原因になります。

⚠安全に作業するために

⚠運転者，補助者とも作業に適した服を着用する。

- だぶついた服は着用しない。
- そで口はきっちりと止める。
- はち巻き，首巻き，腰タオルは着用しない。
- サンダル，スリッパなどの履物は着用しない。

【守らないと】

レバーや作動部に引っかかったり，滑ったりして，傷害を負うおそれがあります。

⚠取扱説明書及び⚠表示ラベルの内容が理解できない人や子供には絶対運転させない。

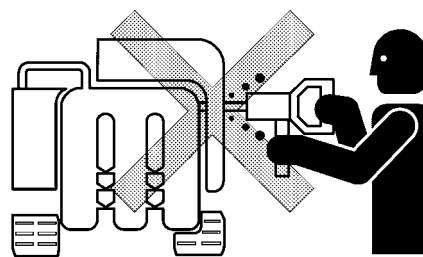
- 機械を他人に貸すとき，運転させるときは，取扱説明書を読ませるとともに，取扱方法や安全な使いかたを説明して，安全な作業ができるよう指導する。

【守らないと】

死亡又は傷害をまねくおそれがあります。

⚠機械を改造しない。

【守らないと】

安全性をそこない，思わぬ事故の原因になります。

⚠運転者以外は機械に乗らない。

● 動いている機械に飛び乗ったり，飛び降りたりしない。

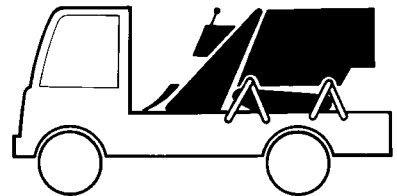
【守らないと】

振り落とされたり，ひかれたりして，死亡又は傷害を負うおそれがあります。

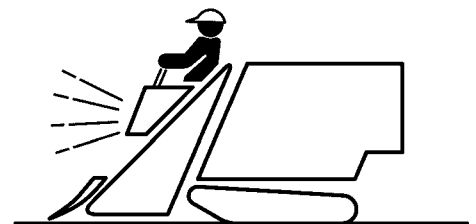
⚠公道を走行するときは交通法規や安全ルールを守る。

● 公道を走行する場合は，所定の手続きと運転免許証が必要です。
● 公道を走行できない機械は，自動車で運搬する。

【守らないと】

交通事故をまねき,死亡又は障害を負うおそれがあります。

⚠夜間の作業や移動走行は避ける。

【守らないと】

転倒・転落をまねき，死亡又は傷害を負うおそれがあります。

⚠安全に作業するために

◆作業前の注意事項

⚠屋内で運転するときは，排気ガスに注意して適切な換気をする。

● 排気管を屋外に延長するか，ドアや窓を開け外気がじゅうぶん入るようにする。

【守らないと】

エンジンの排気ガスは有毒です。中毒を起こし死亡事故にいたるおそれがあります。

⚠燃料補給中は火気厳禁。くわえタバコや裸火照明は近づけない。

● 燃料補給するときはエンジンを必ず止めて，キーを抜く。
● 燃料やオイルをこぼしたときは，きれいにふきとる。

【守らないと】

火災の原因になります。

⚠機械を動かすときは周囲の安全に気をつける。

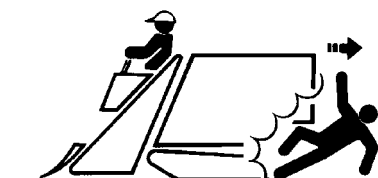
■ エンジンを始動するときは，運転席に座って，変速レバーを“中立”位置にし，各クラッチを“切”位置にして，駐車ブレーキを掛けてからホーンを鳴らすなどの合図をする。
■ 機械を発進するときや各クラッチを入れるときは，機械の周囲に人のいないことを確認し，ホーンを鳴らすなど合図してから行なう。

【守らないと】

回転物に巻込まれたり，挟まれて重大な傷害を負うおそれがあります。

■ 初めて運転する人は，操作になれるまで低速で運転する。

【守らないと】

思わぬ事故の原因となります。

⚠作業前点検（日常点検）を実施する。

■ 運転の前には点検項目（“日常点検項目”の項参照）の点検を行なう。異常があれば整備してから運転する。

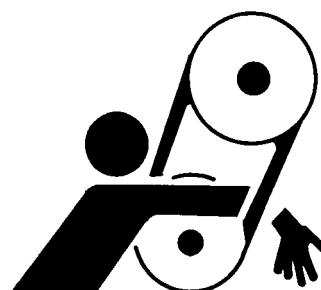
【守らないと】

整備不良による事故で傷害を負うおそれがあります。

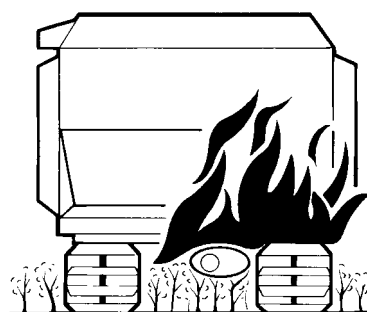
■ 点検・整備・掃除・給油するときは，エンジンを必ず止めて，キーを抜く。

■ 取外した安全カバー，保護カバーは必ずもとどおりに取付けて作業する。

【守らないと】

回動部に巻込まれて傷害を負うおそれがあります。

■ マフラ周辺部，ベルトカバー内，バッテリ周辺にたまっているわらくずはきれいに取除く。

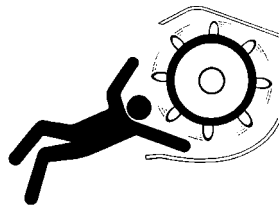
【守らないと】

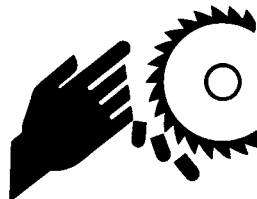
火災の原因になります。

■ 点検整備中及び作業中は機械に子供を近づけない。

【守らないと】

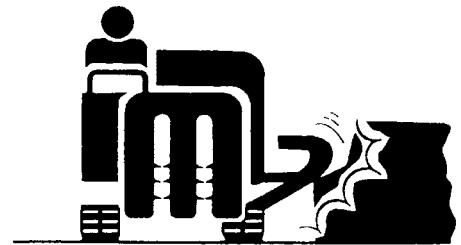
回転物に巻込まれたり，挟まれて重大な傷害を負うおそれがあります。

カッタ切換板，エンジンルーム，脱こく上部カバーをオープンするときやサイドカバーを外すときは,エンジンを必ず止めて，キーを抜く。

- オープンは平たんな場所で行なう。
- オープンしたままエンジンを始動しない。

【守らないと】

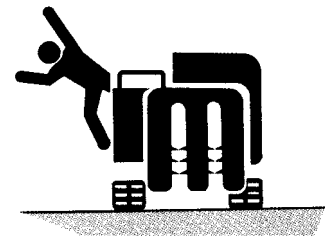
内部の回転物に接触したり，巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。

◆ほ場間の移動走行・ほ場の出入り・駐車時の注意事項

⚠ほ場間を移動走行するときは，次の事項を守る。

- 各作業クラッチを“**切**”位置にし，運転者以外に人を乗せない。
- もみはすべて降ろす。
- 刈取部の先にデバイダカバーを取付ける。
- 左分草かんを収納して，機体幅をせまくする。
- 刈取部を上昇させて，刈取部下降ロックを掛けて下降防止をする。

【守らないと】

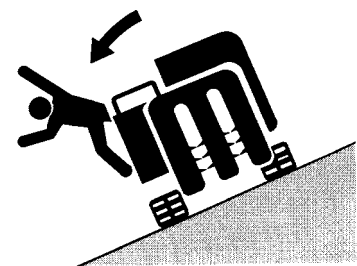
人や物を傷つけたり，機体のバランスをくずして転倒するおそれがあります。

⚠移動走行時は急旋回をしない。

- 方向を変えるときは，走行速度を落として（低速にして），ステアリングワンレバーをゆっくり倒して旋回する。

【守らないと】

機械から振り落とされたり，転倒するおそれがあります。

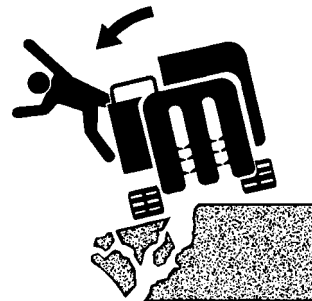
⚠坂道（傾斜地）では走行速度を落とす。

- 坂道（傾斜地）では，左右旋回，駐車ブレーキを操作しない。
- 坂道（傾斜地）では，斜め走行や旋回はしない。

【守らないと】

暴走したり，転倒するおそれがあります。

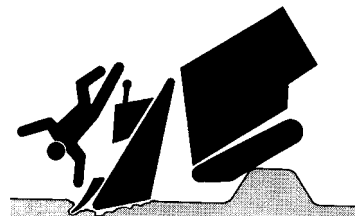
⚠安全に作業するために

⚠道幅に余裕がなく高所にある道路（土手）は，走行しない。

- 溝のある農道や，両側が傾斜している農道は路肩に注意する。
- 溝，穴，土手の近くは走行しない。
- 水溜まりや草のおい茂ったところなど，地面のよく見えないときは，事前に降車してよく確かめる。

【守らないと】

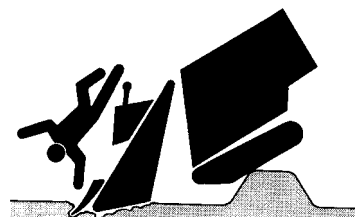
機体のバランスをくずして転倒・転落するおそれがあります。

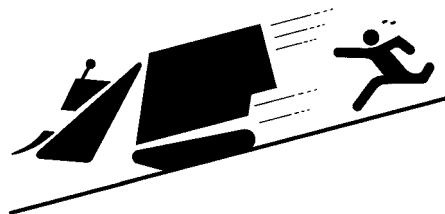
⚠ほ場の出入りで，段差のあるところではあゆみ板を使う。

- 10㎝以上の段差のあるところでは，段差の４倍以上の長さで基準に合ったあゆみ板を使う。
- あゆみ板は段差に直角に置く。
- もみはすべて降ろす。

【守らないと】

機体のバランスをくずして転倒するおそれがあります。

⚠あぜの乗り越えは低速で直角に進入する。

- 10㎝以上のあぜ，又はコンクリートのあぜは，段差の４倍以上の長さで基準に合ったあゆみ板を使う。
- もみはすべて降ろす。

⚠駐車するときや運転席を離れるときは，平たんな場所に止め，変速レバーを中立位置にし，駐車ブレーキを掛け，刈取部を地面に当たるまで降ろして，エンジンを必ず止めて，キーを抜く。

● やむをえず坂道（傾斜地）で駐車するときは，さらに木片などで確実に車止めをする。

【守らないと】

機械が暴走し，思わぬ事故のおそれがあります。

安全に作業するために

◆作業時の注意事項

⚠共同作業するときは，ホーンなどで合図を行なう。

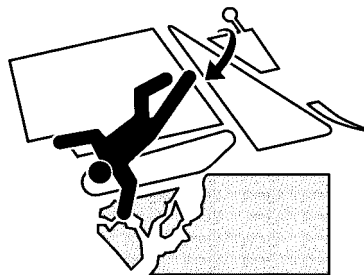
- エンジン始動時，及び各作業のクラッチやスイッチを入れるときは，ホーンなどで合図し，必ず補助者のOKをもらう。
- 補助者が機械に近づくときは，運転者に知らせることを徹底させる。

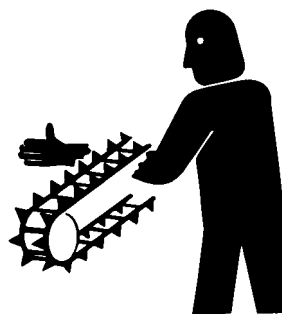
【守らないと】

補助者は運転席からみえにくい位置にいることがあり，思わぬ事故を起こすおそれがあります。

⚠すみ刈りを行なうときは後方をじゅうぶん確認する。

【守らないと】

後退し過ぎると，転倒・転落するおそれがあります。

⚠手刈脱こく作業するときは，手や腕の位置を必ずチェーンの外側にして，少量ずつ供給する。

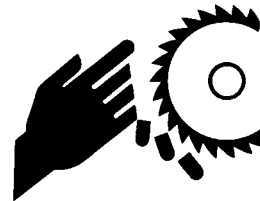
- 機械は平たんな場所に止めて，刈取部を止め，駐車ブレーキをかける。
- そで口はきっちり止めて，手袋・はち巻き・首巻き・腰タオルは着用しない。
- 枕こぎ台の上にわらを乗せて手刈り脱こくを行なう。
- 脱こく部入り口にたまった，わらやもみなどを脱こく部に押し込むときは，チェーンに手や腕が巻込まれないように，わらなどを使って少量ずつ押し込む。

【守らないと】

チェーンに巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。

⚠異常に気づいたら，すぐエンジンを必ず止めて，キーを抜く。

- わらの巻付きや詰まりを取除くときや，もみの点検・掃除をするときは，各作業クラッチレバーを“**切**”位置にし，エンジンを必ず止めて処置する。
- カッタに詰まったわらなどを取除くときは，厚手の手袋を着用して少しずつ取除く。
- 素手で刃先には触らない。

【守らないと】

カッタ刃やチェーンなどの作動部に接触したり，巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。

⚠点検や掃除で外したカバーは，必ず取付けること。

- ベルトやチェーンのカバー，及び掃除口や点検窓のカバーなどを外したままで運転しない。

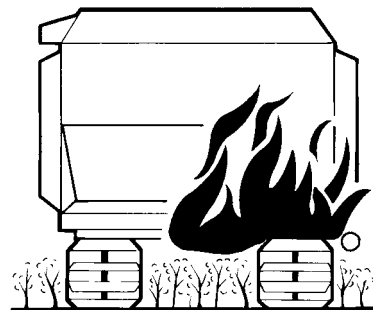
【守らないと】

内部の回転物に接触したり，巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。

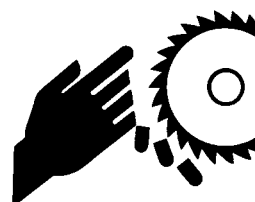
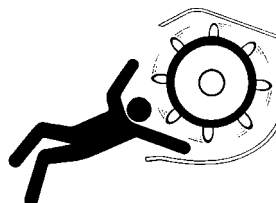
◆作業後・格納時の注意事項

わらくずや枯れた雑草の上に機械を止めない。

【守らないと】

わらくずや枯れた雑草は燃えやすく，火災が発生するおそれがあります。

点検・掃除する前に，エンジンを必ず止めて，キーを抜く。

【守らないと】

機械に巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。

⚠点検・掃除は，エンジン停止後，各部が冷えてから行なう。

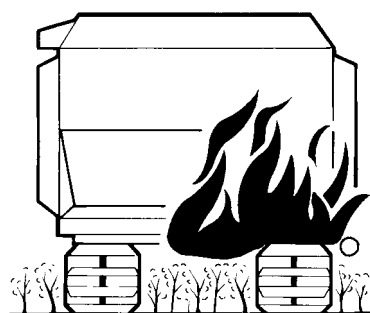
● エンジン本体，マフラ，排気管は，エンジン停止直後は触れない。

【守らないと】

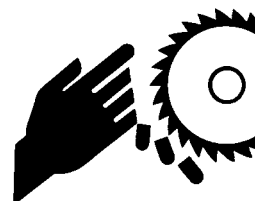
やけどを負うおそれがあります。

⚠エンジン本体，マフラ周辺，配線部，バッテリ周辺のわらくずを点検し，きれいに取除く。

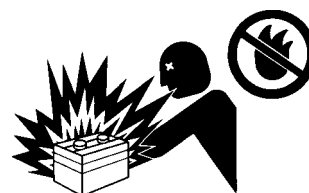
【守らないと】

火災が発生するおそれがあります。

⚠掃除するときは，刈刃やカッタの刃先に触らない。

【守らないと】

刃先で傷害を負うおそれがあります。

⚠バッテリの近くに裸火（マッチ，ライタ，タバコの火など）を近づけたり，ケーブルをショートさせない。

【守らないと】

バッテリからは水素ガスの発生があり，引火爆発のおそれがあります。

⚠安全に作業するために

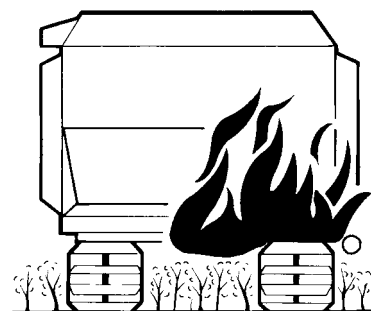
⚠ワイヤハーネスやバッテリコードなど電気配線に被覆の破れや，挟み込みがないか点検する。

【守らないと】

ショートによる火災発生のおそれがあります。

⚠機体にカバー（おおい）をかけるときは，エンジン，マフラが冷えてから掛ける。

【守らないと】

火災が発生するおそれがあります。

◆点検整備時の注意事項

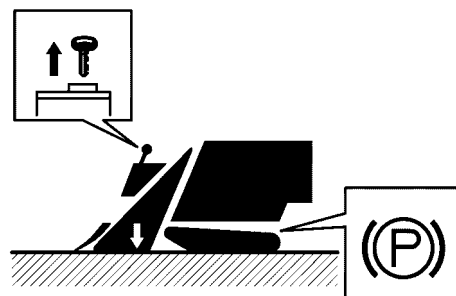
⚠定期点検整備を行ない，各部の保守をする。

【守らないと】

整備不良による事故で傷害を負うおそれがあります。

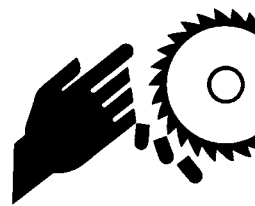
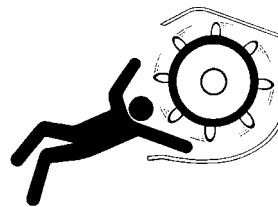
⚠各部の点検・整備・交換・掃除を行なうときは，平たんな場所で，エンジンを必ず止めて，キーを抜き，各クラッチレバーを“切”位置にして，駐車ブレーキを掛ける。

【守らないと】

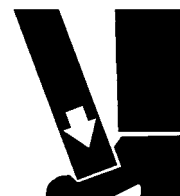
機械に挟まれたり，巻込まれて傷害を負うおそれがあります。

⚠安全に作業するために

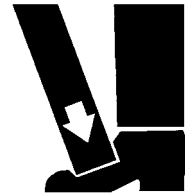
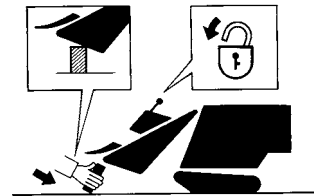
⚠カッタ切換板，エンジンルームや脱こく上部カバーをオープンしたままおよびサイドカバーを外したままエンジンを回さない。

【守らないと】

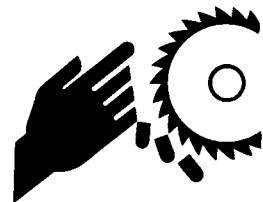
内部の回転物に接触したり，巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。

⚠エンジンやカッタなど重量物の脱着作業は，２人以上で行なう。

【守らないと】

不意の落下により，傷害を負うおそれがあります。

⚠刈取部を上げて点検・整備・掃除するときは，刈取部をロックするとともに，落下防止の歯止めをする。

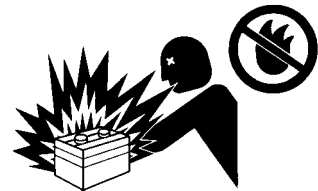
- 作業前に，エンジンを必ず止めて，駐車ブレーキを掛ける。
- 刈取部の下へもぐったり，足や手をつっこんだりしない。

【守らないと】

機械にはさまれて，傷害を負うおそれがあります。

⚠刈刃，カッタ刃，ワラ切刃を調整・交換するときは，手袋を着用し，直接刃先に触らない。

【守らないと】

刃先で傷害を負うおそれがあります。

⚠バッテリを取外すときは，最初にマイナス（−）側のケーブルを取外す。

- バッテリの近くに裸火（マッチ，ライタ，タバコの火など）を近づけたり，ケーブルをショートさせない。
- バッテリを取付けるときは，最初にプラス（＋）側のケーブルをプラス（＋）側の端子に取付ける。

【守らないと】

ヤケドや発火爆発のおそれがあります。

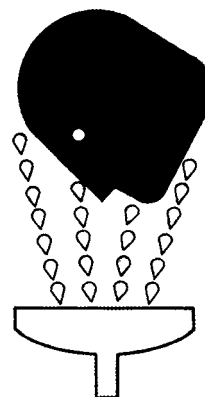
⚠バッテリは液面がLOWER（最低液面線）以下になったままで使用や充電をしない。

- バッテリ液が不足していれば，すぐに **UPPER LEVEL（上限）** と **LOWER LEVEL（下限）** の間に補水する。
- 充電は機械から取外して行なう。
- 充電は風通しのよい所で行なう。
- 放電したバッテリにブースタケーブルなどを接続して始動するときは，取扱方法をよく読みそれに従う。

【守らないと】

LOWER（下限）以下で使用や充電を続けると，バッテリの寿命を縮めるばかりでなく，爆発の原因となることがあります。

⚠バッテリ液（希硫酸）を体に付着させない。

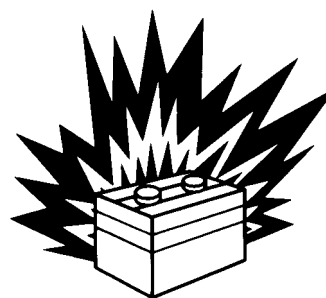
- 目に入ったときや飲込んだときは，すぐ水でよく洗った後，医師の治療を受ける。
- 皮ふ，衣服についたときは，すぐ水でよく洗う。

【守らないと】

失明やヤケドのおそれがあります。

⚠指定外のバッテリは使わない。

- 取扱説明書で指定しているバッテリを使用する。

【守らないと】

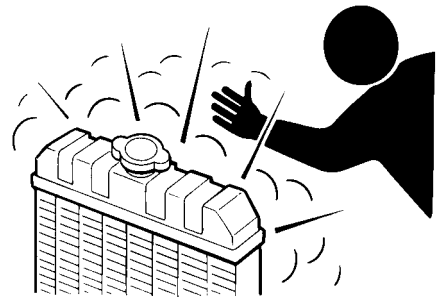
思わぬ事故が発生するおそれがあります。

⚠フューエルパイプ，フューエルドレーンパイプは，１年ごとに交換する。

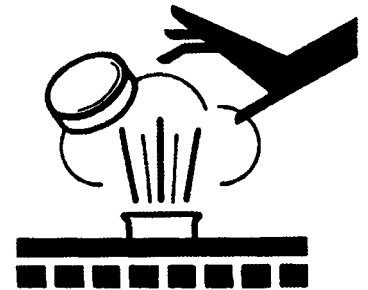
- ゴム類は時間がたつと劣化するので，定期的に交換する。

【守らないと】

燃料がもれて，火災のおそれがあります。

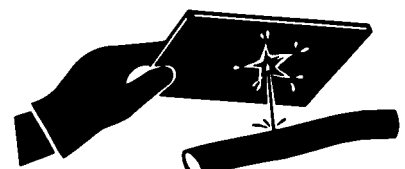
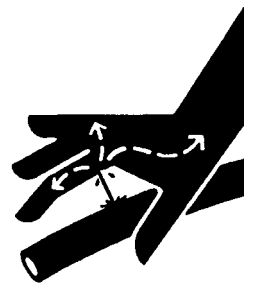
⚠ラジエータの圧力キャップやリザーブタンクは，エンジンが冷えてから開ける。

- エンジン停止後，30分以上経過してからラジエータの圧力キャップを徐々にゆるめて蒸気の圧力を抜いてから開ける。

【守らないと】

熱湯や蒸気が吹き出して，ヤケドや障害を負うおそれがあります。

⚠燃料噴射管や油圧パイプなどからの高圧油のもれは,厚紙や板などを使って点検する。

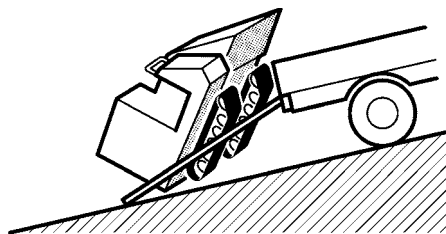
- 高圧噴油に直接手を触れない。もし，触れた場合は，直ちに医者の診断を受ける。

【守らないと】

油が皮ふに侵入して，えそにかかるおそれがあります。

⚠安全に作業するために

◆運搬時の注意事項

⚠自動車への積込み・積降しは平たん地で行なう。

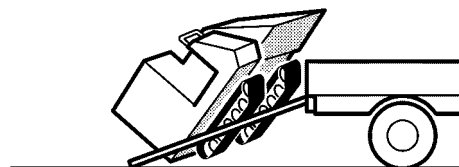
- 機械の重量であゆみ板が傾いたりしない場所を選ぶ。
- 自動車の駐車ブレーキをしっかり掛ける。
- できるだけ助手の立ち会い誘導のもとに行なう。
- 周囲に人を近づけない。

【守らないと】

あゆみ板がずれたり，自動車が動いたりして機械が落下するおそれがあります。

⚠積込み・積降しには基準に合ったあゆみ板を使う。

- あゆみ板の基準

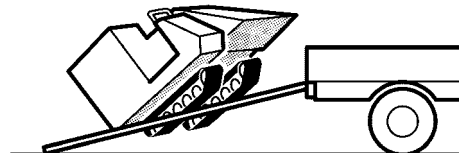
長　　さ	自動車の荷台の高さの４倍以上
幅	45cm以上
数　　量	２枚
強　　度	１枚が700kg 以上に耐えうる

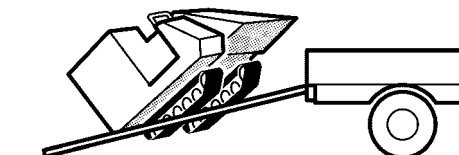
- あゆみ板はフック，すべり止めがついているものを使う。
- あゆみ板は自動車の荷台に平行に確実に掛ける。

【守らないと】

あゆみ板がずれたり，外れたりして機械が落下するおそれがあります。

⚠積込み・積降し前に，もみはすべて降ろす。

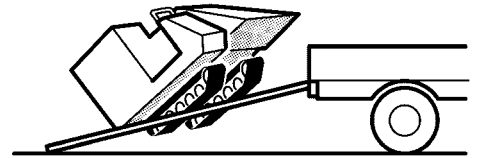
【守らないと】

バランスがくずれて，転倒・転落するおそれがあります。

⚠自動車への積込み・積降しは最低速で行なう。

- 積込みは前進で，積降しは後進で行なう。
- 結束機仕様は積込みは後進で，積降しは前進で行なう。

【守らないと】

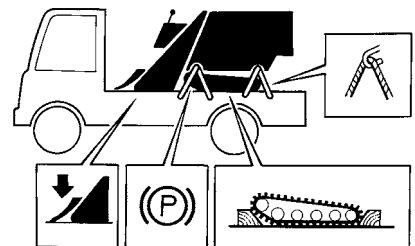
バランスがくずれて，転倒・転落するおそれがあります。

⚠あゆみ板の上では方向修正しない。

- あゆみ板を走行するときは，機体から降りる。
- あゆみ板の上では，ステアリングワンレバーや駐車ブレーキレバーは操作をしない。
- 方向を変えるときは，いったん地上，又は荷台にもどって方向を修正し，再度やり直す。

【守らないと】

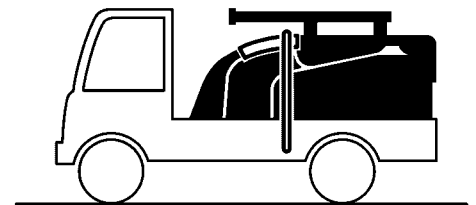
急旋回したり，暴走して落下するおそれがあります。

⚠自動車の上では，刈取部を床に当たるまで降ろして，駐車ブレーキを掛ける。

- 変速レバーを中立位置にし，駐車ブレーキを掛ける。
- 所定の“**ロープ掛けフック（４カ所）**”にロープを掛けてしっかり床に固定する。
- 車止めをする。

【守らないと】

機械が動き，思わぬ事故のおそれがあります。

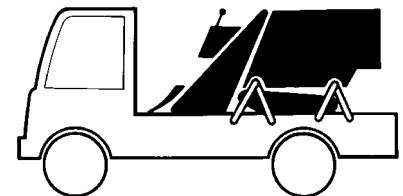
⚠自動車に積んだときは，機体の各カバーを固定する。

- 樹脂カバー，着脱の簡単なカバー，折りたたみ部品などは，ロープで確実に固定するか，外して荷台に置く。

【守らないと】

輸送中に風圧で破損，脱落のおそれがあります。

⚠輸送中の急発進，急ブレーキ，急旋回は避ける。

【守らないと】

輸送中に機械が動き，思わぬ事故のおそれがあります。

2. ⚠表示ラベルと貼付位置

①品番　LMC02-11031

⚠警　告

●刈取部を上げたとき，手をはさまれ、ケガをするおそれがあるので、このパネルの前部に手を入れないでください。

上手な使い方

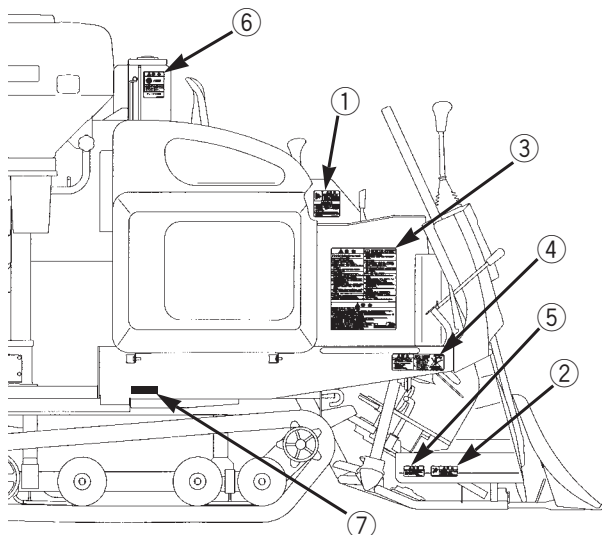
●刈取中に走行を停止する場合は搬送コボレを防止するため、必ず変速レバーを《中立》にしてください。　駐車ブレーキペダルは踏まないでください。
●刈取昇降ネジ部の泥詰まりを防止するため、作業終了後は刈取部を地面まで降ろして保管してください。

35878508000

②品番　LMC02-11041

⚠警　告

●着脱作業時は，エンジンを停止し手袋をしてください。
●刃部に手をかけないでください。

35878512000

④品番　LMC02-11061

⚠警　告

■傾斜地での暴走を防ぐため必ず下記を守ってください。
●駐車ブレーキをかけるときは、すみやかにいっぱい下げてください。
●車止めをしてください。

35878514000

駐車ブレーキのかけ方

1. 駐車ブレーキペダルをいっぱい踏み込む。又は、駐車ブレーキレバーをいっぱい下に下げる。
2. ブレーキロックレバーを引いて。駐車ブレーキレバーに確実に掛ける。

③品番　LMC02-11051

⚠警　告

ケガや死亡事故を起さないために

■エンジンを始動する前に
● 機械の周囲から人を遠ざけてください。
● 各部のカバーをすべて取付けてください。
● 座席に座り、駐車ブレーキをかけてください。
● 変速レバーを《中立》、脱こく・刈取クラッチは《切》にしてください。
● 屋内での始動は、窓や戸を開けて換気してください。

■正しい操作方法で
● 機械に運転者以外の人や物をのせないでください。
● エンジン回転中は、カバーの中へ手を入れたり、回転物に手・足・衣服を近づけたりしないでください。
● 発進及び旋回する時は、機械から人を遠ざけてください。
● 緊急停止が必要なときは、ブレーキペダルをすみやかに、いっぱい踏み込んでください。
● 刈取作業時以外（特に、あぜ越え時・移動走行時・運搬時・格納時）は『もみ』はすべて排出、あるいは降ろしてください。
● 詰まりを取除く時は、各クラッチを《切》にし、エンジンを停止し、各部の動きが止まってから行なってください。

■転倒防止
● 発進、旋回操作、荒地での運転は低速で行なってください。
● 傾斜地及び急な坂道では旋回しないでください。
● 軟弱な路肩、草の生い茂っている所は転倒・転落の恐れがあるので走行しないでください。
● あぜを横切る時は、低速であぜに対して直角に走行してください。

傷害事故防止のため、取扱説明書を読み理解して正しい取扱いをしてください。

■停止する時は
● 平坦な場所で駐車ブレーキをロックし、刈取部を下げ、変速レバーを《中立》、脱こく・刈取クラッチは《切》にした後、エンジンを停止してください。
● 機械から離れるときは『スイッチキー』を抜いてください。また、止むを得ず坂道で駐車するときは車止めをして暴走を防いでください。

■清掃・点検・整備・燃料補給
● エンジン停止後、各部の動きが止まってから行なってください。
● 火災防止のためエンジン、マフラ、燃料タンク、バッテリ周囲のワラクズ等を掃除してください。
● 刈取部が不意に下降してはさまれる危険があるので、刈取部を上げて点検・調整するときはロック金具を必ずロックしてください。
● 火災の危険があるので燃料補給時は必ずエンジンを停止してください。
● 燃料補給時はタバコなど一切の火気は厳禁です。
● 燃料缶は給油台の上に載せて給油してください。
● 燃料缶をエンジンルームやマフラ・エンジンの上に載せて給油しないでください。
● こぼれたディーゼル軽油は必ずふき取ってください。

35878513000

⚠警　告

■自動車への積込み・積降ろしをする時は
●平坦な場所を選んで、補助者の立会誘導のもとに行なってください。また、機械の周囲に人を近づけないでください。
●アユミは機械の重量に耐えられる強度で長さは、自動車荷台高さの４倍以上のものを使用してください。
●アユミの上では進路変更、変速操作を行なわないでください。旋回（左右）操作をすると転倒する危険があります。左右のクローラをアユミの中央にまっすぐにセットしてください。
●車への積込みやあぜ越えは前進で、車から降ろすときは後進で、運転席から降りて低速で移動してください。
●結束機仕様の場合は、上がるときは後進で、降ろすときは前進で行ってください。
●自動車へ積込む場合、変速レバー《畦越え》の位置で操作します。
●自動車への積込みは，昇降・旋回レバーを《上る》に操作し，刈取部を上げます。
●積込みが終ったら昇降・旋回レバーを《下る》にして刈取部を一杯下げます。
●自動車から積降ろす場合、変速レバー《後進１》の位置で操作します。
●積込み、積降ろし中の旋回（左右）操作をしないでください。

⑤品番　LM003-00050

⚠注　意

●カバーを取外したままで使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。

09603100017

⑥品番　LMC02-11261

火気厳禁

●火災のおそれがあるので給油するときはエンジンを止めてください。

ディーゼル軽油

35878542000

⑦品番　LM003-00150

⚠警　告

⚠注　意

●やけどをするのでマフラーにふれないでください。

09603200023

①品番　LMC02-11271

●火災のおそれがあるので給油するときはエンジンを止めてください。

火気厳禁

ディーゼル軽油

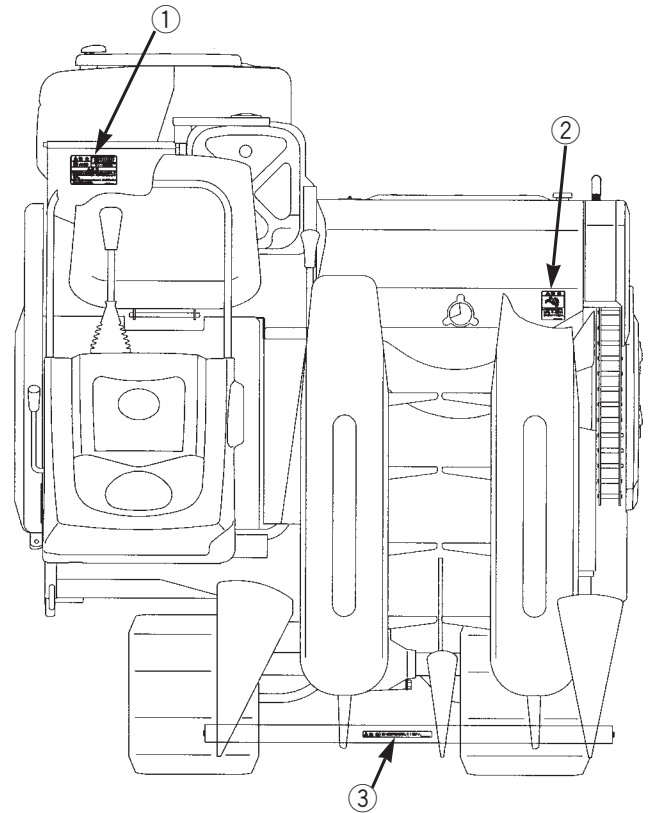
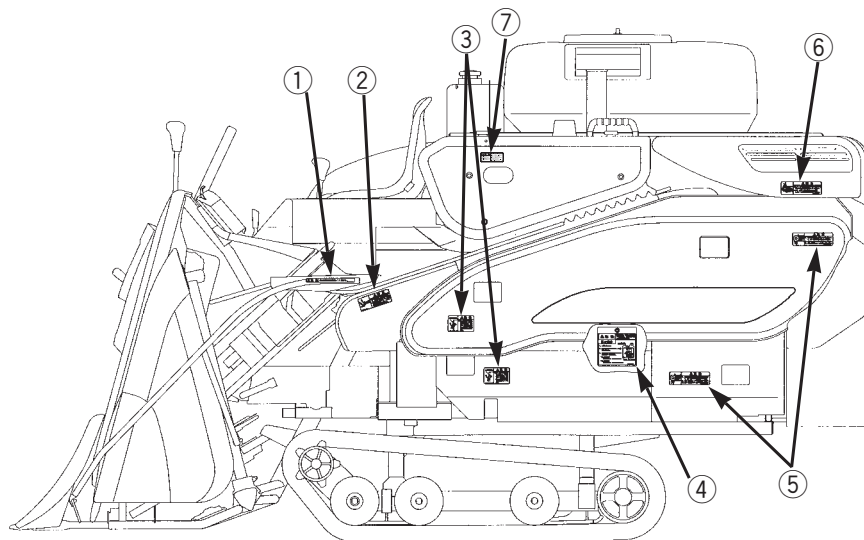
注　意

●燃料缶が落下して火災やケガをするおそれがあるので、給油台に燃料缶を載せた状態で、移動や刈取作業をしないでください。
●当たってケガをするおそれがあるので、給油時以外は給油台を必ず収納してください。

35878543000

②品番　LM003-00110

③品番　LM003-00140

注　意　路上走行時は装着してください。09603100023

安全に作業するために

①品番　LM003-00180

注　意　路上走行時は収納してください。 09603100024

②品番　LMC02-11151

警　告

●ワラ等の巻付き・詰まり除去のときは、エンジンを必ず止めてください。
●手こぎ作業をする時は、手・衣服を供給口に入れたり、フィードチェンに触れたりしないでください。

35878524000

③品番　LMC02-11131

注　意

●ロックが確実にされていないと、落下し危険ですので、このカバーを閉じる場合ロックハンドルを必ず閉位置にしてください。

④品番　LMC02-11141

注　意

■開度調節時は、各クラッチを切りエンジンを停止し、各部の作動が停止してから行ってください。

開度調節

1．点検カバーを外します。
2．開度調節レバーを《稲標準》又は、《麦》位置にセットします。
3．作物の条件により下記を参考にして開度調節レバーで調節します。
「閉」方向に調節
●選別が悪い時　●小枝梗が多い時
「開」方向に調節
●ロスが多い時　●もみの損傷が多い時

開度調節レバー
ナット
閉
開
麦
稲標準
点検カバー

358785230011

⑤品番　LMC02-11221

注　意

1．回転物に接触するとけがをするおそれがあるので、カバーの下側に手を入れないでください。
2．点検・調整時はエンジンを必ず止めてください。
3．点検・調整後はカバーを必ず取付けてください。

35878532000

⑥品番　LMC02-11201

警　告

●カバーの中に回転物がありケガをするので手を絶対に入れないでください。
●ワラ、雑草などの巻付や詰りを取除くときは、エンジンを必ず止めてください。

35878529000

⑦品番　LMC01-16191

注　意

●点検・調整時はエンジンを必ず止めてください。
●点検・調整後はカプラとカバーを必ず取付けてください。

35878548000

■レール台カバーのはずし方
1. 脱こくこぎ室カバーを開いてストッパでロックします。
2. エンジン停止スイッチのカプラを取りはずします。
3. ノブボルトをはずしてレール台カバーをはずします。

①品番　LMC02-11251

注　意

●エンジンを回転したままエンジンルームを開けるとファンやベルトでケガをするおそれがあるのでエンジンルームを開けるときは、エンジンを必ず止めてください。

注　意

●エンジンルームをオープンし点検調整後は、必ず「クランプ」で確実にロックしてください。
ロックしないと走行中に不意にオープンすることがあり危険です。

35878541000

警　告

●オーバヒートでエンジンルームを開けて点検整備するときは、次の手順を守ってください。
1．エンジンを止める。
2．必ず停止後30分以上経過してから、エンジンルームを開けること。
●エンジンが冷えていないときは、ラジエータ部・リザーブタンク部より熱湯が吹き出し、ヤケドをするおそれがあるのでキャップを開けないでください。

④品番　LM003-00040

注　意

●開閉する時はエンジンを停止してください。

09603100015

②品番　LMC02-11161

警　告

●こぎ胴上カバーを開いた状態で脱こく機を回転させると非常に危険です。エンジンは、絶対に始動しないでください。
●こぎ胴上カバーを開いて、受網の脱着やこぎ室の掃除をするときは、こぎ胴上カバーが落下して身体がはさまれることがあるので、ストッパで必ず固定してください。

35878525000

⑤品番　LMC02-10411

35598523500

注　意　乗らないでください

③品番　LMC02-11091

警　告

●ホッパの中に回転物があり、ケガをするおそれがあるので、運転中は絶対に手を入れないでください。
●手を入れる時は必ずエンジンを停止してください。
●変形や落下のおそれがあるので、ホッパの上に物を載せないでください。

35878518000

⚠安全に作業するために

①品番　LMC02-11241

⚠警　告

- ●このカバーの中は刃物が回転しており、危険なので、手を絶対に入れないでください。
- ●ワラ、雑草などの巻付きや詰りを取除くときは、エンジンを必ず止めてください。
- ●点検・調整などが終わったら危険ですので、カバーを元通りに必ず戻してください。

35878535000

②品番　LMC02-11211

⚠警　告

- ●このカバーの中は刃物が回転しており、危険なので、手を絶対に入れないでください。
- ●ワラ、雑草などの巻付きや詰りを取除くときは、エンジンを必ず止めてください。

35878531000

③品番　LM003-00030

kubota

火気厳禁　メガネ着用　こども禁止　硫酸注意　説明書熟読　爆発注意

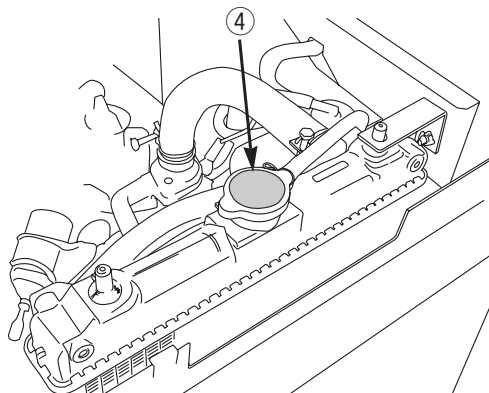
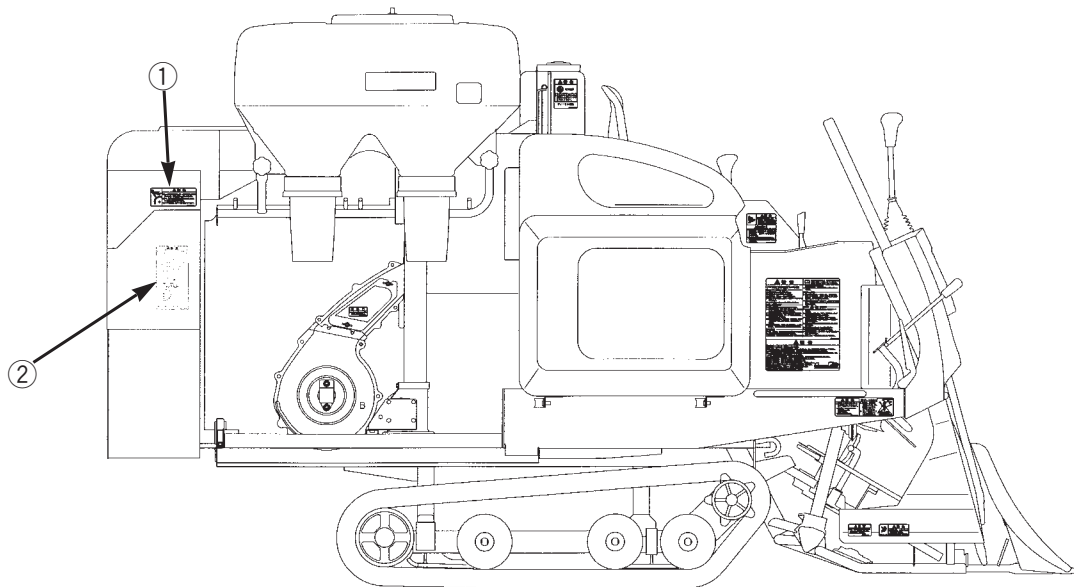
ハイドロメーターの見方

良　好　要充電　要点検

使用済みバッテリーは再生資源として利用（リサイクル）されます。

⚠危険

- ○ 水素ガス発生、取扱いを誤ると引火爆発の恐れあり
  ・工具等でショートやスパークをさせない・充電は風通しのよい所で行う・ブースターケーブルの使用は取扱説明書に従う
- ○ バッテリー液（硫酸）で失明ややけどの恐れあり
  液がついたらすぐに多量の水で洗い、目の場合は医師の治療を受ける
- ○ 爆発の恐れあり、液面はＬＯＷＥＲ以下で使用しない
- ○ 液漏れの恐れあり、ＵＰＰＥＲ以上に補水しない

④品番　16667-87241

①品番　LMC02-11171

警　告

●カッタの刃に接触すると手・指を切断するおそれがあるので、手を絶対に入れないでください。
●ワラ、雑草などの巻付きや詰りを取除くときは、エンジンを必ず止めてください。
●カッタ作業時は、カバーを必ず閉じてください。

35878526000

②品番　LMC04-10421

注　意

■ワラとり、カッタ、点検掃除位置に切替時は各クラッチを切りエンジンを停止し、各部の作動が停止してから行ってください。

ワラとり作業の仕方

1. 切替レバーを手前に引き、《ワラとり位置》に切替えます。
2. カバーを開き、上部で固定します。
3. ハイワラレール終端を当たりのあるところまで引き出します。

■カッタ作業は上記の逆の手順で行います。

35878528001

3. ⚠表示ラベルの手入れ

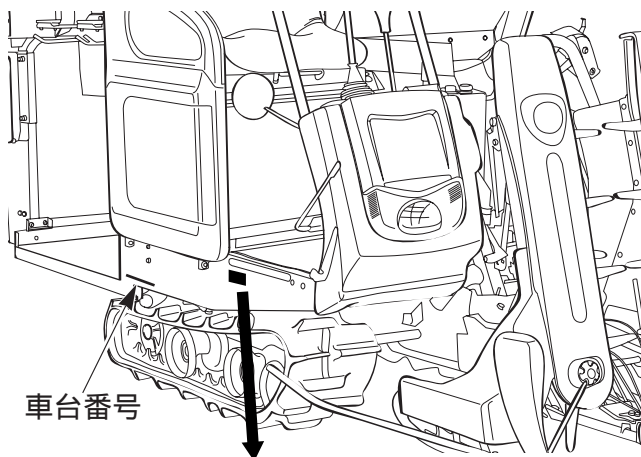
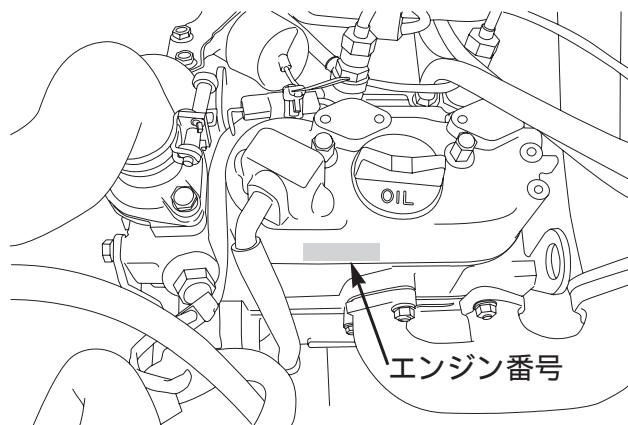
1. ラベルは，いつもきれいにして傷つけないようにしてください。
   もしラベルが汚れている場合は，石鹸水で洗い，やわらかい布でふいてください。
   シンナーやアセトンなどの溶剤を使うと，文字や絵が消えることがありますので絶対に使わないでください。
2. 高圧洗浄機で洗車すると，高圧水によりラベルが剥がれるおそれがあります。高圧水を直接ラベルにかけないでください。
3. 破損や紛失したラベルは，製品購入先に注文し，新しいラベルに貼替えてください。
4. ラベルが貼付けされている部品を新部品と交換するときは，ラベルも同時に交換してください。
5. 新しいラベルを貼る場合は，貼付け面の汚れを完全にふき取り，乾いた後，もとの位置に貼ってください。

サービスと保証について

この製品には，保証書が添付してありますのでご使用前によくご覧ください。

◆ご相談窓口
ご使用中の故障やご不審な点及びサービスについてのご用命は，お買上げいただいた購入先にそれぞれ **“ご相談窓口”** を設けておりますのでお気軽にご相談ください。
その際　(1) 型式名・区分と車台番号
　　　　(2) エンジン型式名とエンジン番号
をあわせてご連絡ください。
なお，部品ご注文の際は，購入先に純正部品表を準備しておりますので，そちらでご相談ください。

警　告

＊ 機械の改造は危険ですので，改造しないでください。改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は，メーカ保証の対象外になるのでご注意ください。

農業機械の種類	コンバイン（自脱型）
型　式　名	
販売型式名	
区　　分	
車両型式名	
車台番号	
製造会社	

◆認定番号
安全鑑定・型式検査（国検）の農機型式名及び認定番号が必要な場合は，下記の型式名及び番号をご使用ください。

商品名	農機型式名	安全鑑定番号
AR－J211	クボタR0401	２９０４６

小型特殊自動車		摘　要
車両型式名	型式認定番号	
クボタC224	農2353	W仕様

◆補修用部品の供給年限について
この製品の補修用部品の供給年限（期限）は製造打ち切り後９年といたします。
ただし，供給年限内であっても特殊部品につきましては，納期等についてご相談させていただく場合もあります。
補修用部品の供給は原則的に上記の供給年限で終了致しますが，供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には，納期及び価格についてご相談させていただきます。

◆取扱説明書の収納場所について
もみデッキ後方にあるポケット部に本冊子をビニール袋に入れて収納し常時携帯してください。

小型特殊自動車について

このコンバインは，道路運送車両法の農耕作業用小型特殊自動車に該当します。但し“結束機仕様”は道路運送車両法に適合していませんので公道走行はできません。

警 告

＊ 道路を走行するときは，小型特殊自動車の法規を守り安全運転をしてください。

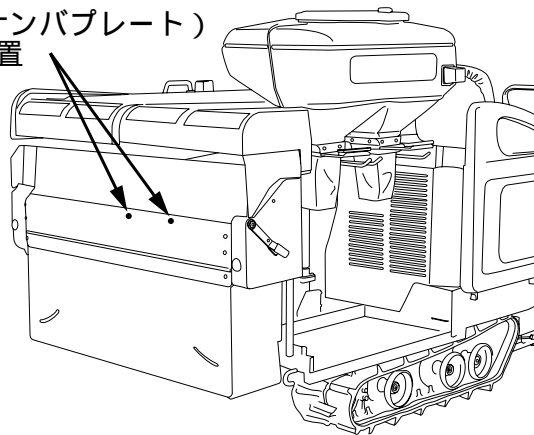
注 意

＊ このコンバインは，小型特殊自動車で道路運送車両の保安基準が適用されます。下記のうち一つでも条件を満足しないと保安基準に適合しませんので特にご留意してください。

1. 認定を受けたエンジン以外は搭載して走行することはできません。
2. エンジン及び本機で封印されているところはさわらないでください。封印が外されたと認められる場合は，一切の保証はいたしません。
3. 認定時の構造を変更した状態では，道路走行することはできません。
4. オプション部品及び結束機などを装着した場合は公道を走ることができません。装着した状態で移動するときは，自動車輸送（24ページ参照）してください。（カッタは，装着したままで走行できます。）

◆小型特殊自動車取得の届出と標識（ナンバプレート）の取付け

新たに小型特殊自動車の所有者となった者は，市町村条例により，その取得を市町村役所に届け，標識（ナンバプレート）の交付を受けなければなりません。
手続きは市町村により多少異なりますので詳細は，購入先にご相談ください。

1. 小型特殊自動車取得の証明書など（購入先で発行）に，軽自動車税を添えて市町村役所に届出ます。
2. 届出が済むと標識（ナンバプレート）が交付されます。
3. 標識（ナンバプレート）を車体の取付け位置に取付けてください。

◆損害賠償保険について

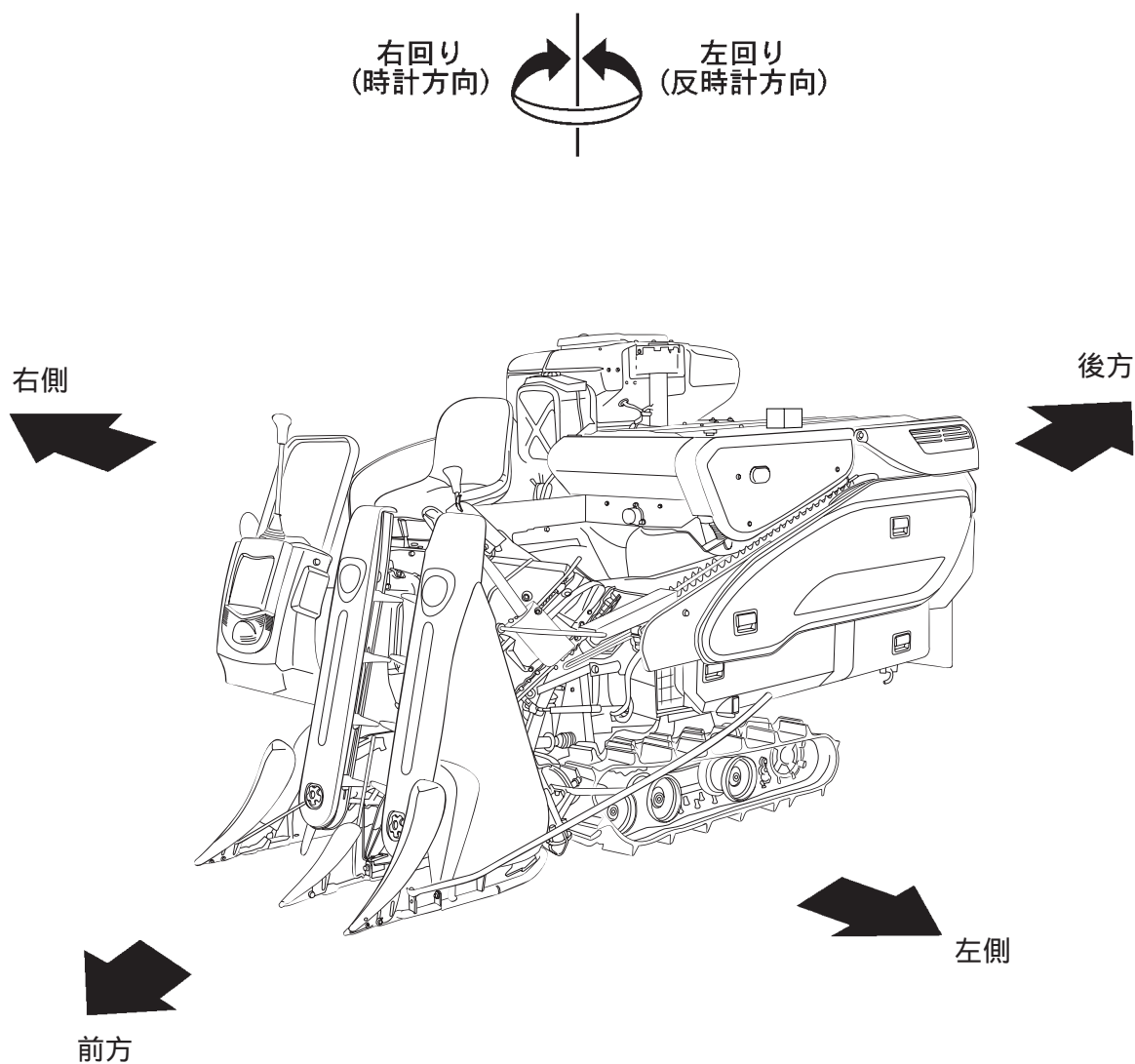
万一の交通事故補償に備え，任意保険に加入されることをお勧めします。

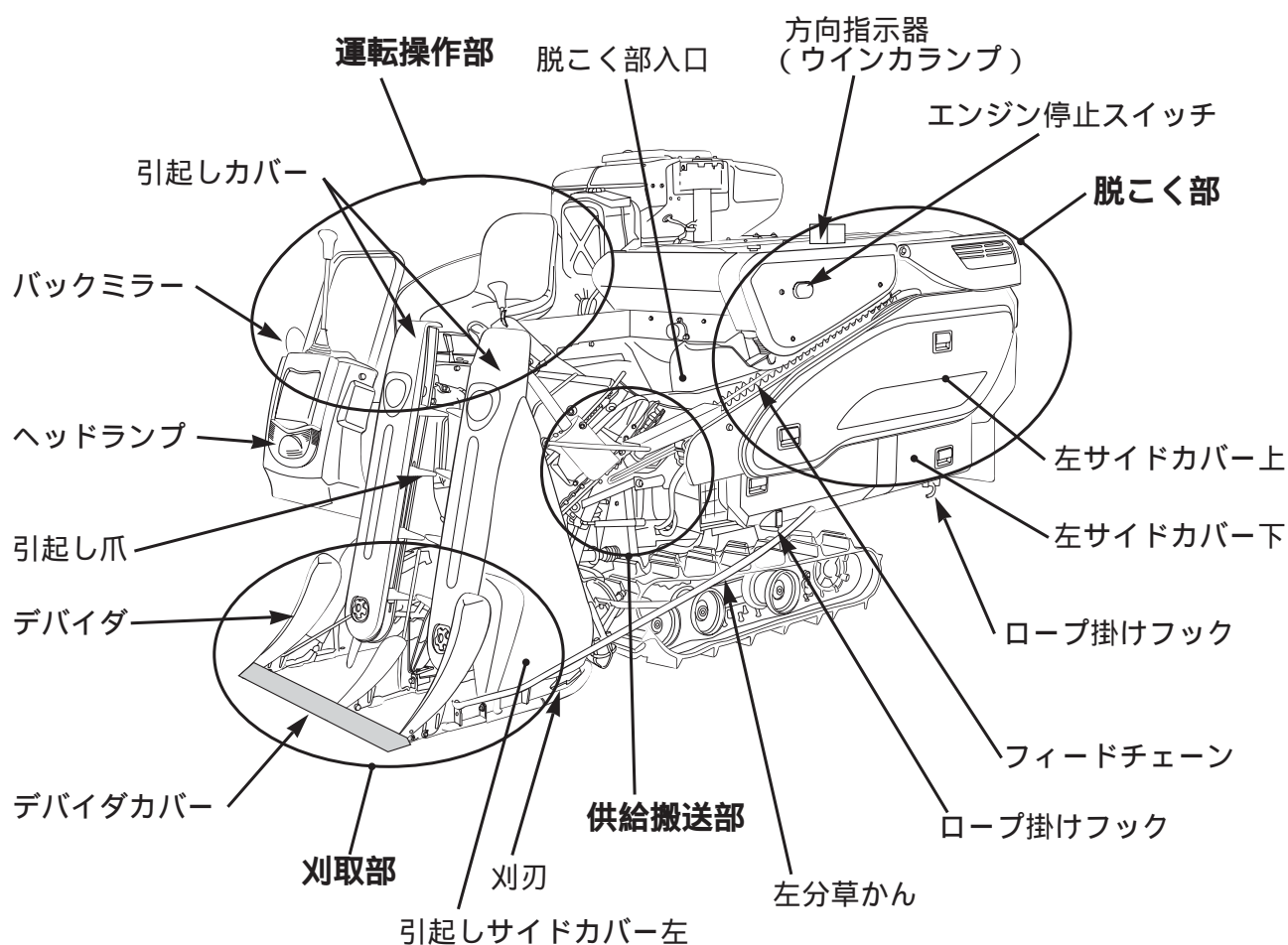
◆運転免許証の携帯

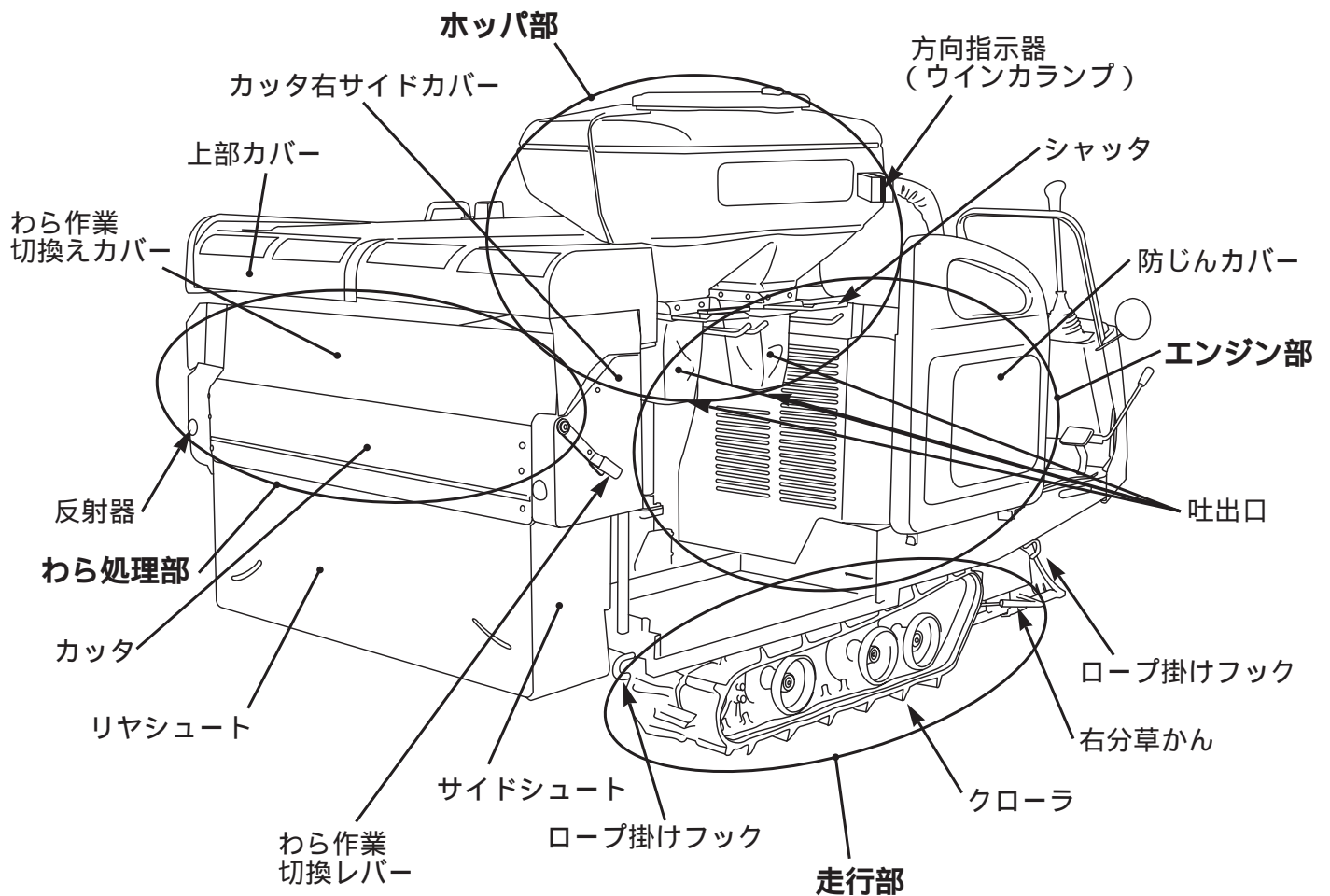
公道走行時は，小型特殊自動車の運転可能な運転免許証が必要です。必ず所持してください。

装置の名称と取扱い

機体方向説明

この取扱説明書で使用している**前後・左右・左回り・右回り**などの方向は，図示の通りです。

装置の名称と取扱い

装置の名称と各部のはたらき

- **運転操作部**…………………エンジンの始動・停止や移動走行・刈取作業の運転操作を行なうところ
- **刈取部**………………………作物の引起しと刈取を行なうところ
- **供給搬送部**…………………刈取った作物を脱こく部へ搬送するところ
- **脱こく部**……………………作物の脱こくを行なうところ

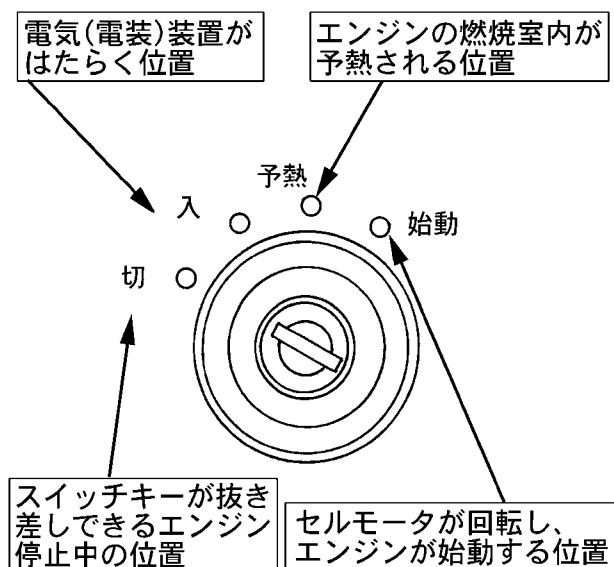
装置の名称と各部のはたらき

- **エンジン部**…………運転席下部にある動力装置
- **走行部**………………クローラにより走行を行なうところ
- **ホッパ部**……………脱こくで精選されたもみを一時貯蔵したあと袋詰めを行なうところ
- **わら処理部**…………わらの切断やばら落としなどわらの処理を行なうところ

装置の名称と取扱い

各部の名称とはたらき

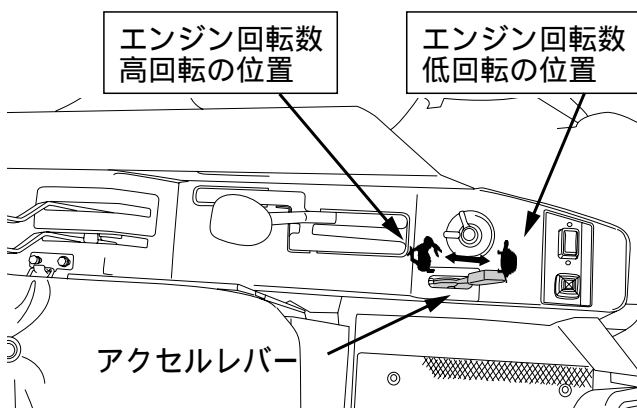
◆エンジン操作関係

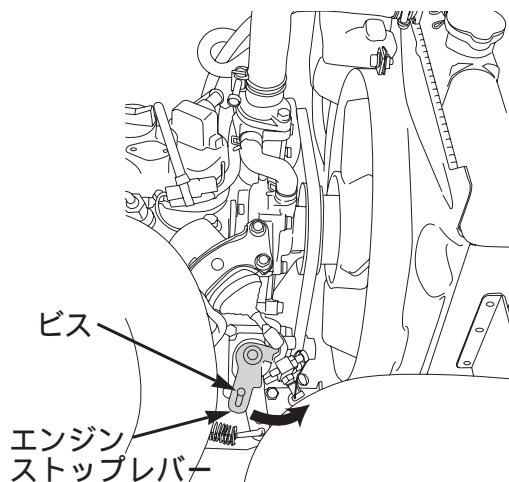
■メインスイッチ

コンバインの電源の**入・切**，及びエンジンの**始動・停止**を行なうスイッチです。

補　足

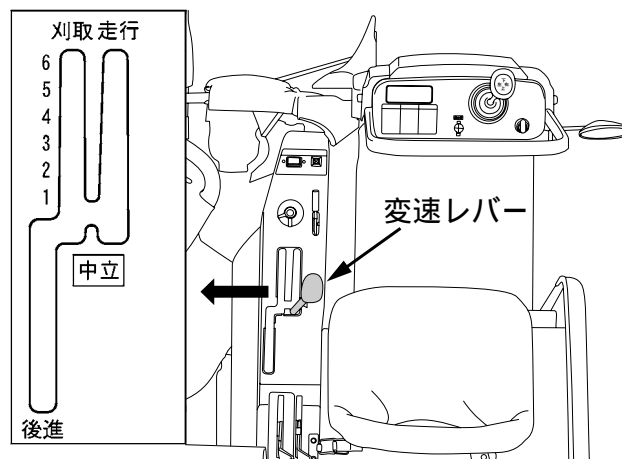
＊ エンジン始動後，スイッチキーから手を離すとスイッチキーは，［入］の位置に戻ります。

■アクセルレバー

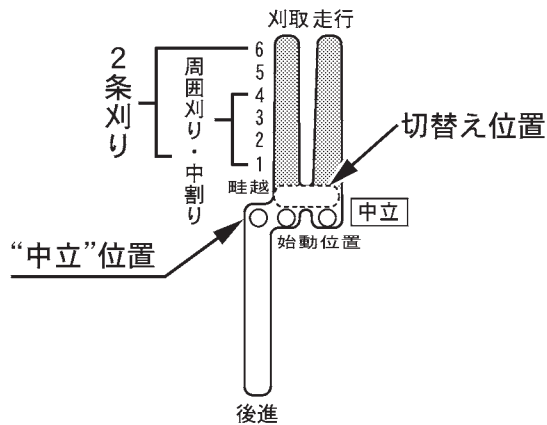
エンジン回転をコントロールするレバーです。レバーを後方に引くと回転数が上がります。

■エンジンストップレバー

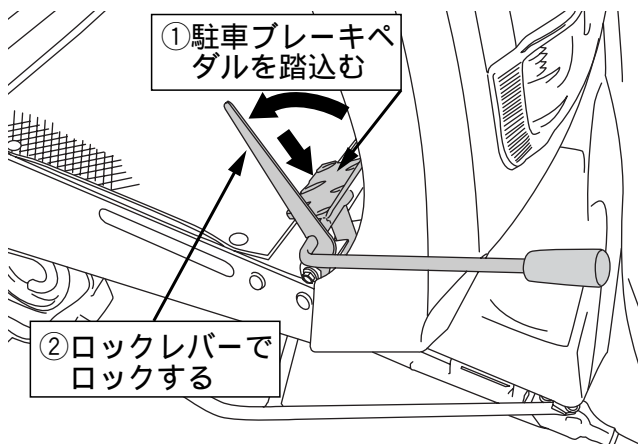
スイッチキーを " 切 " 位置にしてもエンジンが止まらないときなど非常時にエンジンを停止させるレバーです。エンジンルームをオープンしてからレバーのビスを持って矢印の方向に押し付けるとエンジンが停止します。

◆走行操作関係

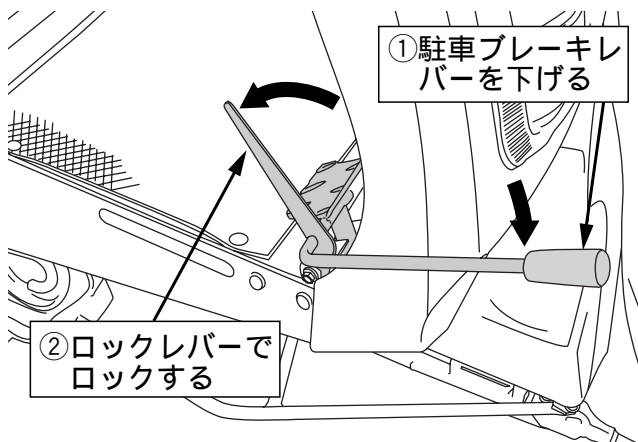
■変速レバー

機体の前進**（刈取・走行）・後進**の操作（左右）及び移動走行時や刈取作業時に速度の調整（前後）を行なうレバーです。

補　足

＊ 変速レバーを " 後進 " 位置にするとバックブザーが鳴ります。
＊ 走行速度は，変速レバーを動かす量に応じて増・減速します。
＊ 機械を停止するときは，変速レバーを " 中立 " 位置に戻してください。
＊ 刈取作業は２条刈りで行なってください。刈取り速度は，２条のときは " 刈取 " の２〜６，周囲刈り・中割りのときは " 刈取 " の２〜４の範囲で使用してください。
＊ " 中立 " 位置は溝のつき当り位置です。切替え位置ではありません。
＊ " 畦越 " 位置での刈取は行わないでください。

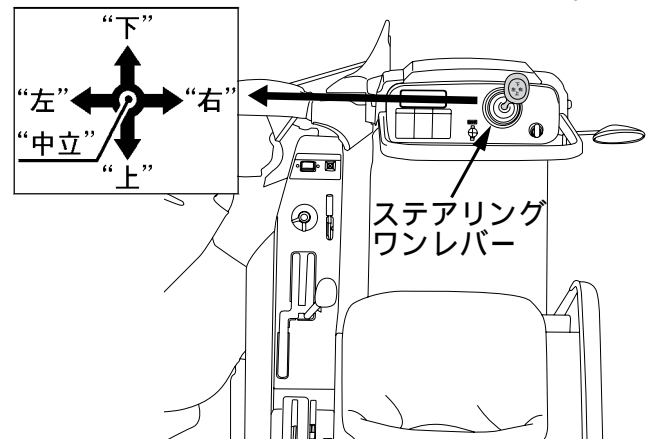
各部の名称とはたらき

■駐車ブレーキペダル

乗車状態では，駐車ブレーキペダルを踏込みブレーキロックレバーでロックすると駐車ブレーキがかかります。

■駐車ブレーキレバー

機体から降りた状態では駐車ブレーキレバーを下にさげてブレーキロックレバーでロックすると駐車ブレーキがかかります。

■ステアリングワンレバー

機体走行時の進路変更と刈取部の昇降操作を行なうレバーです。

“左”⇔“右”……レバーを倒した方向に機体が曲がります。倒す角度に応じて機体の方向修正から旋回まで行なえます。

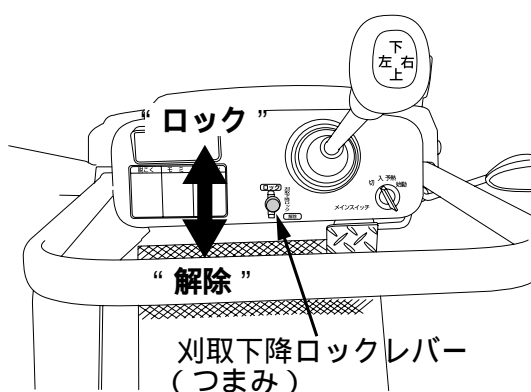
“下”⇔“上”……レバーを倒した方向に刈取部が上下に昇降します。

重　要

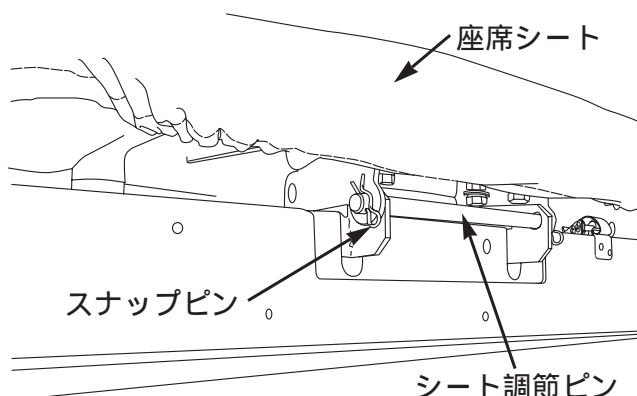
＊ エンジンが停止していてもレバーを前方（“下”方向）に倒すと，刈取部が下降します。注意してください。

装置の名称と取扱い

各部の名称とはたらき

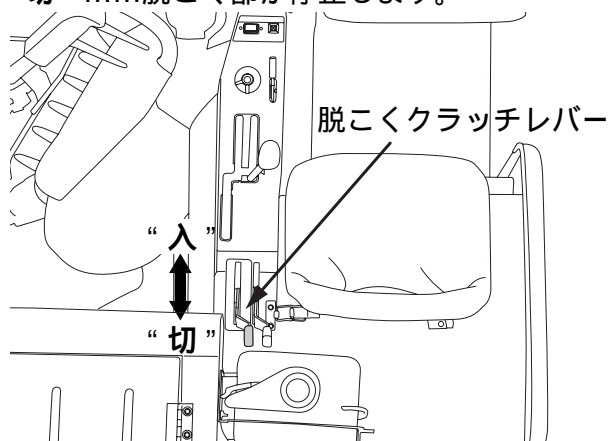
■刈取下降ロックレバー（つまみ）

刈取部の下降防止を行なうロックレバーです。ロックレバーを **“ ロック ”** 位置にすると，ステアリングワンレバーを下に操作しても刈取部は下降しません。ロックレバーを動かすときは，つまみのネジをゆるめて **“ ロック ”** 位置でネジを締付けてください。また，解除するときは **“ 解除 ”** 位置でネジを締付けてください。

■運転席（シート）

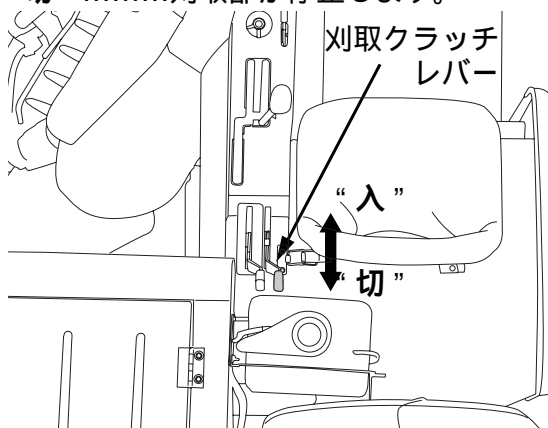
シートの前後位置がシート調節ピンで２段階に調節できます。
スナップピンを外し，シート調節ピンの位置を変えて，シートの前後位置を調節します。

◆刈取・脱こく関係

■脱こくクラッチレバー

脱こく部を作動させるレバーです。
“ 入 ”……脱こく部が作動します。
“ 切 ”……脱こく部が停止します。

補　足

＊ 脱こくクラッチレバーを “ 切 ” 位置にすると同時に，連動して刈取クラッチレバーも“ 切 ” 位置に動き，停止します。

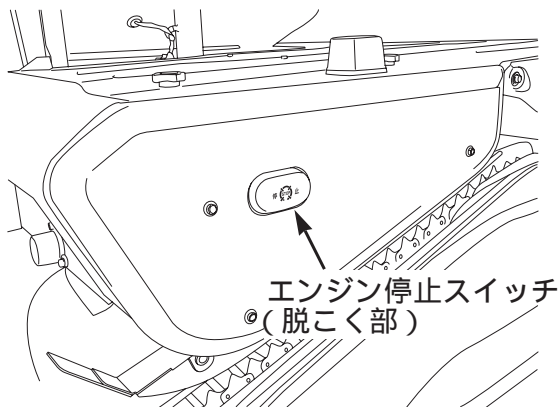
■刈取クラッチレバー

刈取部を作動させるレバーです。
“ 入 ”………刈取部が作動します。
“ 切 ”………刈取部が停止します。

補　足

＊ 刈取クラッチレバーを “ 入 ” 位置にすると同時に，連動して脱こくクラッチレバーも“ 入 ” 位置に動き，脱こく部が作動します。

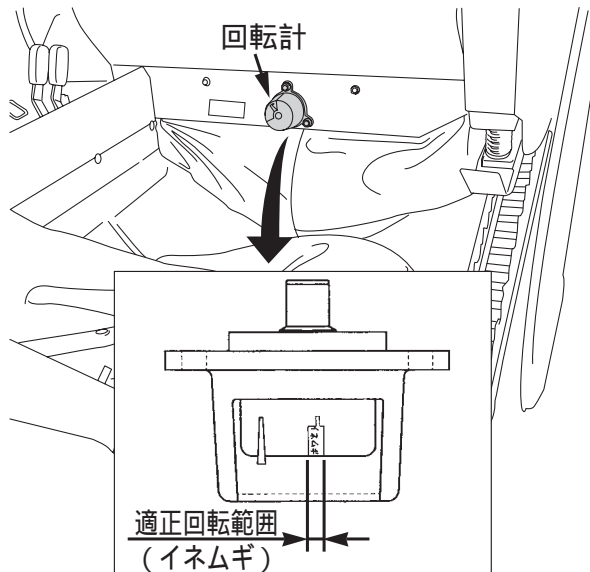
各部の名称とはたらき

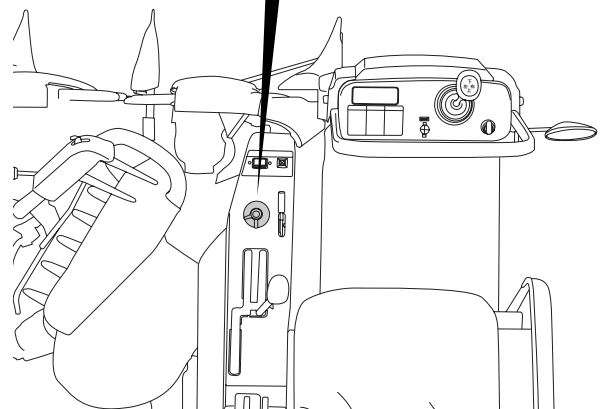
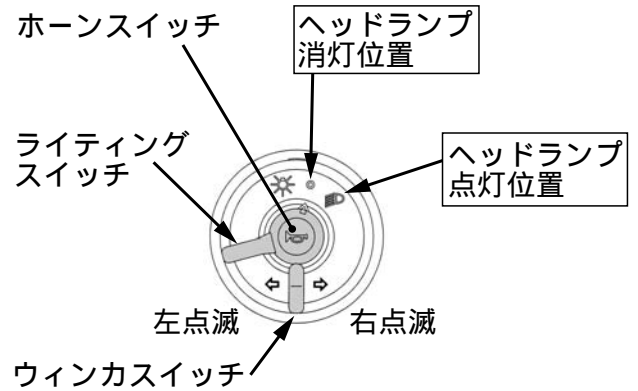
■エンジン停止スイッチ（脱こく部）

・エンジンを停止するスイッチです。
・スイッチを押すとエンジンが停止し，ブザーが２秒間鳴ります。
・エンジン停止後は，スイッチを“**切**”の位置に戻してください。

補　足

＊ スイッチキーを“切”位置に戻してからエンジンを再始動してください。

■回転計

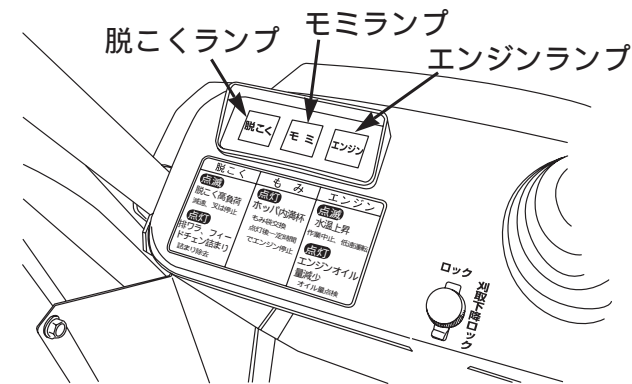
・こぎ胴の適正回転範囲を表示します。
・回転範囲の調整はエンジンを始動し，脱こくクラッチレバーを“**脱こく**”にし，回転計を見ながらエンジンコントロールレバーで調整します。
・作業中は回転計の針が常時**「適正回転範囲」**（イネムギ）の範囲内に位置するようにして使用します。

◆電装関係

■コンビネーションスイッチ・ホーンスイッチ

● ライティングスイッチ
スイッチを操作するとヘッドランプが点灯します。

● ウインカスイッチ
旋回方向に操作すると，ウインカランプが点滅します。

● ホーンスイッチ
中央の赤いスイッチを押すとホーンが鳴ります。

各部の名称とはたらき

■警報パネル

	脱こく	モミ	エンジン
点滅	**脱こく高負荷** 減速又は停止	―	**水温上昇** 作業中止，低速運転
点灯	**排ワラ，フィードチェン詰まり** 詰まり除去	**ホッパ内満杯** もみ袋交換 点灯後一定時間でエンジン停止	**エンジンオイル量減少** オイル量点検

◆各ランプ

● 脱こくランプ

・フィードチェン部及び排ワラチェン部が詰まるとランプが点灯しブザーの断続音が鳴りエンジン停止します。

・脱こく部に過大な負荷がかかってくるとランプが点滅し，ブザーの断続音が鳴ります。

● モミランプ

・ホッパ内が満杯になったとき，ランプが点灯しブザーが鳴ります。

・そのまま作業を続けると一定時間後にエンジンが自動停止**（自動エンジン停止装置）**します。

● エンジンランプ

・エンジンの冷却水温が高温になると点滅してブザーが鳴ります。（水温警報）

・エンジンオイルの圧力が異常に低下すると点灯します。（油圧警報）

補　足

＊ 処置については，47ページを参照してください。

＊ エンジンが停止しているとき，スイッチキーを " 入 " 位置にすると，エンジンランプが点灯します。エンジンを始動すると消灯します。

自動化装置の名称と取扱い

装置の名称と各部のはたらき

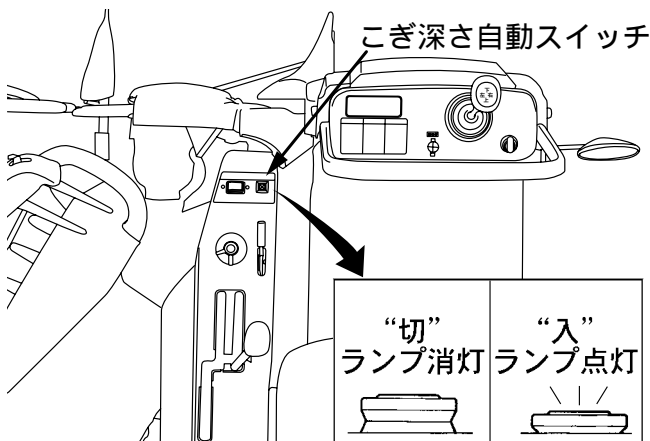
■自動こぎ深さ制御装置

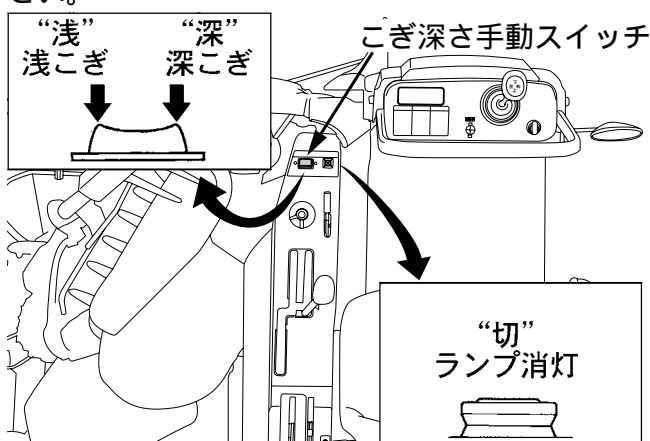
自動こぎ深さ制御装置は，作物の長さに応じて適正なこぎ深さを保つ装置です。

● こぎ深さ自動スイッチ

自動こぎ深さ制御の入／切をするスイッチです。

自動入り……ランプが点灯し，自動こぎ深さ制御が作動します。

自動切り……ランプが消灯し，自動こぎ深さ制御が解除されます。

● こぎ深さ手動スイッチ

こぎ深さを手動で行なう場合は，こぎ深さ自動スイッチを **“ 切 ”**（ランプ消灯）にしてこぎ深さ手動スイッチで供給搬送部の上・下調節をしてください。

スイッチの操作	供給搬送部の動き
深	下がる
浅	上がる

補　足

＊ 自動制御が，はたらいているときでも手動スイッチによる操作が優先されます。

＊ こぎ深さ手動スイッチは，エンジン停止中でもメインスイッチ“ 入 ”の位置で作動します。

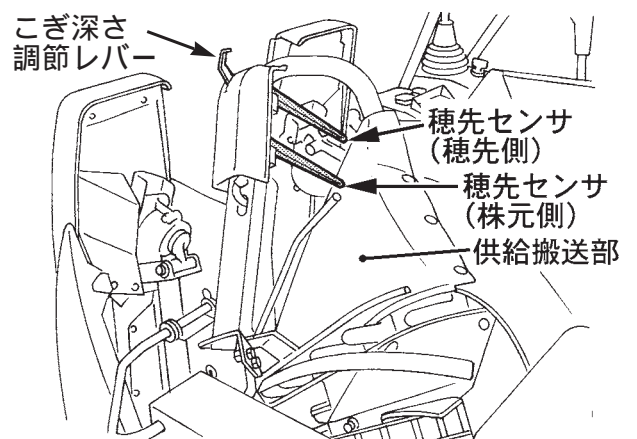
＊ 下記条件のときは，自動制御がはたらきません。

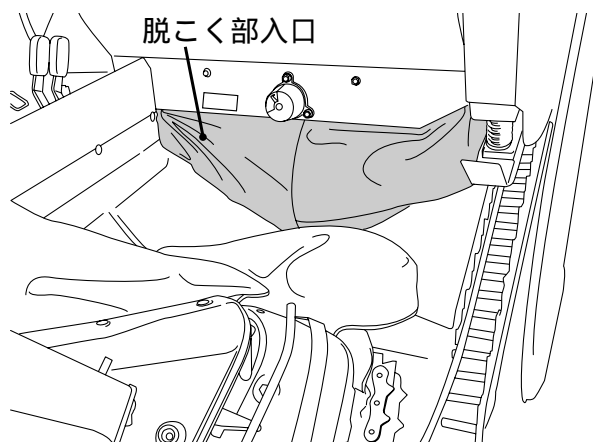
- **刈取部に作物がないとき**
- **脱こくクラッチ “ 切 ” のとき**
- **駐車ブレーキペダルを踏んでいるとき**
- **後進のとき**
- **変速レバー “ 中立 ” 位置のとき**

● 自動制御について

こぎ深さの自動制御は, 供給搬送部の上部にある２本の穂先センサ（株元側，穂先側）が，搬送されてきた作物の穂先を感知して一定の状態で脱こく部入口へと供給します。

● 穂先センサの位置調節について

通常は［**ほぼ中央**］に合せてください。調節は, こぎ深さ調節レバーを［**深**］の方向に倒すと, 深こぎ気味に保持され，こぎ深さ調節レバーを［**浅**］の方向に倒すと，浅こぎ気味に保持されます。

自動化装置の名称と取扱い

装置の名称と各部のはたらき

補　足

＊ 穂先センサ（株元側，穂先側）に浮わらや雑草が引っ掛かるとセンサが誤作動を起こし，正常な自動制御ができませんので取除いてください。

＊ 下記のように自動制御の困難なときは，手動で操作してください。
- 長かん作物（約110㎝以上）を刈取るとき
- 遅れ穂が多く，こぎ残しの出るとき
- 間欠に作物を刈取るとき
- 極端に作物の長さが不揃いのとき
- 雑草が多いとき
- 倒伏作物を低速で刈取るとき

運転前の点検

故障を未然に防ぐには，機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。日常点検は一日一回，運転前に欠かさず行なってください。（点検・調整方法の詳細は，59ページを参照。）

警　告

＊ 平たんで安全な場所で，駐車ブレーキを掛けエンジンを必ず止めてから行なってください。
＊ バッテリの点検・充電・交換中は火気厳禁です。
＊ 取外した回転部のカバー類は，外したままでは衣服などが巻込み危険ですので，必ず取付けてから作業をしてください。
＊ 燃料やオイル補給中は火気厳禁です。
＊ 刈刃やカッタの点検・掃除時は刃部に注意してください。

注　意

＊ 運転前にブレーキ・クラッチや安全装置などの日常点検を行ない，摩耗や損傷している部品があれば交換してください。また，定期的にボルトやナットがゆるんでいないか点検してください。
＊ 使用前にはオイル，燃料が規定量入っているか必ず点検してください。
＊ 燃料，オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。
＊ バッテリ，マフラやエンジン・燃料タンク・ベルトカバー内・配線部周辺，エンジンルームの内面・外面にごみや燃料の付着，泥の堆積などがあると火災の原因になることがあります。日常点検をして取除いてください。

重　要

各部への給油と交換
＊ 点検するときは機体を水平な場所において行なってください。傾いていると正確な量を示しません。
＊ 使用するエンジンオイル，ミッションオイル，グリースは，必ず指定の“クボタ純オイル・スペアグリース”を使用してください。
＊ 燃料補給の際は，ゴミや水が混入しないようにしてください。

◆前日の異常箇所

前日の作業中に異常を感じたところがあれば，使用前に支障がないか点検してください。

◆コンバインの回りを歩いて

1. ボルトやナットのゆるみや脱落がないか点検します。
2. 車体各部の変形や損傷がないか点検します。
3. 油もれや水もれなどないか点検します。
4. 機体各部にわらくずがたまっていないか点検します。

運転前の点検

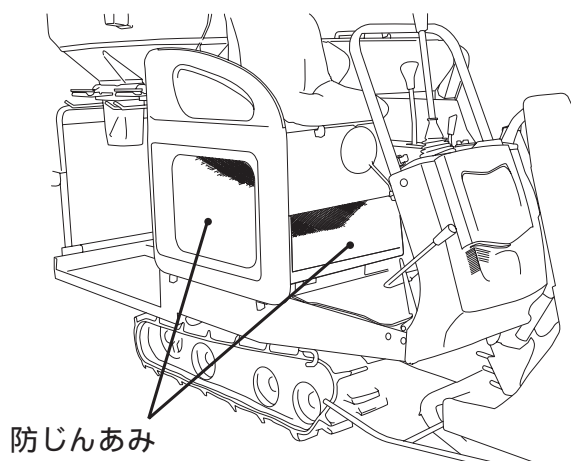
エンジン始動前に必ず行なう点検項目

■エンジンルームの防じんあみの掃除

重　要

＊ エンジンルーム前と右側の防じんあみの表面はよくごみが詰まります。毎日点検してください。詰まるとオーバーヒートの原因になります。

◆ 掃除

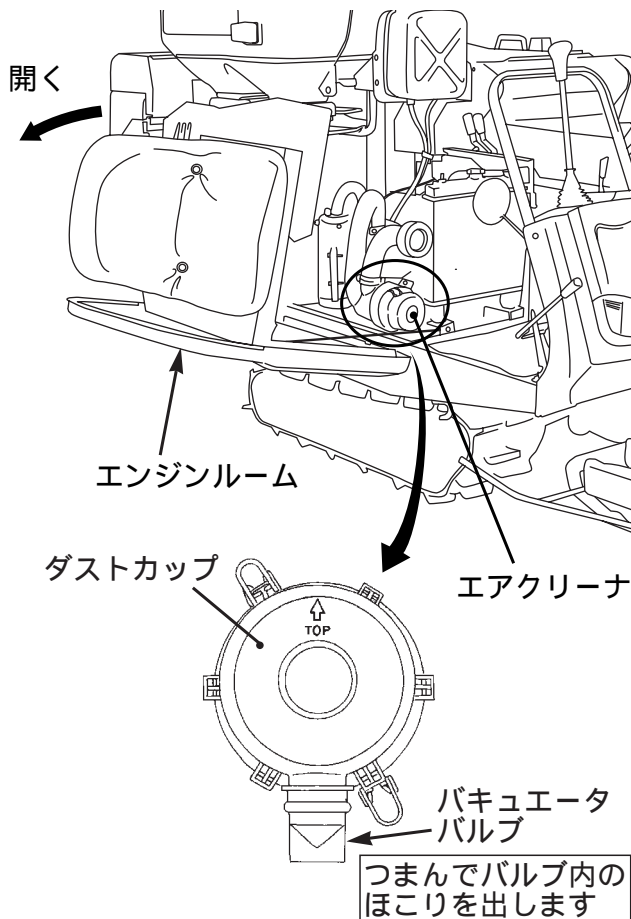
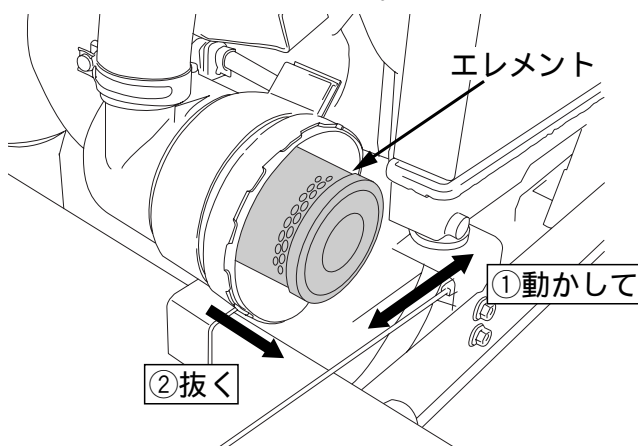
エンジンルームをオープンしたあと，圧縮空気を使用するなどして防じんあみ（前側・右側の内外両面）やラジエータフィン及びエンジンに付着しているゴミなどを掃除してください。

■エアクリーナエレメントの点検・掃除・交換

毎日作業前に必ず掃除してください。そして，清掃６回ごと又は１年より早い方で新品に交換してください。

重　要

＊ エアクリーナにほこりが詰まったまま運転すると，エンジンの出力が低下したり，エンジンオイルが異常に消耗又は劣化し，エンジントラブルの原因となります。点検は毎日作業前に欠かさず行なってください。

◆ 点検

1. エンジンルームをオープンしラジエータ側カバーを外したあと上，下２箇所のクランプを外してダストカップを外します。

2. エレメントを取外します。

エンジン始動前に必ず行なう点検項目

◆掃除

エレメントの点検を行ない，掃除又は，交換を行なってください。エレメントの掃除は，エレメントの内側から空気を吹きつけるか，又は軽く振ってゴミを取除いてください。汚れのひどい場合や150時間経過しているときは，交換してください。エレメントを取外すときは，エレメントを左右に動かして抜取ります。

■エンジンオイルの点検・補給，交換

◆点検・補給

オイルゲージを抜いて，先端をきれいにふき取ります。もう一度差し込んでから抜き出し，ゲージの**上限**と**下限**の間にオイルがあるか調べます。不足しているときは，給油口より規定量になるまで入れてください。さらに，油もれのないことも調べてください。

◆交換

● 排油のしかた

オイルゲージを外してから，排油プラグを外し，オイルを排出してください。

● 給油のしかた

排油プラグを締付けて，給油口から規定量のオイルを給油し，オイルゲージを取付けてください。

重　要

＊ 指定以外のオイルを使用すると，出力が低下したり，エンジンオイルが異常に消耗又は劣化し，エンジントラブルの原因となります。また，気温によりオイルを選んでください。

気温	オイルの種類	規定オイル容量
15°C未満のとき	クボタ純オイル ディーゼルエンジン用 D10W-30	・上限線 約2.05L ・下限線 約1.35L
15°C以上のとき	クボタ純オイル ディーゼルエンジン用 D30又はD10W-30	

＊ クボタ純オイルの入手が困難な場合は，API分類でCC級以上のオイルをお使いください。この場合は気温により下表のように使い分けてください。

気温	オイルの種類
0 °C以下	SAE10W又は10W-30
0 ～25°C	SAE20又は10W-30
25°C以上	SAE30又は10W-30

※10W-30はオールシーズン用です。

運転前の点検

日常点検項目

＜ここを＞		＜点検し異常があれば＞	＜こうする（処置）＞	参照ページ
機体の回りを歩いて	機体各部	1. 損傷や変形はないか。 2. ボルトやナットのゆるみや脱落はないか。 3. 油もれや水もれはないか。 4. わらくずがたまっていないか。 5. 安全ラベル（⚠表示ラベル）の損傷やはがれはないか。	1. 修理又は，交換する。 2. 補充，増締めをする。 3. ホースやパイプの取付部の締付け又は，部品交換をする。 4. 掃除する。 5. 新しいラベルに貼替える。	― ― 71 54 ⚠-22
	刈刃，わら切刃，カッタ刃	●刃の損傷はないか。	●交換する。	86，92
	クローラ	●たるみや損傷はないか。	●調整又は，交換する。	104
	防じんあみ	●詰まりはないか。	●掃除する。	15
	反射器	●汚れや損傷はないか。	●掃除又は交換する。	―
エンジンルームを開けて	エンジンオイル	●油量は規定量（オイルゲージの**上限線と下限線の間**）あるか。	●規定量まで補給する。 ……クボタ純オイルD30又は，D10W30	65
	ラジエータ　冷却水	●リザーブタンクの水量は規定量（タンクの**［H］と［L］の間**）あるか。 （タンク横プレートにラベルで表示）	●清水を規定量まで補給する。	68
	ラジエータ　フィン	●詰まりはないか。	●掃除する。	73
	エアクリーナ	●エレメントが汚れたり，ほこりが詰まっていないか。	●掃除又は，エレメントを交換する。	70
	ファン駆動ベルト	●たるみはないか。 ●損傷はないか。	●調整する。 ●交換する。	78
	ホース，パイプ	●油もれ，水もれはないか。	●取付部の締付け又は，交換する。	71
	配線コード	●コネクタなどの外れやゆるみ又は，被覆の損傷はないか。	●取付け又は，交換する。	101
運転席に座りメインスイッチを入れて	各ランプ	●各スイッチを操作すると点灯又は，点滅するか。	●球切れ，ヒューズ切れ，配線コードの外れを調べ交換又は，取付けをする。又は，購入先へ連絡してください。	10 101
	ホーン	●スイッチを押すと鳴るか。		
	バックブザー	●変速レバーを“**後進**”位置にするとブザーが鳴るか。		
駐車ブレーキペダル		●“**ロック**”位置でブレーキが効くか。	●調整する。	72
バッテリ		●エンジンは始動するか。	●充電又は，交換する。	96，106
エンジンを始動して	警報パネル　エンジンランプ	●消灯するか。	●エンジンオイルを規定量まで補給する。 ……クボタ純オイルD30又は，D10W30	16
	エンジン（マフラ）	●異音はしないか。 ●排気ガスの色に異常はないか。	●購入先へ連絡してください。	―
	各レバー	●各レバーの作動に異常はないか。	●調整又は，購入先へ連絡してください。	72，107
	刈取部昇降	●ステアリングワンレバーを操作したときに，刈取部の作動（昇降）に異常はないか。	●昇降ネジ部に注油又は，グリースを塗布する。 ●ワイヤを調節する。	57
	こぎ深さ制御（供給搬送部）	●こぎ深さ手動スイッチを操作したときに，供給搬送部の作動（上昇⇔下降）に異常はないか。	●ヒューズ切れ，配線コードの外れを調べ交換又は，取付けをする。又は，購入先へ連絡してください。	101
	エンジン停止スイッチ	●スイッチを押すと，ブザーが鳴りエンジンが停止するか。	●ヒューズ切れ，配線コードの外れを調べ交換又は，取付けをする。又は，購入先へ連絡してください。	101

重　要

＊ 処置したあとに異常が直らないときは，購入先に連絡してください。

移動走行と輸送

新車時の扱いかた

新車時の上手な運転操作やメンテナンスがコンバインの寿命に影響を及ぼします。新車のコンバインは厳重な検査のもとに出荷されていますがコンバインの各部の部品はならし運転されていません。ならし運転期間中はコンバイン各部の部品がなじむまでは走行速度は低速で，過負荷となる刈取作業は避けてください。
コンバインの性能を最大に発揮させたり，長期にわたる耐久力を維持させるためには，適正なならし運転が重要です。
新車時の取扱いは次項を遵守してください。

■ならし運転について

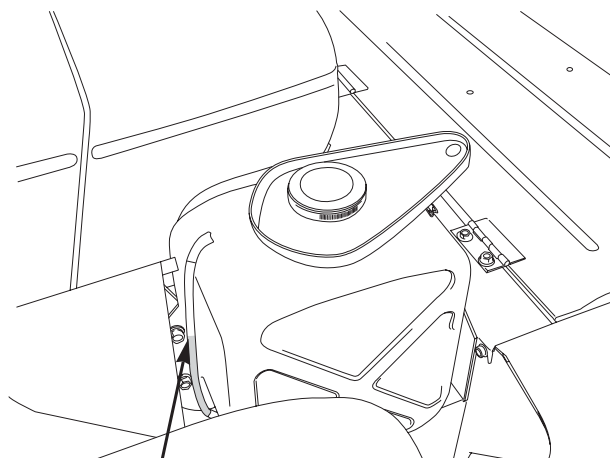
＊急発進や急ブレーキ操作はしないでください。
＊寒い日や冬期，エンジンはじゅうぶん暖機運転をしてください。
＊エンジン始動後，アクセルレバーを約半分の位置（🐢と🐇の中間位置）にし，約５～10分間負荷をかけずに暖機運転を行ってください。
＊整地されていない凹凸道路では低速走行をしてください。
以上はならし運転以降も必要な事項ですが，新車時は特に注意してください。

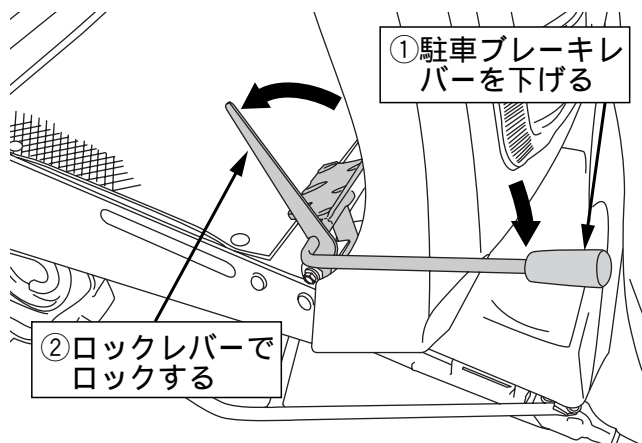
エンジンの始動と停止のしかた

注　意

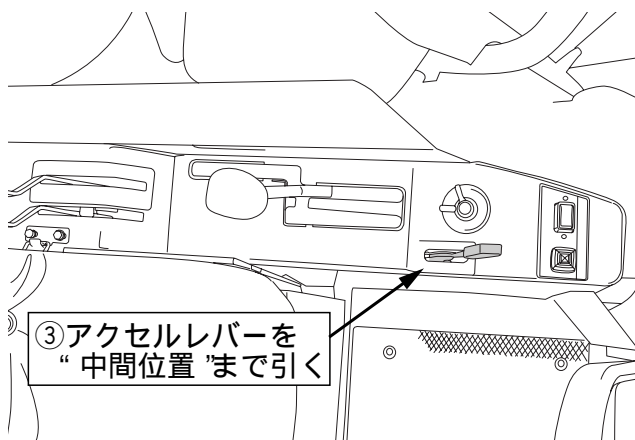
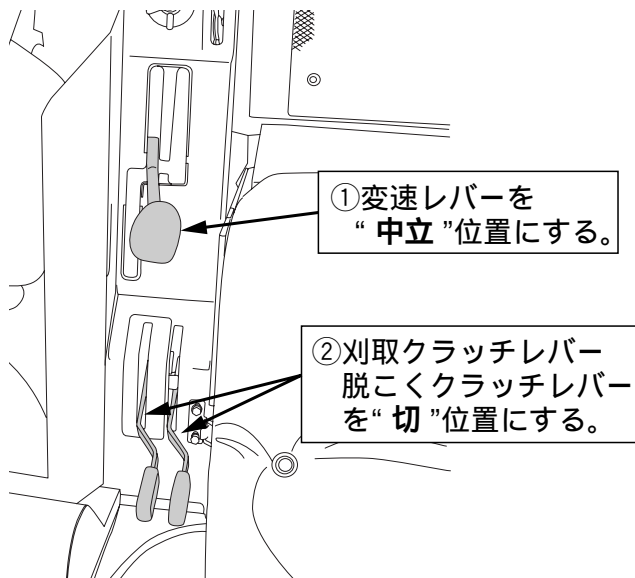
＊ この取扱説明書前編の黄色のページの“安全に作業をするために”の内容を必ずお読みください。
＊ コンバインに貼ってある警告・注意ラベルの内容を必ずお読みください。
＊ エンジン排気ガスによる，排気ガス中毒をさけるため，換気の悪い納屋・倉庫でエンジンを回さないでください。
＊ 始動操作は，ホーンなどで周囲の人に始動の合図をしてから行なってください。

■始動のしかた

1. 燃料を点検します。

エンジンの始動と停止のしかた

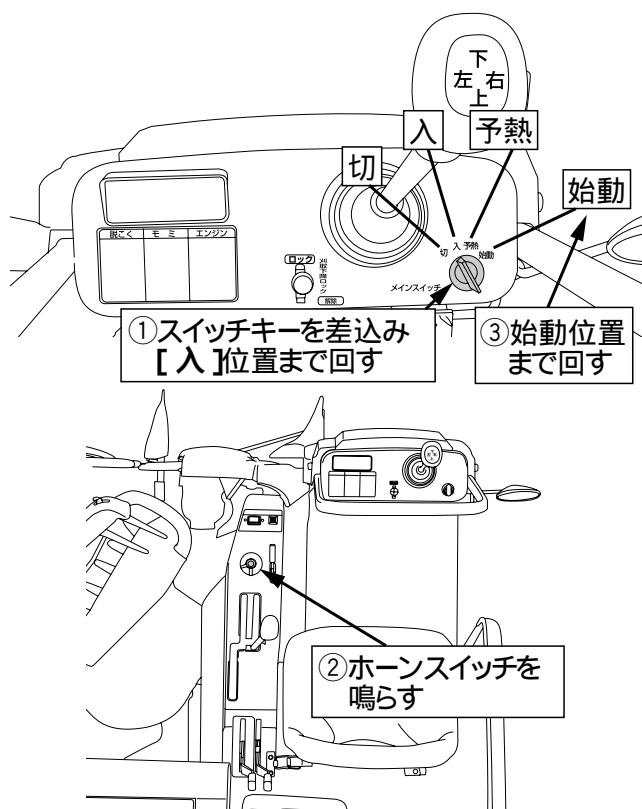
2. 駐車ブレーキを掛けます。

補　足

＊ 駐車ブレーキをかけていないときは駐車ブレーキペダルをいっぱいに踏込んだ状態を維持しないとエンジンが始動しません。

3. 各レバー位置の確認をします。

補　足

＊ 変速レバーが “ 中立 ” 以外の位置のときはエンジンが掛かりません。変速レバーを溝のつき当り位置にしっかり当ててください。
＊ 脱こくクラッチレバーが“ 入 ”位置のときは，エンジンが掛かりません。

エンジンの始動と停止のしかた

4. エンジンを始動します。

重　要

＊ スイッチキーを“始動”位置に回して10秒たっても始動しないときは，いったんキーを“切”位置にして，30秒ほど休止してから，エンジンを再始動してください。10秒以上の使用は故障の原因になります。
＊ エンジン回転中に，スイッチキーを“始動”位置に回すと故障の原因になります。
＊ エンジン始動後，エンジンランプが“消灯”しないときは，購入先へ連絡してください。

補　足

＊ ホーンを鳴らすなどして始動の合図を周囲の人に送ってください。

◆暖機運転について

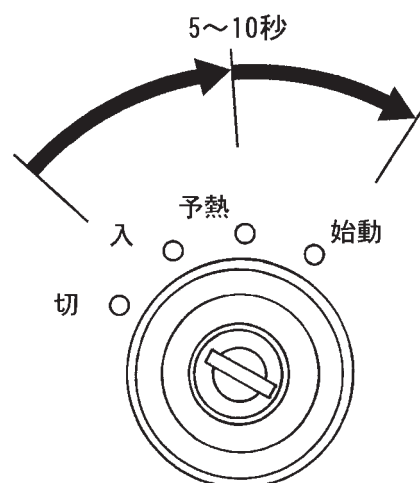
エンジン始動後，アクセルレバーを中間位置に合わせて約５～10分間は負荷をかけずに暖機運転を行なってください。

重　要

＊ オイルを各部にじゅうぶんゆきわたらせるためで，始動してからすぐ負荷をかけると，エンジンの焼付きやミッションや油圧系統の故障の原因になります。

◆寒冷時の始動のしかた

寒冷時にエンジンを始動するときは，始動する前にスイッチキーを“**予熱**”位置で５～10秒間予熱したあと“**始動**”位置に回してください。

重　要

＊ 寒冷時は暖機運転を怠たると油圧系統の故障につながりますので，下記の表を目安に暖機運転を行なってください。

気　温	暖機運転時間
０～-10℃	約10分
-10～-15℃	10～15分
-15～-20℃	15～20分
-20℃以下	20分以上

◆燃料切れ後の再始動のしかた

運転中に燃料切れで停止した場合は，

1. 脱こく・刈取クラッチレバー及びスイッチキーを“**切**”位置にします。
2. 燃料タンクに燃料を補給します。
3. **始動のしかたの1～3**を確認後，スイッチキーを“**入**”位置に保持し，そのあと“**始動**”を２～３回繰返します。

補　足

＊ セルモータでエンジンを回している間に自動的にエア抜きされます。

エンジンの始動と停止のしかた

◆バッテリが上がったときの始動のしかた

 危　険

＊ バッテリの近くに裸火（マッチ，ライタ，タバコの火など）を近づけたり，（＋）端子と（－）端子が金属工具やブースタケーブルなどの接触によってスパークを発生させないでください。バッテリのガスで引火爆発するおそれがあります。

バッテリ上りによりエンジンが始動できなくなったときは，バッテリの補充電又は，交換を行なってください。（96ページ参照）
補充電や交換がすぐに行なえないときは，救援車のバッテリにブースタケーブルを接続して始動してください。

重　要

＊ 接続するバッテリは，必ず12Vのものを利用してください。故障の原因となります。
＊ バッテリを直列につないで始動しないでください。電装品が破損するおそれがあります。

補　足

＊ ブースタケーブルの取扱いは，ブースタケーブルの取扱説明書に従ってください。

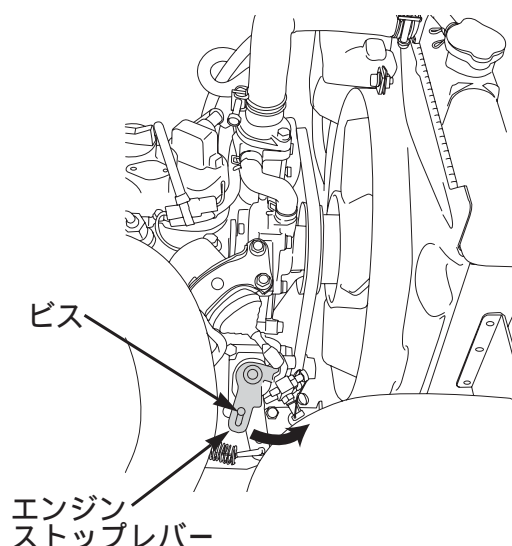
1. ブースタケーブル（赤）をコンバイン側と救援車側のバッテリの（＋）**端子**にそれぞれ接続したあと，ブースタケーブル（黒）を救援車側のバッテリの（－）**端子**に接続し，コンバイン側はバッテリから離れたところの金属部で塗装がされていないところに接続します。
2. 利用するバッテリが車などの場合は，エンジン回転を上げます。
3. コンバインのエンジンを始動します。
4. ブースタケーブルを取付の逆の手順で取外します。

■停止のしかた

1. 脱こく・刈取クラッチレバーを［**切**］位置にします。
2. アクセルレバーを［ ］（低回転）位置にします。
3. スイッチキーを［**切**］位置にしてエンジンを停止します。

重　要

＊ エンジン停止中でスイッチキーが［入］位置の状態のまま長時間放置するとバッテリ上りとなります。
＊ スイッチキーを［切］位置にしてもエンジンが停止しないときはアクセルレバーが［ ］（低回転）位置にあることを確認後エンジンルームを開きます。その後エンジンストップレバーのビスを持って矢印の方向に押し付けると停止します。そのあと，購入先へ連絡してください。

＊ 回転物や高温部には絶対手を触れないでください。
＊ エンジン停止後，30分以上経過してからエンジンを点検してください。

移動走行について

警　告

＊ あゆみ板を使うときや，前後左右とも10 度をこえる傾斜地（坂道）を走行するときは，速度を最低速にし機械から降りて操作してください。また，ステアリングワンレバーを操作すると，機械の移動方向が変化したり，急降下，落下するおそれがありますので操作しないでください。

＊ あゆみ板を使うときや坂道を走行するときは，速度を最低速にし，あぜや傾斜方向に対して上り方向は前進，下り方向は後進で直角に走行してください。斜めに走行すると転倒してケガをするおそれがあります。

＊ 下記のようなところを走行するときは，転倒しケガをするおそれがあるので注意してください。

●両側が傾斜していたり，溝のある道路の路肩

●道幅に余裕がなく高いところにある道路（土手）

●路肩の弱い道路

●路面の凹凸（溝や穴・窪地など）の落差の大きいところや路面が草などでおおわれて良く見えないところ

注　意

＊ もみの入ったもみ袋をもみ受台からすべて降ろしてください。

＊ 安全のためヘルメットを着用してください。

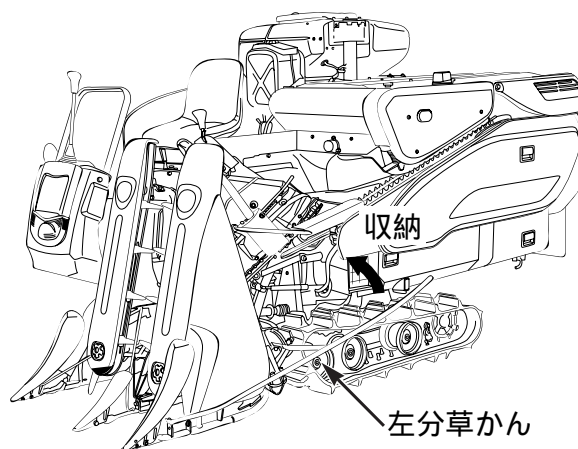
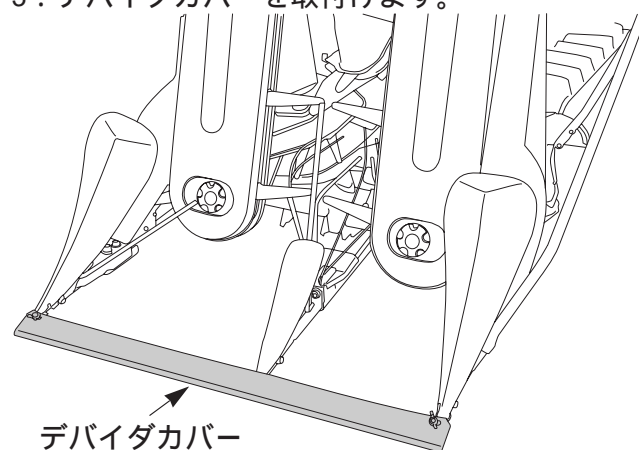
＊ 運転者以外の人は乗せないでください。

＊ 10㎝ 以上の段差（あぜやコンクリート畦畔など）のあるところではあゆみ板を使ってください。

＊ もみのせ台の上に人を乗せないでください。

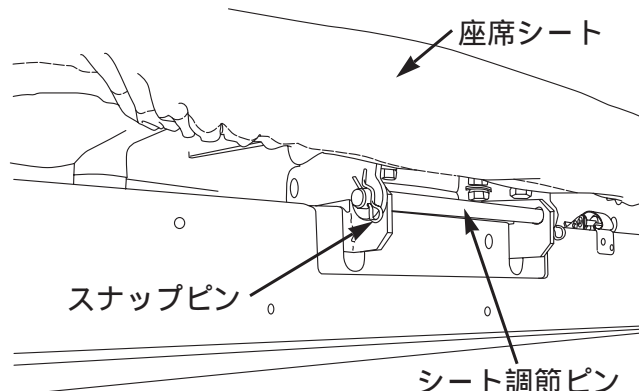
■走行前の準備

＊ カバー類などが確実に取付けられているか確認してください。

1. もみの入ったもみ袋をもみ受台からすべて降ろします。（オプションの延長もみデッキは，収納してください。）
2. 左分草かんを収納します。

3. デバイダカバーを取付けます。

補　足

＊ 右側デバイダは標準（内側）の位置にしてください。（43ページ参照）

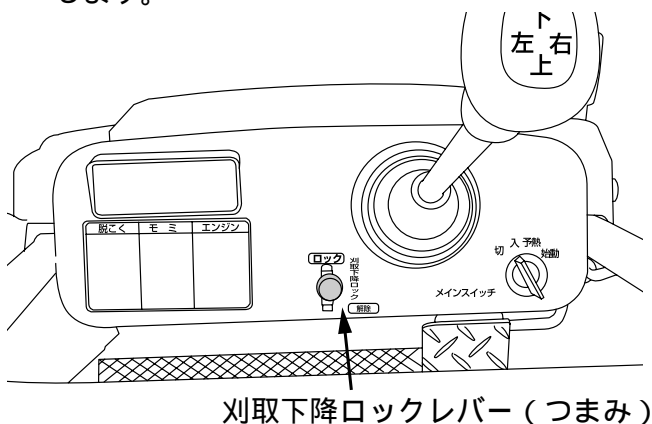
移動走行について

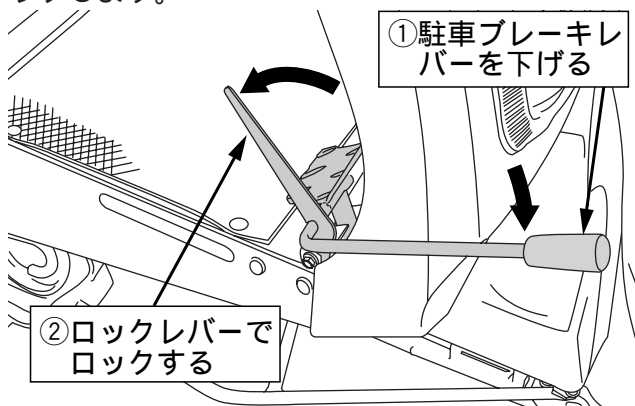
4. シートの前後位置がシート調節ピンで２段階に調節できます。
   スナップピンを外し，シート調節ピンの位置を変えて，シートの前後位置を調節します。

■発進のしかた

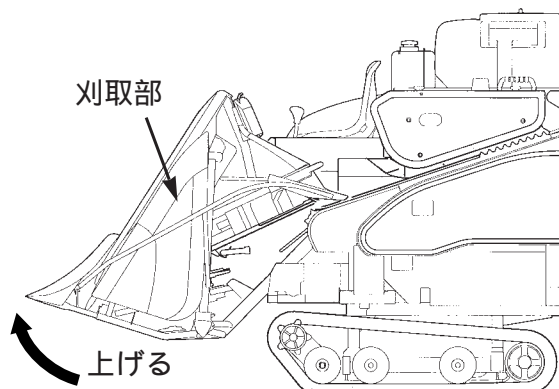
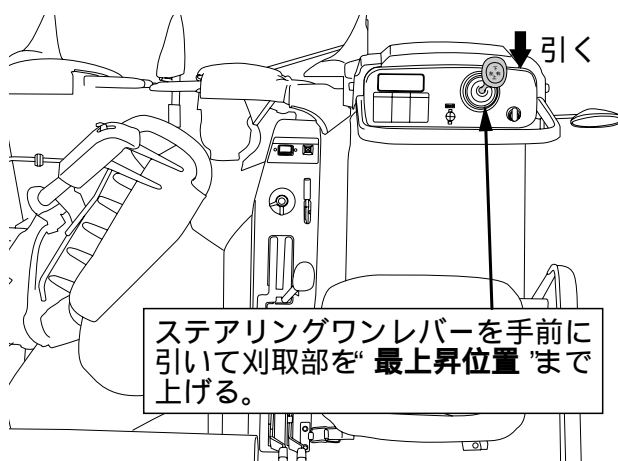
注　意

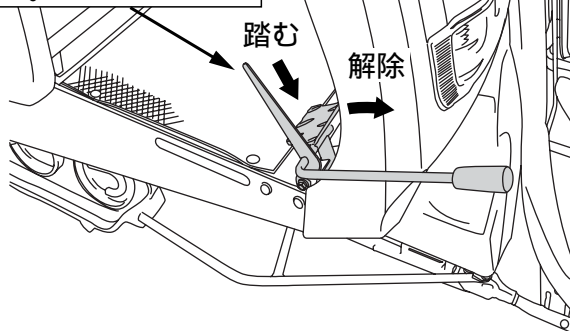
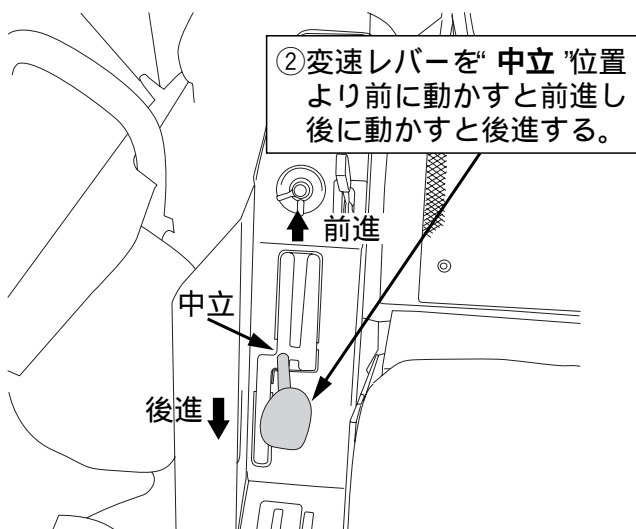
＊ 発進をするときは，周囲の安全を確かめてホーンなどで合図を行なってから発進してください。
＊ 急発進は危険ですので，前進の場合は変速レバーを“中立”から徐々に増速してください。

1. 各レバーを操作します。

1. 運転席に座り刈取クラッチレバー，脱こくクラッチレバーが“**切**”位置，変速レバーが“**中立**”位置にあることを確認します。
2. 刈取下降ロックレバーで刈取部を“**ロック**”します。

3. バックミラーを調整します。

4. 駐車ブレーキレバーを下げロックレバーでロックします。

5. エンジンを始動します。

2. 刈取部を上げます。

移動走行について

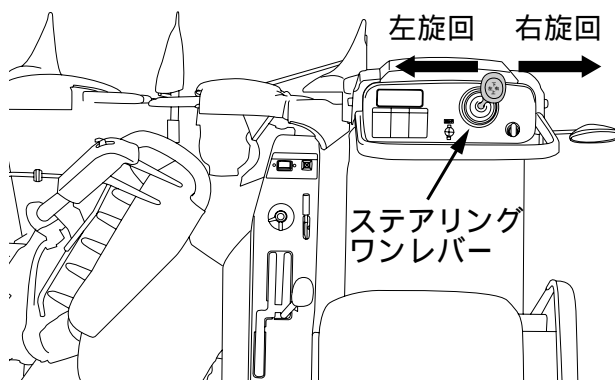
3. 走行速度を選んで発進します。

重　要

＊ 変速レバーの「刈取」側が低速で，「走行」側が高速です。慣れるまでは低速からご使用ください。
＊ 変速レバー「刈取」・「走行」の切換えは平たんな場所で変速レバーの「変速位置」で行なってください。

■旋回のしかた

注　意

＊ 走行時，ステアリングワンレバーを強く操作すると急旋回して危険ですので，旋回前に必ず減速してください。

旋回する方向にステアリングワンレバーを操作します。動かす角度に応じて旋回力が変わります。いっぱいまで動かすと減速していないときは急旋回します。

重　要

＊ 砂利道での急旋回は，クローラに石がかみこみ故障するおそれがありますので避けてください。

移動走行と輸送

移動走行について

■停車・駐車のしかた

警 告

＊ コンバインを離れるときは，平たんで安全な場所に置き，刈取部を降ろして駐車ブレーキを掛け，エンジンを止めてください。
＊ 駐車するときは，駐車ブレーキペダルをすばやくいっぱい踏み込んでください。坂道の場合操作をゆっくり行なうと駐車ブレーキが効く前に機械が下がるおそれがあります。
＊ 駐車ブレーキがかかっている状態から発進するときは，駐車ブレーキペダルを一旦最大まで踏み込んでブレーキロックレバーを解除してからすばやく足を離してください。
坂道の場合操作をゆっくり行なうと動力が伝わる前に機械が下がるおそれがあります。
＊ 駐車ブレーキペダルは，駐車するときもしくは緊急停止時以外は使わないでください。機械を停止するときは，変速レバーを“中立”に戻してください。
＊ 坂道では駐車しないでください。やむをえず駐車するときは，暴走を防ぐため木片などで車止めをしてください。

1. 変速レバーを“**中立**”位置に戻します。
2. 駐車ブレーキペダルを踏んで，ブレーキロックレバーで“**ロック**”します。
3. アクセルレバーを“🐢”**（低回転）**位置に戻します。
4. エンジンを停止してスイッチキーを抜きます。

輸送について

■自動車とあゆみ板の準備

警 告

＊ 積込み・積降しは平たん地を選び，自動車の駐車ブレーキをしっかり掛けてください。
＊ あゆみ板はフックが付いているもので，じゅうぶんな強度，幅（45㎝以上），長さ（荷台の高さの４倍以上）のある基準に合ったすべり止め付きのものを使用し，コンバインの重量であゆみ板が傾いたりしない場所を選んでください。
＊ あゆみ板を荷台に掛けるときは，段差がなく平行で，左・右のあおりに機体が接触しない位置に合わせてください。

あゆみ板の基準

長　さ	自動車の荷台の高さの４倍以上
幅	45㎝以上
数　量	２枚
強　度	１枚が700kg以上の重量に耐えうる

■コンバインの準備

左分草かんを収納したあと，デバイダカバーを取付ます。（21ページ参照）

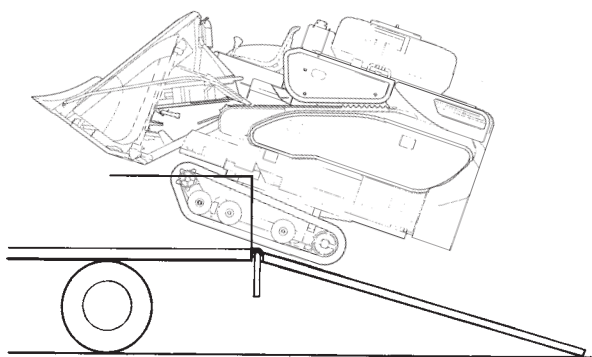
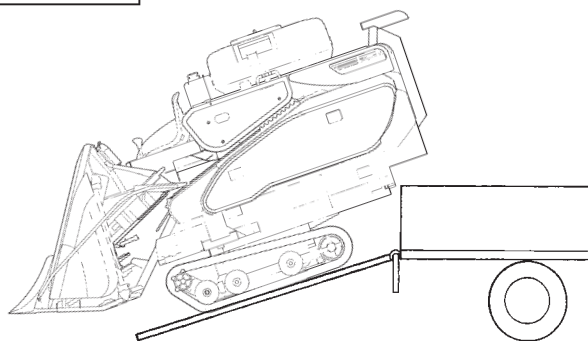
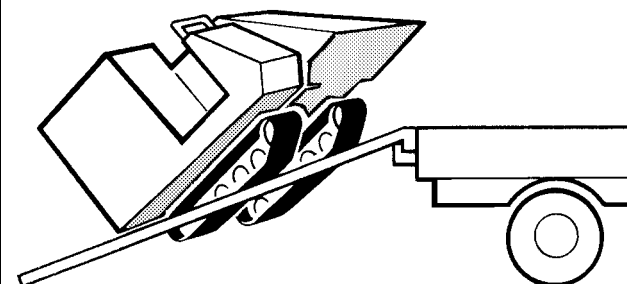
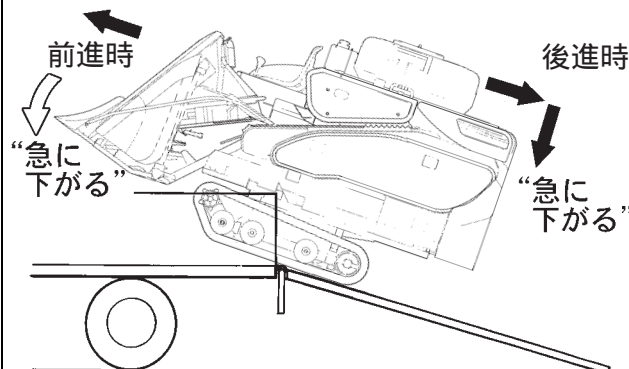
輸送について

■コンバインの積込み･積降しのしかた

警　告

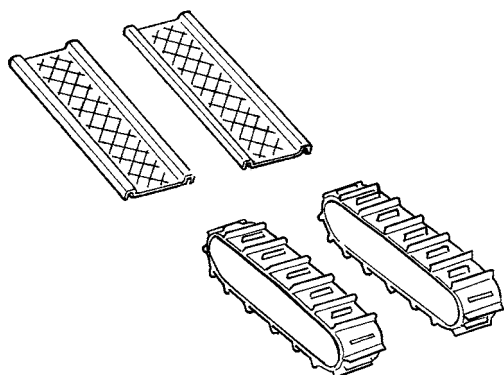
＊ 積込みは前進で速度は“畦越”で，積降しは後進で速度は後進位置の最低速で行なってください。ただし，結束機を装着している機械は後進で速度は後進位置の最低速で積込み，前進で速度は“畦越”で積降しを行なってください。

＊ 積込み・積降し作業を行なうときは，機体から降りて発進させてください。

＊ 運転者及び共同作業者は，コンバインがあゆみ板を走行しているときはコンバインから離れてください。

［結束機付］

＊ あゆみ板の途中でステアリングワンレバー・変速レバー・ブレーキペダルを操作すると，機械が急降下し落下する危険がありますので，操作しないでください。方向を変えるときは，いったん地上又は荷台に戻って方向を修正し，再度上り下りし直してください。

＊ 機体が凸部を越えるときは，急にコンバインの姿勢が変わりますのでじゅうぶん注意してください。

移動走行と輸送

輸送について

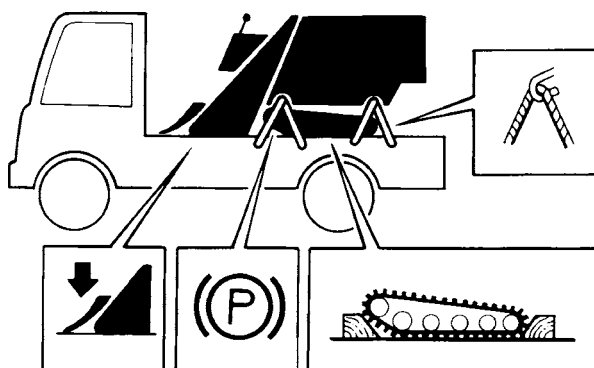
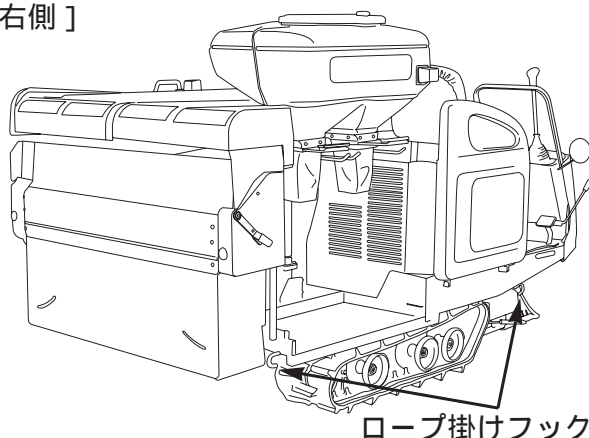
◆操作のしかた

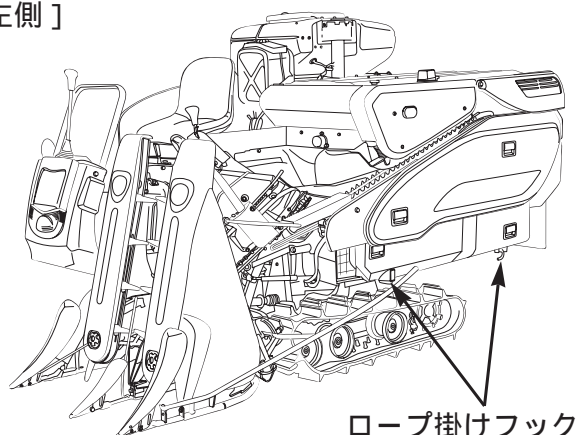
1. 各作業クラッチレバーを［**切**］位置にします。
2. ステアリングワンレバーで刈取部を上げます。
3. アクセルレバーを操作して“**中間位置**”にし，変速レバーを［**刈取**］位置にしたあと，ゆっくり操作して，**低速**で走行します。
4. あゆみ板の前でいったん停止し，あゆみ板の中央に左右のクローラを合わせ，機体から降りてあゆみ板と平行になっているか確認してから積込み・積降しをしてください。

5. 荷台に載せ終わったら刈取部を接地させて駐車ブレーキを掛けます。

■自動車上での注意

＊ 刈取部を床まで降し，駐車ブレーキを掛け，車止めをし，ロープでしっかりトラックに固定してください。

［左側］

［右側］

重　要

＊ フック以外の所には，ロープを掛けないでください。

収穫作業のしかた

作物とほ場の条件

作物の状態やほ場の状態によっては，刈取作業ができない場合があります。作業を始める前によく確めて，能率のよい作業を行なってください。

■作物の条件

◆作物の長さ

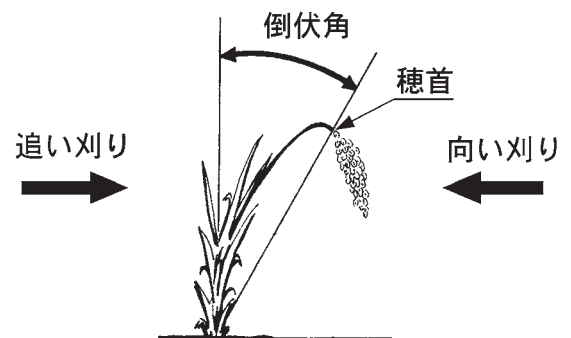
刈取れる長さは，作物全長で約70～120㎝です。

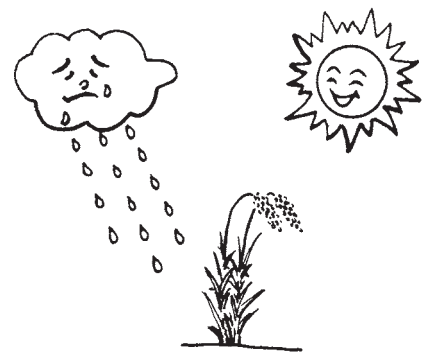
補　足

＊ **出荷時の作物適応範囲は80～105㎝です。作物の全長が70～80㎝又は，105～120㎝の刈取作業を行なうときは，こぎ深さリンクを組み替えてください。（44ページ参照）**

◆作物の倒伏

作物の倒れかた（倒伏角）により，刈取り方向に注意してください。

刈取りかた（方向）	倒　伏　角
追い刈り	85度以下
向い刈り	70度以下

◆作物の水分（ぬれ）

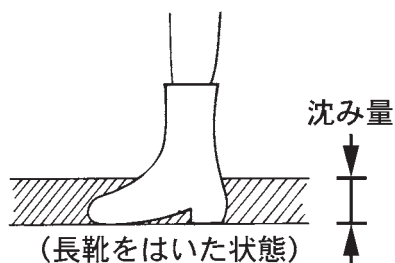
作物の乾燥状態は，手でさわってぬれていない状態で刈ってください。濡れていると詰まりの原因になります。

収穫作業のしかた

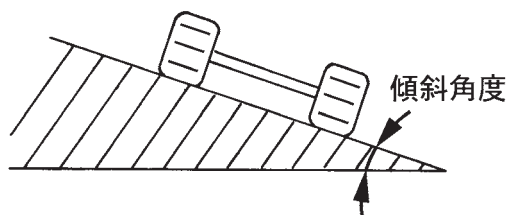
作物とほ場の条件

■ほ場の条件

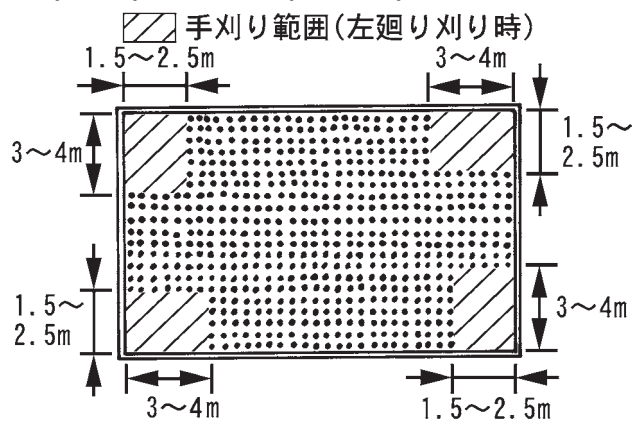
◆ほ場のぬかるみ

足の沈み量を測って目安にしてください。また，クローラの仕様（**仕様について**の項参照）によって，目安の沈み量は異なります。

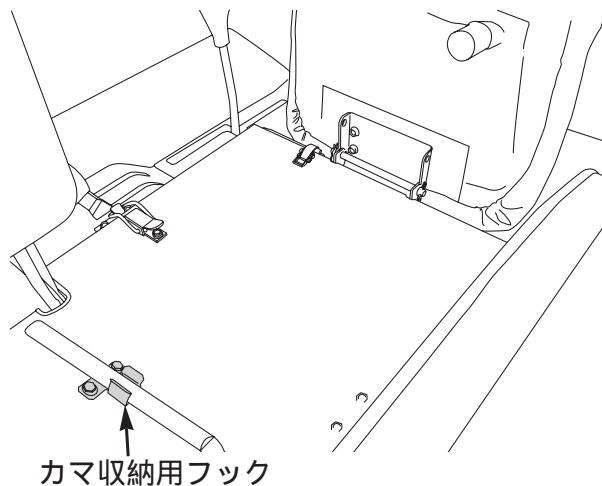
仕　様	沈　み　量
標　準	10㎝まで
W	20㎝まで

◆ほ場の傾き

傾斜角度５度以上では， 作業できません。

ほ場の準備

■ほ場の準備

コンバインをほ場に入れる前に，あぜぎわの四すみで旋回が楽に行なえるように，旋回ができる範囲（面積）の手刈り（枕刈り）をします。

補　足

＊ カマの収納場所は下図の位置にあります。

重　要

＊ あぜがコンクリートのとき乗上げるとクローラを切損する場合がありますので，あぜぎわ２条を残してください。

コンバインの準備

■カッタ作業・ワラとり作業共通の準備

警　告

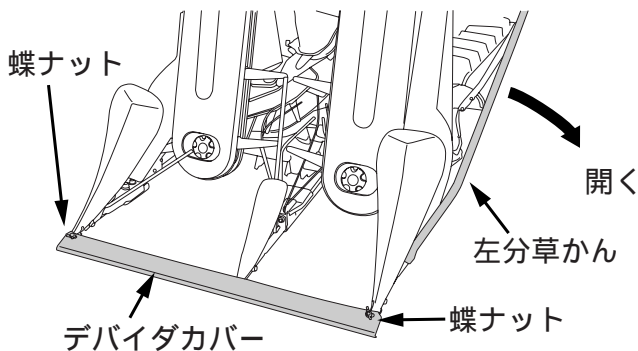
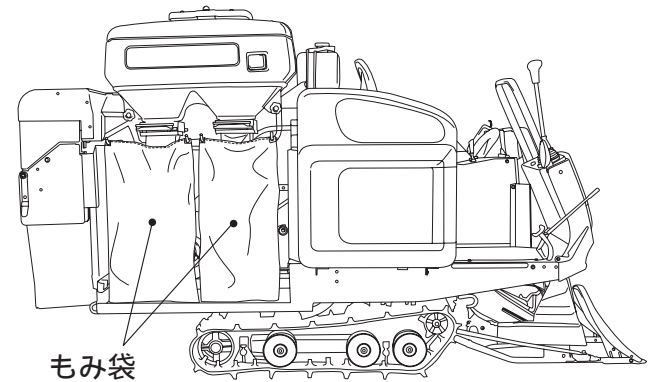
＊ 平たんで安全な場所で，駐車ブレーキを掛けエンジンを必ず止めてから行なってください。

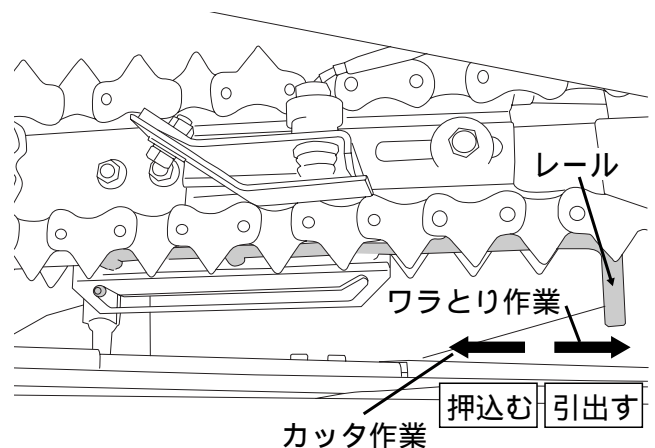
注　意

＊ 取外したカバー類は必ず取付けてください。

1．各部への注油
作業前に刈刃や各チェーンに注油を行なってください。
（56ページ参照）

2．デバイダカバーの取外し
蝶ナット２箇所をゆるめてデバイダカバーを取外します。

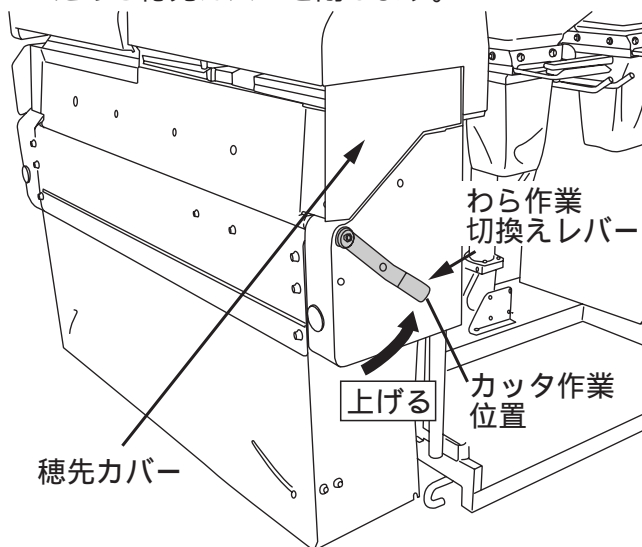
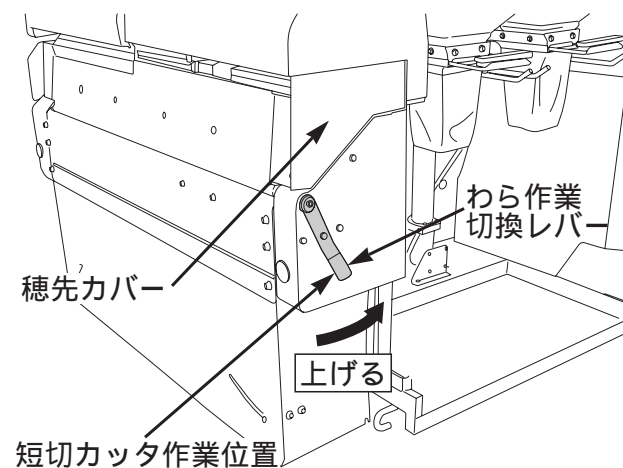
3．左分草かんのセット
1. 左分草かんを開きます。

4．もみ袋の準備
もみ袋のファスナを開き，図のように掛け金具にもみ袋を取付け，吐出口ブーツをもみ袋に挿入します。

5．排わら処理の選択
カッタ装置の右側にある切換えレバーを操作して，**カッタ作業 ⟷ ワラとり作業**の選択をします。

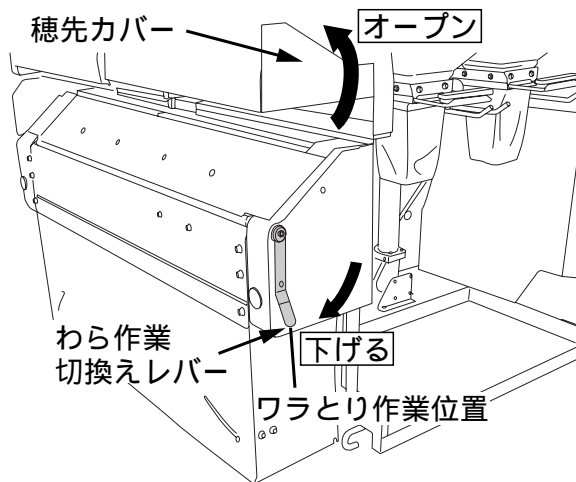
◆排わらレールの設定
カッタ作業のときはレールをいっぱいに押し込み，**ワラとり作業**のときはレールいっぱいにを引出します。

収穫作業のしかた

刈取作業のしかた

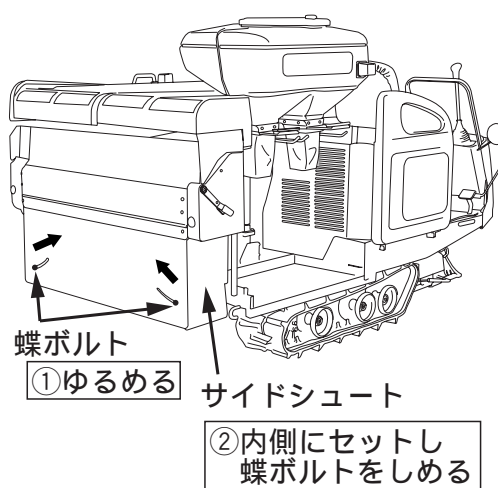
■カッタ作業の準備

1. 排わらレールを終端の当たりのあるところまで押し込みます。

2. わら作業切換えレバーを**カッタ作業**位置にしたあと穂先カバーを閉じます。

短切りカッタ（SS35仕様）の場合は，わら作業切換レバーを**短切カッタ作業**位置にセットしてください。

■ワラとり作業の準備

1. わら作業切換えレバーを**ワラとり作業**位置にしたあと穂先カバーを開きます。

2. 排わらレールを終端の当たりのあるところまで引き出します。

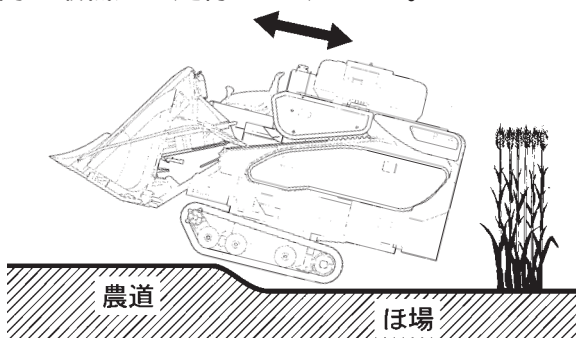
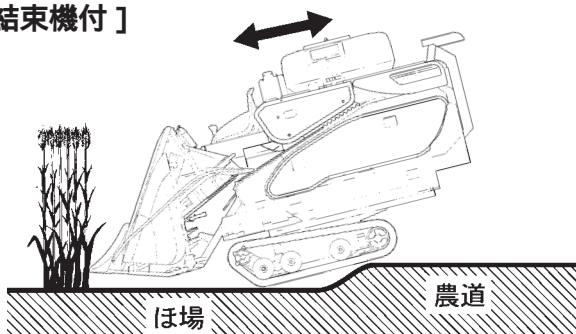
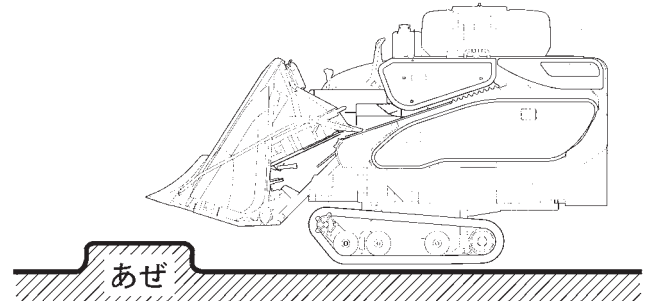
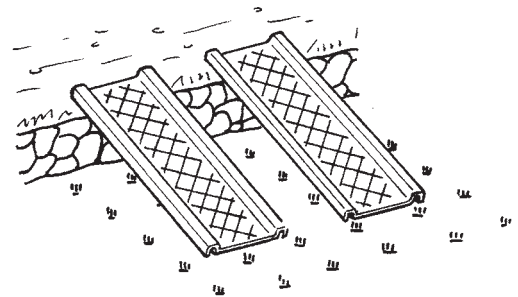
6．カッタのシュート調節

中割刈りの時は左右のサイドシュートを一番内側に寄せると次工程で切わらがじゃまになりません。

刈取作業のしかた

■ほ場の出入りのしかた

警　告

＊ 10㎝以上の段差（あぜやコンクリート畦畔など）のあるところではあゆみ板を使ってください。
＊ あゆみ板を使うときや前後左右とも10度をこえる傾斜地を走行するときは，速度を最低速にし機体から降りて操作してください。
＊ 農道からほ場への上り下りは，速度を最低速にし，農道に対して上り方向は前進，下り方向は後進（結束機仕様は農道に対して上り方向は後進，下り方向は前進）で直角に走行してください。斜めに走行すると転倒してケガをするおそれがあります。
＊ 後進する場合は後方の人の安全確認，また後方に川（用水路）やがけのある場合は転落しないよう後方にはじゅうぶん注意してください。
＊ 機体が，凸部を越えるときは，重心の位置が変わって機体が上向きから下向きに姿勢が変わるので最低速で直角に走行してください。

・農道からほ場に下りるときは後進で，ほ場から農道に上るときは前進で，農道に対して直角方向に最低速で走行してください。

・変速レバーを“ **畦越** ”にしエンジン回転を最大で直角にあぜ越えしてください。

・10㎝ 以上の高いあぜの場合はあゆみ板を使用してください。

刈取作業のしかた

■刈取作業の手順

警　告

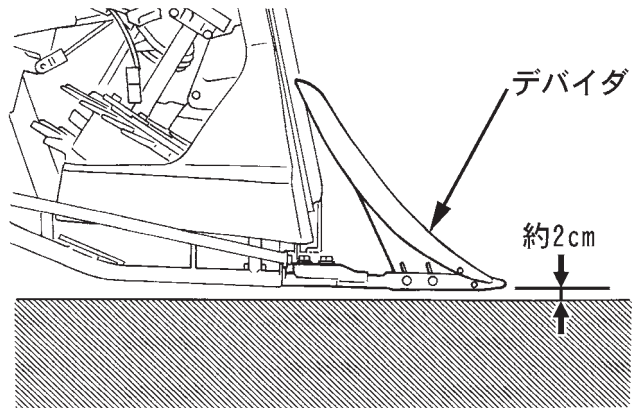
＊ コンバインを停止するときは，わらくずの上に止めないでください。マフラ排気口のわらくずが触れると，火災のおそれがあります。

注　意

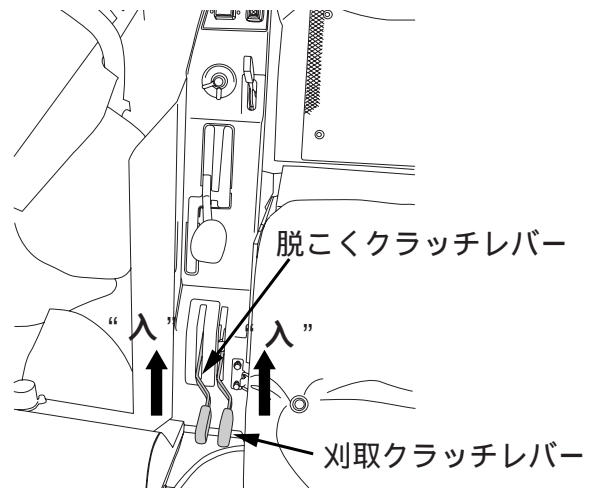
＊ 異常が発生したときは，エンジンを必ず止めて処置してください。
＊ 小さなほ場や，ほ場のすみでは作業がしにくいので，安全のため低速で注意しながら作業を行なってください。

重　要

＊ エンジンルーム内側にゴミが付着したまま作業を続けますと，エンジンオーバヒートの原因になりますので注意してください。
＊ 作業中エンジン周りの防じんカバーにゴミの付着が多くなれば，そのつど掃除してください。
防じんあみ全面にゴミが付着したまま作業を続けますと，エンジンオーバヒートの原因になりますので注意してください。
＊ 湿田で作業する場合特に一方刈りで何回も後進するときは，フレーム下部に切わらを大量に抱込み，トラブルの原因になりますので，早めにわらを除去してください。

1. ほ場に入ったらコンバインをいったん停止します。
2. ステアリングワンレバーを操作し，通常はデバイダの先端を，地面すれすれ（約2cm程度）のところまで刈取部を下げます。

補　足

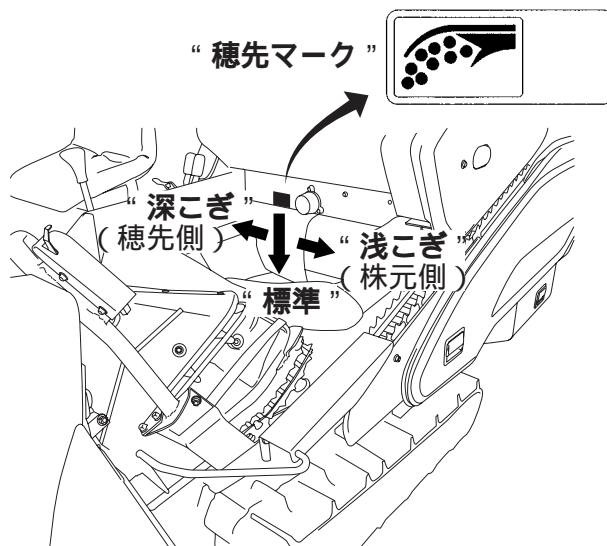
＊ 長かん作物，麦，雑草の多い作物は，高刈りしてください。

3. アクセルレバーを「 」高回転（エンジン回転数最大）位置まで引きます。
4. 脱こくクラッチレバーを“**入**”位置にします。
5. 刈取クラッチレバーを“**入**”位置にします。

刈取作業のしかた

6. 走行を停止した状態でアクセルレバーを操作して回転計の適正回転範囲（イネムギ）に指針を合わせる。
7. 刈取状態で確認してください。

重　要

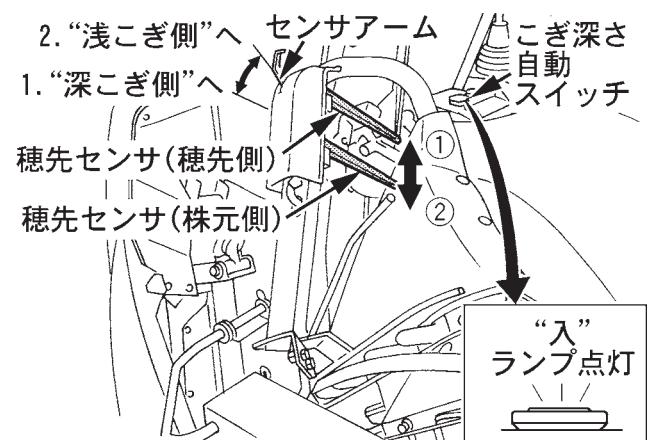
＊ 刈取作業中に機体を停止する場合は必ず変速レバーを“ 中立 ”にしてください。駐車ブレーキペダルを踏んでも刈取部は停止しませんので，作物を引倒して搬送コボレが発生します。
＊ エンジン回転が低いと，脱こくランプが点滅し，ブザーが鳴ります。
＊ エンジンの回転が高すぎると脱ぷの原因となります。

7. 作物の長さを確認したあと，刈始めのこぎ深さの調整をします。調整するときは，こぎ深さ手動スイッチで合わせます。そのあと，こぎ深さ自動スイッチを“ **入** ”にします。（11ページ参照）
8. 作物の条件に合わせた速度に変速レバーを合わせて刈始めます。（39ページ参照）
9. 作物が刈取られて脱こく部入口に入り始めたときに，作物の穂先が“ **穂先マーク** ”（こぎ深さ標準位置）に合うようにセンサアームを調節します。“ **穂先マーク** ” より穂先側は**深こぎ状態**，株元側は**浅こぎ状態**となります。

補　足

＊ 浅こぎ状態では，こぎ残しが出て収穫量が減ったり，深こぎ状態では，こぎ胴にわらが巻き付いたりして，トラブルの原因となります。常に標準位置（穂先位置）で作業してください。

● **穂先マークの合わせかた**

供給搬送部の上側にある２本の穂先センサ（株元側，穂先側）を，**センサアーム**で調整します。穂先の位置を確認しながら調整してください。

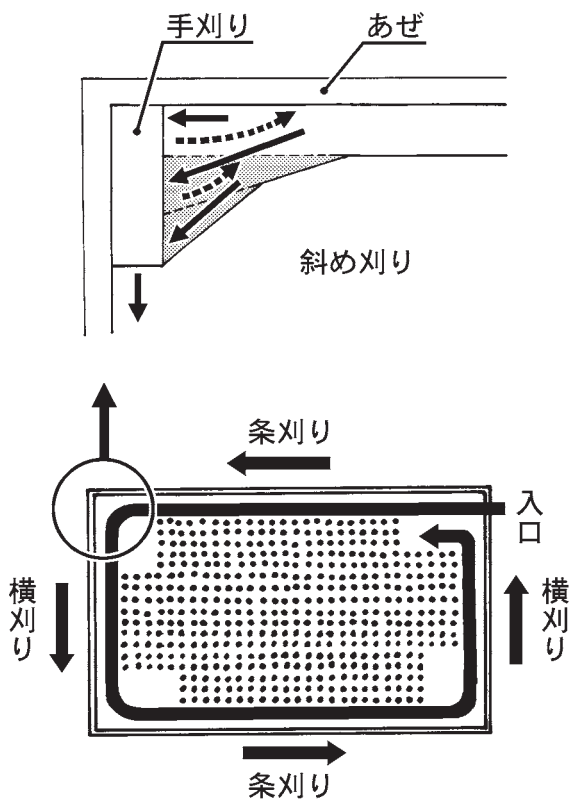
状　　態	調整方向
深こぎ	②浅こぎ側へ
浅こぎ	①深こぎ側へ

9. 刈取作業を少し行なったあと，選別状態やこぎ残しの有無を確認し，異常があれば各部の調節を行なってください。
10. 刈取作業が終わると，刈取クラッチレバーを“ **切** ”位置にし，脱こくが終わりもみが全て排出したことを確認して，脱こくクラッチレバーを“ **切** ” 位置にします。

収穫作業のしかた

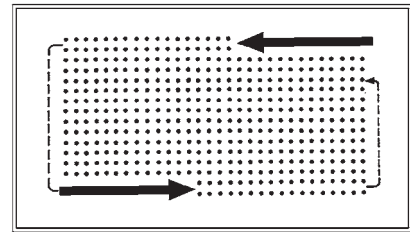
刈取作業のしかた

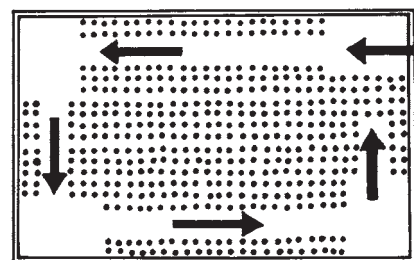
■ほ場の刈りかたと旋回のしかた

ほ場での作物の刈りかたは，作物・ほ場の形状によって異なりますが，基本作業は，２条刈で**左回り**の２方向刈りを行なってください。

1. 右側デバイダを外側に広げます。（43ページ参照）。
2. １周目は手刈り（枕刈り）したところから進入し，あぜぎわから左回りで３条を周囲刈りします。２周目からは２条分を刈取ります。
3. 隅を旋回できるまで２～４回斜め刈りします。

補　足

＊ 斜め刈りをするとき，刈取途中で方向修正をすると，穂先が不揃いとなり正常な脱こくができない場合があります。
＊ 刈り終わりのとき，脱こく機内へ刈取った作物が搬送されるまで刈取部は動かしてください。かんこぼれが発生することがあります。

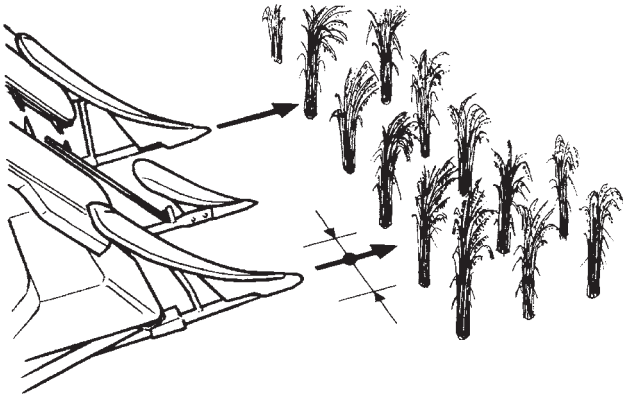
4. 両端（枕地）を旋回できる範囲に刈取ったら両端は刈取らずに移動し，２方向刈りを行なってください。

補　足

＊ あぜぎわの条があぜに近く，右クローラがあぜに乗り上げるときは，１周目は周囲２条を残して刈取ります。

刈取作業のしかた

◆デバイダ（刈取部）の条合わせのしかた

条合せをするときは，コンバインの速度を落としてください。

●　周囲刈り・中割り作業のとき

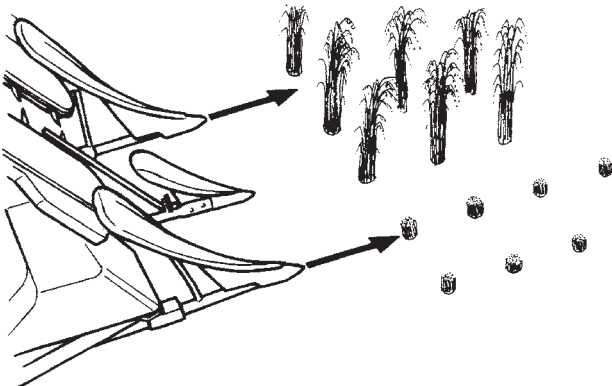
右デバイダを条間の左寄りになるように合わせて刈取ります。（変速レバーが刈取２～刈取４の速度で作業してください。）

重　要

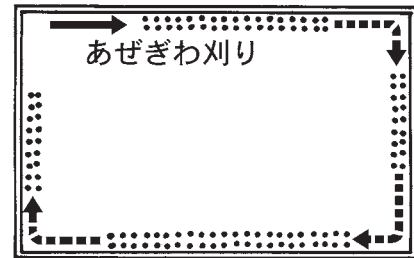
＊　周囲刈り・中割りは速度を刈取２～刈取４で作業してください。

＊　周囲刈り・中割りの場合，カッタ左右シュートを最内側にしてください。

＊　３条刈りの場合，こぎ深さは自動でセンサアームを最深こぎ位置にセットしてください。

●　通常の刈取りのとき

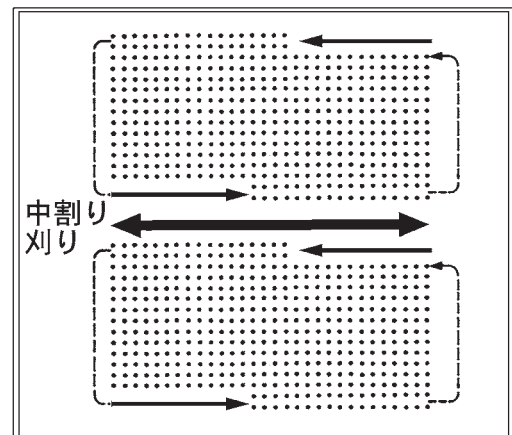
既刈側刈株跡に右デバイダを合わせて２条で刈取ります。

◆あぜぎわ刈りのしかた

あぜぎわ刈りは，左分草かんを収納し，**低速で右回り**に刈取ります。

重　要

＊　あぜぎわ刈りをするとき，デバイダをあぜに突込まないように，少し高刈りをしてください。また，分草かんを畦に強く当ると変形しますので，収納して作業してください。

＊　コンクリート畦畔にクローラをこすりつけると，クローラを切損する場合がありますので注意してください。

◆広いほ場の場合

中割り刈りで分割して，同じ要領で刈取ります。

補　足

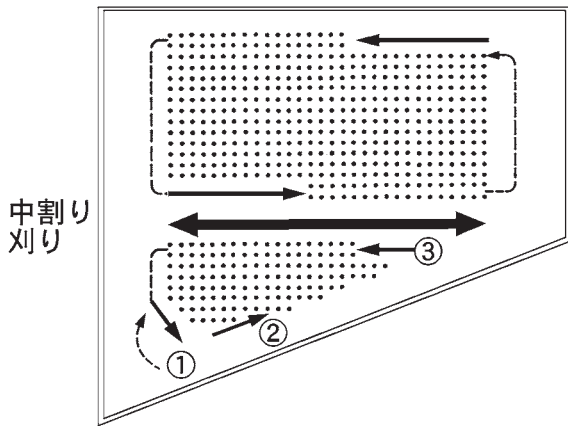
＊　中割り刈りは，刈取２～刈取４の速度で行なってください。

＊　あぜぎわ刈り，中割り刈り，条間が広い時には右デバイダを広げてください。（43ページ参照）

収穫作業のしかた

刈取作業のしかた

◆変形しているほ場の場合

1. 中割り刈りで，なるべく長方形の部分が大きくなるように長方形と三角形（不定形）に分割します。
2. 長方形の部分を通常の刈取りと同じ要領で刈取ります。

3. 三角形（不定形）の部分を刈取ります。
 ①旋回ができるように隅の部分は斜め刈りを何回か繰り返して，大き目に刈取ります。
 ②ほ場の形状に沿って刈取ります。

重　要

＊ **条に対して斜め方向に刈取ることになり，刈取量が増加しますので速度を刈取２～刈取４で作業してください。**

 ③条に沿って刈取る場合は通常の刈取と同じ要領で刈取ります。

補　足

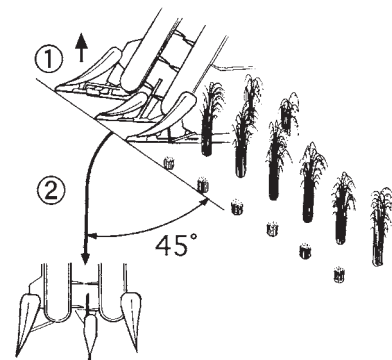
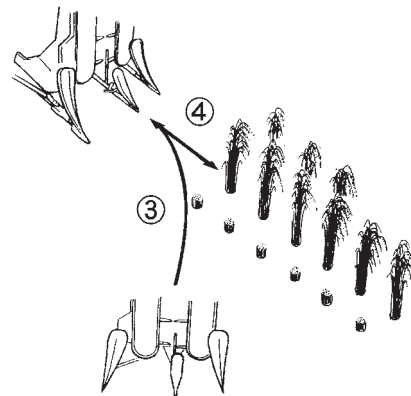
＊ **三角形（不定形）部分の面積が小さくコンバインの運転が困難なときは，その部分は手刈りで刈取ってください。**

◆旋回のしかた

1. 刈終わったらと前進しながら刈取部を上げます。

補　足

＊ **刈終わる前に刈取部を上げると刈残しが発生します。**
＊ **エンジンの回転低下が大きく脱こくランプが点灯してブザーが鳴るときは，旋回操作の前に変速レバーで減速してください。**

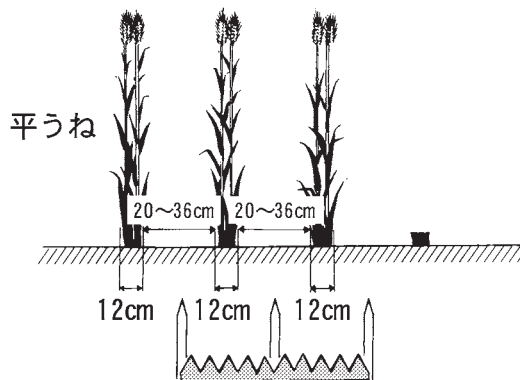
2. ステアリングワンレバーを左に倒し，45度くらい旋回した位置で走行を停止します。

3. 変速レバーを“**後進**”位置に入れ，後進しながらステアリングワンレバーを右に倒し，次に刈る方向に刈取部を合わせます。
4. 刈取部を下げ，前進します。

重　要

＊ **エンジン回転数は，常に回転計の適正回転範囲の位置で作業してください。一度セットしたら，作業中はアクセルレバーにさわらないでください。**

刈取作業のしかた

■麦の刈取りについて

麦は稲と違って，品種や作付け方法が多種多様です。

1. コンバインで麦を刈るには，コンバインに合った作付けをしてください。
   無理な刈取りは，コンバインを破損する原因になります。
2. 平まきが，コンバインに適した作付けです。平まきの麦は楽に刈れます。

3. うね立て栽培の麦を刈るには，うねをコンバインの条件に合わせてつくってください。

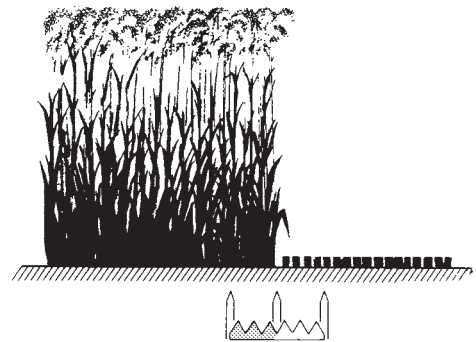
◆機械の準備

開度（選別板のすき間）調節を麦標準に合わせます。（46ページ参照）

◆麦の刈取り方法

1. 小麦，ビール麦は刈れますが，作付けによっては刈れない場合があります。
2. かんの弱い大麦や裸麦は，コンバインで刈ると作物がひどくいたみ，脱こくに詰まりやすいので注意してください。
3. 麦は，適期をすぎると急に脱粒や穂切れが多くなります。
4. 120㎝をこえるビール麦の刈取りは高刈りしてください。
5. 倒れた麦は，45度以内なら刈れます。
   45度以上倒れている作物を無理に刈取ると，わらが切れる場合があります。
6. こぎ深さは標準位置で作業してください。

◆密植した作物の刈取り

麦の広幅まきのように，密植した作物は，刈り幅の半分ほどを刈取るようにしてください。

収穫作業のしかた

刈取作業のしかた

■湿田作業のしかた

警　告

＊ 異常が発生したときは，エンジンを必ず止めて処置してください。
＊ 機体が大きく傾くときは，必ず下車してください。転倒してケガをするおそれがあります。

湿田で刈取作業を行なうときは，作物の状態（倒伏角の大きさなど）やほ場の状態（ぬかるみの程度）をよく確認してください。また，異常が発生したときは，下表を参照してください。

現　　象	処　　　置
・スリップする。 ・沈下して動かなくなる。 ・機体が傾く。	・低速で作業を行なう。 ・同じ場所での旋回は避ける。 ・急旋回はしない。（ステアリングワンレバーを小刻みに操作し，大廻りする。） ・急発進はしない。 ・機体を軽くする。（もみ袋を早期交換する。）
・刈取部が詰まる。	・巻き付いた作物，わらくずや泥の付着を取除く。（パッカ下部や搬送部） ・少し高刈りする。
・カッタ部が詰まる。	・わらくずや泥の付着を取除く。

刈取作業のしかた

■作物に合わせた変速の選びかた

作物の状態により適正な速度を選んでください。

◆作業速度の選びかた

下表を参考にして変速レバーで適正な作業速度を選んでください。通常は倒伏角が大きい場合や水分が多い場合は，作業速度を遅くし，倒伏角が小さい（直立）場合や水分が少ない（乾燥）場合は，作業速度を速くすることができます。

【刈取り方向】

右倒伏刈り ④
向い刈り ①
追い刈り ②
③ 左倒伏刈り

【倒伏角】

作物のぬれ	作業速度	変速レバー 速度表示	直立 2条刈	直立 周囲刈り・中割り	倒伏 刈取り方向	倒伏 倒伏角	収量
乾燥	速い	6	↑		（左倒伏刈り）追い刈り	小さい	少ない
		5			（右倒伏刈り）		
		4		↑	（向い刈り） ②・③ ↑		
		3			④ ↑		
		2			① ↑		
		1	↓	↓	↓		
水分多い	遅い	畦越	刈取作業しない			大きい	多い

補　足

＊ 収量・成熟度合やその他の要因により適正な速度は変化します。この表はあくまでも目安ですので，その作物と機械に合った速度で作業を行なってください。

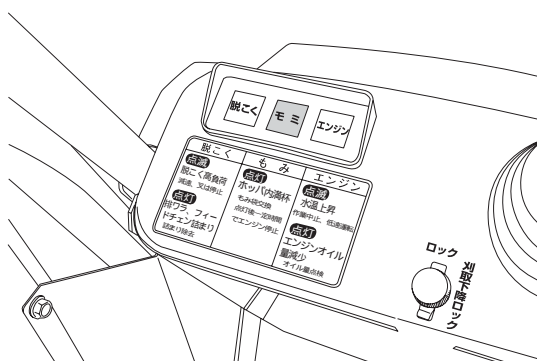
収穫作業のしかた

刈取作業のしかた

■もみの排出のしかた

警　告

＊ コンバインを必ず停止してください。
＊ 吐出口に手は入れないでください。

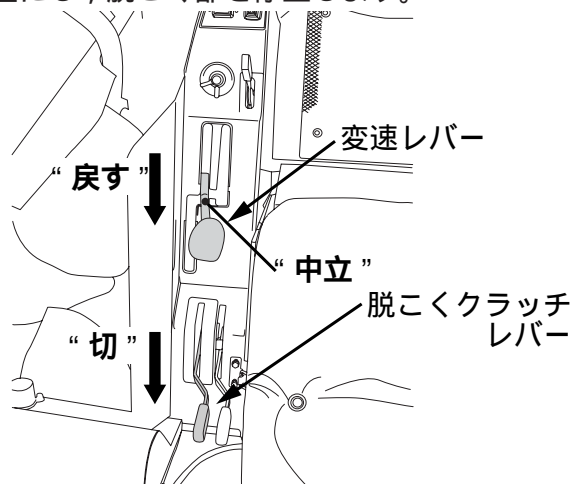
1. ホッパ内が満杯になると，警報パネルの **“ モミ ”** ランプが点灯すると同時にブザーがピピピッ，ピピピッ…と間欠的に鳴ります。

補　足

＊ ブザーを止めるときは，ホーンスイッチを押してください。ブザーは停止しても，“ モミ ” ランプは点灯したままの状態です。“ モミ ” ランプはもみを排出すると消灯します。

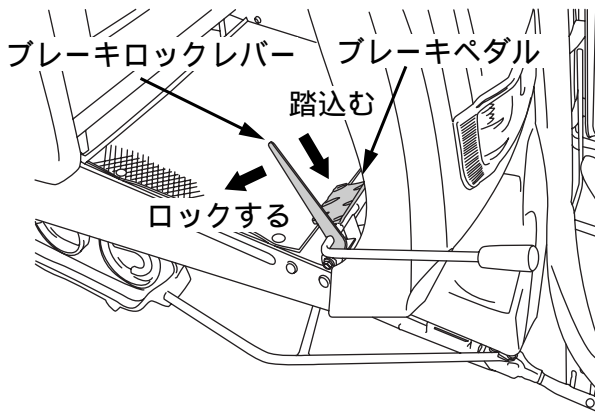
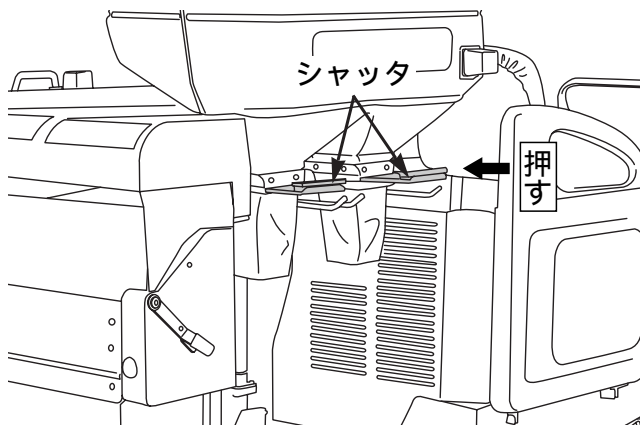
重　要

＊ ブザーが鳴ったあとも刈取作業を行なうと，一定時間後にエンジンが自動停止します。この場合キースイッチを “ 切 ” にしてホッパ内のモミを排出し，再始動してください。
＊ もみ袋交換を効率的に行なうためには，エンジンが自動停止する前に変速レバーを “ 中立 ”，脱こくクラッチレバーを “ 切 ” にしてください。

2. 変速レバーを **“ 中立 ”** 位置にして走行を停止したあと，脱こくクラッチレバーを **“ 切 ”** 位置にし，脱こく部を停止します。

補　足

＊ 脱こくクラッチレバーを “ 切 ” 位置にすると同時に，連動して刈取クラッチレバーが“ 切 ” 位置に動きます。

刈取作業のしかた

3. 駐車ブレーキペダルを踏込んで，ブレーキロックレバーでロックします。

4. シャッタを押して（閉じて），新しい（空の）もみ袋と交換したあとシャッタを引き（開き）ます。

5. 駐車ブレーキペダルを踏込んでロックを解除したあと，脱こく・刈取クラッチレバーを“**入**”にし，作業を始めてください。

重　要

＊ 刈取中に吐出口がもみ袋から外れることがあります。刈取中は常にもみが袋に入っているか確認してください。

■手刈り（枕刈り）脱こくのしかた

警　告

＊ そで口はきっちり止めて，はち巻き，首巻き，腰タオルはしないでください。チェーンに巻込まれてケガをするおそれがあります。

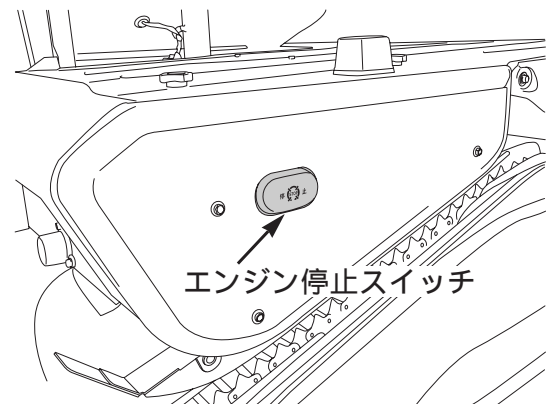
＊ コンバインは平たんな場所に止めて，駐車ブレーキを掛けてください。

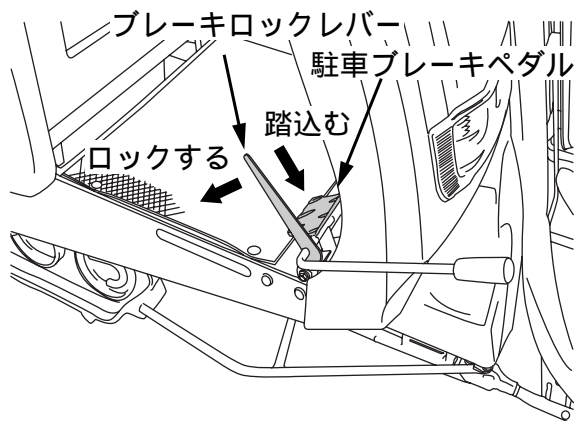
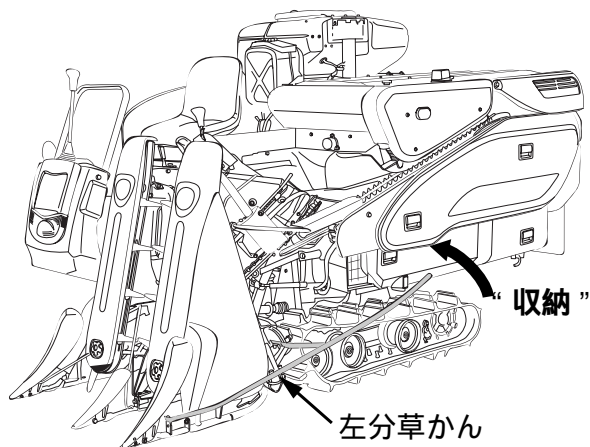
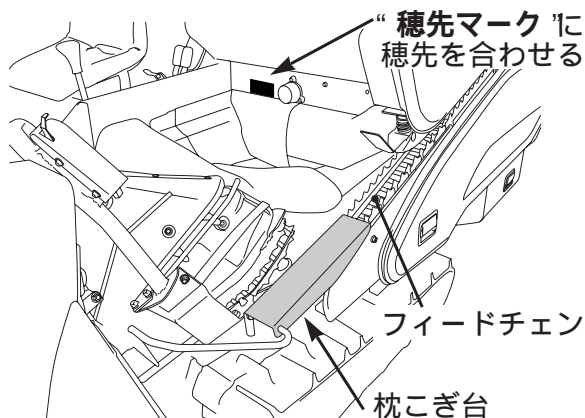
＊ 刈取部は地面に接地させて，停止してください。

＊ 手刈り（枕刈り）脱こくするときは，手や腕の位置を必ずチェーンの外側（コンバインから離れる位置）にして，作物を少量ずつ押込んでください。

＊ 脱こく部入口のプレートの上にたまったわらやもみなどを脱こく部に押込むときは，エンジンを必ず停止してください。中に回転物がありケガをするおそれがあります。

注　意

＊ 手刈り脱こく時に危険を感じた場合や万一異物などのかみ込みが発生したときは，エンジン停止スイッチを押してください。

刈取作業のしかた

1. 平坦な場所を選んで変速レバーを **“ 中立 ”** 位置にして走行を停止したあと，ブレーキペダルを踏込み，ブレーキロックレバーを掛けて駐車ブレーキを掛けます。

2. 左分草かんを収納します。

3. 刈取部を地面に接地させたあと，供給搬送部を手動こぎ深さスイッチで最下（深こぎ）位置にします。
4. 脱こくクラッチレバーを **“ 入 ”** 位置にし，刈取クラッチレバーを **“ 切 ”** 位置にします。
5. 作物の穂先を **“ 穂先マーク ”** に合わせ，少量ずつフィードチェーンに供給します。

刈取作業のしかた

■作業に合わせた各部の調整・調節のしかた

警 告

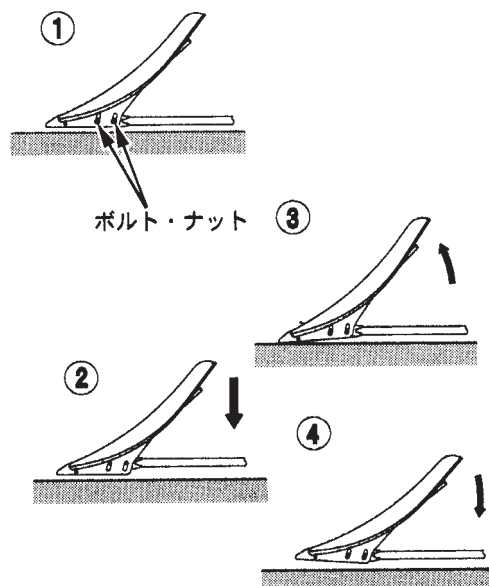
＊ 調節時は平たんな場所で駐車ブレーキを掛けて必ずエンジンを停止してください。
＊ コンバインを停止するときは，わらくずの上に止めないでください。マフラ排気口にわらくずが触れると，火災のおそれがあります。

注 意

＊ 取外した回転部のカバー類は，外したままでは衣服などが巻込み危険ですので，必ず取付けてください。

◆刈取部
1. デバイダの調節
● 上・下調節

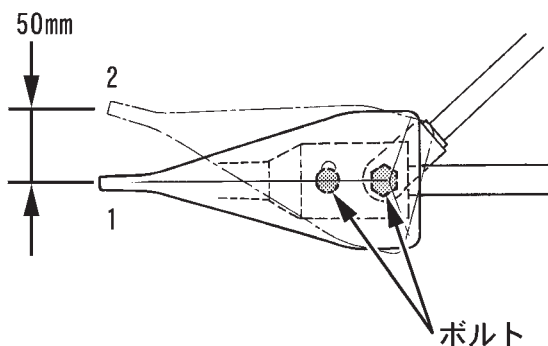
下表の作物条件に応じて，調節を行なってください。調節のしかたは，左右のデバイダの取付ボルト・ナットをいったん外して図の位置に取付けて下表を参照し調節を行なったあと，ボルト・ナットを締付けます。

作物・ほ場条件	セット位置
標準	①の位置
湿田で前上りになるとき	デバイダ全体を下げる②の位置
うね作業のとき	
雑草が多く高刈りしたいとき	
横倒伏刈りで刈り残しがあるとき	
株の引抜きが多いとき	デバイダ先端を下げる②又は③の位置
乾田で立毛作物の刈取りで，低刈りするとき	デバイダ先端を上げる④の位置

補 足

＊ デバイダの上下高さは左右のデバイダを同じ高さにしてください。

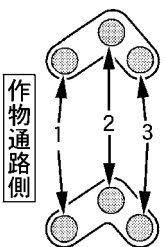
● 右デバイダの幅調節

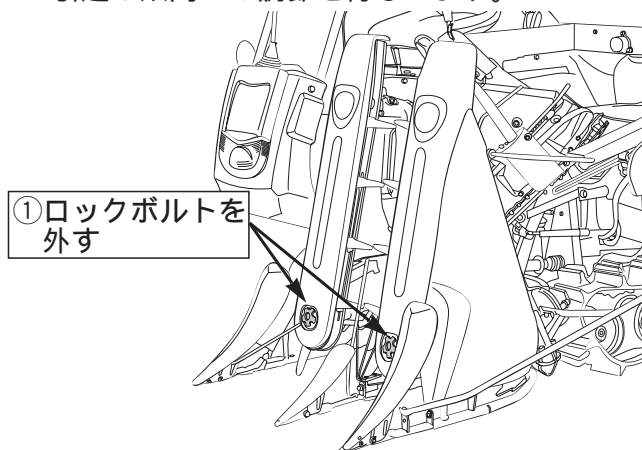
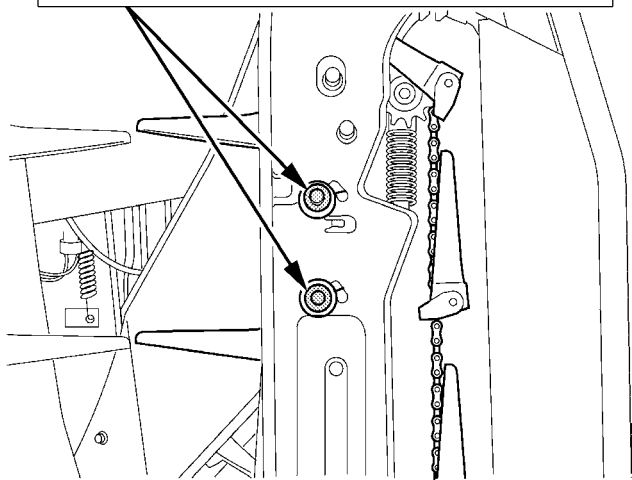
下表の作業条件に応じて，調節を行なってください。調節のしかたは，ボルト２箇所をゆるめて下表を参照し調節を行なったあと，ボルト２箇所を締付けます。

位　置	作業条件
1	●標準，麦の刈取り，移動走行時
2	●周囲刈り・中割り刈りのとき ●33㎝条間作物の刈取りのとき

補 足

＊ デバイダカバーを取付けるときは，1（標準）の位置にしてください。

刈取作業のしかた

2．引起し爪高さの調節

作物条件に応じて，引起し爪が収納される位置の調節を行なってください。調節は必ず**全条同じ位置**にしてください。

1. 引起し爪高さの調節を行ないます。

調　節　位　置		作 物 条 件
作物通路側 1 2 3	1	立毛状態の長かん作物
		立毛状態の標準かん長作物
		倒伏した作物
	2	立毛状態の標準かん長で脱粒や浮きわらが発生しやすい作物（過熟小麦など）
	3	立毛状態の短かん作物

補　足

＊ 出荷時は１の標準位置です。

＊ ［2］の位置に調節する場合は，ナット（２ヶ所）をゆるめて，上側のナットを［2］の位置で溝の上側に押付けた状態で，下側のナットを締付けてください。

2. 引起しカバーを装着したあと，ロックボルトを締付けます。

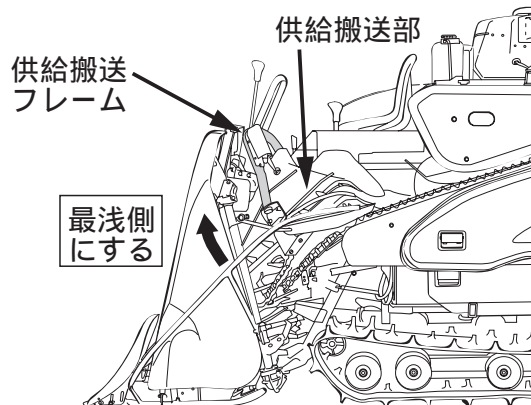
3．作物の全長に合わせた調節

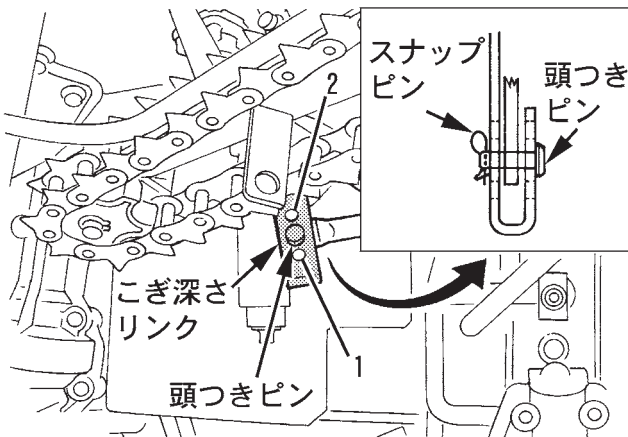
＊ こぎ深さリンクの切換えを行なうときは，必ず２人作業で行なってください。

＊ 供給搬送部が落下して頭や指・手などにケガをするおそれがあります。

作物の全長に応じて，作物の全長が80㎝以下又は，105㎝以上のときはこぎ深さリンクの切換えを行なってください。出荷時は，作物の全長が80～105㎝の位置です。（中間位置）

（1）平たんな場所でエンジンを止めたあと，刈取下降ロックレバーを“**ロック**”位置にして刈取部の下降防止を行ないます。

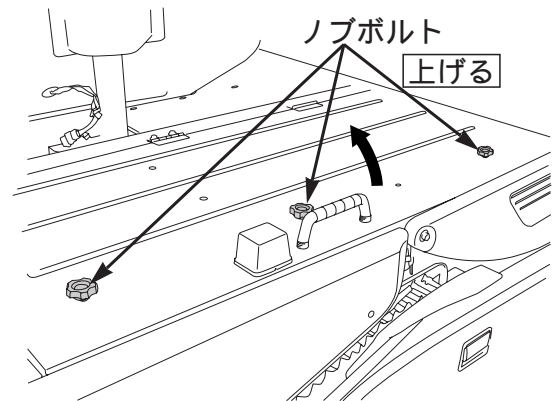
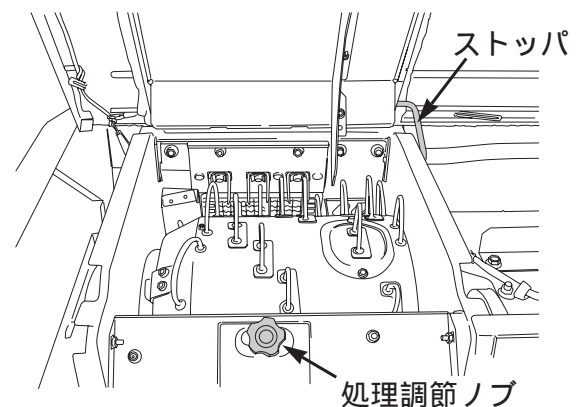
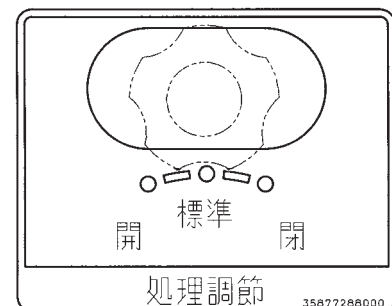
（2）メインスイッチのスイッチキーを“**入**”位置にし，手動こぎ深さスイッチの“**浅**”側を押して供給搬送部を最上昇位置にします。

刈取作業のしかた

(3) スイッチキーを **“ 切 ”** 位置にします。
(4) こぎ深さリンクの切換えを行います。
  1)供給搬送部が落下しないように供給搬送フレームを１人が手で支えながら，もう１人がこぎ深さリンクの頭付きピンからスナップピンを取外します。
  2)こぎ深さリンクから固定ピンを抜き，リンクの穴位置の変更を行います。
  3)スナップピンを頭付きピンに取付けます。

作物の長さ　70 ～80㎝ のとき………穴１の位置
作物の長さ　105 ～120㎝ のとき……穴２の位置

◆脱こく部

4．脱こく状態に合わせた調節・調整

● こぎ室送じん量の調節

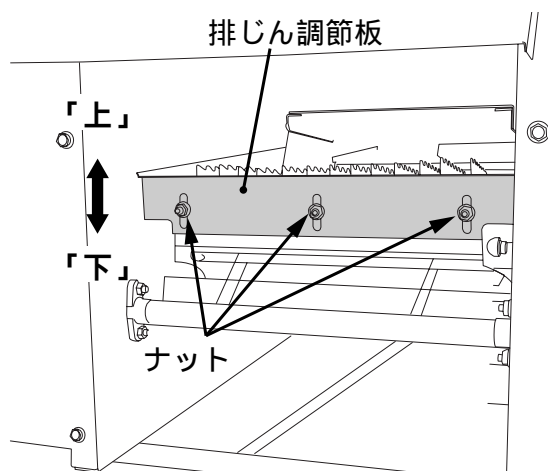
1. ノブボルト（３ケ）を外して脱こく上部カバーを開けます。

2. 脱こく上部カバーをストッパで固定します。

モミに枝梗の付着が多い時やこぎ室内で**「ゴトゴト音」**がする場合は処理調節ノブで調節します。

作業状態	処理調節ノブ位置
こぎ室内で**「ゴトゴト音」**がする場合	**《開》**
通常の刈取りの場合	**《標準》**
枝梗の付着が多い場合	**《閉》**

刈取作業のしかた

● 排じん調節板の調整

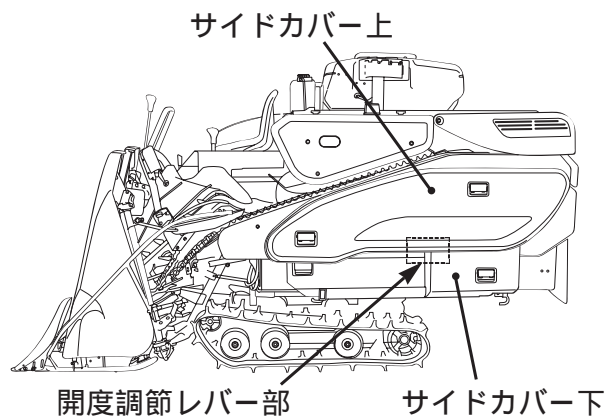
下表を参照して排じん調節板を調整してください。

1. ナット３個をゆるめます。
2. 下表を参照して排じん調節板を動かして調節します。

調節方向	現　象　（状　態）
上 ⬆ [標準位置] ⬇ 下	● 排じんロスが多い
	● ぬれ作物の刈取り ● 雑草が多い ● 能率を上げる（高速刈取り）

3. ナット３個を締付けます。

● 開度（選別板のすき間）調節

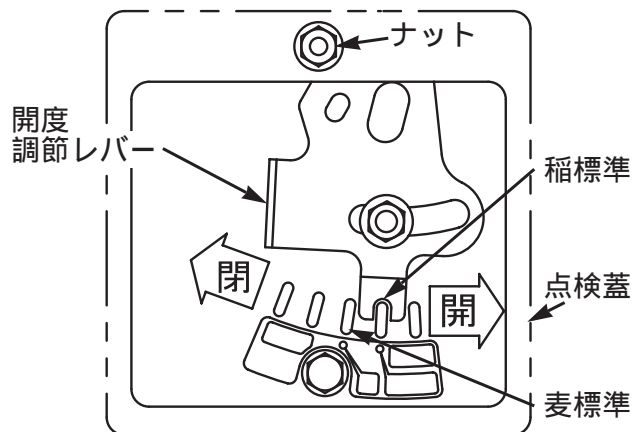
作物や刈取りの条件により，モミに小枝梗の付着が多いときや稈切れ混入，選別が悪い場合，ロスが多い場合に調節するレバーです。

1. サイドカバー上，下を外します。

2. ナット（１個）を外し，点検蓋を上方へスライドさせて外します。
3. 作物の条件により下記を参考にして開度調節レバーで調節します。

「閉」方向に調節

・選別が悪い時。　・小枝梗が多い時。

「開」方向に調節

・ロスが多い時。　・脱ぷが多い時。

補　足

＊ レバーを操作する時は，脱こく内部のワラクズ等がきれいに排出されるまで脱こく部を空運転してからエンジンを停止し，行なってください。

＊ シーズン途中や格納前にも作動をスムーズにするために，時々同じ方法でレバーを操作してください。

刈取作業のしかた

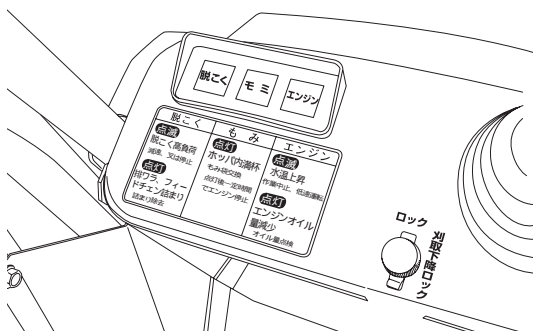
■警報パネルによる異常と処置

警　告

＊ 各部の点検やわら詰まりを取除くときは，エンジンを必ず止めてください。
＊ 各搬送チェーンや刈刃，カッタ刃には注意してください。ケガをするおそれがあります。

注　意

＊ エンジン停止直後は，エンジンやマフラにさわらないでください。ヤケドをするおそれがあります。
＊ 取外したカバー類は，必ず取付けてください。

各ランプが異常箇所を表示したときは，次表の処置を行なってください。

収穫作業のしかた

刈取作業のしかた

ランプ	警報		現象	処置	参照ページ
	ランプ表示	ブザー			
脱こく	自動的にエンジンが停止すると同時に 点灯	ピッ・ピッ・ピッ （断続音）	・脱こく部フィードチェンもしくは排ワラチェーンが詰まっています。	・詰まりを取り除きます。	56
	点滅	ピッ・ピッ・ピッ （断続音）	・脱こく部に負荷がかかりエンジン回転が下がっています。 ・そのまま作業を続けると… **２番スロワが詰まります。** ・頻繁に警報が出る場合は	・変速レバーを“**中立**”位置にして機体を止めます。ランプが消灯し，ブザーが停止した後で作業を再開してください。 ・刈取り速度が速すぎます。条件に合った刈取速度で作業してください。	6 39
モミ	点灯	ピピピッ・ピピピッ… （断続音）	・左右両方のもみ袋が満杯になりました。 ・そのまま作業を続けると… **一定時間後自動的にエンジンが停止します。**	・ただちに変速レバーを“**中立**”位置にして機体を止め，脱こくクラッチを“**切**”にします。 ・刈取り作業を中止し，左右両方のもみ袋を交換し，ホッパ内からもみを排出します。	6 8 40
エンジン	点灯		・エンジンのオイル量が不足しています。 ・そのまま作業を続けると… **エンジンが焼付きを起こし停止します。**	・メインスイッチ“**入**”で点灯しエンジンを始動すると消えるのが正常です。 ・運転中の点灯は，エンジンオイル量を点検して補給します。	65
	点滅	ピッ・ピッ・ピッ （断続音）	・エンジンの冷却水温度が異常に上昇（オーバーヒート）しています。 ・そのまま作業を続けると… **エンジンが焼付きを起こし停止します。**	・エンジンを低速運転し温度を下げます。 ・エンジンを停止し防じんあみ，エアクリーナエレメント，ファンベルトの張り，冷却水量の点検，清掃，補給をします。	70 73

重　要

＊ 処置したあとに異常が直らないときは，購入先に連絡してください。

各部のオープン（開閉）と脱着のしかた

警告

＊ 平たんで安全な場所で，駐車ブレーキを掛けエンジンを必ず止めてから行なってください。

■エンジンルームオープン

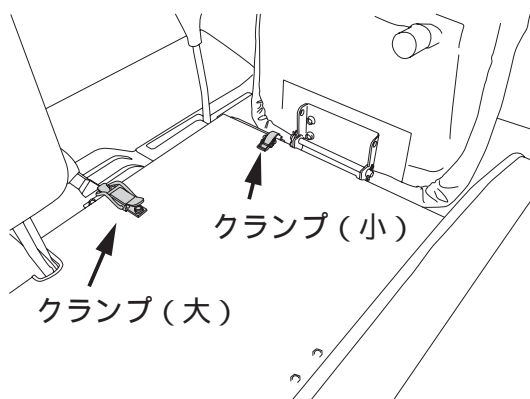
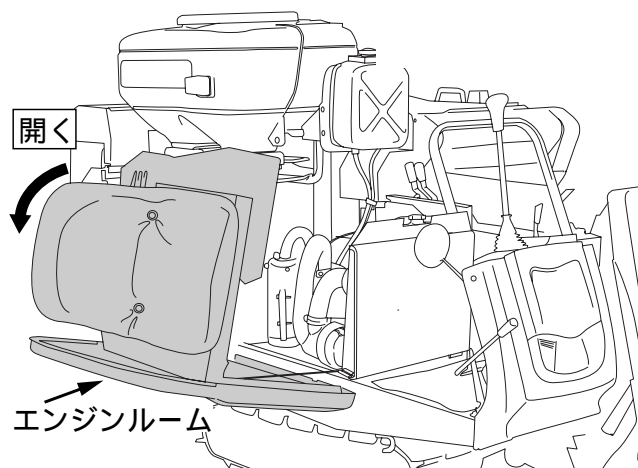
注意

＊ エンジンルームを開けて点検・整備するときは，次の手順に従ってください。
(1) 作業を中止する。
(2) エンジンを約５分間アイドリング回転で運転した後，エンジンを停止する。
(3) エンジン停止後30分以上経過してから開ける。
(4) 点検・整備で内部に触れるときは，ヤケドの危険性がないことを確認する。

＊ エンジンが冷えてないとき，エンジンルームを開けるとマフラなど高温部に接触してヤケドするおそれがあります。

＊ 取外したカバー類は，必ず取付けてください。

◆開きかた

1. エンジンルームのクランプを①クランプ（小）②クランプ（大）の順序で外します。

2. エンジンルームを外（手前）側に倒します。

◆閉じかた

エンジンルームを閉じたあと，クランプを①クランプ（大）②クランプ（小）の順序で締めます。

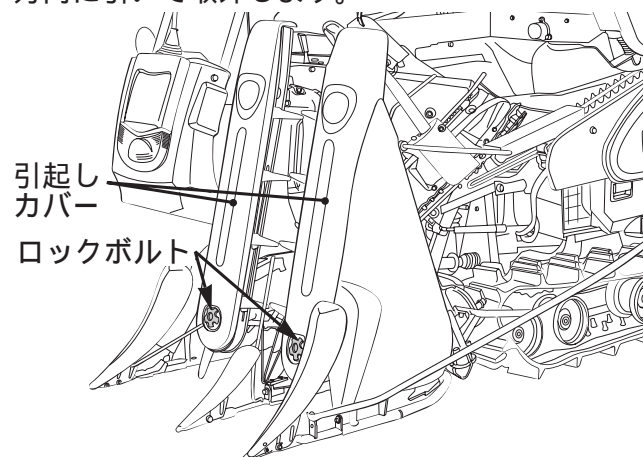
重要

＊ 閉じたときは，必ずクランプを２ヶ所とも締めてください。

■引起しカバーの脱着

刈取部を地面に接地させて行なってください。

◆取外しかた

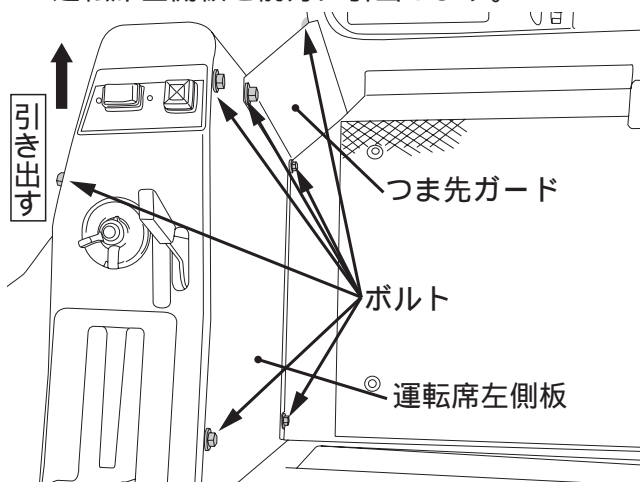
ロックボルトを取外したあと，引起しカバーを上方向に引いて取外します。

◆取付け方

逆の手順で取付けます。

各部のオープン（開閉）と脱着のしかた

■運転席左側板の脱着

◆取外しかた

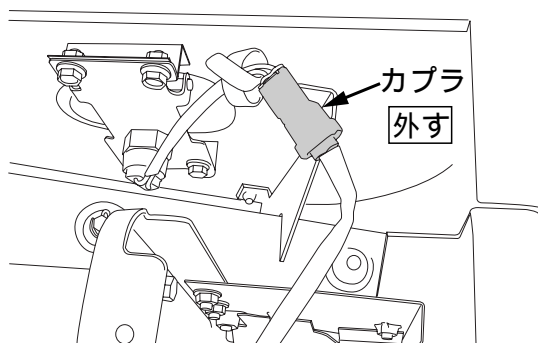
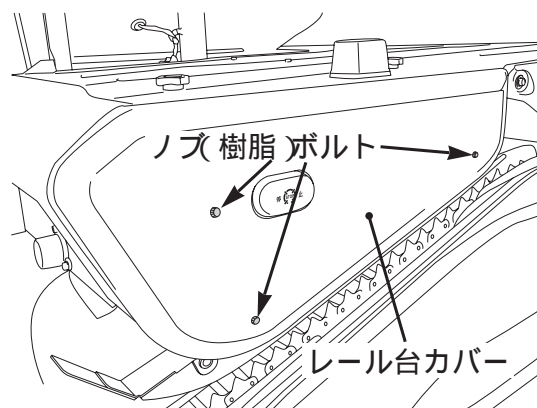
1. ボルト７個を取外します。
2. つま先ガードを前方に引出します。
3. 運転席左側板を前方に引出します。

◆取付けかた

逆の手順で取付けます。

■レール台カバーの脱着

◆取外しかた

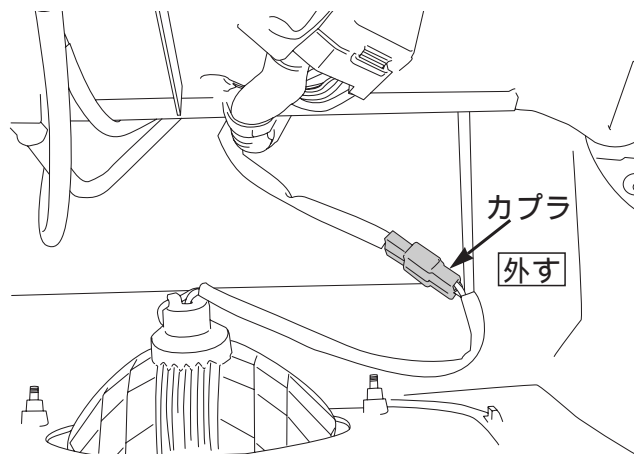
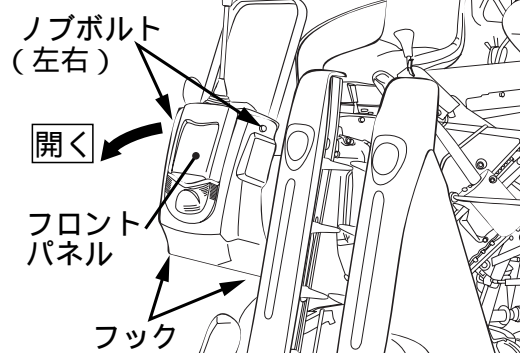
1. 脱こく上部カバーをオープンします。（51ページ参照）

2. エンジン停止スイッチのワイヤハーネスのカプラを取外します。

3. ノブ（樹脂）ボルト３本を取外して，レール台カバーを手前に外します。

◆取付けかた

逆の手順で取付けます。

■フロントパネルの脱着

◆取外しかた

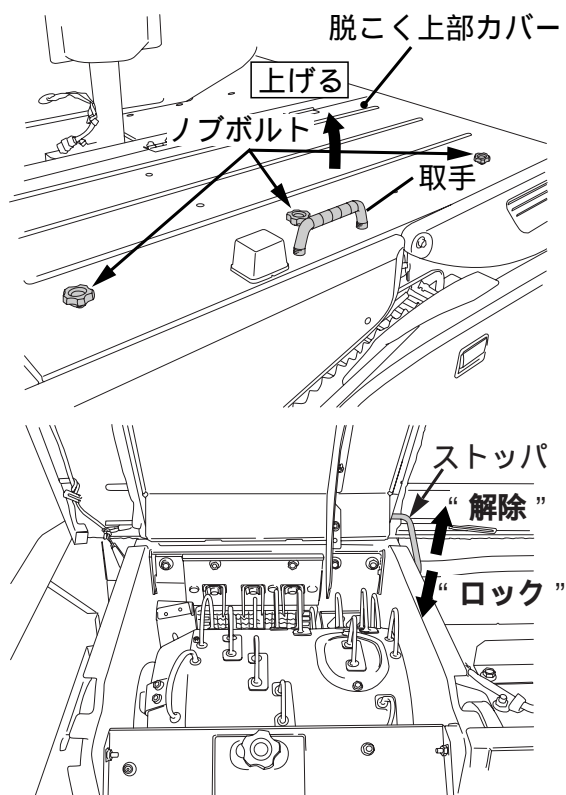
1. フロントパネル取付ノブボルト２個を外します。
2. ヘッドランプハーネスのカプラを外してフロントパネルを外します。

◆取付けかた

フロントパネル下側のフックを掛けカプラを接続してからノブボルトで固定します。

各部のオープン（開閉）と脱着のしかた

■脱こく上部カバーの開けかた

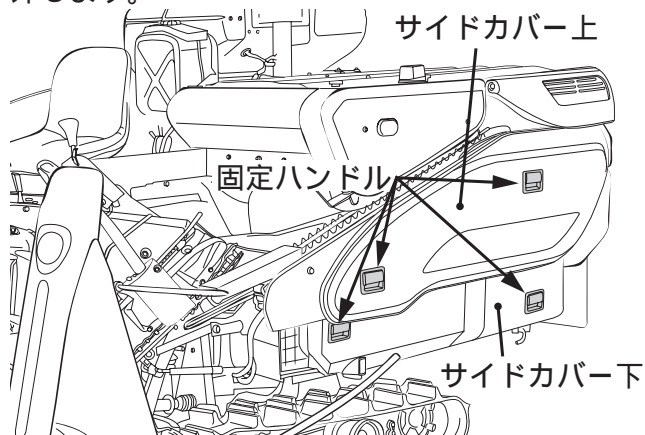
◆開けかた

1. ノブボルトをゆるめ取手を持ってオープンします。
2. ストッパでロックします。

◆閉めかた

脱こく上部カバーをかるく持ち上げストッパを解除し，閉め，ノブボルトを締めます。

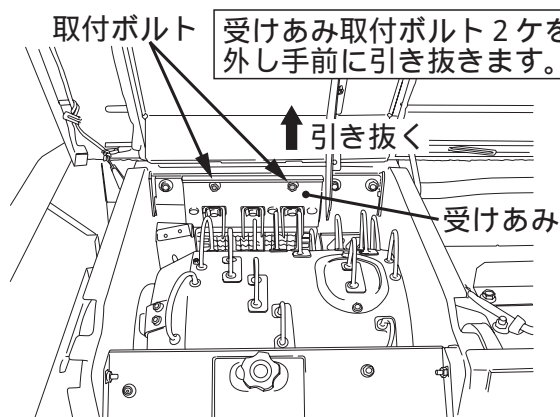
■脱こく左サイドカバー上，下の脱着

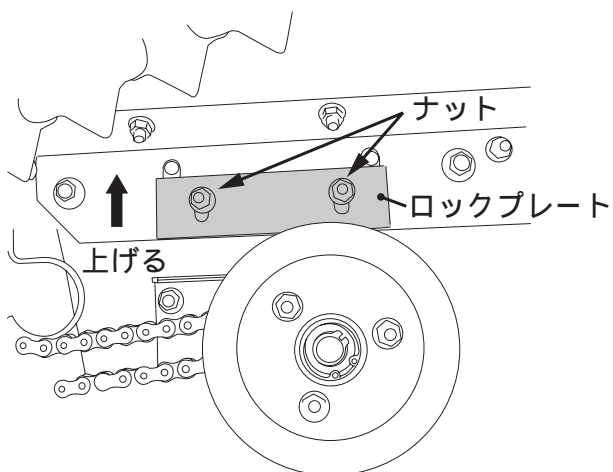
◆取外しかた

固定ハンドルを引きサイドカバーを上，下の順で外します。

◆取付けかた

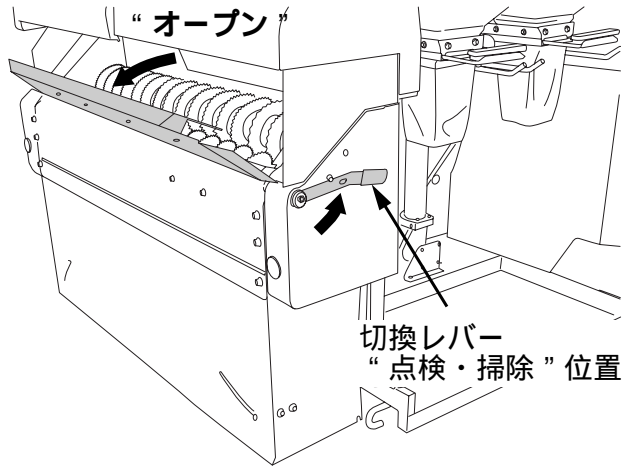
逆の手順で取付けます。

■受けあみの脱着

1. 脱こく部上部カバーを開けます。（51ページ参照）
2. 取付ボルトをゆるめて外し，受けあみ，わら切刃をブラケットごと外します。

重　要

＊ 受けあみ取付け時は，ロックプレート固定ナットをいったんゆるめ締め付ける際に一杯に上にロックプレートを押し上げてください。

各部のオープン（開閉）と脱着のしかた

■カッタ切換えカバーのオープン

◆開きかた

各部の掃除と注油のしかた

機械の故障などトラブルが発生しないように，各部の手入れをじゅうぶん行なってください。

警　告

＊ 平たんで安全な場所で，駐車ブレーキを掛けエンジンを必ず止めてから行なってください。
＊ 取外したり，オープンした回転部のカバー類は外したままでは衣服などが巻込み危険ですので必ず取付けてください。
＊ 各搬送チェーンや刈刃，カッタ刃には注意してください。ケガをするおそれがあります。
＊ 刈取部を上げた状態で作業するときは，刈取下降ロックレバーで必ずロックしてください。さらに枕木などを使用して落下防止の歯止めをしてください。

注　意

＊ バッテリ，マフラやエンジン・燃料タンク周辺部にごみや燃料の付着，泥の堆積などがあると火災の原因になることがありますので，取除いてください。

各部の掃除と注油のしかた

重　要

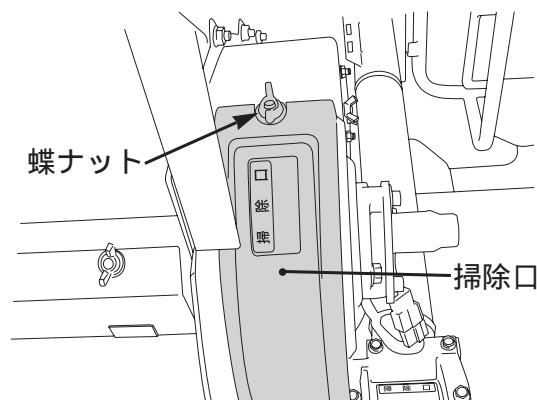
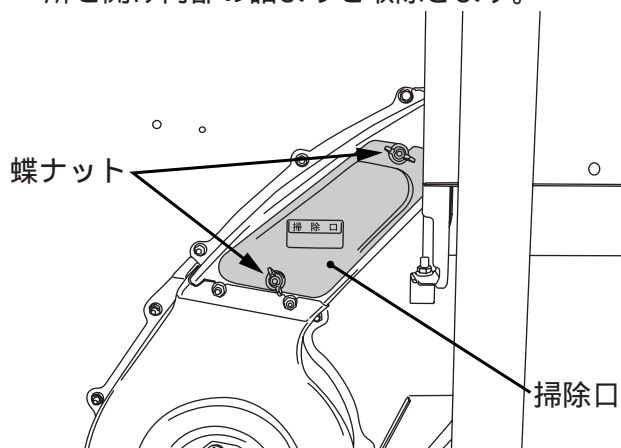
＊ 水洗いするときは，電装品に水をかけないようにしてください。故障の原因になります。
＊ 脱こく部の掃除口を閉じるときは，掃除口にこく粒の付着がないことを確めてから閉じてください。また，掃除の後，ふたを忘れるとこく粒が飛散します。
＊ 機内はよく乾燥させてから掃除してください。濡れているとこく粒が機内に付着して残留こく粒が多くなります。
＊ 湿田で作業したあとは，必ずクローラ部分と刈取昇降シリンダネジ部の泥を取除いてください。
＊ 取外したボルト・ナットは，必ず締付けてください。
＊ オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。

■２番詰まりの掃除のしかた

＊ 平たんで安全な場所で，駐車ブレーキを掛けエンジンを必ず止めてから行なってください。

注　意

＊ 取外したり，オープンしたカバー類は終了後必ず取付けて作業してください。

1. 蝶ナットを外してスロワーケース掃除口２ヶ所を開け内部の詰まりを取除きます。

2. 掃除口カバーを蝶ナットで取付けます。

各部の掃除と注油のしかた

■掃除のしかた

品種や稲・麦の混合を避けたいときや収穫シーズンが終わったときには，機内の残留こく粒をきれいに取除いてください。

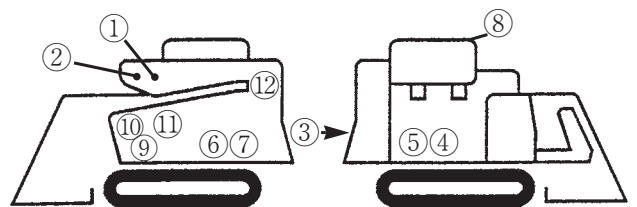
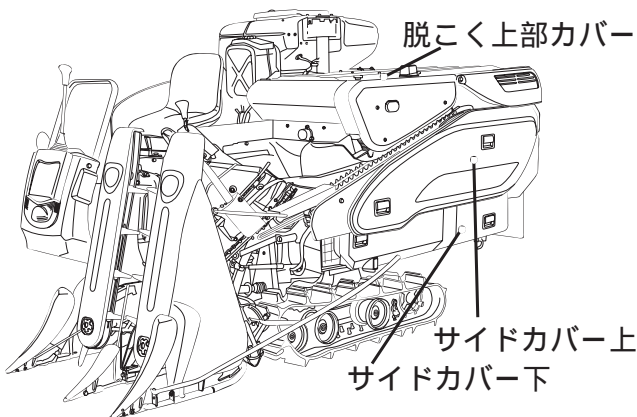
重　要

＊ 掃除をしないと，残留こく粒が混じり，米の等級が低下したり，芽が出るときがあります。特に，麦と稲，うるち米ともち米など異なる作物の刈取り前には必ず掃除してください。

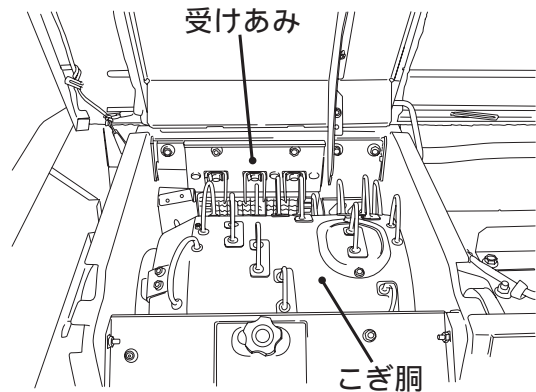
◆掃除のしかた

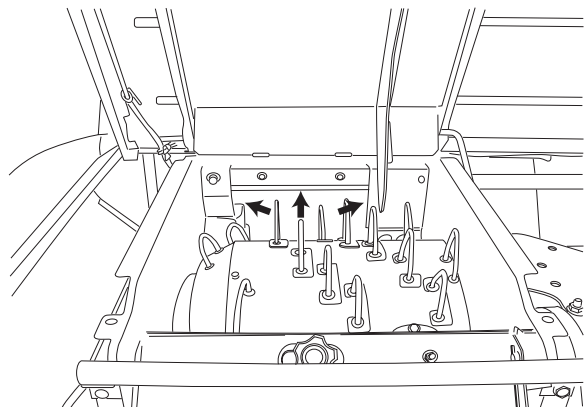
刈取作業が終わり，もみの排出がすべて終わったあと脱こく部を約５分間空運転します。そのあと，脱こくクラッチを切りエンジンを止めます。掃除をするときには，各部をオープン（開）又は，掃除口を開いてください。

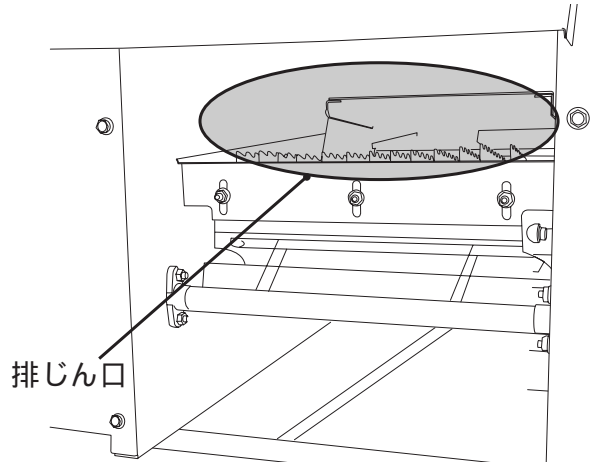
◆掃除個所

脱こく上部カバーを開け，サイドカバー上，下を外します。

①こぎ室内
②受けあみ
③排じん室内
④２番スロワ内
⑤⑥１番２番スクリュ下部掃除口
⑦縦スクリュ
⑧ホッパ内
⑨もみデッキ・バッテリ周辺
⑩冷却フィン
⑪⑫サイドカバー内・フィードチェーン・排ワラチェーン

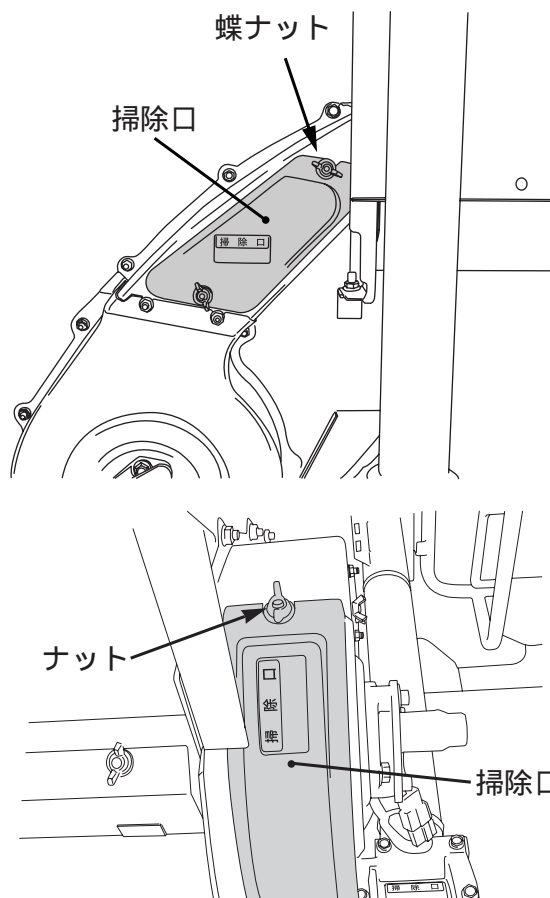
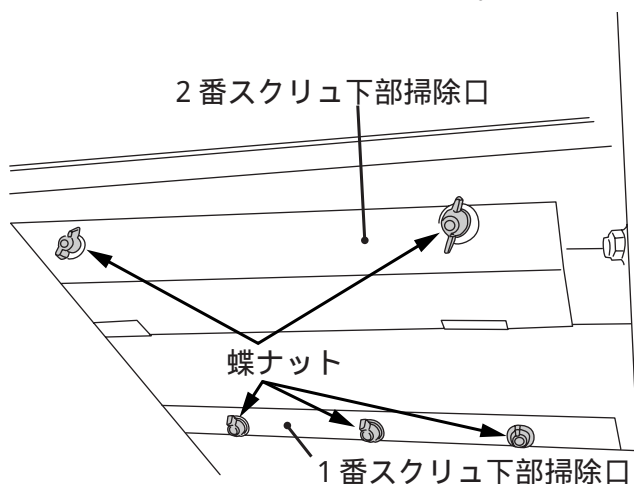
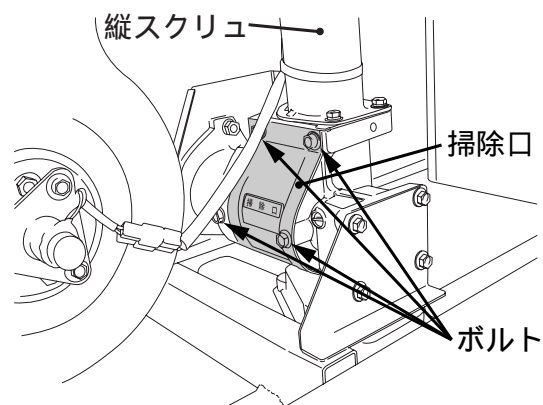
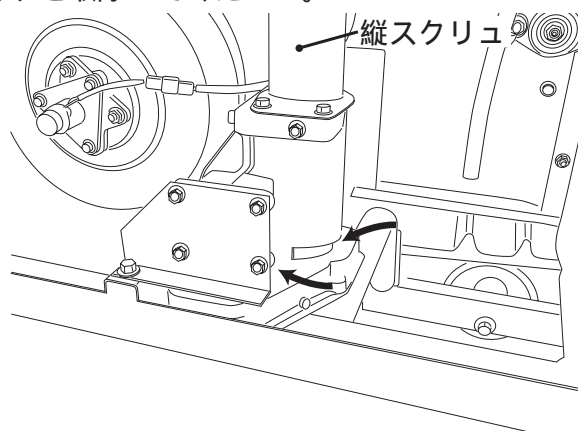
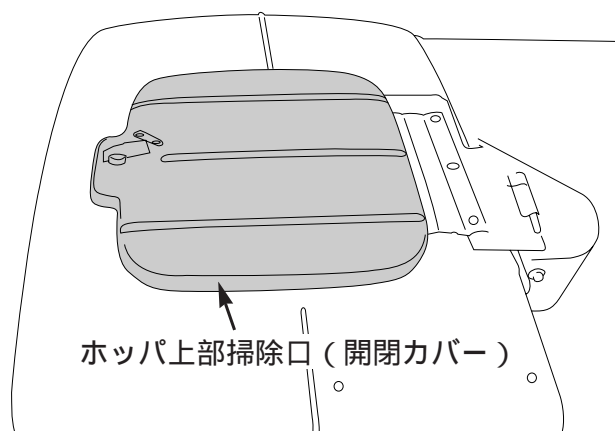
1．こぎ室内（掃除個所①）

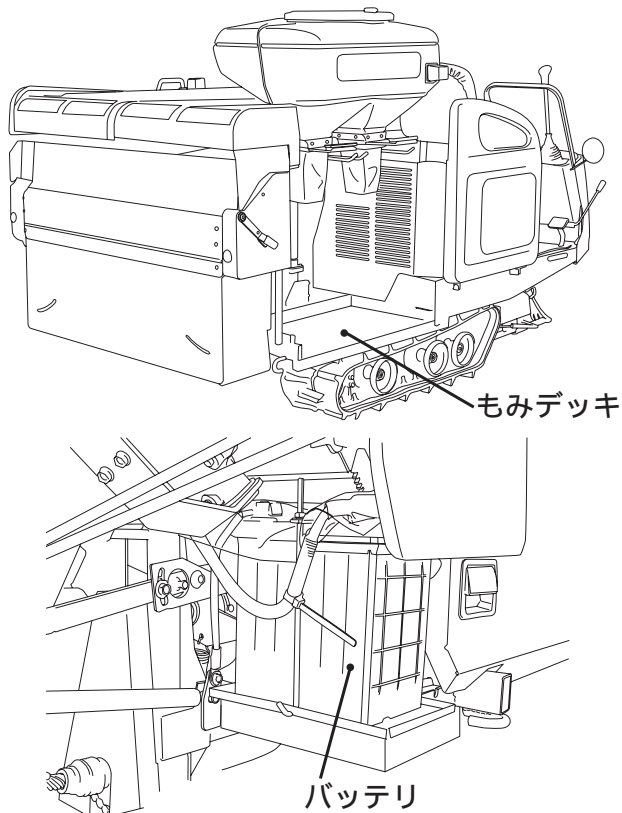
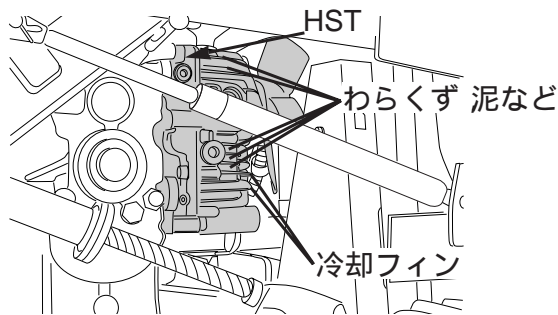
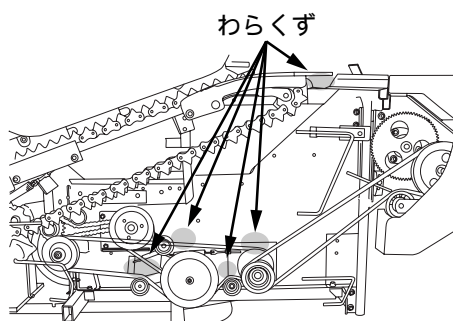
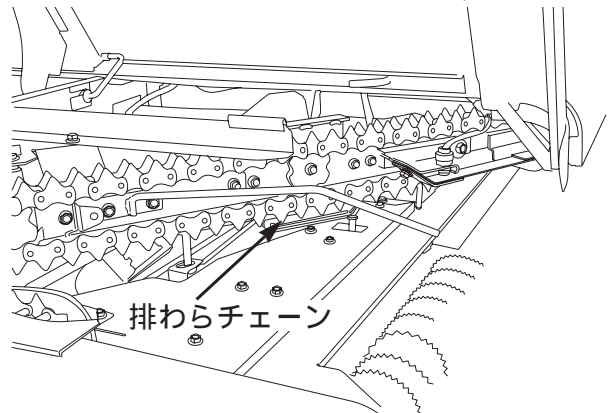
こぎ胴を少しずつ回しながら，わら切り刃に注意しわらくずを取除いてください。

2．受けあみ（掃除個所②）

受けあみを外し，受けあみとこぎ室内のあみのうら側（矢印部）のわらくずを取り除いてください。

3．排じん室内（掃除個所③）

排じん口（機体後方）よりシーブケース内の残留こく粒やわらくずを取り除いてください。

※特に◯の部分は残留こく粒やわらくずが留りやすいので，きれいに取除いてください。

各部の掃除と注油のしかた

4．２番スロワ内（掃除個所⑤）
蝶ナットおよびナットを取外し，掃除口カバーを取外し，わらくずを取除いてください。

5．１，２番スクリュ下部掃除口（掃除個所⑥⑦）
蝶ナットを１番は３個，２番は２個ゆるめてカバーを外し内部を掃除してください。

6．縦スクリュ（下部）（掃除個所④）
ホッパ部の下の掃除口取付ボトルを外して掃除口を開き，中のもみやわらくずを取除いてください。

縦スクリュ下部の矢印部に留まったもみやわらくずを取除いてください。

7．ホッパ内（掃除個所⑧）
開閉カバーを開いて内部を掃除してください。

各部の掃除と注油のしかた

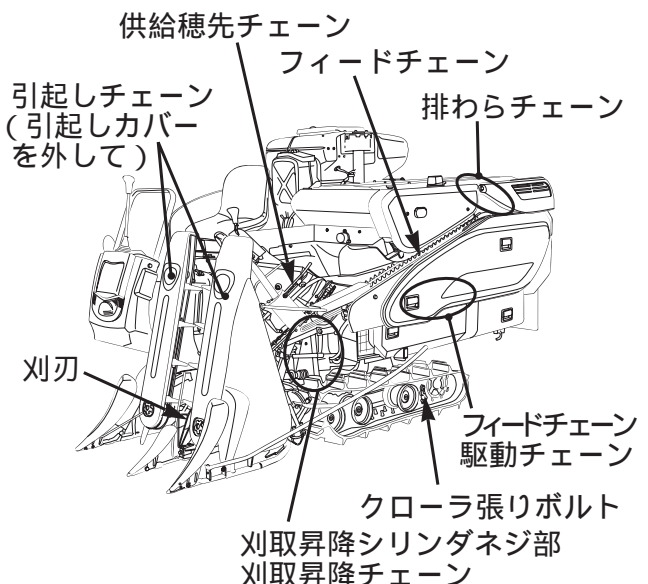
8．もみデッキ・バッテリ周辺（掃除個所⑨）
もみデッキやバッテリ周辺のわらくずを取除いてください。

9．HST冷却フィン（掃除個所⑩）
HST冷却フィンの間にたまったわらくずや泥などを取除いてください。

10．サイドカバー内・フィードチェーン・排ワラチェーン（掃除個所⑪⑫）
左サイドカバー上，下を取外して周辺のわらくずを取除いてください。

脱こく上部カバーをオープンして排わらチェーン部のわらくずを取除いてください。

■注油のしかた

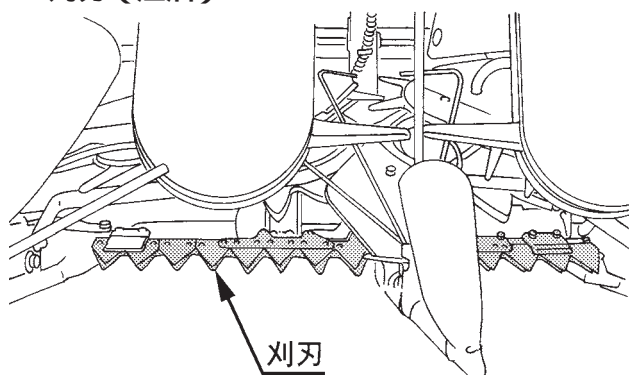
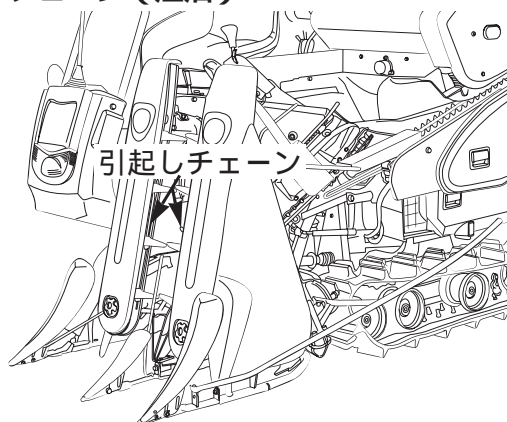
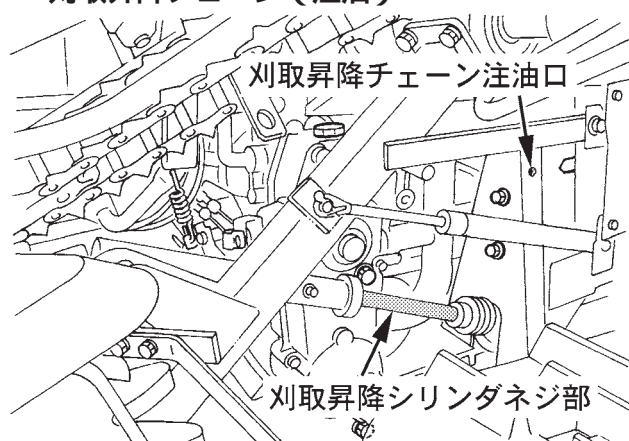
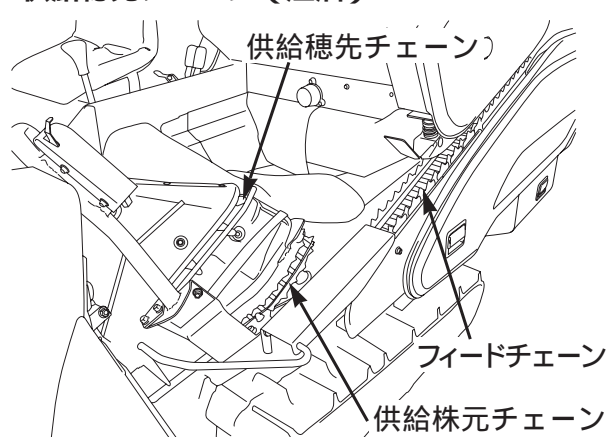
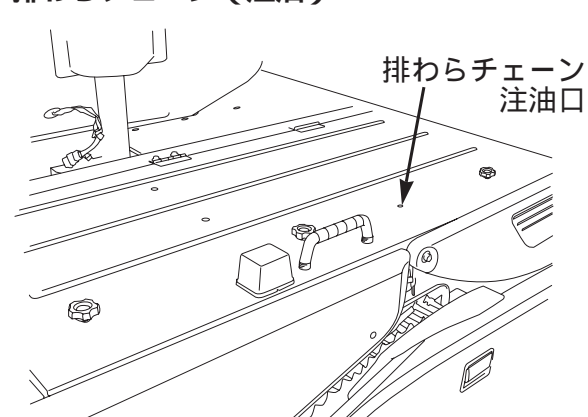
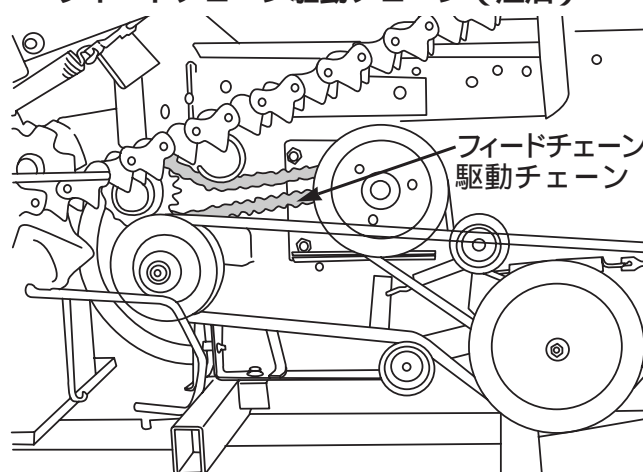
機体各部の掃除が終わったあと又は，刈取作業を始める前には各部の注油やグリースの塗布を行なってください。
刈刃，刈取昇降シリンダネジ部，クローラ張りボルトはエンジンを停止した状態で，全面に注油又はグリースを塗布してください。
各部のチェーンは作動を停止した状態で注油してください。その後，エンジンを始動させ低速状態で刈取・脱こく部を作動して，各チェーンに油が回っていることを確認してください。油が回るまで，繰り返し注油してください。

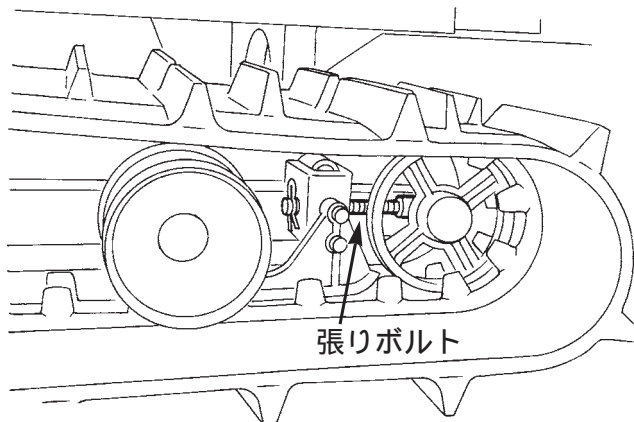
重　要

＊ 指定オイル以外，又は廃油は使わないでください。

オイルの種類
クボタ純オイルD10W30又は，D30

◆注油箇所

各部の掃除と注油のしかた

● 刈刃（注油）

● 引起しチェーン（注油）

● 刈取昇降シリンダネジ部（グリース塗布）
● 刈取昇降チェーン（注油）

● フィードチェーン（注油）
● 供給株元チェーン（注油）
● 供給穂先チェーン（注油）

● 排わらチェーン（注油）

● フィードチェーン駆動チェーン（注油）

各部の掃除と注油のしかた

● クローラ張りボルト（グリース塗布）

定期点検

定期点検は，コンバイン作業を行なう人が定期的に行なう点検です。
コンバインは，使用時間と使用状況に応じて劣化が進み，その構造や装置の性能が低下します。これを放置しておくと故障や事故の原因となり，ひいてはコンバインの寿命を短くしてしまいます。コンバインの持つ性能がいつまでもじゅうぶん発揮できるよう，定期的に点検を行ないましょう。

警　告

＊ 各部の調整・点検・交換を行なうときは，エンジンを必ず停止させ，各レバー類を“切”にして，回転部を止めてから作業をしてください。
＊ 点検・作業するときは，駐車ブレーキを掛けてください。また刈取部は一番下まで降してください。
もし刈取部を上げた状態で作業するときは，刈取下降ロックレバーで刈取部の下降防止を行なってください。さらに枕木などを使用して落下防止の歯止めをしてください。ケガをするおそれがあります。
＊ 刈刃やカッタ，わら切刃の点検・掃除時は，厚手の手袋を使用し，直接刃部に触れないでください。
＊ 燃料，オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。

注　意

＊ エンジンルームオープンをするときは，停止後30分経過して内部がじゅうぶん冷え，ヤケドのおそれがないことを確認してください。
＊ オイル交換中は火気厳禁。
＊ 機械は平たんで，回りにわらくずなどの燃えやすいごみのない場所へおいてください。バッテリ，マフラやエンジン周辺部にごみや燃料の付着，泥の堆積などがあると火災の原因となります。
＊ 取外した回転部のカバー類は，外したままでは衣服などが巻込み危険ですので，点検後は必ず取付けてから作業をしてください。

補　足

＊ 専門的な技術や特殊工具を必要とする場合及び定期点検一覧表の参照ページ欄に☆印のある項目は，購入先にご相談ください。
＊ 点検・交換の時期は，使用条件や環境に大きく左右されます。従ってひとつの目やすとして早目の点検をお願いします。

定期点検

■オイル・フィルタ類の交換とチェーン・ベルト・クローラの張り調整

- 新車時はコンバインの回転・しゅう動部の各部品はなじみがついていませんのでならし運転期間中に細かい金属粉が生じ，部品の極度な摩耗につながるおそれがあります。よって，オイル・フィルタ類は初期50a又は，１年ごとの早い方で交換してください。
- チェーンやベルト類・クローラはならし運転中に初期伸びが発生します。初期50aで張り調整をしてください。
（交換したときも同様です。）

■使用済廃棄物の処分について

廃棄物をみだりに捨てたり，焼却すると，環境汚染につながり，法令により処罰されることがあります。
廃棄物を処理するときは
＊ 機械から廃液を抜く場合は，容器に受けてください。
＊ 地面へのたれ流しや河川，湖沼，海洋への投棄はしないでください。
＊ 廃油，燃料，冷却水（不凍液），冷媒，溶剤，フィルタ，バッテリ，ゴム類，その他の有害物を廃棄，又は焼却するときは，購入先，又は産業廃棄物処理業者等に相談して，所定の規則に従って処理してください。

■使用者が行なってはいけない修理

下記部品に異常があるときは購入先に依頼してください。

＊ エンジン本体
＊ トランスミッションケース
＊ ギヤを内蔵したケース類
＊ 電気部品と電気系統（自動制御関係）
＊ 動力伝達系統

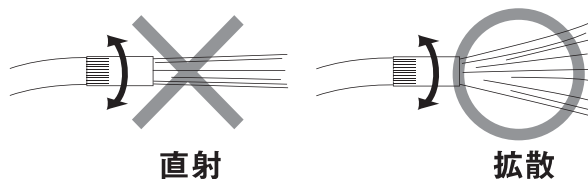
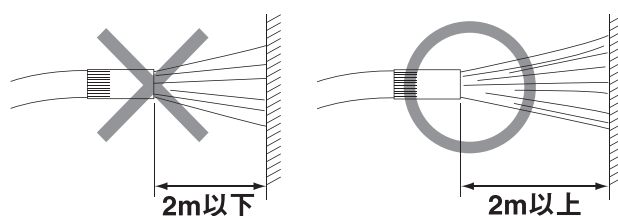
■洗車時の注意

高圧洗車機の使用方法を誤ると人を怪我させたり，機械を破損・損傷・故障させることがありますので，高圧洗車機の取扱説明書・ラベルに従って，正しく使用してください。

注 意

機械を損傷させないように洗浄ノズルを拡散にし，２m以上離して洗車してください。
もし，直射にしたり，不適切に近距離から洗車すると，
1. 電気配線部被覆の損傷・断線により，火災を引き起こすおそれがあります。
2. 油圧ホースの破損により，高圧の油が噴出して傷害を負うおそれがあります。
3. 機械の破損・損傷・故障の原因になります。
例） ⑴ シール・ラベルの剥がれ
⑵ 電子部品，エンジン・トランスミッション室内，安全キャブ室内等への侵入による故障
⑶ タイヤ，オイルシール等のゴム類，樹脂類，ガラス等の破損
⑷ 塗装，メッキ面の皮膜剥がれ

直射洗車厳禁

直射　拡散

近距離洗車厳禁

定期点検

■定期点検一覧表

○：点検と調整・掃除・締付け（バンド）　●：ならし運転後の点検と調整
△：交換　▲：ならし運転転後の交換

	刈取面積		刈　取　面　積（a）										それ以降		参照ページ
点検個所・項目		点検と処置	シーズン前後	20	50	100	250	500	550	750	1000	1050	1250	点検掃除	交換	
エンジン部	ファン駆動ベルト	調整/交換					●			○			△	500a	ー	78
	エアクリーナーエレメント	掃除/交換			●		○	△	●	○	△	●		毎日作業前		70
	エンジンの防じんあみ ラジエータフィン	掃除/ー		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	毎日作業前	ー	73
	インレットパイプ(エアクリーナ)	締付け/交換			●			○		○	○		△	6ヶ月ごと	2年ごと	71
	フューエルフィルタ	ー/交換			●			△	●		△	●				74
	オイルフィルタ	ー/交換				▲							△			75
	ラジエータホース	締付け/交換			●		○	△	●	○	△	●	○	6ヶ月ごと	2年ごと	☆
	ラジエータドレンホース	締付け/交換			●		○	△	●	○	△	●	○	6ヶ月ごと	2年ごと	☆
	フューエルホース	締付け/交換			●		○	△	●	○	△	●	○	6ヶ月ごと	2年ごと	☆
	オイルドレンゴムホース	締付け/交換			●		○	△	●	○	△	●	○	6ヶ月ごと	2年ごと	☆
	燃料こしあみ	掃除/ー					○	○			○		○		ー	65
走行・操作部	アクセルワイヤ	調整/ー			●		○	○		○			△	250a ごと	ー	☆
	駐車ブレーキ	調整/ー			●		○	○		○				250a ごと	ー	☆
	ステアリングワンレバー	調整/ー			●		○	○		○				250a ごと	ー	☆
	ミッション～刈取入力ベルト	クラッチ調整/交換			●		○	△	●	○	△	●	○	50a及び250aごと	500a ごと	76 79
	カウンタ～刈取昇降ベルト	ワイヤ調整/交換			●		○	△	●	○	△	●	○	50a及び250aごと	500a ごと	☆
	刈取昇降チェーン	点検/交換				●		○			○			500a ごと	注３	85
			注３：錆びたり伸びたときは交換													
	エンジン～カウンタベルト	点検/交換					○	△		○	△		○	250a ごと	500a ごと	☆
	カウンタ～ミッションベルト	点検/交換					○	△		○	△		○	250a ごと	500a ごと	☆
	クローラ	張り調整/交換			●		○	○		○	○		○	250a ごと	2500a ごと	104

＊ 参照ページに☆印のある整備項目（交換）については，購入先又は，整備工場で行なってください。

メンテナンス

定期点検

○：点検と調整・掃除・締付け（バンド）　●：ならし運転後の点検と調整
△：交換　▲：ならし運転後の交換

刈取面積				刈　取　面　積（a）											それ以降		参照ページ
点検項目・項目			点検と処置	シーズン前後	20	50	100	250	500	550	750	1000	1050	1250	点検	交換	
刈取部	補助搬送（突起付き）ベルト		調整/交換			●			○			○			50a 及び 500a ごと	2500a ごと	79
	引起し	チェーン	ー/交換	注4：自動テンションのラチェット歯の終端部で交換											ー	注４	☆
		爪	ー/交換								△				ー	750a ごと	
	供給穂先	チェーン	調整/交換			●		○	○		○	○		○	50a 及び 250a ごと	2500a ごと	☆
		爪	ー/交換								△				ー	750a ごと	
	供給株元チェーン		調整/交換			●		○	○		○	○		○	50a 及び 250a ごと	2500a ごと	84
	刈刃		調整/交換				●		○			△			100a 及び 500a ごと	2500a ごと	86
	刈刃駆動ベアリング		ー/交換				●	△	△		△	△		△	ー	250a ごと	ー
	株元センサ		ー/交換												ー	2500a ごと	ー
	穂先センサ（上下）		ー/交換												ー	2500a ごと	ー
	パッカ(トルクリミッタ)		ー/交換												ー	2500a ごと	☆
脱こく部	エンジン～こぎ胴入力ベルト		クラッチ調整/交換			●		○	△	●	○	△	●	○	50a 及び 250a ごと	750a ごと	80
	こぎ胴入力～こぎ胴ベルト		張り調整/交換			●		○	△	●		△	●	○	500a ごと	750a ごと	81
	１番～揺動ベルト		張り調整/交換			●		○	△	●		△	●	○	500a ごと	750a ごと	82
	トウミ～１番～２番ベルト		張り調整/交換			●		○	△	●		△	●	○	500a ごと	750a ごと	82
	フィードチェーン駆動チェーン		点検/交換						○			○			ー	注５	76
				注５：錆びたり伸びたとき交換													
	フィードチェーン		ー/交換	注６：自動テンションの終端で交換											ー	注６	85
	わら切刃		ー/交換						△			△			ー	500a ごと	90
	こぎ歯		ー/交換											△	ー	1250a ごと	89
	１番タテスクリュ軸		ー/交換											△	ー	1250a ごと	☆
	１番横スクリュ軸		ー/交換											△	ー	1250a ごと	☆
	２番横スクリュ軸		ー/交換											△	ー	1250a ごと	☆
	２番スロワハネ		ー/交換											△	ー	1250a ごと	ー
	２番掃除口フタ		ー/交換											△	ー	1250a ごと	ー

＊ 参照ページに☆印のある整備項目（交換）については，購入先又は，整備工場で行なってください。

定期点検

○：点検と調整・掃除・締付け（バンド）　●：ならし運転後の点検と調整
△：交換　▲：ならし運転後の交換

点検個所・項目		刈取面積 点検と処置	刈取面積(a) シーズン前後	20	50	100	250	500	550	750	1000	1050	1250	それ以降 点検	それ以降 交換	参照ページ
カッタ部	カッタ刃	ー/交換					△	△		△	△		△	ー	250a ごと	☆
	２番〜カッタベルト	張り調整/交換				●	○	△	●	○	△	●	△	100a ごと	250a ごと	82
電装	バッテリ	充電/ー	注８：セルモータが回りにくいとき充電											注８	ー	96
	ワイヤハーネス・バッテリコード	点検/交換			●		○	○		○	○			250a ごと	注９	☆
			注９：破損しているとき交換													
	ヒューズ・スローブローヒューズ	ー/交換	注10：破損しているとき交換												注10	☆
	ランプ（電球）	ー/交換	注11：破損しているとき交換												注11	102
	ホーンスイッチ	ー/交換	注12：破損しているとき交換												注12	102

＊ 参照ページに☆印のある整備項目（交換）については，購入先又は，整備工場で行なってください。

重　要

＊ 各ベルト・チェーン・ワイヤを交換したあとは，ならし運転後の点検と調整を行なってください。

メンテナンス

定期点検

■給・注油（水）点検一覧表

種類	点検箇所	処置	点検・交換時期 刈取面積（a）		容量・規定量（L）	種類	参照ページ
			点検	交換			
燃料	燃料タンク	給油	作業前	—	・容量……約11	ディーゼル軽油	65
オイル	エンジン	補給・交換	作業前	初回：100a ２回目以降 500aごと	＊規定量…1.35〜2.05 オイルゲージの**下限と上限の間**	クボタ純オイル D30又はD10W30	65
	トランスミッションケース	交換	50a又は１年で補給（油面が下った場合）	250aごとに交換	＊規定量…2.5 検油口からオイルがにじむまで	クボタ純オイル スーパーUDT	67
	ＨＳＴ	交換 補給			＊規定量…0.45 油面がリザーブタンク上面から40〜50㎜の位置		67 ☆
	引起しチェーン	手動注油	作業前（作業後）	—	適　量	クボタ純オイル D30又はD10W30	56
	供給チェーン（株元・穂先）						
	フィードチェーン						
	刈取昇降チェーン						
	フィードチェーン駆動チェーン						
水・液	冷却水（リザーブタンク）	補水		冬期停止時は 排出又は, 不凍液を入れる	＊規定量 タンク側面ラベルの**L**と**H**の間…… L…0.15　H…0.25	清水又は, クボタ不凍液	68
	バッテリ液		作業シーズン前後	—	＊規定量 バッテリ側面の**下限と上限の間**	精製水	96
グリース	刈刃ギヤケース	補給	分解時	—	75g	クボタスペアグリース	☆
	刈取ギヤケース				右130g，左130g		
	供給ギヤケース				100g		
	引起し駆動ケース（右）				上120g，下200g		
	引起し駆動ケース（左）				50g		
	ベベルギヤケース				40g		
	刈取昇降シリンダネジ	塗布	作業前（作業後）		ネジ全面		57
	刈取昇降シリンダ	補給	作業シーズン前後		補給要領参照		
	自脱カウンタケース	補給	分解時		20〜30g		☆
	１番縦スクリュベベルチェーンケース				30〜50g		
	排わらベベルケース				20〜30g		

＊ 参照ページに☆印のある整備項目（交換）については，購入先又は，整備工場で行なってください。

重　要

各部への給油と交換

＊ 点検するときは，機体を水平な場所において行なってください。傾いていると正確な量を示しません。
＊ 使用するエンジンオイル，ミッションオイルは，指定の“ クボタ純オイル・スペアグリース ”を必ず使用してください。
＊ 燃料補給の際は，ゴミや水が混入しないようにしてください。
＊ エンジンオイル等の油脂類および不凍液を交換して廃却する時は，廃却設備のあるところで廃却処理してください。
＊ 部品（バッテリ等）または機械を廃却するときは「購入先」にご相談ください。
＊ 出荷時は補水不要のバッテリです。

定期点検

■燃料・オイル・グリースの点検・補給・交換

警　告

＊ 燃料やオイル補給中は火気厳禁です。

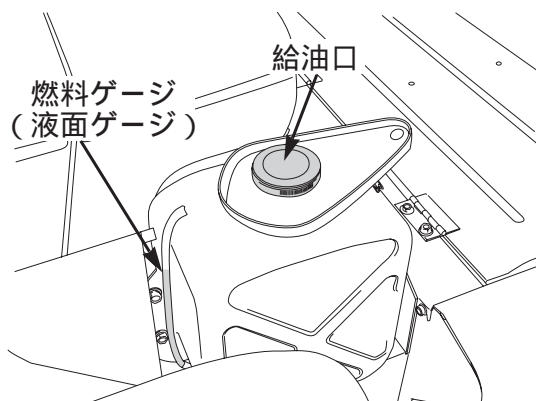
注　意

＊ 燃料を補給する前に給油口やタンク周辺のごみを取除いてください。

重　要

＊ 補給・交換を行なうときは，機械の故障の原因となりますので下記事項を守ってください。
● 廃油は使用しないでください。
● 給油口やその周辺からゴミなど異物や水が混入しないよう掃除してください。
● 使用するオイル・グリースはクボタ純オイル・スペアグリースを使用してください。
＊ 点検するときは機体を水平な場所に置いて行なってください。傾いていると正確な量を示しません。

1．燃料

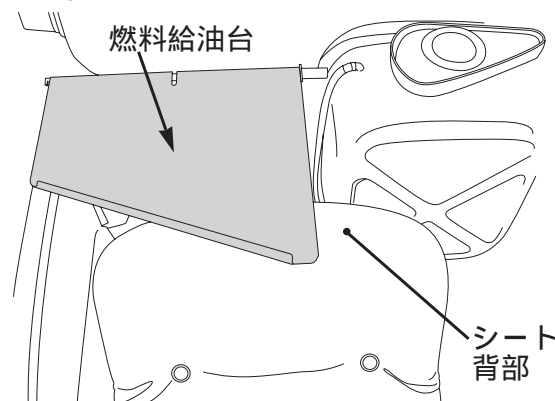
運転席（シート）の後方にある燃料タンクの燃料ゲージ（液面ゲージ）が“**空**”に近づいたときは，給油してください。

重　要

＊ 給油口の燃料こしあみは外さないでください。燃料タンクにゴミなどの異物が混入するとエンジンの故障の原因となります。

◆給油

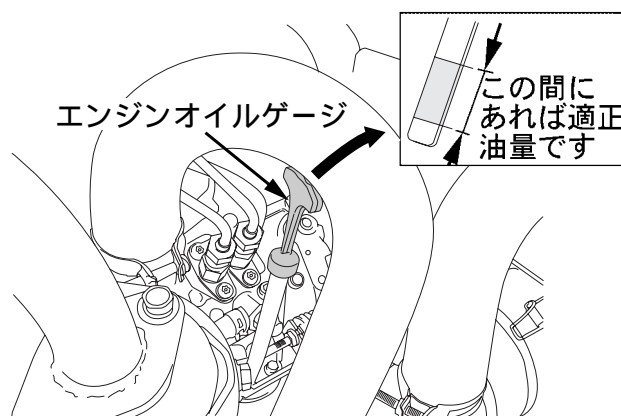
燃料を給油するときは，メインスイッチを“**切**”位置にしてエンジン停止を確認してから行なってください。

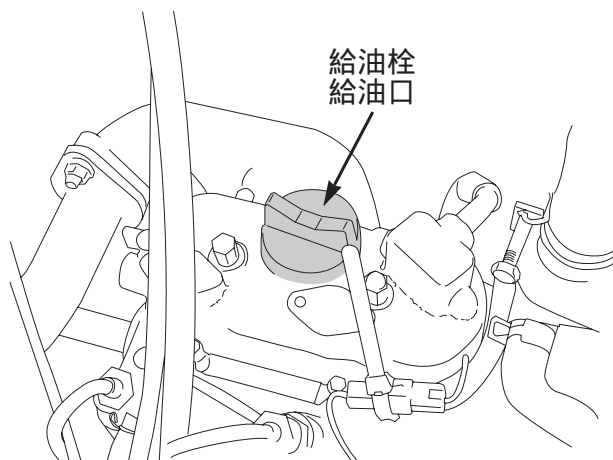
補　足

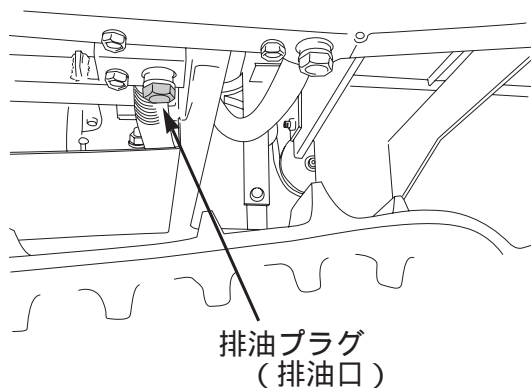
＊ 燃料タンクは，約11Lで満タンになりますので，あふれさせないように注意してください。
＊ 燃料給油台をシートの背部に乗せ，その上に燃料容器を置くと楽に給油できます。
＊ 給油後は，燃料給油台は格納状態にしてください。

2．エンジンオイル

エンジンルームをオープンしてください。

◆点検・補給

エンジン停止後，数分たってからオイルゲージを抜いて，先端をきれいにふき取ります。もう一度いっぱいまで差し込んでから抜き，ゲージの**上限**と**下限**の間にオイルがあるか点検します。不足しているときは，給油口から規定量になるまで給油してください。さらに，油もれのないことも調べてください。

定期点検

◆交換

● **排油のしかた**

1. 給油栓を外します。
2. 排油プラグを外し，排油口からオイルを排出します。

● **給油のしかた**

排油プラグを締付けて，給油口から規定量のオイルを給油し，給油栓を締付けてください。

重　要

＊ 指定以外のオイルを使用すると，出力が低下したり，エンジンオイルが異常に消耗又は劣化し，エンジントラブルの原因となります。また，気温によりオイルを選んでください。

気温	オイルの種類	規定オイル容量
15℃未満のとき	クボタ純オイル ディーゼルエンジン用 D10W-30	・上限線 約2.05L ・下限線 約1.35L
15℃以上のとき	クボタ純オイル ディーゼルエンジン用 D30又はD10W-30	

＊ クボタ純オイルの入手が困難な場合は，API分類でCC級以上のオイルをお使いください。この場合は気温により下表のように使い分けてください。

気温	オイルの種類
0℃以下	SAE10W又は10W-30
0～25℃	SAE20又は10W-30
25℃以上	SAE30又は10W-30

＊ 10W-30はオールシーズン用です。

重　要

＊ 排油プラグを締め忘れると油もれが発生し，エンジントラブルやクローラの劣化の原因となります。

定期点検

3．トランスミッションケースオイル

警　告

＊ 排油するときは刈取部を上げ，刈取下降ロックレバーを上げて，刈取部の下降防止を行なってください。さらに刈取部の下に落下防止の歯止めをしてください。

◆点検・補給

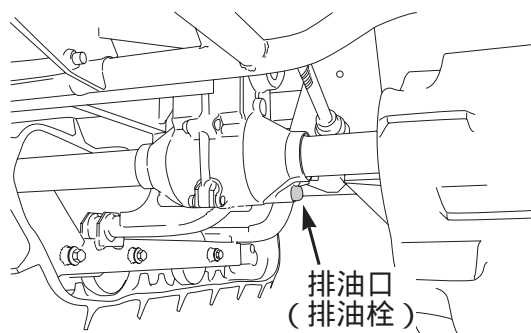
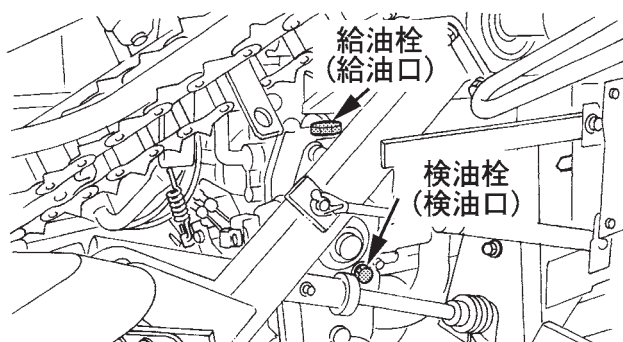
検油ボルト（白ペイントマーキングしてあります。）を外してオイルが検油口からにじんでくれば適正量です。不足しているときは，給油口から給油してください。さらに，油もれのないことも調べてください。

◆交換

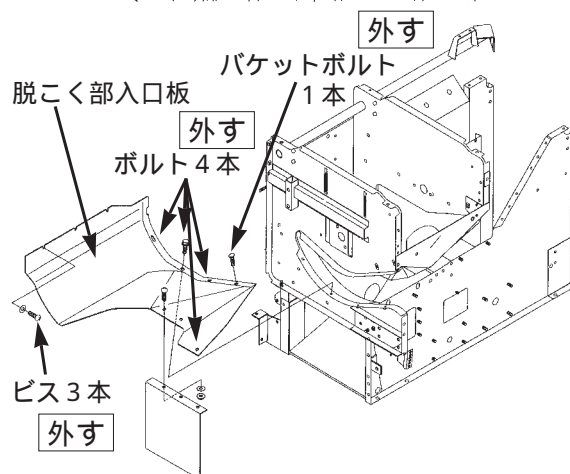
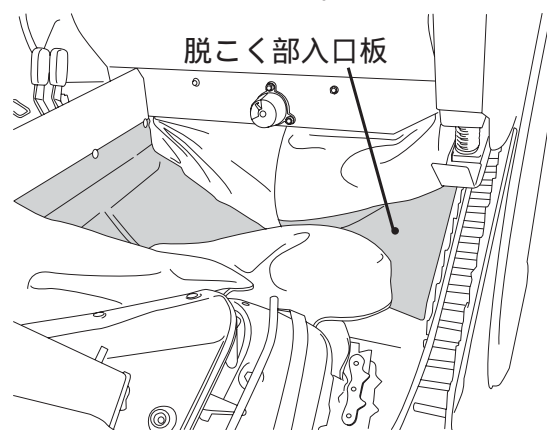
● 排油のしかた

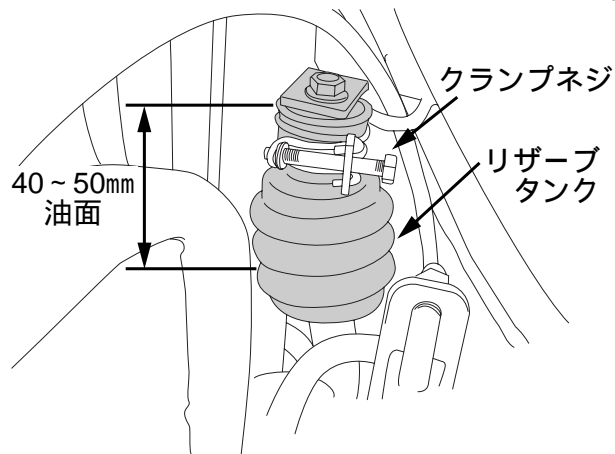
1. 給油栓を外します。
2. 排油プラグを外し，排油口からオイルを排出します。

● 給油のしかた

排油プラグを締付けて，検油口からオイルがにじみ出てくるまで給油口からオイルを給油し，給油栓と検油ボルトを締付けてください。

オイルの種類	規定オイル容量
クボタ純オイル スーパーUDT	2.5L

4．HSTオイル

脱こく部入口板を外します。

◆補給

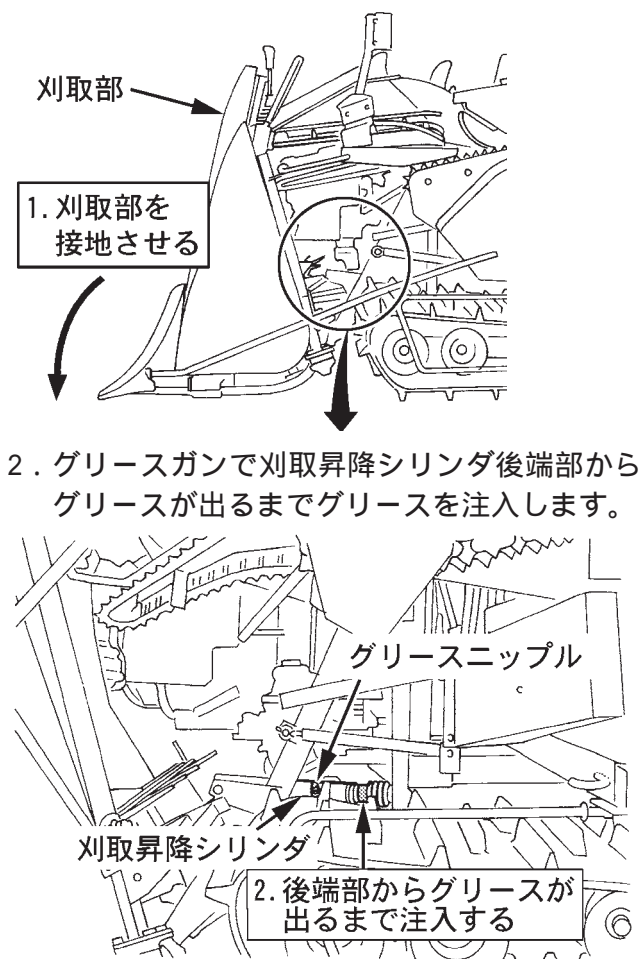
リザーブタンクのクランプネジをゆるめたあと，リザーブタンクを下側にずらして油面が上端から40〜50㎜になるまでオイルを補給してください。

重　要

＊ オイル内にゴミが混入すると故障の原因になります。補給するときは，購入先に依頼してください。

オイルの種類	HSTオイル全容量 （交換時）
クボタ純オイル スーパーUDT	0.45L

◆**交換**
交換するときは，購入先に依頼してください。

5．刈取昇降シリンダのグリース給油
長期保管前にグリースニップルから下記要領で給油してください。
1. 刈取部を地面に降ろします。

2. グリースガンで刈取昇降シリンダ後端部からグリースが出るまでグリースを注入します。

重　要

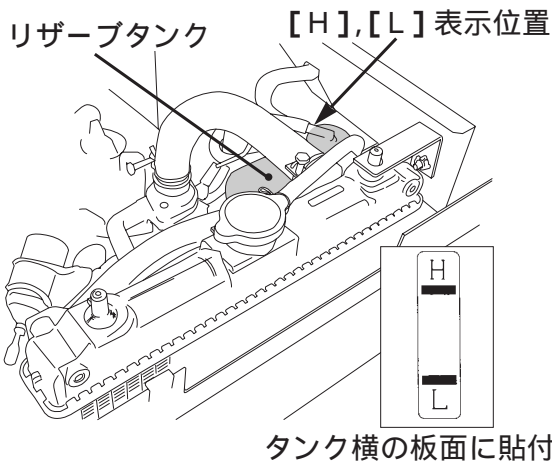
＊ 刈取部を上昇した状態でグリースを注入すると，グリースが必要以上に入りすぎて刈取部が下降しなくなるので必ず刈取部を下げた状態で注入してください。
＊ 長期保管前に必ず行なってください。グリースを充てんしないとネジが錆びて動かなくなります。

■ラジエータ冷却水の点検・交換

＊ ラジエータキャップやリザーブタンクは，エンジン運転中及び停止直後に開けると，熱湯が噴出することがありますので，エンジン停止後30分以上経過してから開けてください。

注　意

＊ 異なるメーカの不凍液を使用しないでください。

◆**点検**
エンジンルームをオープンしたあと，リザーブタンクの水量が **[L]**（下限）と **[H]**（上限）の間にあるか確かめます。**[L]**（下限）の線より下にあるときは，リザーブタンクのキャップを外して清水を補給してください。

重　要

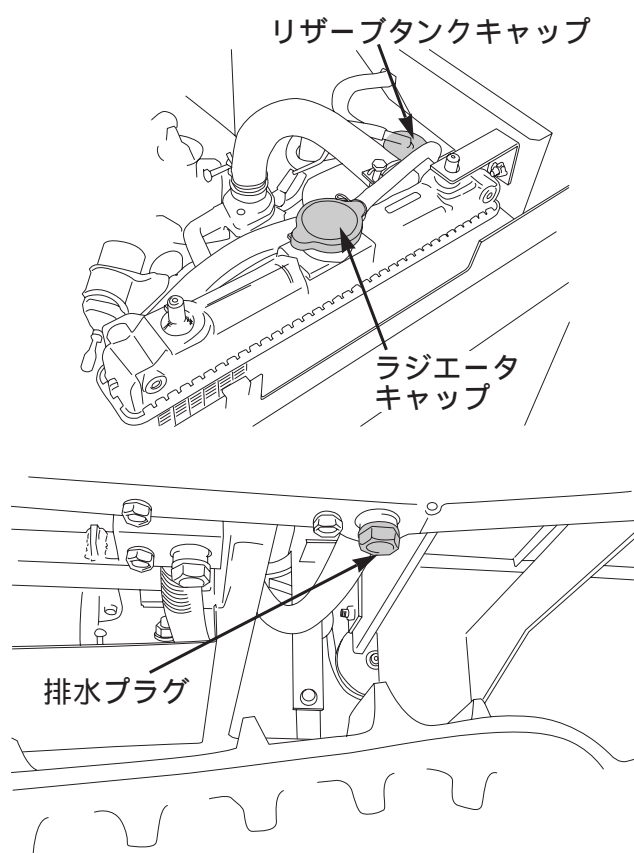
＊ 冷却水が自然に不足したときは，必ず清水を補給してください。不凍液を補給すると濃度が濃くなりエンジンやラジエータの故障の原因となります。

補　足

＊ [H]（上限）の線以上は補給しないでください。
＊ [H]（上限）で約0.25Lです。

定期点検

◆交換

1. ラジエータの冷却水は排水プラグを外したあと，ラジエータキャップを外して排水します。
2. リザーブタンクの冷却水はリザーブタンクを取外し，排水します。
3. 水道水でごみやさびが出なくなるまで洗います。

4. 排水プラグを締付けたあと，目標温度（外気温）の比率分（混合比）の不凍液をラジエータ及びリザーブタンクに入れます。

重　要

＊ 不凍液の混合比を誤まると，冬期には冷却水の凍結，夏期にはエンジンの故障やラジエータの破損の原因になります。
＊ 不凍液を使用する場合は，ラジエータ保浄剤を投入しないでください。不凍液には防錆剤が入っていますので，保浄剤を混入するとエンジン部品に悪影響を与えます。
＊ クボタ不凍液（ロングライフクーラント）の有効使用期間は２年間です。必ず２年で交換してください。
＊ 排水プラグを締め忘れるとオーバーヒートとなりエンジンが破損するおそれがあります。
＊ 排水プラグ部を機体に取付け忘れると，ホースが破損するおそれがあります。

補　足

＊ 不凍液混合比は，寒冷地ほど高くなります。購入先に相談して，下表を参照して混合比を決めてください。また，不凍液はエチレングリコール（EG）タイプのロングライフクーラントをご使用ください。

● 不凍液混合比率表

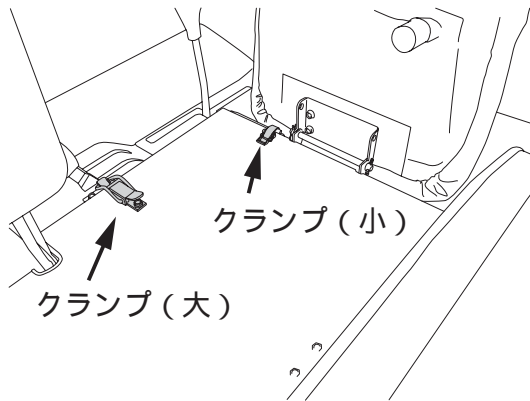
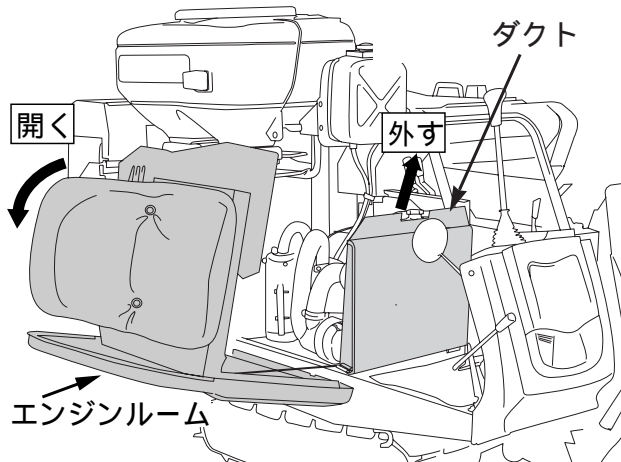
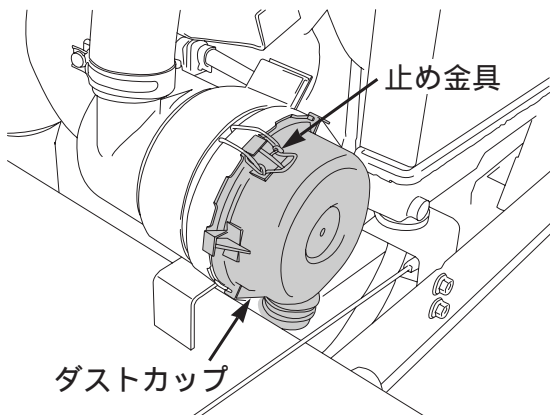
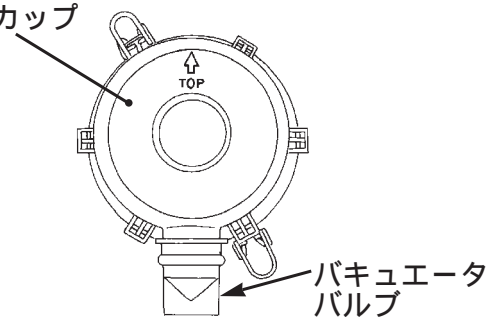
外気温度（℃）		-11.5	-15	-20	-25	-30	-35	-40
比率	水　　（%）	75	70	65	60	55	50	45
	不凍液（%）	25	30	35	40	45	50	55

※ 冷却水容量……1.9L
※ 新しい冷却水と交換を行なうときは，必ず適正な混合比となる不凍液を入れて，５分間エンジンを空回転し，不凍液の混合を早めてください。そのあと，リザーブタンクの水量を確かめておいてください。

5. ラジエータキャップ及びリザーブタンクキャップを取付けます。

定期点検

■エアクリーナの点検・掃除・交換

1. エンジンルームのクランプを①クランプ（小）②クランプ（大）の順序で外します。

2. エンジンルームを外（手前）側に倒しダクトを外します。

3. 上，下2箇所の止め金具を外してダストカップを取外してください。ダストカップ内側のゴミはバキュエータバルブをつまんで取除いてください。

◆閉じかた

ダストカップを取付けダクトを下部フックに差し込み取付けます

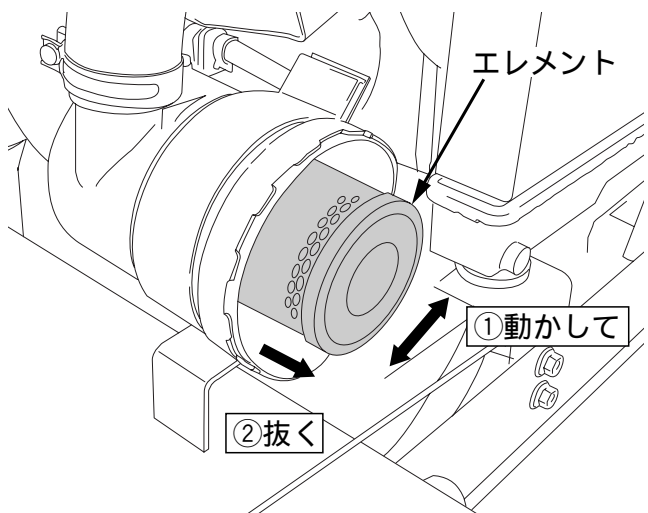
エンジンルームを閉じたあと，クランプを①クランプ（大）②クランプ（小）の順序で締めます。

重　要

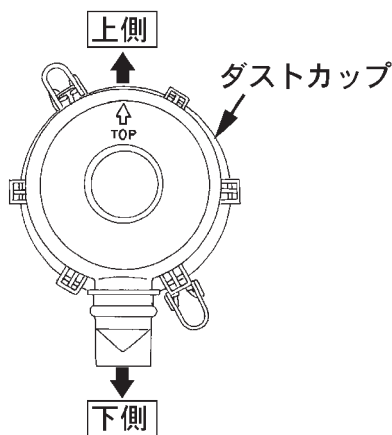
＊ 閉じたときは，必ずクランプを２ヶ所とも締めてください。

◆点検・掃除・交換

エレメントの点検を行ない，掃除又は，交換を行なってください。エレメントの掃除は，エレメントの内側から空気を吹きつけるか，又は軽く振ってゴミを取除いてください。汚れのひどい場合や150時間経過しているときは，交換してください。

エレメントを取外すときは，エレメントを左右に動かして抜取ります。

定期点検

重　要

＊ 高性能サイクロン併用乾式エレメントを使用していますので，オイルを使用しないでください。
＊ エアクリーナにほこりが詰まったまま運転すると，エンジンの出力が低下したり，エンジンオイルが異常に消耗又は劣化し，エンジントラブルの原因となります。点検は運転前に欠かさず行なってください。
＊ エレメントは傷がつかないように取扱ってください。特に掃除時は，たたいたり固い物に当てて変形させるとエンジンの故障の原因となりますのでしないでください。
＊ エレメントを取付けたあと，ダストカップの取付け方向に注意してください。
＊ ダストカップを取付けるときは，傾かないように取付けてください。傾いた状態で取付けるとすき間からほこりが侵入してエンジンの故障の原因となります。

＊ エレメントを掃除する場合，エアの圧力は 0.69Mpa（7.0kgf/cm²）をこえないよう注意し，エアガンのノズルとエレメントの間は適当にあけてください。
また，エアはエレメントの内側から外側に通してください。
＊ カーボンや油分が付着しているときは，クボタ指定の純正エレメント洗浄剤で洗浄してください。

補　足

＊ エレメント洗浄剤
ND-1500（品番：15221-8665-1）

■パイプ·ホース類の点検・交換

注　意

＊ 運転中ラジエータホースが外れると熱湯が吹き出し，ヤケドをするおそれがあります。
＊ 燃料系ゴムホースが破損していると燃料もれを起し火災の原因となります。

◆点検

エンジン，エアクリーナ，ラジエータ，燃料タンク各部にある各パイプやホースを点検し，油もれや水もれが発生しているときは，パイプやホースの交換やバンドを締付けてください。

重　要

＊ オイルドレーンゴムホースが破損していると，エンジンが焼付を起します。
＊ 油もれや水もれをしていなくても，２年経過しているときや劣化の激しい場合は交換してください。

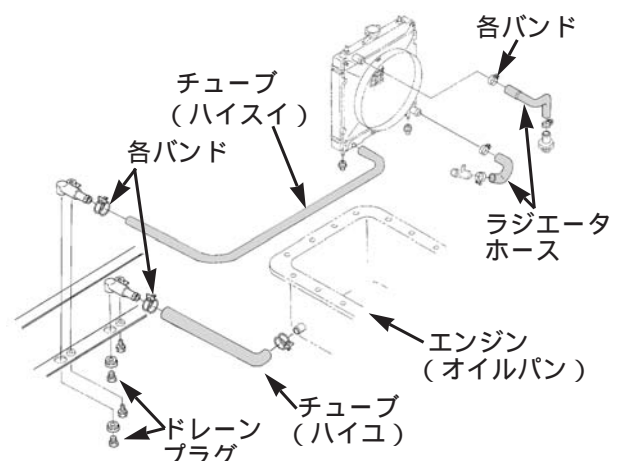
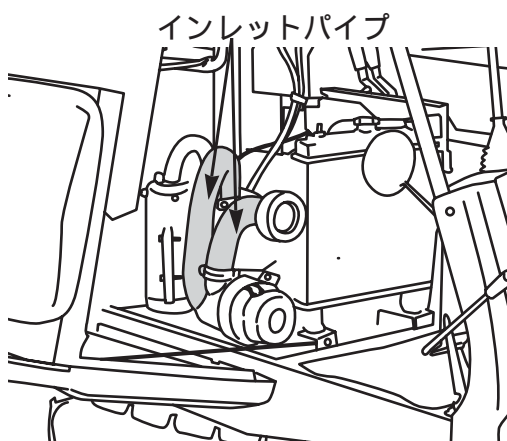
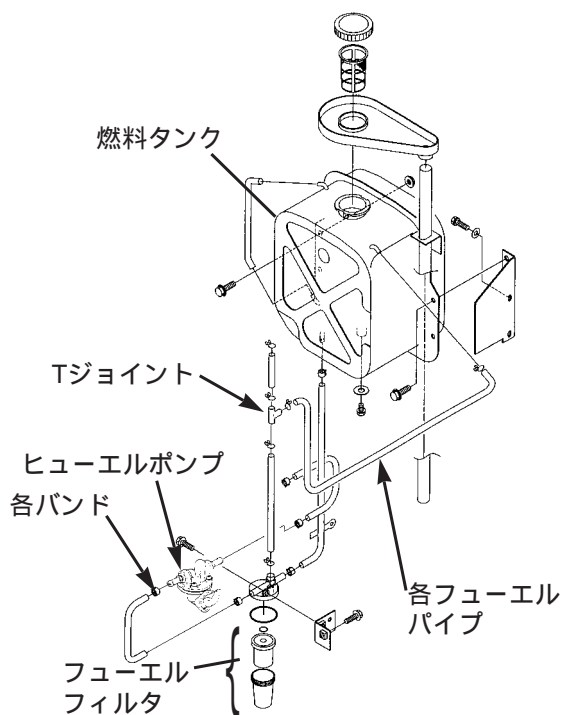
◆交換

交換時の取付け不良やバンドの締付忘れ，締付不足がないよう取付けてください。

重　要

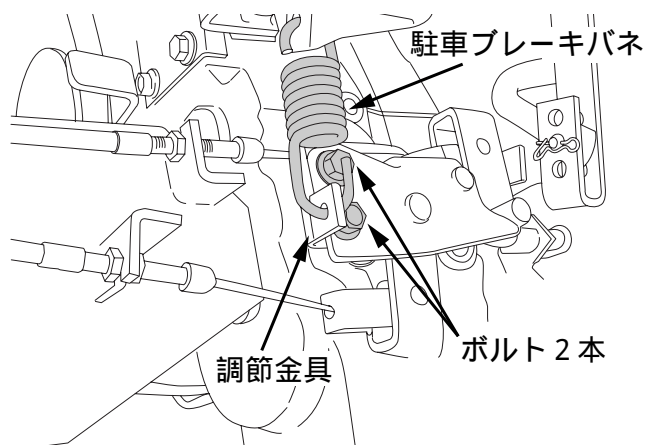
＊ 交換時にパイプや噴射ポンプなどにゴミが入らないように注意してください。

補　足

＊ 交換を行なうときは，購入先に依頼してください。
＊ フューエルパイプ交換後は，セルモータでエンジンを回している間に自動的にエア抜きされます。

■ワイヤ，バネの点検・調整

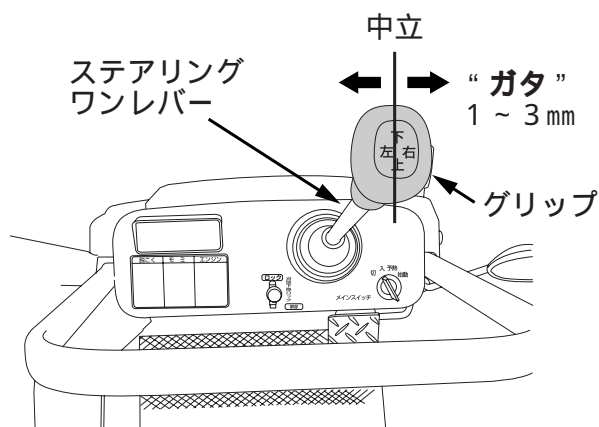
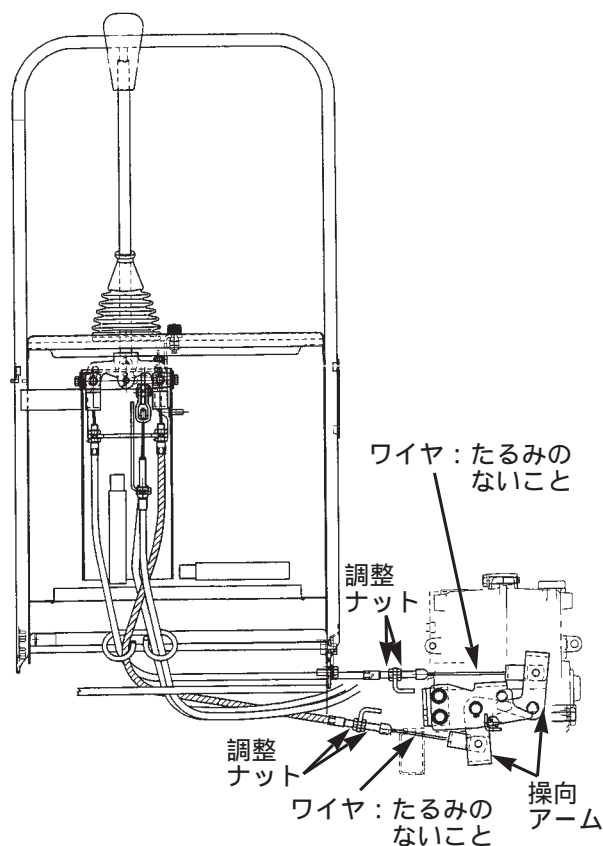
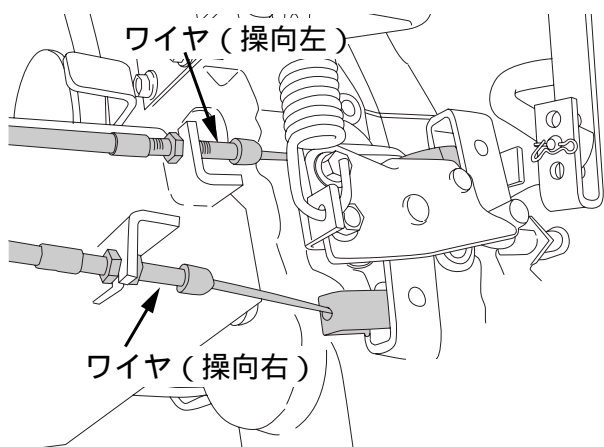
◆駐車ブレーキの点検・調整

駐車ブレーキをロックしても効かなくなった場合，駐車ブレーキバネを下記要領で調節してください。

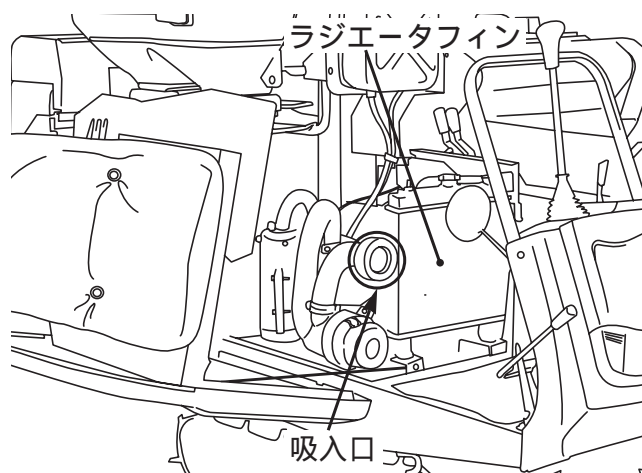
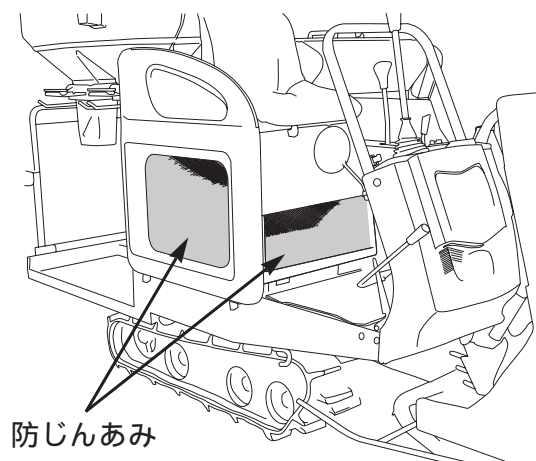
1. 駐車ブレーキペダルを踏まない状態にします。
2. ボルト２本をゆるめ，駐車ブレーキバネの遊びがなくなるまで調節金具を下に下げます。
3. ボルト２本を締めて調節金具を固定します。

◆ステアリングワンレバーの点検・調整

● 操向操作（サイドクラッチ）

ステアリングワンレバーが **“ 中立 ”** のとき，左右２本のワイヤの調整ナットで調整して，ステアリングレバーの **“ ガタ ”** がなくなるように調整してください。

1. 運転席横の左側板を外します。（50ページ参照）
2. ステアリングワンレバーを **“ 中立 ”** 位置（中央位置）にします。（ステアリングワンレバーにさわっていない状態）
   ミッションケース前側にあるワイヤ受け（上）の黒色ワイヤ（操向左）とワイヤ受け（下）の黒色のワイヤ（操向右）の調整ナットをそれぞれゆるめます。
3. ワイヤ（操向右，左）にたるみがないように調整ナットでワイヤの張り調整を行なったあと，調整ナットをそれぞれ締付けます。
4. ステアリングワンレバーを左右に動かして，グリップ（にぎり）の遊び量が１～３㎜に入っているか確認し，遊び量が範囲から外れているときは，再調整します。

定期点検

■防じんあみ，ラジエータフィンの掃除

◆掃除

1. エンジンルームをオープンしたあと，圧縮空気を使用するなどして防じんあみやラジエータ部及びエンジンに付着しているゴミなどを掃除してください。
2. ラジエータフィンの掃除をするときは，エンジンカバーの前の防じんあみを外してください。下部支点のベターピンを外すと取外しができます。

重　要

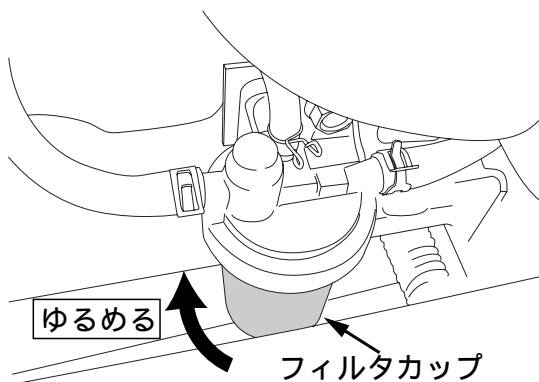
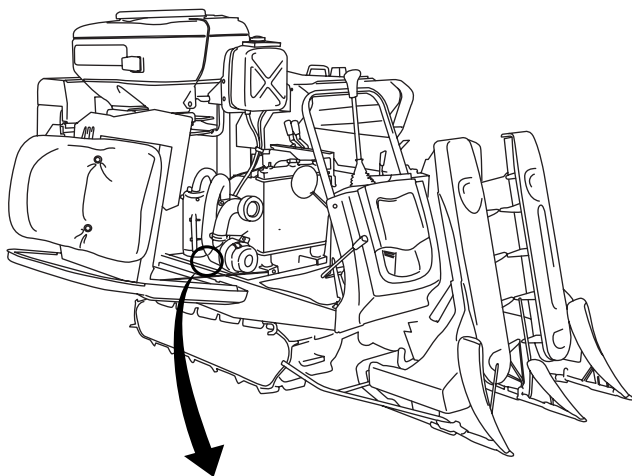
＊ ヘラやドライバなど固いものや高圧洗車機を使用して，ラジエータフィンを掃除しないでください。ラジエータフィンを傷め，ラジエータの機能を低下させる原因になります。
＊ 洗車時エアクリーナの吸入口から水が入ると，エンジンの不調又は，故障の原因となりますので，水が入らないように吸入口を水を通さないもので覆ってください。

定期点検

■フューエルフィルタアッシの交換

◆掃除・交換

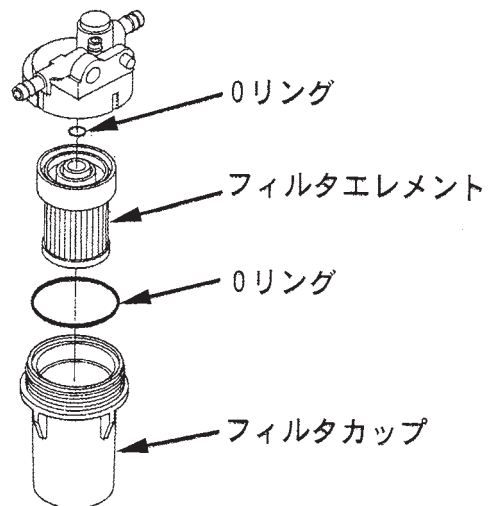
刈取面積が500aごとにフューエルフィルタアッシを交換してください。フューエルフィルタアッシはエアクリーナの下側にあります。

1. フィルタカップをゆるめて外します。

重　要

＊ フィルタ下部に水が溜まっているときは，早目に交換してください。
＊ 燃料タンクにゴミなどの異物や水が混入すると，フィルタの目詰まりが早くなったり，フィルタ内に水が溜まりやすくなりエンジンの故障の原因となります。
＊ フィルタカップを外すと，燃料タンクからの燃料流出は自動的に止まります。

補　足

＊ 掃除又は交換後は，セルモータでエンジンを回している間に自動的にエア抜きされます。

2. フィルタエレメントを取外して軽油でOリングを含めて洗浄（すすぎ洗い）をします。このとき，汚れのひどい場合や刈取面積が500a経過しているときは交換してください。

重　要

＊ Oリングは傷つけないようにしてください。また，なくさないでください。
＊ 汚れ（目詰まり）がひどい場合は，洗浄を行なっても短時間で目詰まりします。

3. Oリングやフィルタエレメントにゴミが付着しないように元通りに組付けます。

重　要

＊ Oリングは溝にきちんと入れて組付けてください。
＊ ゴミが燃料内に混入すると．燃料ポンプや噴射ノズルの故障の原因となります。

■エンジンオイルフィルタカートリッジの交換

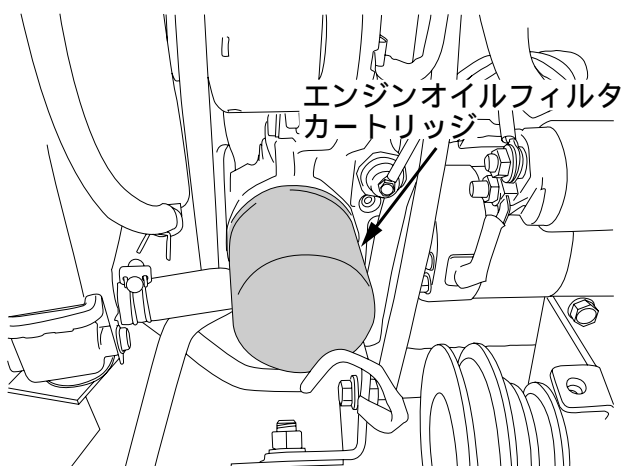
２回目のエンジンオイルの交換（65ページ参照）と同時に交換してください。交換するときは，エンジンルームをオープンしてください。

◆交換

1. 専用工具を使ってカートリッジを取外します。

補　足

＊ 取外しかたや専用工具については，購入先にご相談ください。

2. 新しいフィルタカートリッジを取付けます。
3. オイルゲージの上限線までオイルを補給したあと，５分程度エンジンを運転して各部及び油圧（オイルランプ）に異常がないことを確認してから，エンジンを止め，再度油面がオイルゲージの規定内にあることを確めておいてください。

補　足

＊ エンジンオイルの交換は，初回100a，２回目以降は500a毎に交換してください。（64ページ参照）

定期点検

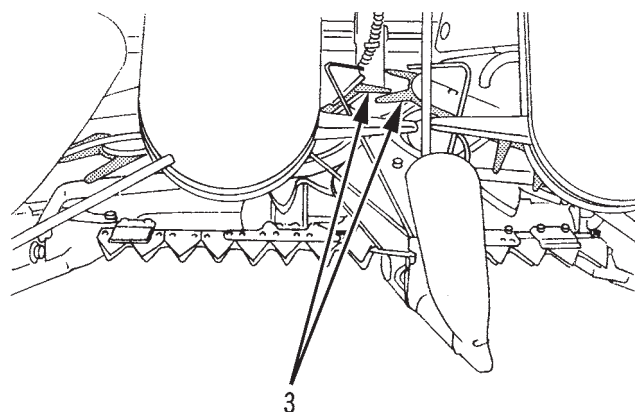
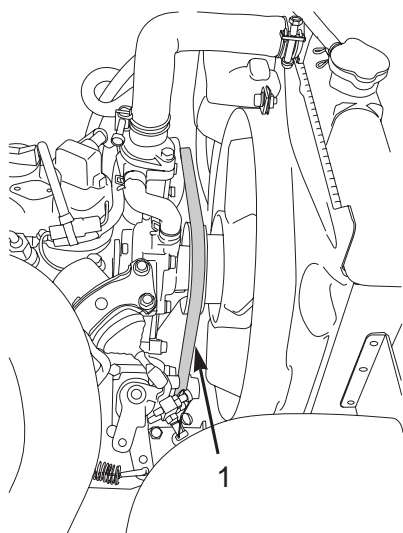
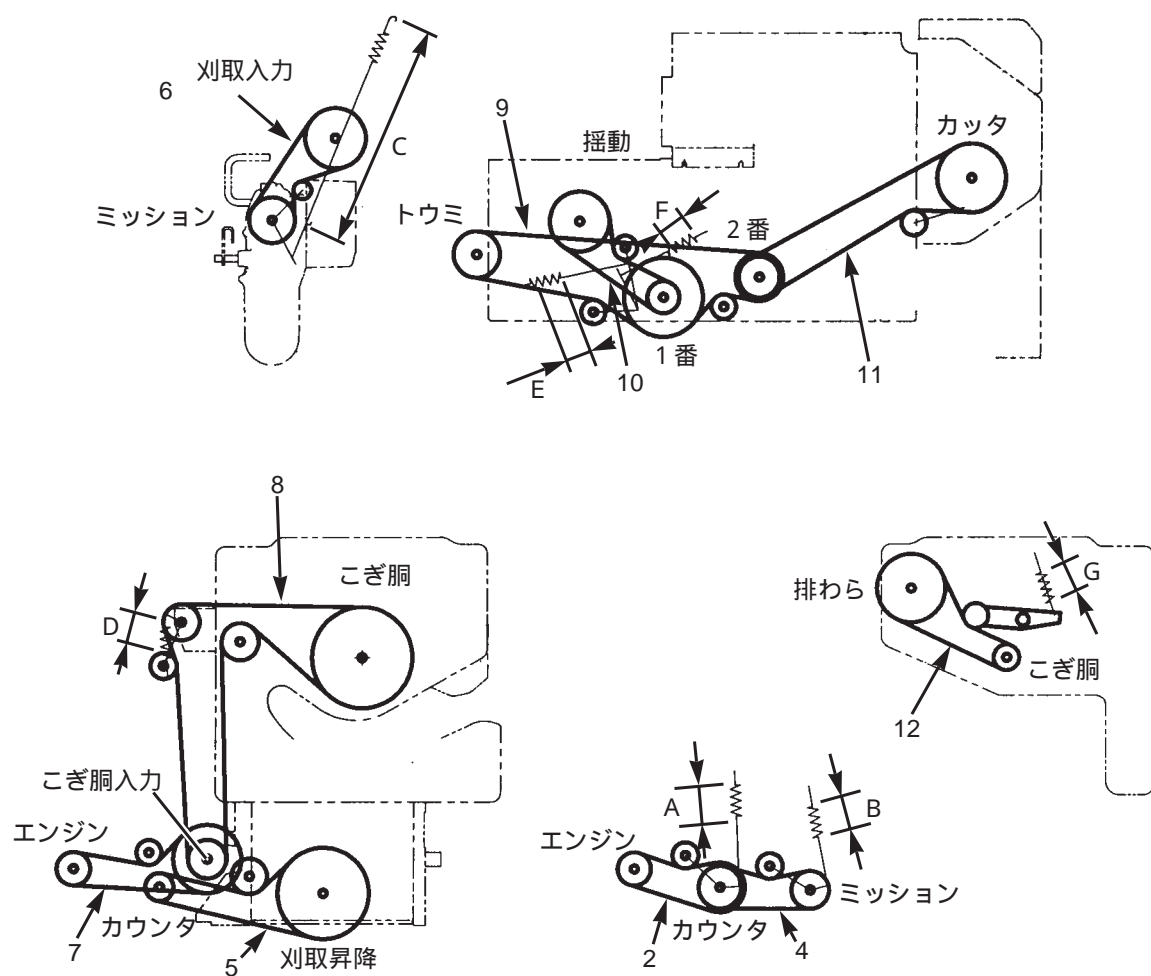
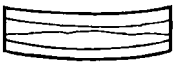
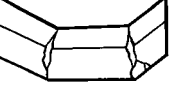
■各部ベルトの点検・調整

下表を参照して，各部ベルトの張り調整を行なってください。

点検箇所	図番	名　　称	サイズ	本　数（本／台）	張　り　調　整	
					テンションスプリング取付け長さ（フック内寸法（㎜））	
エンジン部	1	ファンベルト	A34.5	1	※1	
運転席・刈取部周辺	2	エンジン～カウンタ	B26	1	A	194～199
	3	補助搬送（突起付）ベルト	―	2	※3	
	4	カウンタ～ミッション	B27	1	B	194～199
	5	カウンタ～刈取昇降	A45	1	―	
	6	ミッション～刈取入力	A32	1	C	475～479
脱こく部・カッタ部周辺	7	エンジン～こぎ胴入力	B37	1	※2	
	8	こぎ胴入力～こぎ胴	B89	1	D	194～199
	9	トウミ～１番～２番	B62	1	E	144～148
	10	１番～揺動	A32	1	F	104～106
	11	２番～カッタ	B62	1	※4	
	12	こぎ胴～排わら	A33	1	G	90～95

※1：ファンカバーの切欠部にファンベルトが接触するまで押したときの荷重が７～13N（0.7 ～1.3kg）。
※2：エンジンアイドリング時に脱こくクラッチレバー先端の操作荷重（入れるときの最大荷重）を30～50N（約３～５kg）にする。
※3：ベルトの中央部を２kg で押したときのたわみ量が３～６㎜になるように調節する。
※4：ロックプレート上端～テンションプーリ下端までの長さが122～128㎜になるように調節する。

定期点検

刈取入力
6
C
ミッション
9
揺動
カッタ
トウミ
F
2番
1番
E
10
11
8
こぎ胴
D
排わら
G
こぎ胴
12
こぎ胴入力
エンジン
A
B
エンジン
ミッション
7
カウンタ
5
刈取昇降
2
カウンタ
4

定期点検

◆点検

各部のベルトを点検するときは，下記の事項をよく確認してください。

1. ベルトの焼付きや摩耗，被覆のはがれ，き裂やひび割れ

焼付きや摩耗	被覆のはがれ	き裂やひび割れ
×	×	×

2. ベルトの底部とプーリ溝部のすき間

3. ベルトの伸び（たわみ量）

上記の事項を確認したとき，異常があればベルト交換又は，ベルトの張り調整を行なってください。ベルトの交換は購入先へ連絡して行なってください。

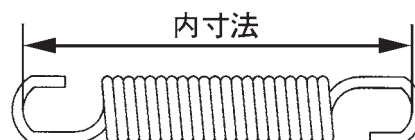
重　要

＊ ベルトは必ずクボタ純正のものを使用してください。

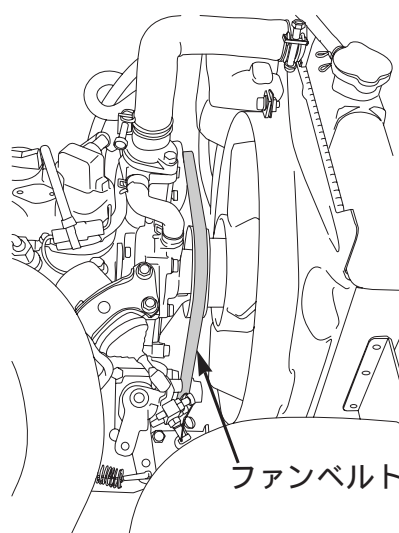
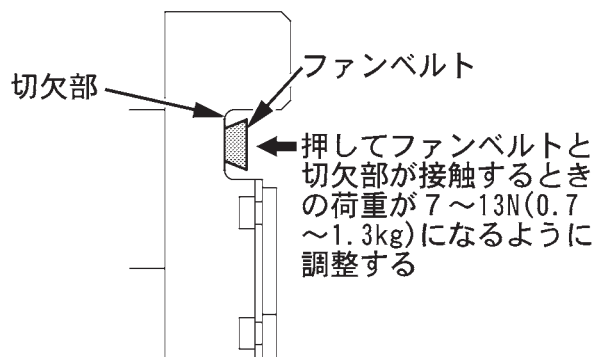
◆調整

ベルトが伸びているとき（スリップが発生しやすい）は，張り調整を行なってください。

補　足

＊ スプリングの取付け長さは，フックの内寸法を測定してください。

● ファンベルト

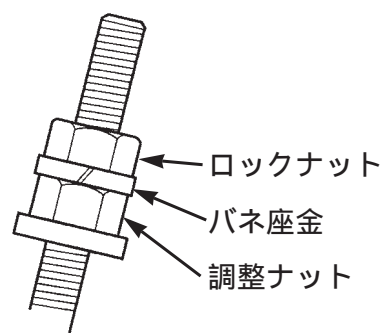
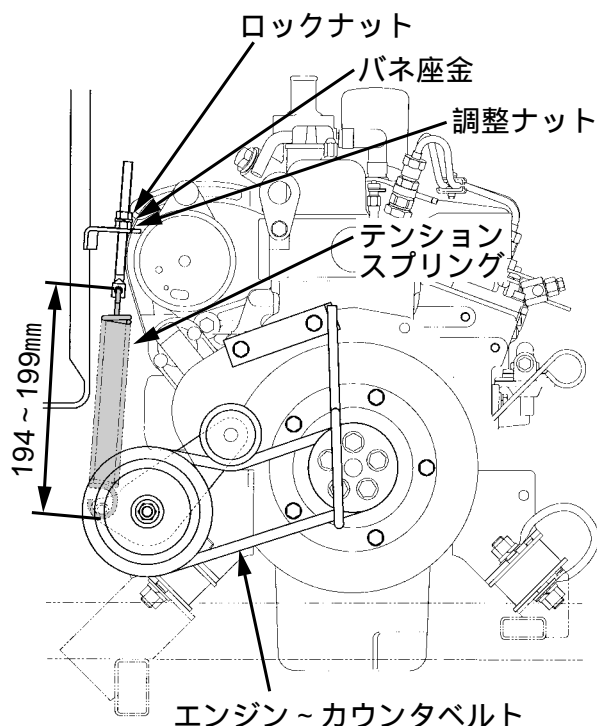
ファンベルトをベルトを指先で横に押したとき（約７～13N｛0.7～1.3kg｝の荷重）に，ファンガイドの切欠き部にベルトの山の部分が接触するように調整します。

1. エンジンルームをオープンします。
2. ファンステーのボルト３本をゆるめたあと，ドライバ等の金属棒を調整用穴に差込んで押上げ，ファンステーの位置をずらして調整します。
3. ファンステーのボルトを３本締付けて固定します。
4. エンジンルームを閉じます。

定期点検

※下から見た図

● **エンジン～カウンタベルト**

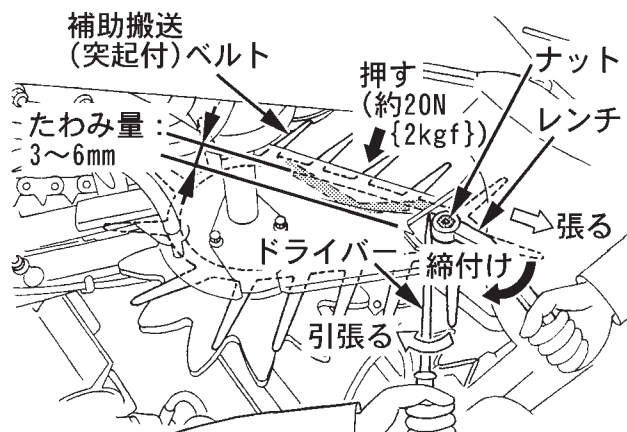
テンションスプリングの長さを194～199㎜に調整します。

1. エンジンルームをオープンします。
2. ロックナットと調整ナットをゆるめて，調整ナットで調整を行ないます。
3. ロックナットを締付けたあと，エンジンルームを閉じます。

補　足

＊ **調整ナットとロックナットを締付けたあと，バネ座金のすき間がないことを確認してください。**

● **補助搬送（突起付）ベルト**

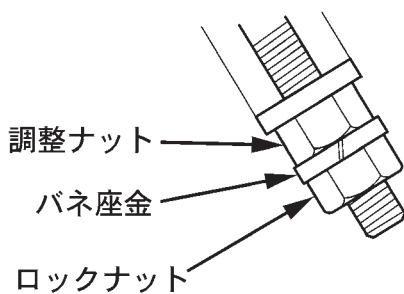
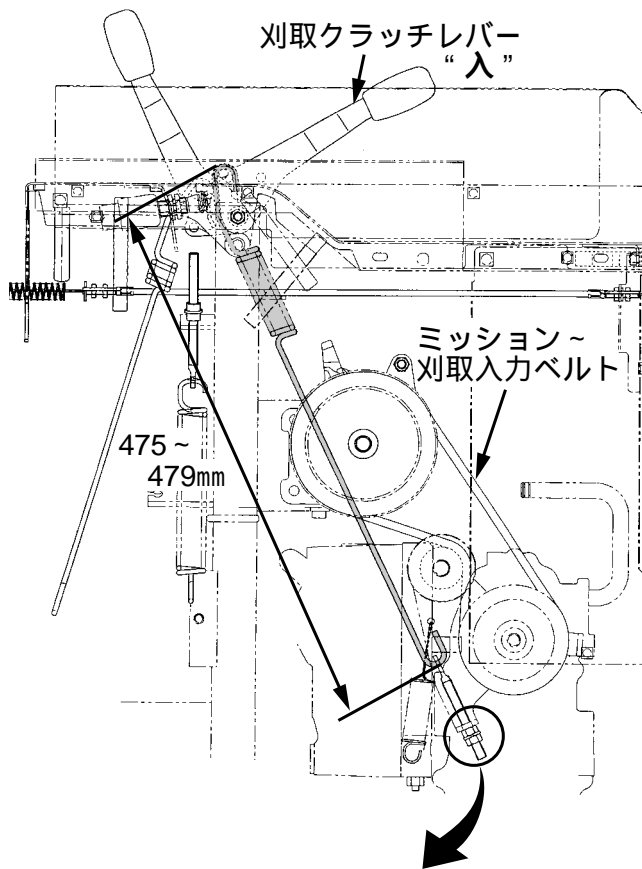
指先でベルトの中央部を押したとき（約20N {2kgf} の荷重）のたわみ量を３～６㎜に調整します。

1. ナットをゆるめます。
2. フレーム先端の切欠き部にドライバーなどを使用して，張り方向にナットを押しながらレンチでナットを締付けます。

● **ミッション～刈取入力ベルト**

テンションスプリングの長さを475～459㎜に調整します。

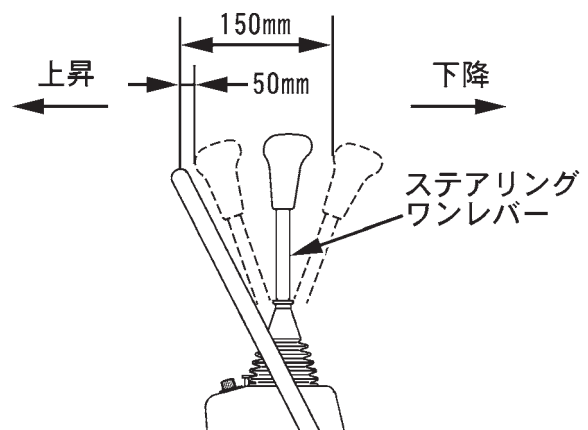
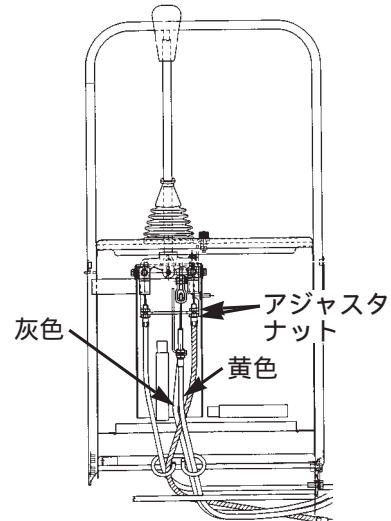
1. 刈取クラッチレバーを“**入**”位置にします。
2. エンジンルームをオープンしたあと，運転席左側の側板を取外します。
3. ロックナットと調整ナットをゆるめて，調整ナットで調整を行います。

4. ロックナットを締付けたあと，側板を取付けてエンジンルームを閉じます。

補　足

＊ 調整ナットとロックナットを締付けたあと，バネ座金のすき間がないことを確認してください。

● カウンタ～刈取昇降ベルト

点検しベルトが伸びているとき，刈取部昇降の動きが悪いときは下記要領で，ワイヤ調節してください。

1. ノブボルト２本を取外して運転席フロントパネルを外します。
2. ステップ下の灰色のワイヤ（刈取下降）と黄色のワイヤ（刈取上昇）のアジャスタのナットをゆるめます。
3. ステアリングワンレバーが図の位置で刈取部が上昇，下降するようにアジャスタを調節し，ロックします。

● エンジン～こぎ胴入力ベルト

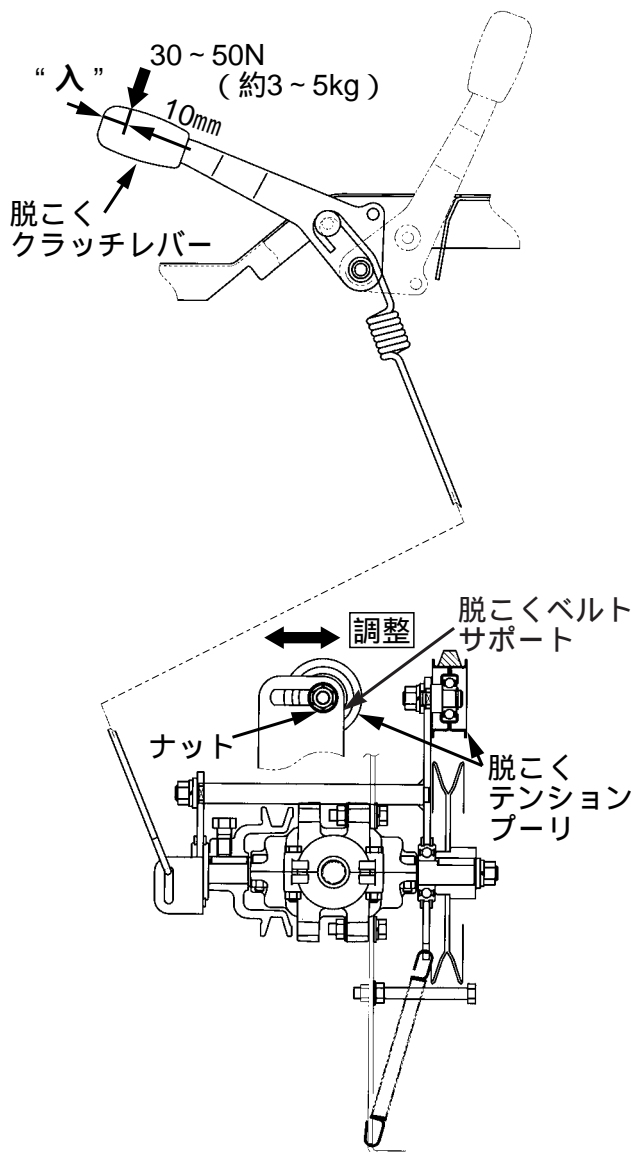
エンジンアイドリング時に，脱こくクラッチレバーを“入”位置にするときの最大荷重が30～50N（約３～５kg）になるように，脱こくテンションプーリ軸の位置を調整します。

1. エンジンルームをオープンします。
2. 脱こくクラッチレバーを“入”にするときの最大荷重を図の位置で測定します。

重　要

＊ 脱こくクラッチレバー荷重を測定するときは，脱こく部が作動しますので周囲をじゅうぶん確認して行なってください。

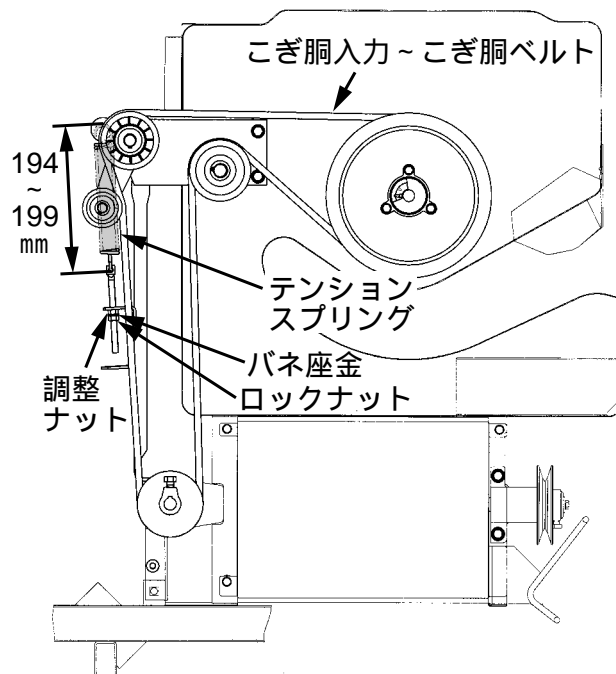
定期点検

3. 脱こくテンションプーリ軸のナットをゆるめ，脱こくテンションプーリ軸と脱こくベルトサポートの位置を調整します。

4. ナットを締付けたあと，エンジンルームを閉じます。

● **こぎ胴入力〜こぎ胴ベルト**

テンションスプリングの長さを194〜199㎜に調整します。

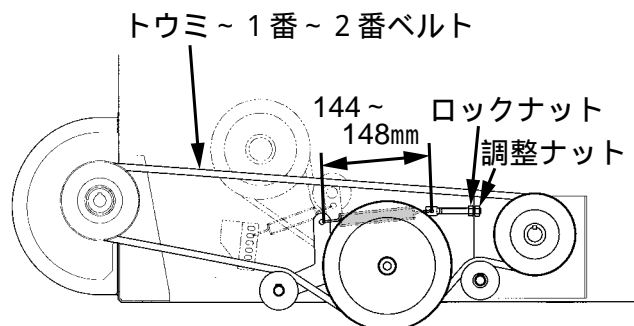
1. エンジンルームをオープンします。
2. ロックナットと調整ナットをゆるめて，調整ナットで調整を行ないます。
3. ロックナットを締付けたあと，エンジンルームを閉じます。

補　足

＊ **調整ナットとロックナットを締付けたあと，バネ座金のすき間がないことを確認してください。**

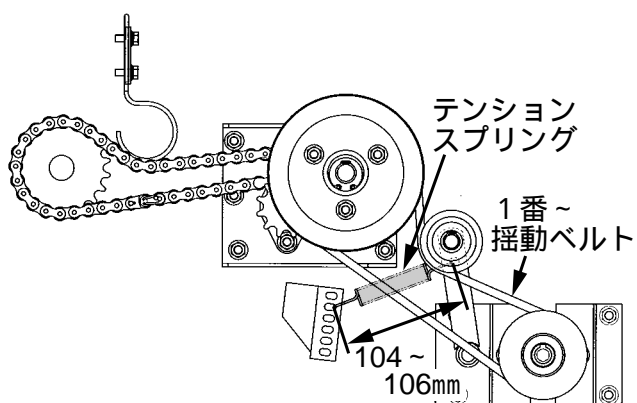
定期点検

● トウミ～１番～２番ベルト

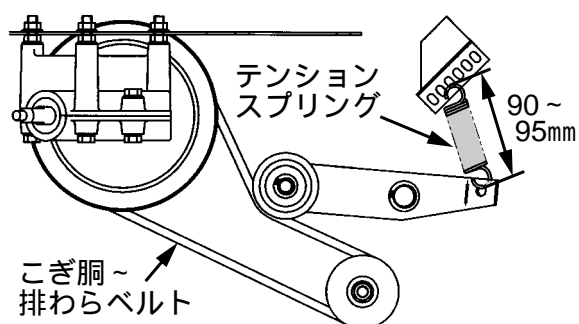
テンションスプリングの長さを144～148㎜に調整します。

1. 左サイドカバー上，下を外します。
2. ロックナットと調整ナットをゆるめて，調整ナットで調整を行ないます。
3. ロックナットを締付けたあと，左サイドカバー上，下を取付けます。

● １番～揺動ベルト

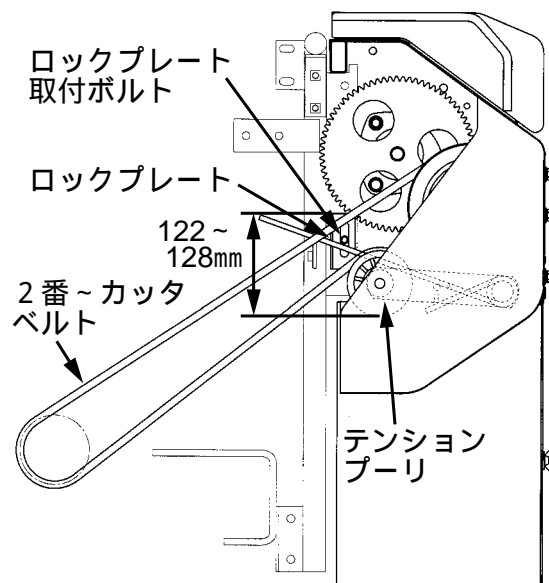
テンションスプリングの長さを104～106㎜に調整します。

1. 左サイドカバー上，下を外します。
2. テンションスプリングの長さが104～106㎜になる穴位置にテンションスプリングを掛けかえます。
3. 左サイドカバー上，下を取付けます。

● こぎ胴～排わらベルト

テンションスプリングの長さを84～86㎜に調整します。

1. 脱こく上部カバーをオープンしストッパでロックします。
2. テンションスプリングの長さが84～86㎜になる穴位置にテンションスプリングを掛けかえます。
3. 脱こく上部カバーを閉め，ノブボルトを締付けます。

● ２番～カッタベルト

ロックプレート上端とテンションプーリ下端の上下方向の長さが122～128㎜になるよう調整します。

1. 左サイドカバー上，下を外します。
2. ロックプレート上端とテンションプーリ下端の長さが122～128㎜になるようロックプレート取付ボルトをゆるめて調整します。
3. ロックプレート取付ボルトを締付け，左サイドカバー上，下を取付けます。

定期点検

● **カウンタ～ミッションベルト**

テンションスプリングの長さを194～199㎜に調整します。

1. エンジンルームをオープンします。
2. ロックナットと調整ナットをゆるめて，調整ナットで調整を行ないます。
3. ロックナットを締付けたあと，カバーを取付けエンジンルームを閉じます。

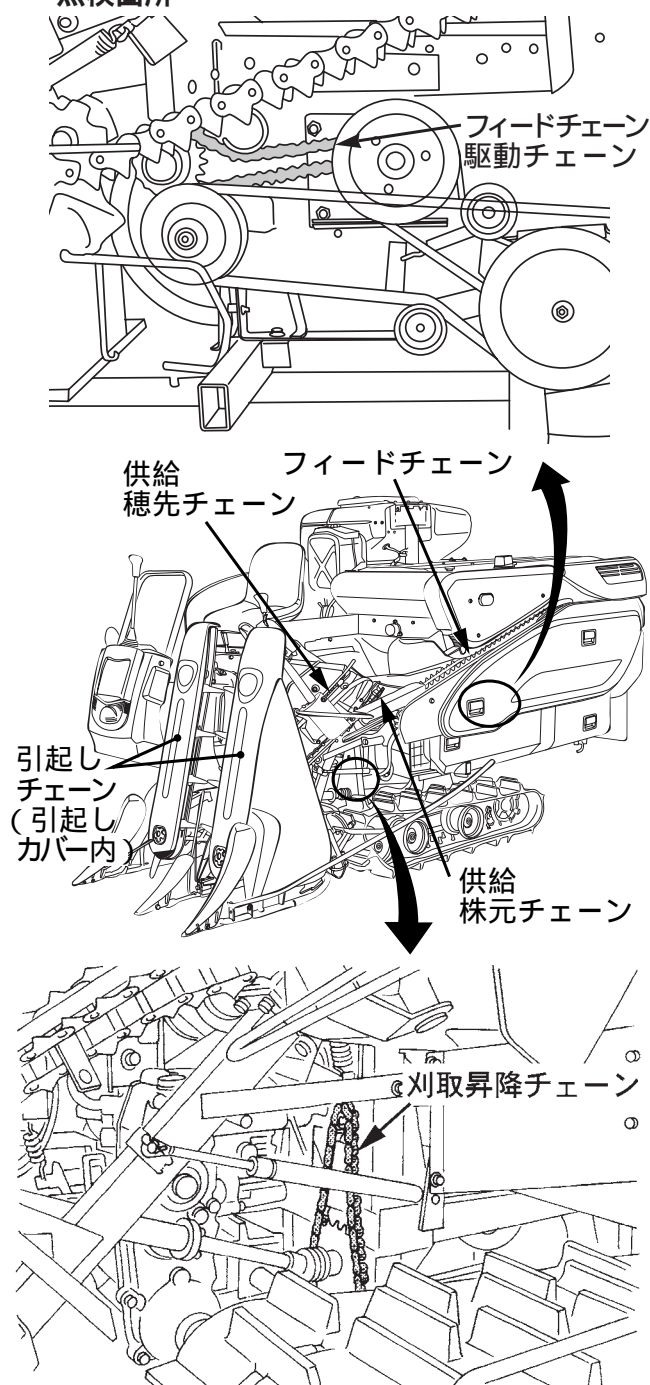
補　足

＊ 調整ナットとロックナットを締付けたあと，バネ座金のすき間がないことを確認してください。

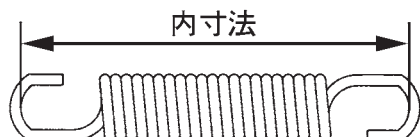
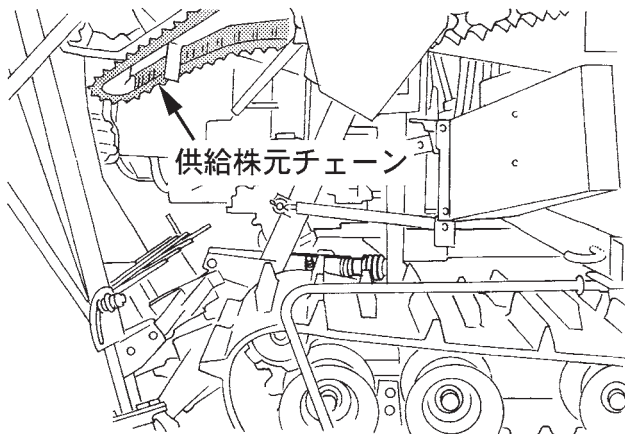
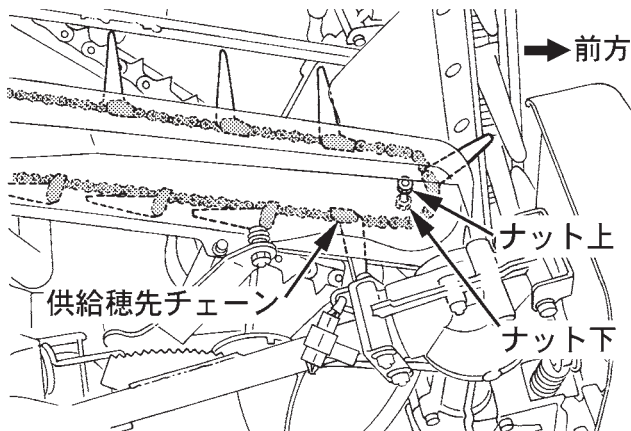
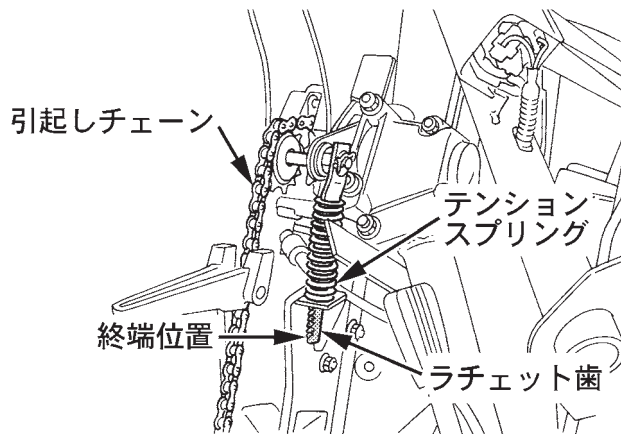
■各部チェーンの点検・調整

◆点検

各部のチェーンを点検して，ゆるみがあるときは調整してください。

● **点検箇所**

◆調整
チェーンが伸びているときは，張り調整を行なってください。

補　足

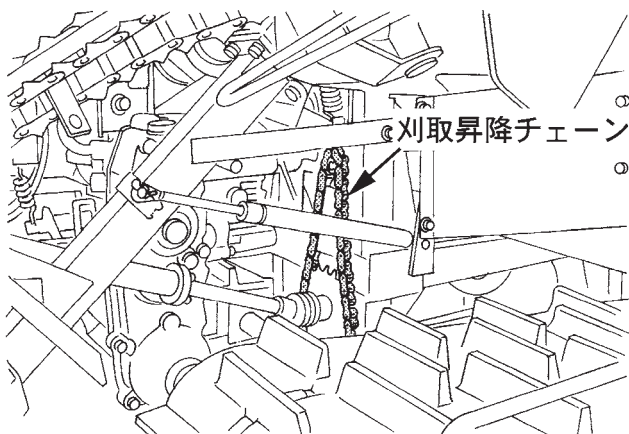
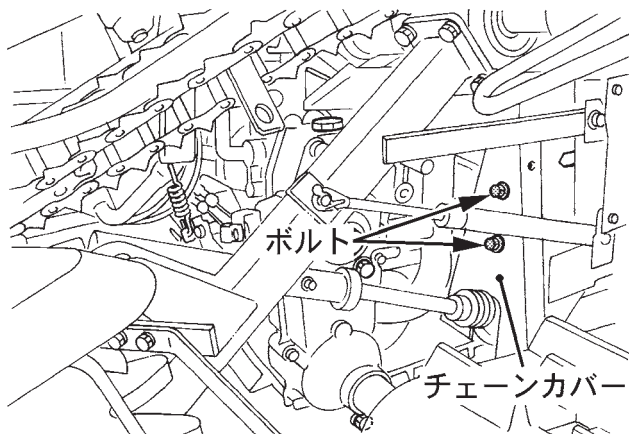
＊ スプリングの取付け長さは，フックの内寸法を測定してください。

● 供給株元チェーン
供給株元チェーンの張り調整は自動（自動テンション）で行ないますが，伸びたときは，購入先に連絡して交換してください。

● 供給穂先チェーン
定期点検のときにナット上，下をゆるめてください。自動的にチェーンが張られます。調整後はナット上，下を確実に締めてください。また，ナット上，下をゆるめてもチェーンが張られないときは，購入先に連絡して交換してください。

● 引起しチェーン
引起しチェーンの張り調整は自動（自動テンション）で行ないますが，ラチェット歯の終端位置までチェーンが伸びたときは，購入先に連絡して交換してください。点検するときは引起しカバーを取外してください。

補　足

＊ チェーンが，伸びるとラチェット歯がスプリングに引張られ自動的に上昇します。

定期点検

● 刈取昇降チェーン

定期点検や湿田作業のあと，刈取昇降チェーンを点検したとき，泥を除去してグリース又はオイルをチェーン全体に塗ってください。

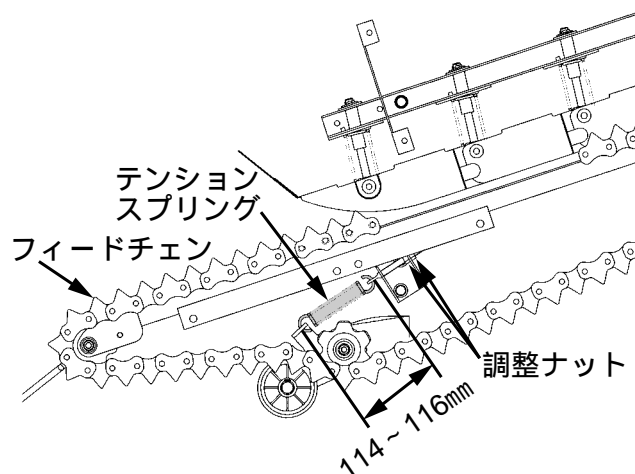
1. 刈取部を最上昇したあと，エンジンを止めて下降ロックレバーをロックして刈取部の下降防止をします。
2. ボルト２本を取外して，刈取昇降チェーンカバーを取外して泥を除去して注油します。
3. 刈取昇降チェーンカバーを取付けます。

重　要

＊ 格納時は，必ずチェーンカバーを外してチェーン全体にグリース又はオイルを塗ってください。

● フィードチェーン

フィードチェーンの張り調整は下記要領で行ないます。

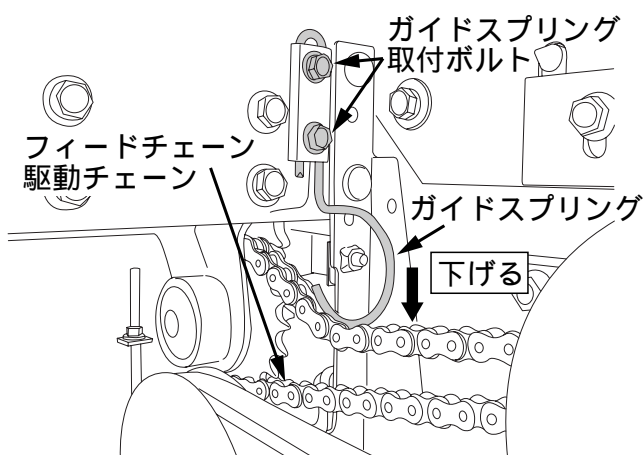
1. 左サイドカバー上を外します。
2. テンションスプリングの長さが114～116㎜になるよう調整ナットで調整します。
3. 調整ナットを締付け，左サイドカバー上を取付けます。

重　要

＊ 117㎜以上に張りすぎると，安全装置が機能しなくなる可能性があります。

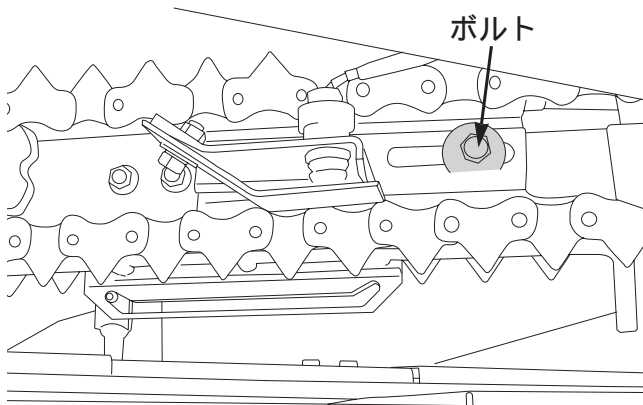
定期点検

● フィードチェーン駆動チェーン

フィードチェーン駆動チェーンが伸びているときは，下記要領で張り調整をしてください。

1. 左サイドカバー上を外します。
2. ガイドスプリング取付ボルトをゆるめ，ガイドスプリングを下に押し下げます。
3. チェーンのたるみが取れる位置でガイドスプリング取付ボルトを締付けます。
4. 左サイドカバー上を取付けます。

● 排わらチェーン

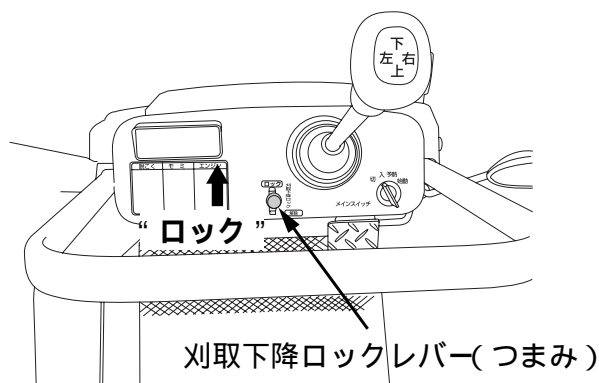
排わらチェーンの張り調整は下記要領で行ないます。

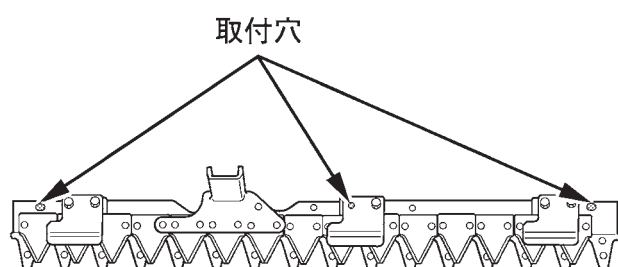
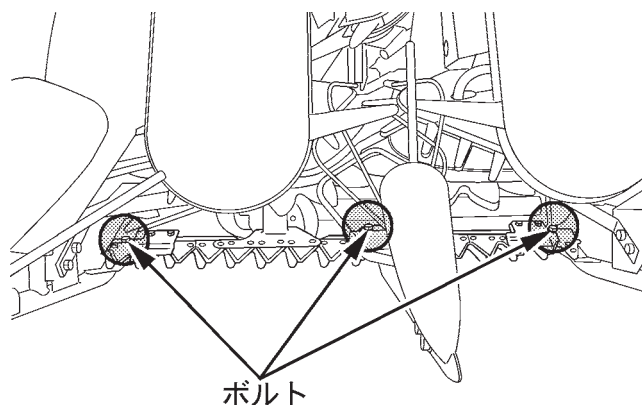
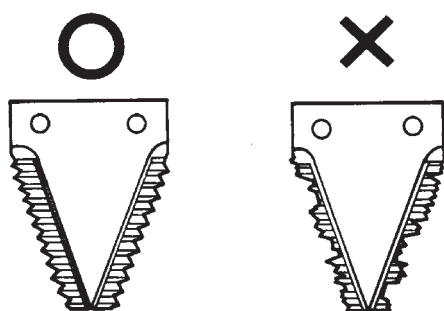
1. 脱こく上部カバーを開きます。
2. ボルトを１本ゆるめると自動的にチェーンが張られます。調整後はボルトを締め付けておきます。

■刈刃の点検・調整

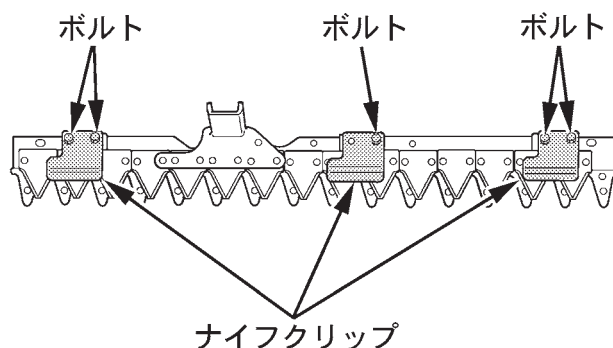
＊ 平たんな場所で刈取部を上げて，刈取下降ロックレバーを必ず“ロック”位置にして，落下防止の歯止めをしてください。
＊ 刃部に手を触れないでください。不用意に刃が動くと危険です。
＊ 刈刃を左右に動かすときは，刃先を持たないでください。
＊ 脱着作業は手袋をしてください。

刈刃の刃先が摩耗してきたり，刈刃と受刃のすき間が大きくなると，作物の刈跡が悪くなったり，引き抜きを起こすことがありますので，早目の点検・調整・交換を行なってください。

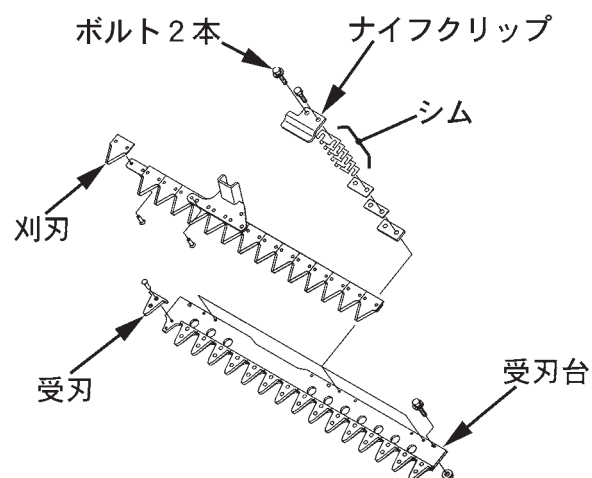
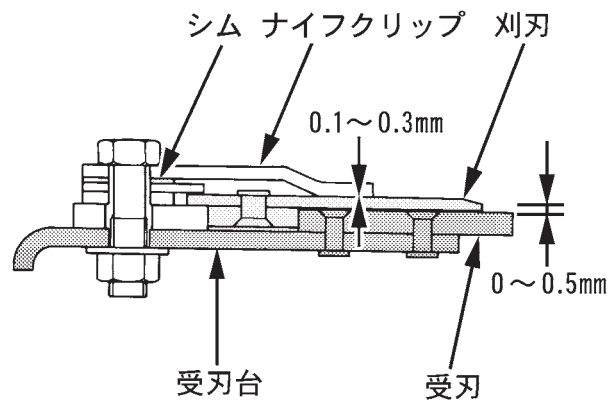
◆点検・取外し

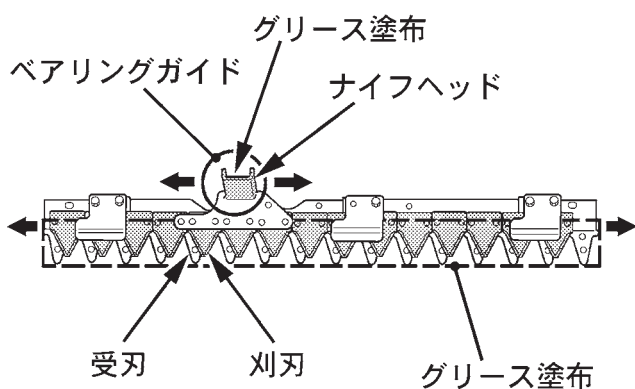
1. 刈取部を上げたあとエンジンを停止し，刈取下降ロックレバー（つまみ）を **“ロック”** 位置にします。

定期点検

2. ボルト３本を取外して刈刃全体を外します。

3. 刈刃と受刃のすき間と刈刃の動きを確認し，動きがかたいときは，注油，グリース塗布やすき間調整を行ないます。また，刃先が摩耗したり，欠けているときは購入先に連絡して新品に交換してください。

◆すきま調整

1. ボルト・ナットを取外してナイフクリップ（3箇所）を受刃台から外します。

補　足

＊ 刈刃と受刃台の間の土を掃除して完全に取除いてください。

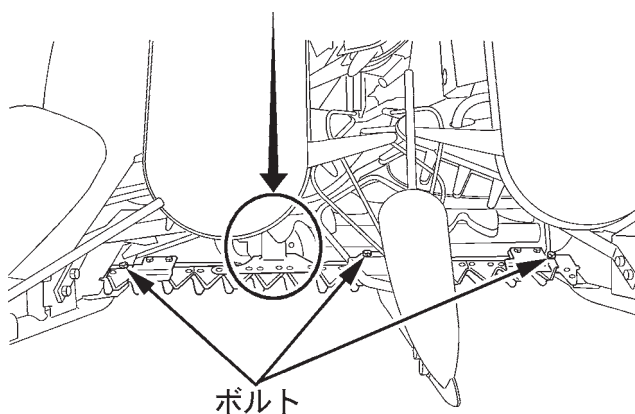
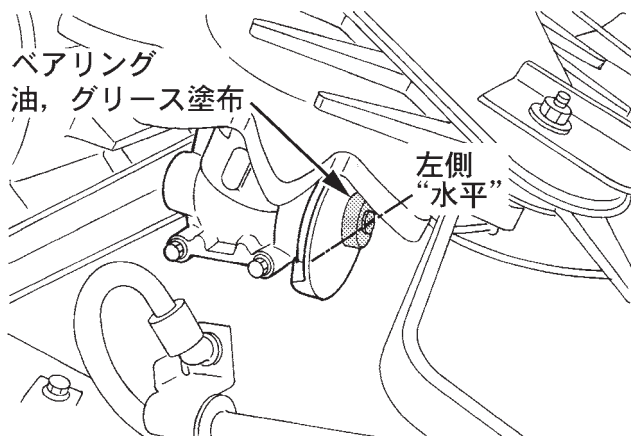
2. ナイフクリップと一緒に組付けているシムを増減して，刈刃と受刃のすきまを０～0.5㎜に調整します。

定期点検

3. ナイフクリップ（３箇所）をボルトで締付けます。このとき，締付けたあとの刈刃とナイフクリップのすき間が0.1 ～0.3㎜になるように調整します。（前図参照）
4. ナイフヘッドを持ち，刈刃を左，右に動かします。動かないときは再調整を行ない，異常がなければ受刃，刈刃，ナイフヘッドのベアリングガイドに油又はグリースを塗布します。

◆取付け

1. 刈刃を駆動するベアリングに油又はグリースを塗布します。

補　足

＊ ベアリングが固くて回転しないときは，ベアリングのシール部に注油して組付けてください。

2. ベアリングの位置が地面に対して左側の水平位置にあることを確認したあと，ナイフヘッドの溝にベアリングを合わせ刈刃全体をセットしてボルト３本で締付けます。

定期点検

■こぎ歯の点検・調整

警　告

＊ 中でこぎ歯が高速で回転しているので接触するとケガをします。こぎ胴上部カバーを開けるときは，エンジンを必ず停めてください。

注　意

＊ 平たんな場所でエンジンを必ず停止して，こぎ歯の点検・交換を行なってください。

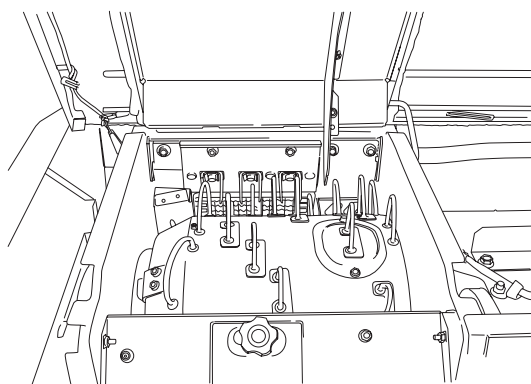
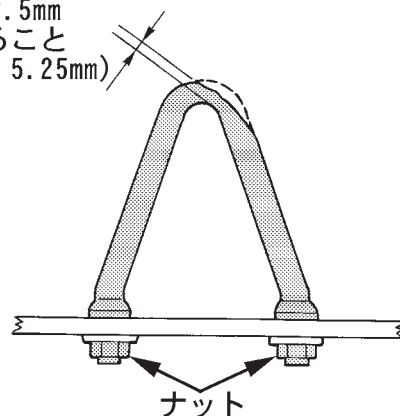
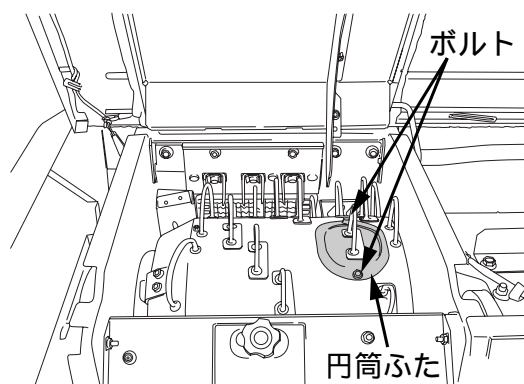
こぎ歯の歯先が摩耗してくると，受あみとのすき間が大きくなり，こぎ残しが発生する原因となりますので歯先の線径が2.5㎜以下になったときは新品と交換してください。

重　要

＊ 歯先の線径が2.5㎜以下になると，こぎ歯が変形したり，歯先が割れて故障の原因となります。

◆点検

1. 脱こく上部カバーをオープンします。
2. こぎ歯の歯先の摩耗量を測定し，線径が2.5㎜以下のときは交換します。

◆交換

1. ボルト２本を取外し，円筒ふたを取外します。
2. 円筒ふたから手を入れて，こぎ胴の内側からナット２個を取外し，摩耗したこぎ歯を取外します。
3. 新しいこぎ歯をナット２個で取付けます。
4. 円筒ふたをボルト２本で取付けます。

補　足

＊ 円筒ふたは180度方向に２箇所あります。

定期点検

■わら切刃の点検・交換

注　意

＊ 刃部に手を触れないでください。
＊ 危険ですので，手袋をして，脱着作業をしてください。

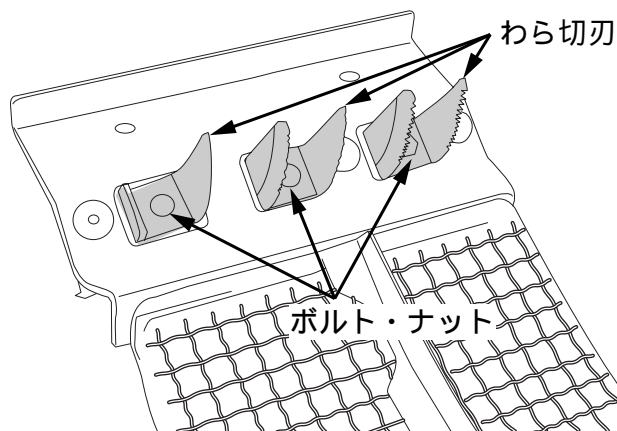
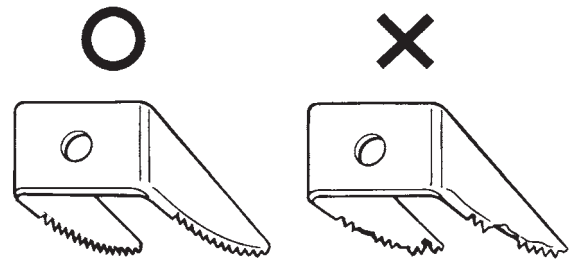
わら切刃が切れなくなると，こぎ胴室内に発生するわらくずを細かく切断できなくなるため，わらくずの移動が悪くなります。また，必要以上の動力を消費するばかりでなく，排じん選別室に送られたわらくずが排出されにくくなって，２番スクリュに巻きついたり２番スロワに詰まったりします。

◆点検・交換

1. 脱こく上部カバーをオープンします。（51ページ参照）
2. ボルトを外し受けあみを引出します。（51ページ参照）

重　要

＊ 受けあみを取出すとき，ボルトをこぎ室内に落とさないように注意してください。落としたときは，必ず拾い上げてください。詰まりや破損の原因となります。

3. 刃先を下側にして新品のわら切刃をセットし，ボルト・ナットで固定します。

4. 受けあみをセットします。（51ページ参照）

重　要

＊ わら切刃を取付けるときは，刃先を下側にして，傾きの出ないように注意して取付けてください。

5. 脱こく上部カバーを閉じます。

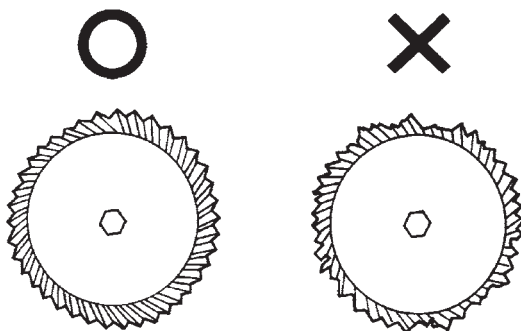
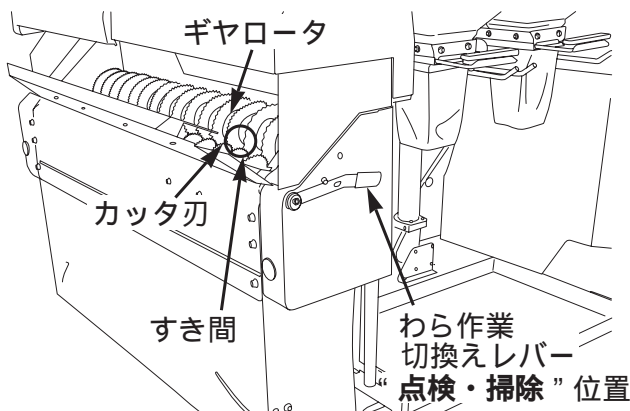
定期点検

■カッタ部の点検・調整

＊ 平たんな場所でエンジンを必ず停止して行なってください。
＊ 手袋を使用し，直接カッタ刃に触れないでください。

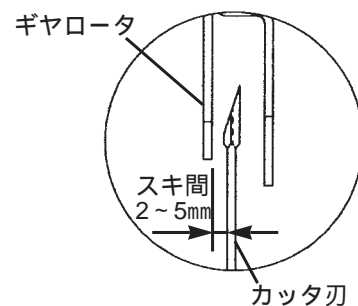
補　足

＊ わらくずなどは取除いてください。

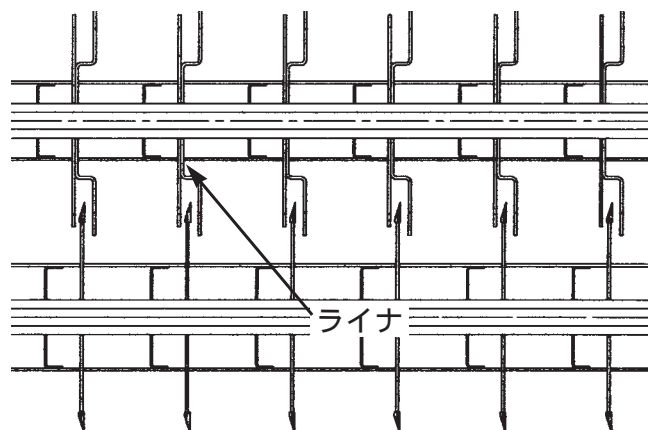
わら作業切換えレバーを **“ 点検・掃除 ”** 位置にして切断刃（カッタ刃）とギヤロータのラップ代とすき間を確認します。刃先が摩耗したり，欠けているときは交換してください。また，切断刃（カッタ刃）とギヤロータのラップ代やすき間が大きかったり，小さかったりする場合は調整してください。

◆切断刃と供給刃のすき間の点検・調整

ギヤロータと切断刃（カッタ刃）のすき間を確認し，すき間が2.0 〜5.0㎜の範囲から外れているときは，すき間調整を行ないます。

● 点検

1. カッタ切換えカバーを開きます。
2. カッタ刃とギヤロータのすき間を確認し，2.0〜5.0㎜の範囲から外れているときは調整を行ないます。

● 調整

カッタ刃とギヤロータがくっついていたり，離れているときはすきま調整を行ないます。
ギヤロータの間にライナを使用して，すき間を2.0〜5.0㎜に調整します。

重　要

＊ すき間が適正範囲（2.0〜5.0㎜）外になると，刃物の接触が発生し破損するおそれがあります。また，わらの切断精度が悪くなります。
＊ すき間は，株元側と穂先側の両端部で測定してください。

定期点検

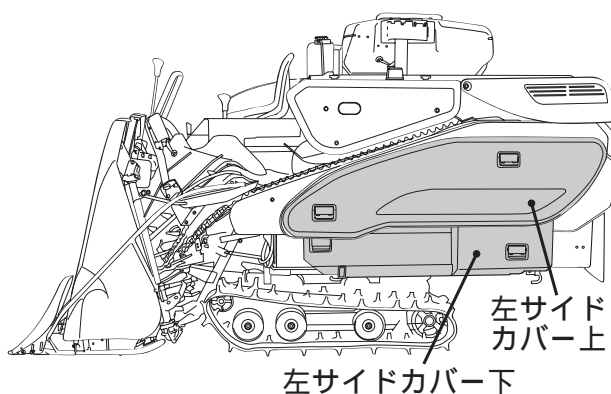
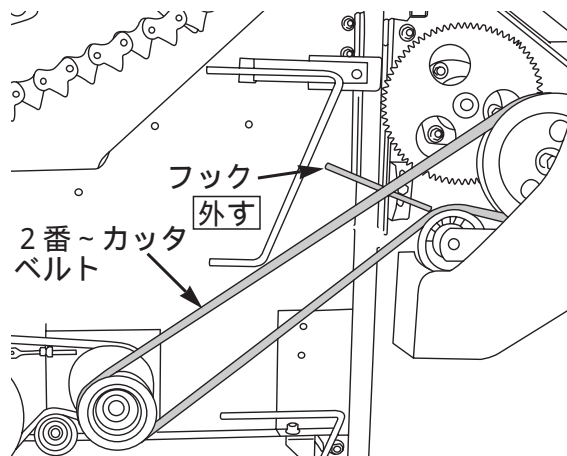
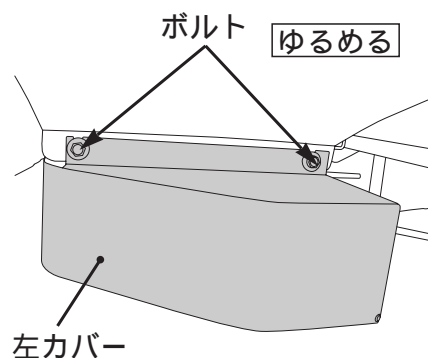
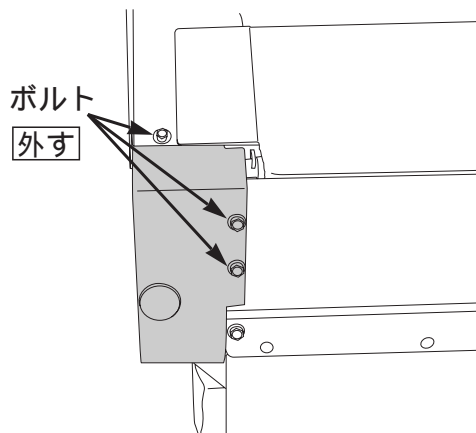
■カッタ刃の交換

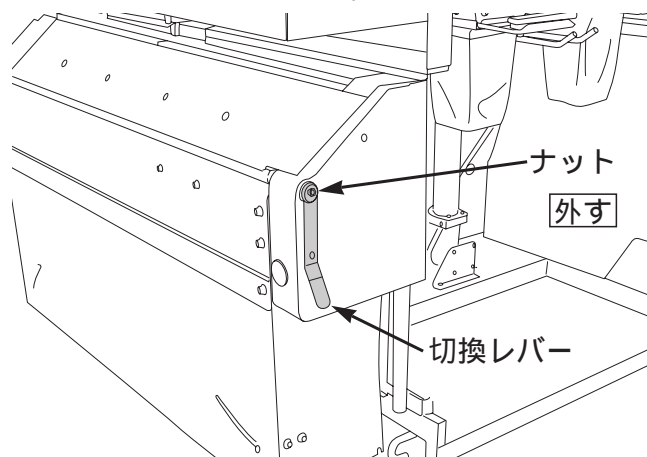
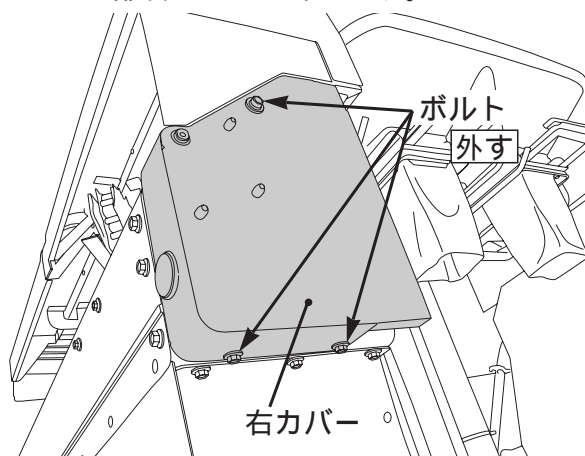
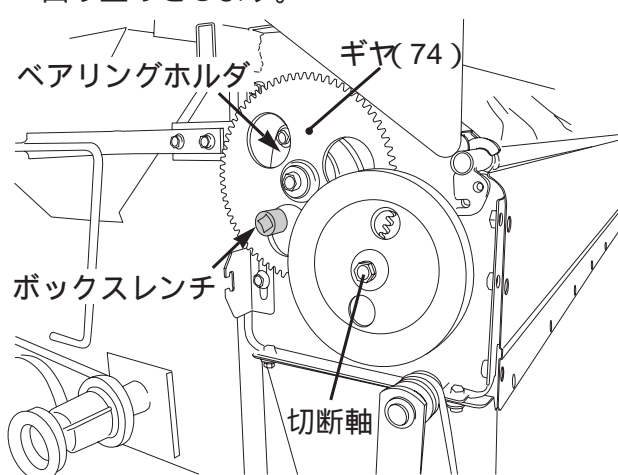
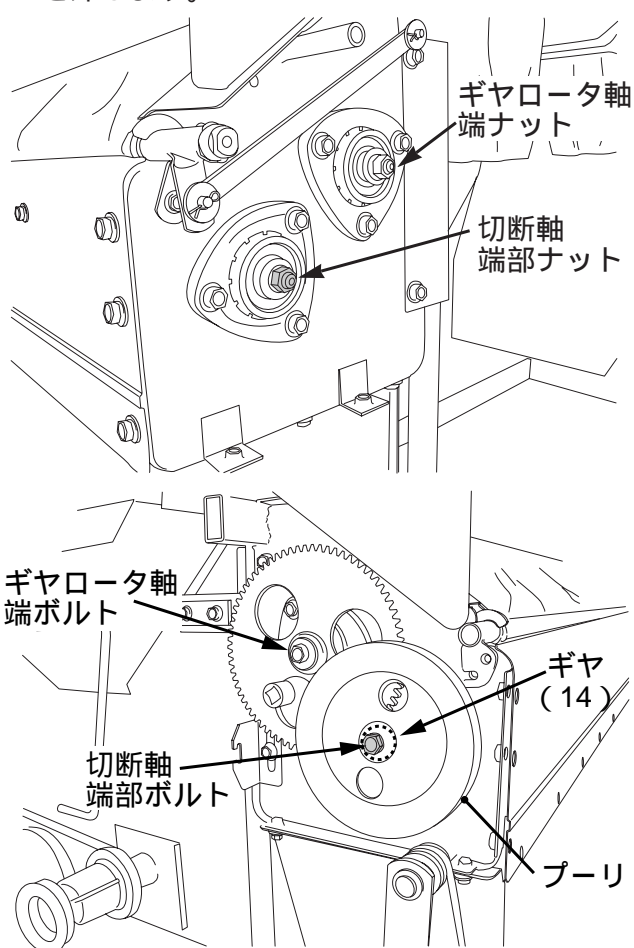
警 告

＊ カッタ刃を交換するときは，エンジンを必ず止めてください。
＊ 手袋を使用し，直接カッタ刃に触れないでください。
＊ 切断刃軸を外すときは，２人でカッタ刃のない両端を持って脱着作業をしてください。

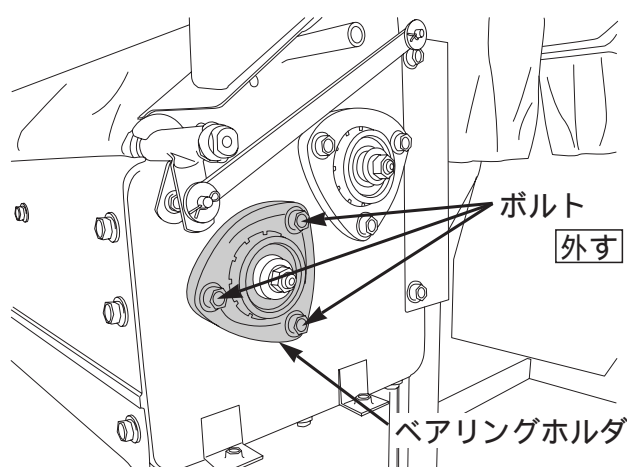
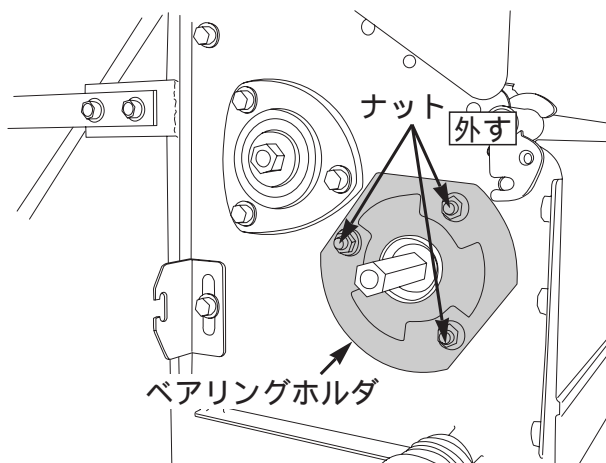
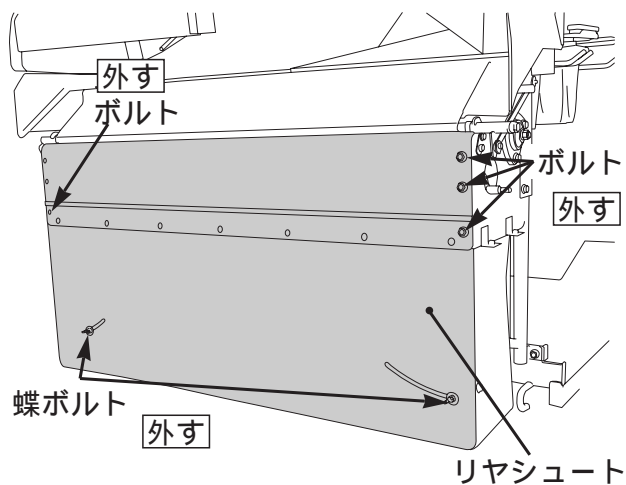
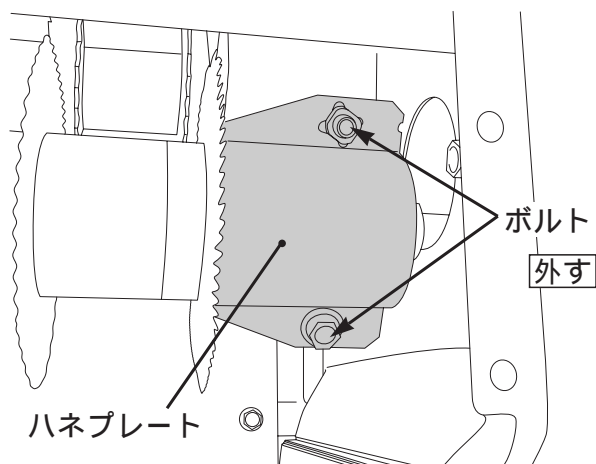
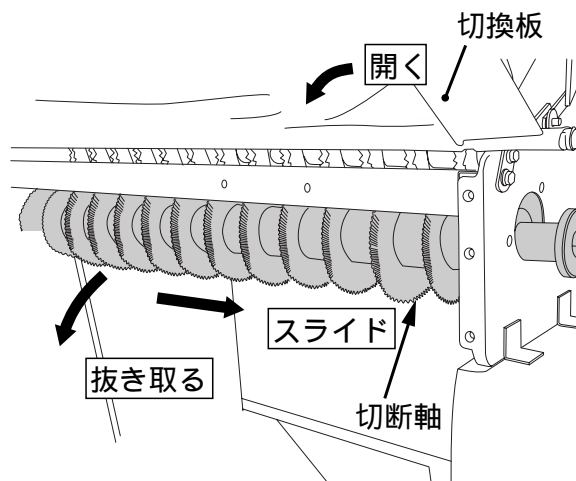
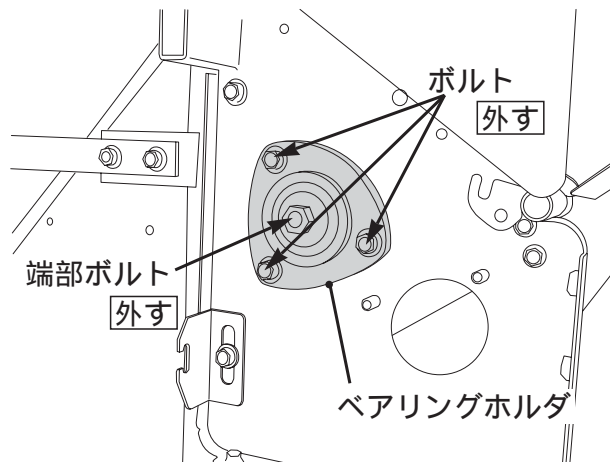
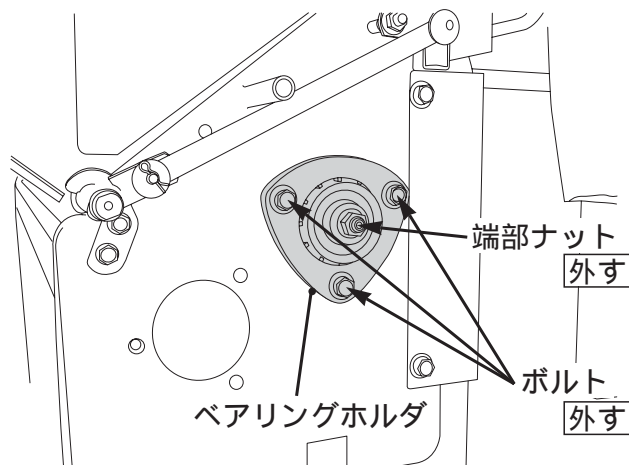
重 要

＊ 軸の締付けトルクは25.4〜29.4N・m（250〜300kgf・㎝）です。確実に締付けてください。（95ページ参照）
組付け時，刃物・パイプ端面に砂など異物が付着しますと，刃物間寸法が出ない場合がありますので注意してください。
＊ 軸を垂直に立てて組んでください。組付け後の軸振れが無くなります。
＊ 刃の向き，組合せが逆にならないよう回転方向に注意してください。
＊ 組付け後，刃と刃が接触していないか軽く回して確かめてください。

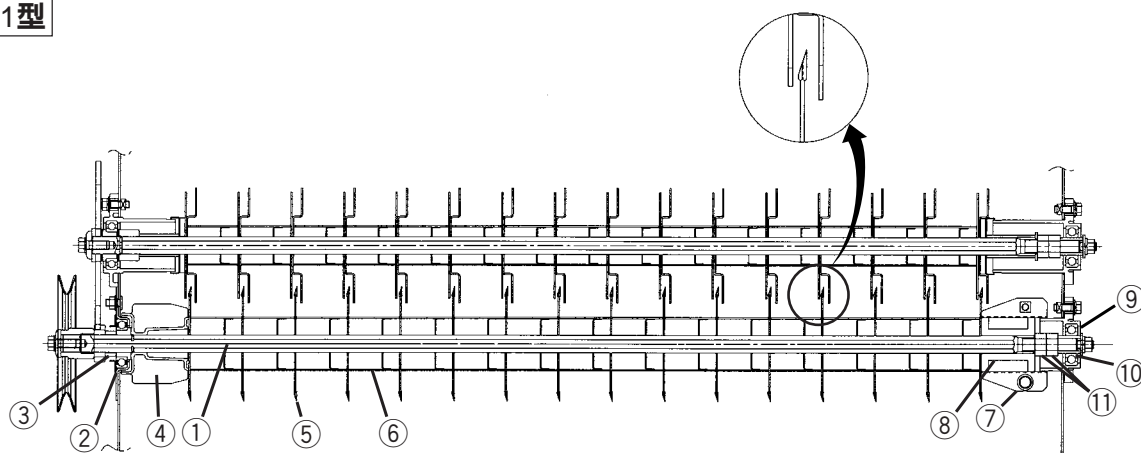
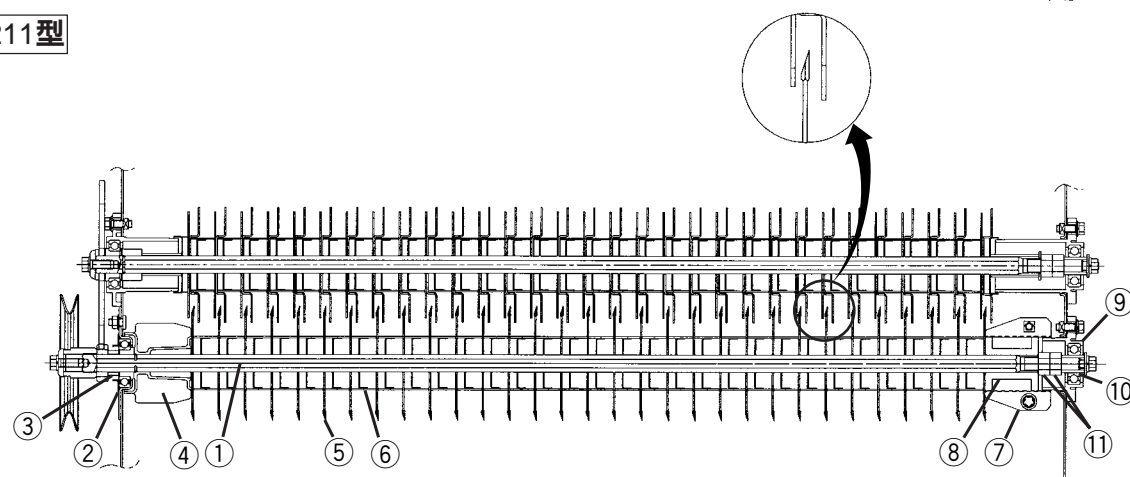
1. 左サイドカバー上，下を外します。

2. テンションプーリのフックを外し２番〜カッタベルトを外します。

3. カッタ部左カバーを外します。

定期点検

4. 切換レバーを外します。

5. カッタ部右カバーを外します。

6. ギヤ（74）の穴部からベアリングホルダ取付ボルトにボックスレンチを差し込み切断軸の回り止めをします。

7. 切断軸両端部のナット，スプリングワッシャ，ワッシャを外し，左側のプーリとギヤ（14）を外します。

補　足

＊ **ギヤロータ軸も外す場合は，ギヤ（14）を外す前にギヤロータ軸両端のナット及びボルトをゆるめておきます。**

8. 切断軸両端のベアリングホルダを外します。

9. リヤカバーを外します。

10. 切断軸のハネプレートを外します。

11. 切換板を手前に開けて切断軸をスライドさせて抜き取ります。

12. ギヤロータ軸を外す場合は，あらかじめゆるめておいた両端ナットを外し，ギヤ（74），ワッシャ，ライナを外し両端のベアリングホルダを外してからギヤロータ軸を外します。

13. カッタ刃の交換が終わると，逆の手順で組付けます。

定期点検

図番	品　　番	品　　　名	個　　　　数	
			S-AJ211(16枚刃)型	SS-AJ211(31枚刃)型
①	LMC04-10161	シャフトA（セツダン）	1	1
②	LMC04-10061	メタルA	1	1
③	LMC04-10071	スリーブA	1	1
④	LMC04-10181	ハネ	1	1
⑤	LMC04-10481	セツダン	16	31
⑥	LMC04-10191	パイプA	15	―
	LMC05-10011	パイプC	―	30
⑦	LMC04-10061	ハネプレート	2	2
⑧	LMC04-10221	スペーサ	1	1
⑨	LMC04-10101	ホルダB	1	1
⑩	LMC04-10081	スリーブB	1	1
⑪	LM010-00050	ナット	2	2

⑪部品締付トルク：25.4～29.4N・m
{250～300kgf・㎝}

定期点検

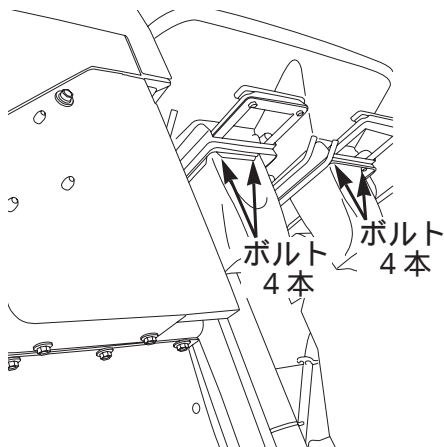
■吐出口ブーツの点検・交換

吐出口ブーツが破損したときは交換してください。

◆交換

1. ブーツを取付けているボルト左，右各２本を外します。
2. 破損したブーツを取外し，新しいブーツを取付けます。

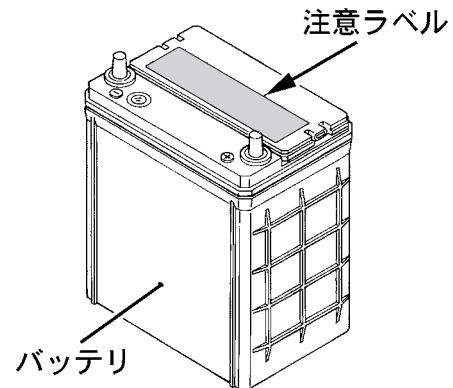
補　足

＊ **ブーツを取付けるとき，ブーツの取付け方向を間違えないでください。**

重　要

＊ **ブーツは必ずクボタ純正のものを使用してください。**

■バッテリの点検・交換

バッテリ上面に貼ってある取扱いの注意ラベルをよく読んでください。

危　険

＊ **バッテリの近くに裸火（マッチ，ライター，タバコの火など）を近づけたり，（＋）端子と（－）端子が金属工具などの接触によって起こるスパークをさせないでください。バッテリのガスで引火爆発するおそれがあります。**
＊ **バッテリを取扱うときは，必ず保護メガネとゴム手袋を着用してください。バッテリに入っている電解液（希硫酸）により，失明やヤケドの原因となります。**
＊ **充電器やブースターケーブルを使用するときの取扱いは，それぞれの取扱説明書に従って行なってください。取扱いを誤まると引火爆発するおそれがあります。**
＊ **この12Vバッテリはエンジン始動用ですから，他の用途には使用しないでください。**
＊ **急速充電は厳禁です。**
＊ **開封は厳禁です。（密封タイプ）**

警　告

＊ **バッテリを乾いた布などで掃除しないでください。静電気により引火爆発するおそれがあります。**

補　足

＊ **出荷時は，補水不要のバッテリです。**

定期点検

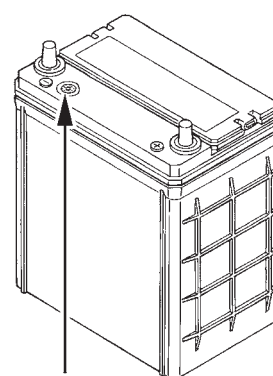
⚠ 危険

バッテリが破損や傾いたりして，液もれが発生しているとき………
＊ バッテリ液が身体や衣服に付かないようにしてください。付着したときは，すぐに水で洗い流してください。電解液（希硫酸）によってヤケドすることがあります。
＊ バッテリの電解液（希硫酸）が目に入った場合は，ただちに多量の清水で洗浄したあと，速やかに医師（眼科医）の治療を受けてください。失明の原因となります。

バッテリの状態を点検し，異常があれば処置します。

1. ナットをゆるめフックを外して，バッテリカバー（ビニールカバー）をめくります。

2. バッテリの状態を点検し，異常があれば処置します。
   (1) バッテリ上面にあるインジケータの色で充電状態を確認します。下表を参照し，処置を行なってください。

表示の色	充電状態	処　　置
緑	正常	使用可能
黒	放電している	補充電
透明	液減り	交換

補　足

＊ インジケータは真上から確認してください。

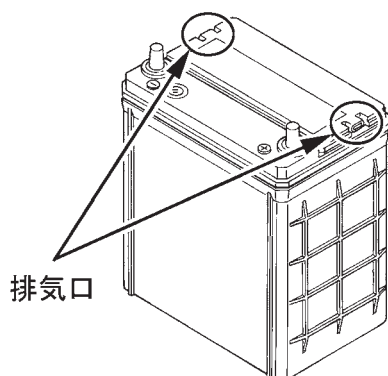
   (2) バッテリが破損して液もれが発生しているときは，交換してください。

重　要

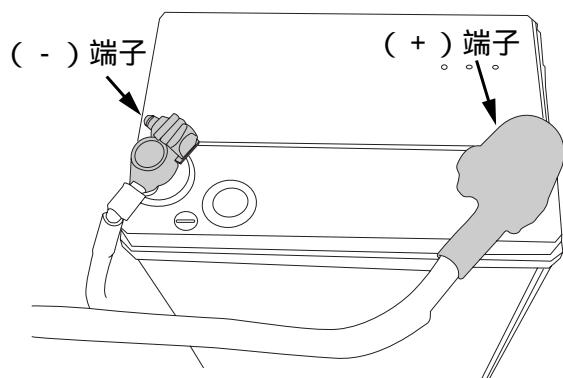
＊ 液もれが発生すると車体が腐食する原因となります。

（3）ふたの排気口にゴミなどが付着しているときは掃除してください。

重　要

＊ 排気口をふさぎますと，バッテリ内部で発生するガスによりバッテリの内圧が上がり，破損する原因となります。

（4）バッテリケーブルの破損や（＋）端子，（－）端子にゆるみや腐食がないか確認し，ケーブルの交換や端子の増締めや掃除を行ないます。

◆補充電・交換

警　告

＊ バッテリは，以下の順序で取換えてください。順序を誤まると，ショートによるスパークで引火爆発するおそれがあります。
・取外し…（－）端子側（アース側）から外す。
・取付け…（－）端子側（アース側）を最後に接続する。

＊ バッテリを転倒させたり，衝撃を与えたりしないでください。電解液（希硫酸）のもれにより，失明やヤケドをするおそれがあります。

＊ バッテリを機体に取付けた状態での充電は避けてください。バッテリの引火爆発や機体損傷の原因となるおそれがあります。

＊ バッテリの取付け方向を間違えないでください。（＋）と（－）が逆に取付けられると接続ケーブルが損傷し，火災の原因となるおそれがあります。

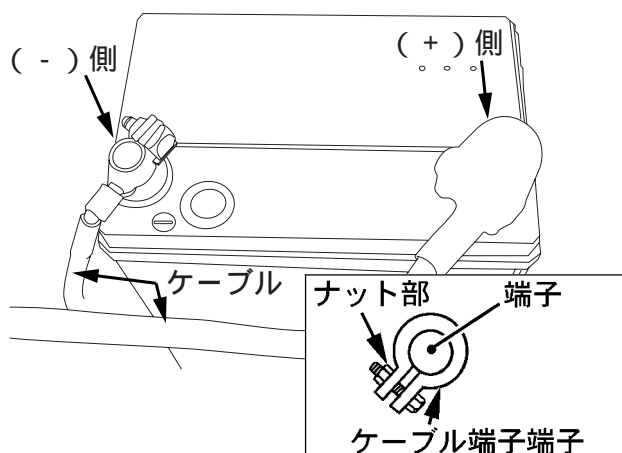
＊ バッテリを投げたり，落としたり，斜めにしたり，衝撃を与えたりしないでください。バッテリに入っている電解液（希硫酸）により，失明やヤケドの原因となることがあります。

次のような状態が発生したときは補充電を行なってください。また，補充電を行なっても短時間で再発するときや状態が良くならないときは，バッテリの寿命ですので交換を行なってください。

- スタータモータの回転が，いつもより弱い。
- アクセルの加減で，ヘッドランプの明るさが変わる。
- ホーンの音が，いつもより低い。
- バッテリ電解液の減りが早い。

1. バッテリを機体から取外します。
   （1）ナットをゆるめフックを外します。
   （2）ケーブル端子のナットをゆるめて，端子からケーブル端子を取外します。取外すときは，必ず（－）側から取外してください。

定期点検

重　要

＊ バッテリを斜めにしたり，横倒しにして運ばないでください。電解液（希硫酸）がこぼれ，衣服の損傷の原因となります。

2. 補充電を行なうときは，平たんで風通しの良い場所を選んで行ないます。また，充電は，バッテリの（＋）を充電器の（＋）側に，バッテリの（－）を充電器の（－）側にそれぞれ接続して，普通の充電方法で行なってください。

3. 補充電が終わると取外したときと逆の手順で取付けます。

重　要

＊ バッテリを交換するとき，バッテリは下記指定のバッテリを使用してください。電圧や容量が違うと故障の原因となります。
バッテリ形式：34B19L-MF
＊ バッテリはエンジン始動用ですから，他の用途には使用しないでください。
＊ バッテリはきちんと取付けてください。傾いたりすると転倒や液もれの原因となります。

補水が必要なバッテリの場合
（補水が不要なバッテリの説明と異なる部分の説明です。）

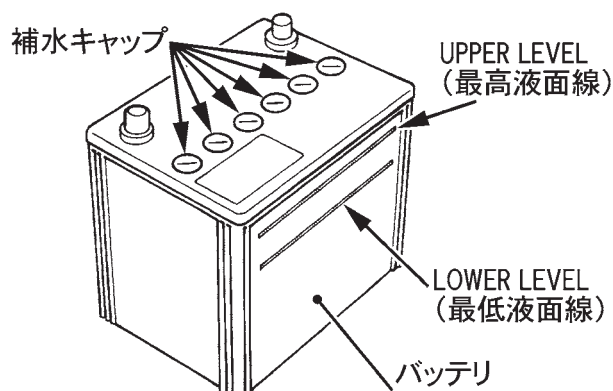
◆点検・補水

バッテリには補水不要なタイプと補水が必要なバッテリの２種類があります。補水が必要なバッテリについては，以下の事を守ってください。
＊ バッテリは液面がLOWER（最低液面線）以下になったままで使用や充電をしないでください。
LOWER以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され，バッテリの寿命を縮めるばかりでなく，爆発の原因となることがあります。
すぐにUPPER LEVELとLOWER LEVELの間に補水してください。
＊ バッテリ液が身体や衣服に付かないようにしてください。付着したときは，すぐに水で洗い流してください。電解液（希硫酸）によってヤケドすることがあります。

バッテリの状態を点検し，異常があれば処置します。

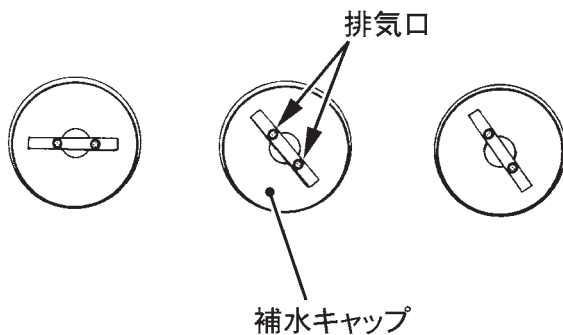
1. バッテリ液の量を点検し，**[UPPER LEVEL]**（最高液面線）と **[LOWER LEVEL]**（最低液面線）の間に液量があるか確認し，不足しているときは補水キャップを外して補水します。

定期点検

重　要

＊ バッテリ液が不足して極板が空気中に露出しますと，バッテリの寿命は著しく短くなります。
＊ バッテリ液を補充する場合は，必ず精製水を補充してください。希硫酸・井戸水・泥水などは絶対に入れないでください。
＊ バッテリに精製水を入れ過ぎないでください。液もれして機体を傷めるおそれがあります。

2. 補水キャップの排気口にゴミなどが付着しているときは掃除してください。

重　要

＊ 排気口をふさぎますと，バッテリ内部で発生するガスによりバッテリの内圧が上がり，破損する原因となります。

◆補充電・交換

注　意

＊ 補充電中は補水キャップ全てを取外して行ないますので裸火は近づけないでください。引火爆発するおそれがあります。

1. 補充電を行なうときは，平たんで風通しの良い場所を選んで補水キャップを全て取外した状態で行ないます。
   また，充電は，バッテリの（＋）を充電器の（＋）側に，バッテリの（－）を充電器の（－）側にそれぞれ接続して，普通の充電方法で行なってください。

補　足

＊ 急速充電を行なったときは，作業後必ず補充電を行なってください。

2. 補充電が終ると補水キャップを全て取付けてください。

定期点検

■電気の各配線コード・各ヒューズの点検・交換

注　意

＊ 配線コード被覆の損傷やコネクタ（端子）の接触不良によるろう電やショート（短絡）は火災の原因となります。

◆各配線コードの点検・交換

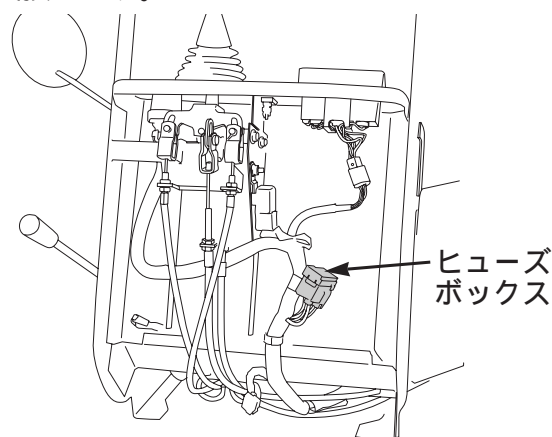
各配線コードのコネクタ（端子）の接続状態を点検し，ゆるみや外れがあるときは確実に差込んでください。また，被覆の損傷状態を点検し，被覆が破れているときは，販売店へ連絡して交換してください。

◆各ヒューズの交換

ヒューズ切れによる異常が発生したときは，ヒューズを交換してください。

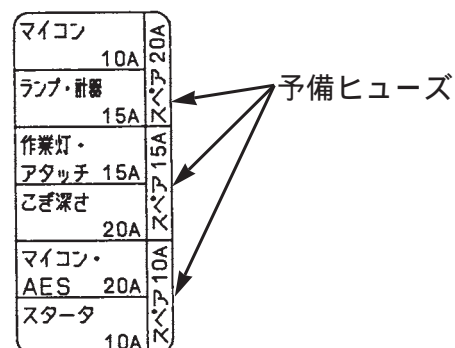
重　要

＊ 新しいヒューズは必ず指定容量のヒューズを使用してください。異なる容量のヒューズを使用すると故障の原因となります。
＊ ヒューズを交換してもすぐ切れてしまう場合は，針金や銀紙などで代用せず，購入先に連絡してください。

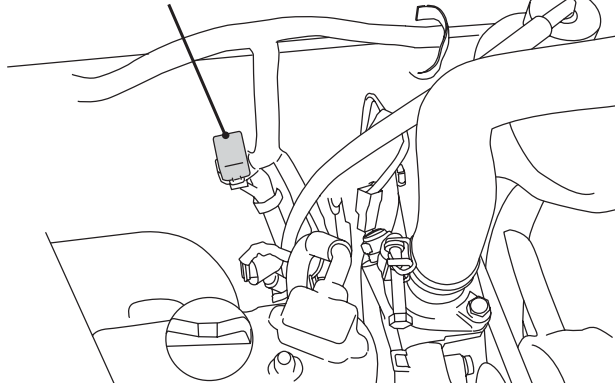
1. 刈取部を地面に接地させエンジンを止めます。
2. ノブボルト２本を取外して運転席フロントパネルを外します。（50ページ参照）
3. ヒューズボックスのカバーを取外します。
4. ヒューズが切れた箇所に同じ容量のヒューズと交換します。

5. フロントパネルを元通り組付けます。

受けもっている回路	容　　量
マイコン	10A
ランプ・計器	15A
作業灯・アタッチ	15A
こぎ深さ自動	20A
マイコン・AES	20A
スタータ	10A

補　足

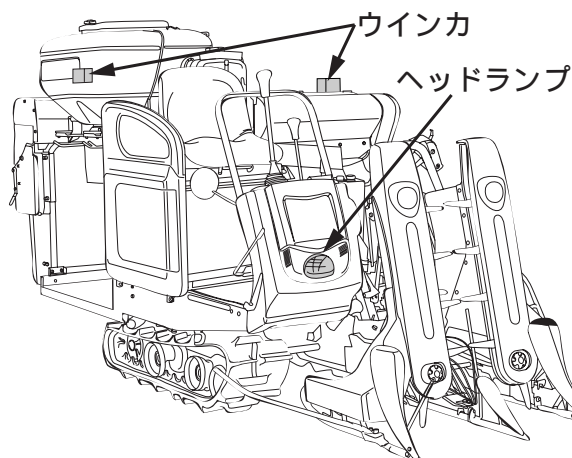
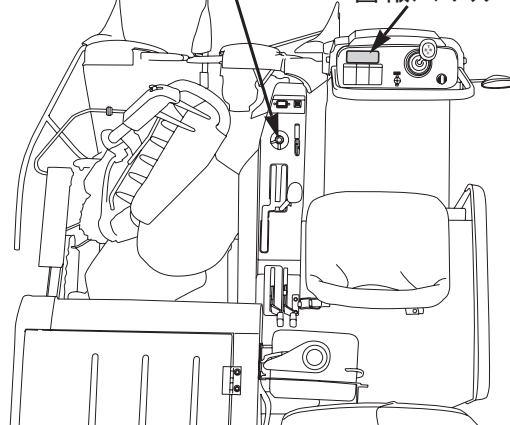
＊ ヒューズボックス内に予備ヒューズ10A，15A，20Aが各１本入っております。

定期点検

◆スローブローヒューズ（40A）の点検・交換

スローブローヒューズは，過電流が流れたときに各配線が損傷しないように保護するためのものです。エンジンがかからないときは点検し，切れているときは新しいヒューズと交換してください。（125ページ参照）

［エンジンルーム内］

■ランプ（電球）の点検・交換

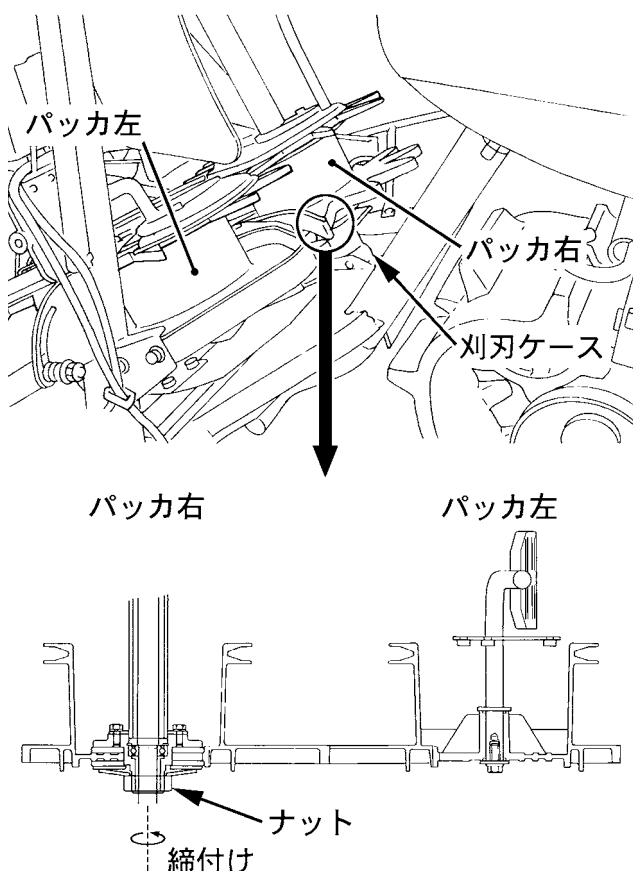
■ホーンスイッチの点検

ランプ（電球）切れがないか点検し，切れているときは交換してください。また，ホーンスイッチを押して点検し，鳴らないときは，配線やヒューズを確認してください。

定期点検

■パッカのトルクリミッタの調整

トルクリミッタは右側のパッカに取付けてあり，パッカに過負荷がかかるとクラッチがスリップし，パッカの回転を止めて機械の破損を防止する安全装置です。パッカがスリップして頻繁に詰まるときは，購入先に依頼して調整してください。

◆調整

1. 刈刃ケース後方の窓からレンチを差込んでナットを増締めします。
2. スリップ時のトルクが，98～128N･m（10～13kgf・m）になるようにナットを締めてください。

■刈取部上昇高さの点検・調整

警　告

＊ 平坦な場所でエンジンを必ず停止して，刈取部上昇けん制アームの調整を行なってください。
＊ 刈取下降ロックレバーで刈取部を“ロック”して刈取部上昇けん制アームの調整を行なってください。

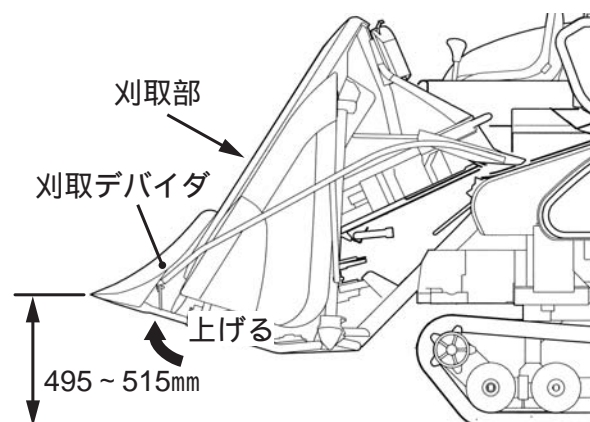
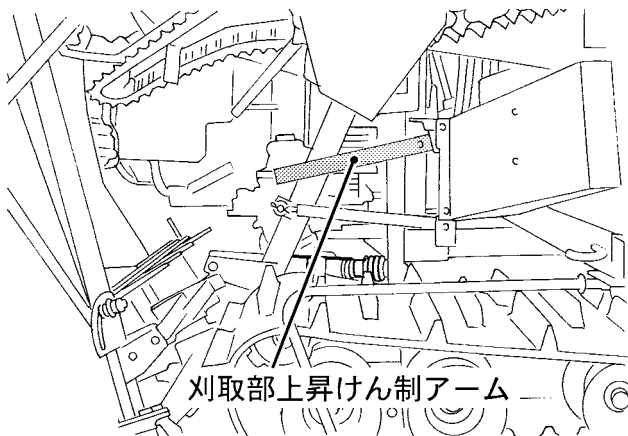
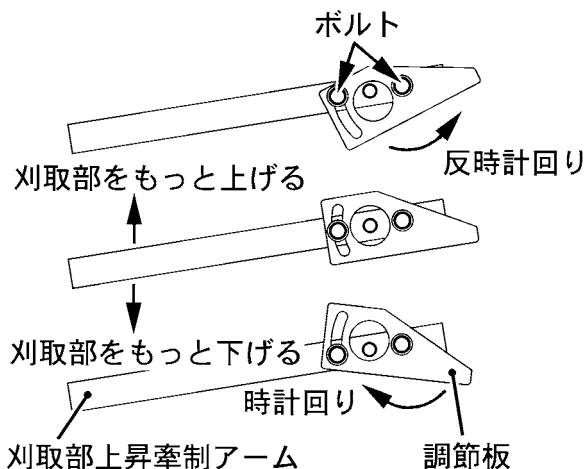
● 刈取部上昇けん制アームの調整

刈取デバイダ先端高さが495～515㎜になるように刈取部上昇けん制アームを調整します。

1. 刈取デバイダ先端高さを測ります。

重　要

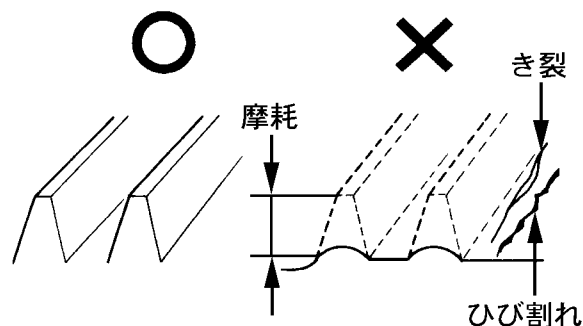
刈取デバイダ先端高さの測り方

① 刈取下降ロックを解除して刈取部を接地させます。
② エンジンをかけ，アクセルレバーを「 」高回転位置まで動かし，エンジン回転を最大にします。
③ ステアリングワンレバーを一気に後方いっぱいまで引いて，刈取部を最上昇位置まで上げます。
④ スイッチキーを“切”位置にし，刈取下降ロックレバーで刈取部をロックします。
⑤ 刈取デバイダ先端の高さを測ります。

2. 刈取部上昇けん制アームのボルト２本をゆるめたあと，調節板を回転させてボルト２本で締付けます。

3. 1. の方法で刈取デバイダ先端高さを再度測ります。
4. 刈取デバイダ先端高さが495～515㎜になるように1. ～3. を繰返します。

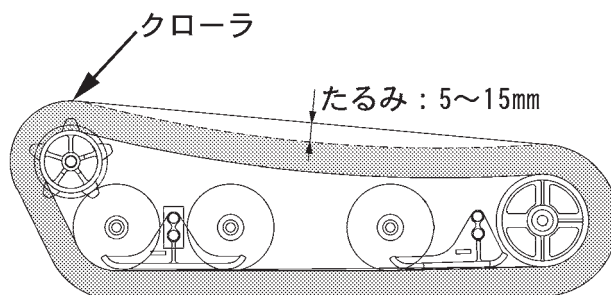
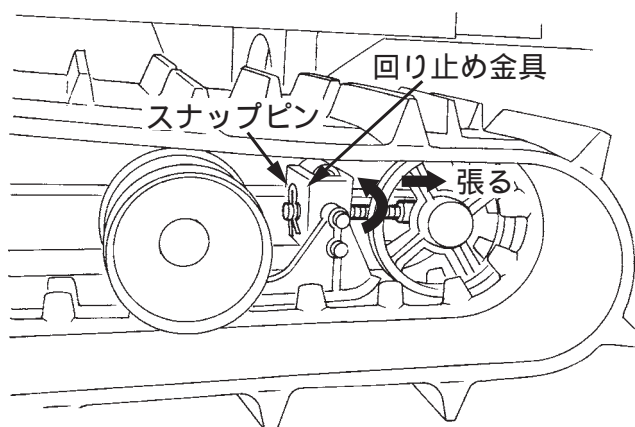
■クローラの点検・調整

＊ 平たんな場所で，必ずエンジンを停止して行なってください。

◆点検

クローラのラグが摩耗していたり，き裂やひび割れが入っているときは購入先へ連絡して早目に交換してください。また，クローラのたわみが大きいときは張り調整を行なってください。

◆調整

クローラのたわみ量を，中央部で５～15㎜に調整します。

1. エンジンを始動し，機体を約１m後進させてエンジンを停止します。
2. クローラ後部にある張りボルトの回り止め金具を，スナップピンを抜いて取外します。
3. 張りボルトを左に回してクローラを張りながら，たわみ量を調整します。

定期点検

4. 左，右調整後，回り止め金具を取付けてスナップピンを差込みます。

重　要

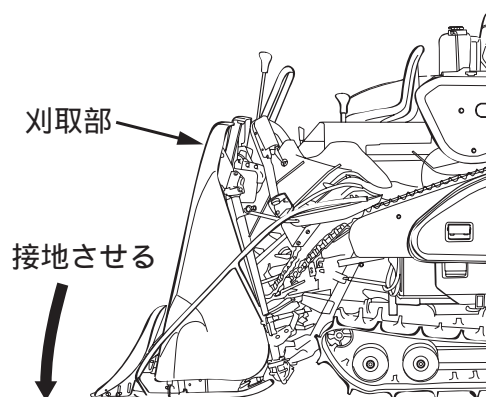
＊ クローラを張り過ぎると車軸の折損の原因になります。
＊ クローラがゆるみ過ぎると脱輪したりスプロケット及び芯金が早期に摩耗することがあります。初期伸びがあるため初期50aで増し張りしてください。

刈取作業が終わったあとは，機械の点検・整備を怠らず，翌日又は，翌年の刈取作業に備えてください。

■毎日の作業後

注　意

＊ 機体に本機カバーをかけるときは，エンジン・マフラが冷えてからかけてください。停止直後にカバーをかけると火災のおそれがあります。

1. 平たんな場所にコンバインを停めます。
2. 機体各部のわらくずを取除いたあと，必要なときは各部に注油を行ないます。（52ページ参照）
3. 刈取部を地面に接地させます。

4. メインスイッチのスイッチキーを抜取ります。
5. 本機カバーをかけます。

補　足

＊ 特に刈取昇降シリンダネジ部にはグリースを必ず塗布してください。
＊ 刈取部を地面に接地させないと，刈取昇降シリンダネジ部に付着した泥が固まり（錆発生要因）刈取部の昇降ができなくなります。

■長期格納時

刈取のシーズンが終了して翌年まで長期間使用しない場合は，格納する前の各部の点検・整備を念入りに行なってください。

◆各部の掃除・注油と補修

機体を平たんな場所に停めて下記事項を行なってください。

- 各部に付着した泥などの汚れをきれいに水洗いし，乾いた布で水分をふき取ってください。
- 各回転部分や切刃部・ベルト・チェーンなどに巻付いた雑草やわらくずを，完全に取除いてください。
- 刈取部を接地させ，刈取昇降シリンダにグリースを充てんしてください。（68ページ参照）

重　要

＊ 機体を洗う場合は，エアクリーナの吸入口や電装部品に水がかからないようにしてください。
＊ 刈取昇降ネジ部に付着した泥は必ずよく落としてください。泥が固まると刈取部の昇降ができなくなります。
＊ 刈取昇降シリンダに必ずグリースを充てんしてください。グリースが不足するとネジが錆びて翌年動かなくなります。（68ページ参照）
＊ 必ずチェーンカバーを外してチェーン全体にグリース又はオイルを塗ってください。（56ページ参照）

補　足

＊ 各部にもみやわらくずが残っていると，ネズミの巣になったり，配線部をかじられて，故障の原因となるのできれいに取除いてください。
＊ 各チェーン，各回転部分や摩擦しゅう動部分には，さびが発生しないようにじゅうぶん注油してください。
＊ 塗料のはげた所には補修塗料を塗って，さびが発生しないようにしてください。
＊ エアクリーナのエレメントのほこりをよく落としてください。
＊ エンジンルーム内のわらくずはよく取除いてください。

◆バッテリ

危　険

＊ 保管や持運びの際にバッテリに火気を近づけたり，ショートさせると爆発の危険がありますので注意してください。

注　意

＊ バッテリを点検するときには，エンジンを停止し，メインスイッチを“ 切 ”にしてください。

長期間使用しない場合は，できるだけバッテリを機体から取外してください。また，以下の点に注意して保管してください。

- 保管前に点検し，必要に応じて補充電を行なってください。（バッテリ液補水タイプは，補水してから補充電を行なってください。）
- バッテリは保管中でも自己放電するので夏は１カ月，冬は２カ月に１回それぞれ点検し，必要に応じて補充電を行なってください。
- 次のような場所に保管してください。

1. 直射日光が当たらない（温度が低く変化の少ない）乾燥している場所
2. 雨露が少なく，水没のおそれのない場所
3. バッテリの有害なガスや液，紛じんの発生が起こらない場所

機体に取付けている場合は，**（－）側のケーブルを必ず取外してください。**

定期点検

4. 各レバー・その他
点検・整備が終わったあと，納屋などに停めておくときは刈取部を地面に必ず接地させて，下記事項を行なってください。
- デバイダカバーを取付けたあと，各分草かんを収納します。
- アクセルレバーをいっぱい戻して（“ 🐢 ”位置）止めておいてください。
- 各作業クラッチ（刈取・脱こく）レバーは“**切**”位置にしておいてください。
- メインスイッチのスイッチキーは，必ず抜取って保管してください。
- 本機カバーをかけます。

◆ラジエータ冷却水
ラジエータ冷却水は冬期のエンジン凍結割れを防止するため，排水又は，不凍液（ロングライフクーラント）を清水に混ぜた冷却水を入れおいてください。

● 排水しておくとき
1. ラジエータ及びリザーブタンクの冷却水を排水します。（68ページ参照）
2. ラジエータキャップに**水なし**と書いた札を掛けておいてください。

● 不凍液を入れておくとき
冷却水の補給・交換を行って，ラジエータ及びリザーブタンクには，不凍液の混ざった適正な混合比の冷却水を規定量入れておきます。
（69ページ参照）

重　要

＊ 冷却水には，不凍液（ロングライフクーラント）を適正量入れ（混合比は最高でも50%以下）,よく水と混ぜ合わせてからお使いください。（冷却水容量……約1.9 L）
＊ 不凍液の混合比を誤ると，冬期には冷却水の凍結，夏期にはエンジンの故障やラジエータの破損の原因になります。
＊ 不凍液を使用する場合は，ラジエータ保浄剤を投入しないでください。不凍液には防錆剤が入っていますので，保浄剤を混入するとエンジン部品に悪影響を与えます。
＊ クボタ不凍液（ロングライフクーラント）の有効使用期間は２年間です。必ず２年で交換してください。

コンバインの不調と処置

警 告

＊ 各部の調整，点検，交換などを行なうときは，エンジンを必ず止めてから行なってください。
＊ 刈刃やカッタの清掃時は刃部に注意してください。
＊ 燃料やオイルがこぼれた場合は，火気に注意しきれいにふき取ってください。

注 意

＊ 各クラッチは，“切”にしてください。
＊ エンジン始動時は合図をし，安全を確認してください。
＊ 運転中及び停止直後，またオーバ ヒートなどの高温時は，約５分間エンジンだけを動かしたあと，エンジンを停止し，30分以上経過するまでエンジンルームを開けないでください。高温部でヤケドするおそれがあります。

ページ

次のようなトラブルが起きたら！

セルスタータが始動せずエンジンが掛からない

すぐにすること	原因	点検箇所	処置	参照ページ
・メインスイッチを“**切**”にする	脱こくクラッチレバーが“**入**”になっている。	脱こくクラッチレバー	・脱こくクラッチレバーを“**切**”にする。	8
	駐車ブレーキが“**切**”になっている。	駐車ブレーキ	・駐車ブレーキペダルをいっぱい下まで踏み込む。 ・ブレーキロックレバーで駐車ブレーキペダルをロックする。	7
	スローブローヒューズが切れている。	スローブローヒューズ	・新品のスローブローヒューズ(40A)に交換する。	102 125
	バッテリの端子が外れている。	バッテリ	・バッテリ端子にハーネスの金具を確実に締め付ける。	96
	バッテリが上がっている。		・バッテリを充電する。 ・新品のバッテリに交換する。 ・ブースターケーブルを使ってセルを始動させる。	96
	変速レバーが“中立”になっていない	変速レバー	・変速レバーを中立位置にする。	6
	スタータヒューズが切れている	スタータヒューズ	・新品のヒューズ（10A）に交換する。	101

セルスタータは始動するがエンジンが掛からない

すぐにすること	原因	点検箇所	処置	参照ページ
・メインスイッチを **“切”** にする。	燃料が入っていない。	燃料タンク	・燃料（ディーゼル軽油）を補給する。（燃料タンク容量11Ｌ）	65
	外気温が低い。		・寒冷時の始動（予熱）をする。	19
	バッテリが弱っている。	バッテリ	・補充電する。	96

変速レバーを操作しても機体が動かない

すぐにすること	原因	点検箇所	処置	参照ページ
・変速レバーを中立にする	駐車ブレーキが“**入**”になっている。	駐車ブレーキ 変速レバー	・駐車ブレーキペダルをいっぱい下に踏み込んでから足を離して駐車ブレーキを“**切**”にする。 （注意：必ず変速レバーを“**中立**”にしてから駐車ブレーキを“**切**”にしてください。 変速レバーが“**中立**”以外の位置にある状態で駐車ブレーキが“**切**”になると機体が急発進して危険です。）	22
	エンジン回転数が低い。	アクセルレバー	・アクセルレバーを「 」高回転（エンジン回転数最大）に合わせせる。	22
	走行駆動ベルトが破損している。	走行駆動ベルト	・エンジン〜カウンタベルトを新品に交換する。	76 136
	走行駆動ベルトが伸びている。	走行駆動ベルト	・点検し，エンジン〜カウンタベルトがゆるんでいればエンジン〜カウンタベルトを張る。	79
	走行駆動ベルトがプーリから外れている。	走行駆動ベルト	・点検し,走行駆動ベルトが外れていれば,テンションを一たんゆるめて走行駆動ベルトをプーリにはめ,そのあとで,走行駆動ベルトを張る。	79

ステアリングワンレバーを操作しても刈取部が降下しない

すぐにすること	原因	点検箇所	処置	参照ページ
・ステアリングワンレバーで刈取部をいっぱい上昇させる。 ・刈取下降ロックレバーで刈取部をロックする。 ・刈取部の落下を防止するために歯止めをする。	刈取下降ワイヤがたるんでいる。	刈取下降ワイヤ（灰色）	・刈取下降ワイヤ（灰色）を調節する。	80
	刈取昇降シリンダネジ部に泥やわら・草が付着している。	刈取昇降シリンダネジ部	・刈取昇降シリンダネジ部の泥やわらを取り除く。	68
	刈取昇降シリンダネジ部の潤滑グリスが不足している。	刈取昇降シリンダネジ部 刈取昇降シリンダ	・刈取昇降シリンダネジ部に注油又はグリースを塗布する。 ・刈取昇降シリンダにグリースを補給する。	68
	刈取昇降シリンダにグリースが入りすぎている。	刈取昇降シリンダ	・刈取昇降シリンダ内部の余分なグリースを抜く。 ①刈取昇降シリンダのグリースニップルを取外す。 ②歯止めを外す。 ③刈取下降ロックレバーを“**解除**”にする。 ④ステアリングワンレバーで刈取部を降下させる。 ⑤グリースニップル口からあふれ出たグリースを取除く。 ⑥グリースニップルを取付ける。 （注意：刈取昇降シリンダ部へのグリース補給は参照ページの手順を守って行なってください。）	68

コンバインの不調と処置

ステアリングワンレバーを操作しても刈取部が上昇しない
上昇させても自然に降下してしまう

すぐにすること	原因	点検箇所	処置	参照ページ
・ステアリングワンレバーで刈取部をいっぱい下降させる。	刈取上昇ワイヤがたるんでいる。	刈取上昇ワイヤ（黄色）	・刈取上昇ワイヤ（黄色）を張る。	80
	刈取下降ワイヤが張りすぎている。	刈取下降ワイヤ（灰色）	・刈取下降ワイヤ（灰色）をゆるめる。	80
	カウンタ～刈取昇降ベルトが破損している。	カウンタ～刈取昇降ベルト	・カウンタ～刈取昇降ベルトを新品に交換する。	76 134
	カウンタ～刈取昇降ベルトが伸びている。	カウンタ～刈取昇降ベルト 刈取上昇ワイヤ	・刈取上昇ワイヤを調節しても刈取昇降ベルトが作動しない場合は刈取昇降ベルトを新品に交換する。	76 134
	カウンタ～刈取昇降ベルトがプーリから外れている。	刈取昇降ベルト	・点検し，カウンタ～刈取昇降ベルトが外れていれば，刈取昇降ベルトをプーリにはめる。	76
	刈取降下ブレーキゴムがすり減っている。	刈取降下ブレーキゴム	・刈取降下ブレーキゴムを新品に交換する。	127

正常な旋回ができない

現象	原因	点検箇所	処置	参照ページ
・ステアリングワンレバーを操作しても旋回できない。	左右操向ワイヤ（黒色）がたるんでいる。	操向ワイヤ（右） 操向ワイヤ（左）	・操向ワイヤ(右)，操向ワイヤ(左）をレバーのガタが１～３㎜になるまで張る。 （張りすぎるとステアリングワンレバーを“**中立**”に戻しても旋回し続けるので張り過ぎないようにする。）	72

脱こくクラッチレバーを“入”にしても脱こく部が作動しない

すぐにすること	原因	点検箇所	処置	参照ページ
・脱こくクラッチレバーを“**切**”にする。 ・変速レバーを“**中立**”にする。	エンジン回転数が低すぎてエンストする。	アクセルレバー	・アクセルレバーを「」高回転（エンジン最高回転数）に合わせる。	6
・脱こくクラッチレバーを“**切**”にする。 ・変速レバーを“**中立**”にする。 ・メインスイッチを“**切**”にする。	脱こくテンションスプリングが外れている。	脱こくテンションスプリング 脱こくクラッチレバー 脱こくテンションアーム	・エンジンルームを開けて脱こくテンションスプリングを点検し,「脱こくクラッチレバー」や「脱こくテンションアーム」から脱こくテンションスプリングが外れていれば，はめ込む。	81
	エンジン～こぎ胴入力ベルトが破損している。	エンジン～こぎ胴入力ベルト	・エンジン～こぎ胴入力ベルトを新品に交換する。	81
	エンジン～こぎ胴入力ベルトが伸びている。	エンジン～こぎ胴入力ベルト 脱こくテンションアーム	・脱こくテンションプーリの位置を調節する。 ・それでもエンジン～こぎ胴入力ベルトが作動しない場合はエンジン～こぎ胴入力ベルトを新品に交換する。	81
	エンジン～こぎ胴入力ベルトがプーリから外れている。	エンジン～こぎ胴入力ベルト	・点検し，エンジン～こぎ胴入力ベルトが外れていれば，エンジン～こぎ胴入力ベルトをプーリにはめる。	81

コンバインの不調と処置

刈取クラッチレバーを " **入** " にしても刈取部が作動しない

すぐにすること	原因	点検箇所	処置	参照ページ
・刈取クラッチレバーを " **切** " にする。 ・変速レバーを " **中立** " にする。	エンジン回転数が低すぎてエンストする。	アクセルレバー	・アクセルレバーを「 」高回転（エンジン最高回転数）に合わせる。	6
	変速レバーが " **走行** " 側になっている。	変速レバー	・変速レバーを " **刈取** " 側に入れる。 （変速レバーが " **走行** " 側になっている場合は，刈取クラッチレバーを " **入** " にしても刈取部は作動しません。）	6
・刈取クラッチレバーを " **切** " にする。 ・変速レバーを " **中立** " にする。 ・メインスイッチを " **切** " にする。	刈取テンションスプリングが外れている。	刈取テンションスプリング 刈取クラッチレバー 刈取テンションアーム	・ステップ左側の側板を開けて刈取テンションスプリングを点検し，刈取クラッチレバーや刈取テンションアームから刈取テンションスプリングが外れていれば，はめ込む。	79
	ミッション～刈取入力ベルトが破損している。	ミッション～刈取入力ベルト	・ミッション～刈取入力ベルトを新品に交換する。	79
	ミッション～刈取入力ベルトが伸びている。	ミッション～刈取入力ベルト 刈取テンションボルト	・刈取テンションボルトを調節してベルトの張りを強くする。 ・それでもミッション～刈取入力ベルトが作動しない場合はミッション～刈取入力ベルトを新品に交換する。	79
	ミッション～刈取入力ベルトがプーリから外れている。	ミッション～刈取入力ベルト	・点検し，ミッション～刈取入力ベルトが外れていれば，刈取駆動ベルトをプーリにはめる。	79

作物が入っていないのに脱こくクラッチレバーを“ 入 ”にすると脱こくランプが点滅しブザー音が鳴る

すぐにすること	原因	点検箇所	処置	参照ページ
・脱こくクラッチレバーを“ **切** ”にする。 ・変速レバーを“ **中立** ”にする。	脱こく回転数が低い。	アクセルレバー	・アクセルレバーを **「 」** 高回転（エンジン回転数最大）に合わせる。	6

コンバインの不調と処置

ピッ・ピッ・ピッと断続ブザー音が鳴る

すぐにすること
・刈取作業を中止して，警報パネルの表示を見る。

重　要

＊ブザーが鳴ったままで作業を続けるとトラブルの原因になります。

現　　象	原　　因	点　検 箇　所	処　　置	参照 ページ
もみランプが点灯している。	ホッパ内が満杯。	吐出口	・機体を停止させて，もみ袋を交換する。	40
	ホッパ内に濡れたもみが詰まっている。	ホッパ内部の詰まり	・詰まりを除去する。 ・作物が充分乾くまで刈取作業を待つ。	55
脱こくランプが点滅している。	負荷がかかり過ぎている。	変速レバー	・変速レバーを“**中立**”にして機体を停止させる。ブザー音が鳴りやんでから再発進する。 ・頻繁にブザー音が鳴る場合はブザーが鳴らない位置まで刈取速度を下げる。	48
	こぎ深さが深すぎる。	こぎ深さ自動スイッチ センサアーム（穂先センサ）	・ON「ランプ点灯」になっているか確認する。 ・こぎ深さ調整位置が適正か確認する。 ・センサアームを調節し穂先位置を“**穂先マーク**”位置に持ってくる。	33
		こぎ深さ手動スイッチ	・手動の場合，こぎ深さを浅くする。	33
	エンジンの回転数が低い。	アクセルレバー	・アクセルレバーを「　」高回転（エンジン回転数最大）に合わせる。	6
	エアクリーナが詰まっている。	エアクリーナ	・エアクリーナを掃除する。 ・掃除しても改善されない場合はエレメントを新品に交換する。	70
	２番スロワの詰まり	２番スロワケース	・詰まり除去する。	53

ピピピピ…と連続ブザー音が鳴る

すぐにすること
・刈取・脱こくクラッチレバーを“**切**”にする。
・変速レバーを“**中立**”にする。
・刈取作業を中止して，警報パネルの表示を見る。

補　足

＊ブザーが鳴ったままで作業を続けると約２秒後に自動的にエンジンが停止します。

警報パネルの 表　示	原　　因	点　検 箇　所	処　　置	参照 ページ
もみランプが点灯している。	ホッパ内が満杯。	吐出口	・もみ袋を左右とも交換する。	40

２番スロワが頻繁に詰まる

すぐにすること	原因	点検箇所	処置	参照ページ
・刈取・脱こくクラッチレバーを“**切**”にする。 ・変速レバーを“**中立**”にする。 ・メインスイッチを“**切**”にする。	脱こく機の回転数が低い。	アクセルレバー	・アクセルレバーを“**刈取・走行位置**”(エンジン最高回転数）に合わせる。	6
	わらの発生（切れ）が多い。	センサアーム	・こぎ深さを浅くする。	33
	排じん部から出るわらが長い。	わら切刃	・わら切刃を新品に交換する。	90
	作物が濡れすぎている。	変速レバー	・作物が乾いてから刈取る。	—
	刈取速度が速すぎる。		・刈取速度を下げる。	39
	まだ青い未熟な作物を刈取っている。		・刈取適期まで待って刈取る。	—

エンジン音が変わったり，こぎ胴でゴトゴト音がする。

すぐにすること	原因	点検箇所	処置	参照ページ
・刈取・脱こくクラッチレバーを“**切**”にする。 ・変速レバーを“**中立**”にする。 ・メインスイッチを“**切**”にする。	深こぎしすぎている。	センサアーム（穂先センサ）	・こぎ深さを浅くする。	33
	こぎ胴室内でのわらの切断処理が悪い。	わら切刃	・わら切刃を新品に交換する。	90
	こぎ胴が詰まっている。	こぎ胴	・こぎ胴を掃除する。	54
	刈取速度が速すぎる。	変速レバー	・刈取速度を下げる。	39
	回転軸にわらや草が巻き付いている。	パッカ部	・パッカ部を掃除する。	103
	油切れしている。	各部ギヤケース 各部チェーン	・取扱説明書に従って給油又はグリース補給する。	64

コンバインの不調と処置

ピッ・ピッ・ピッと断続ブザー音が鳴ってエンジンが止まる
自動エンジン停止装置が働いている

すぐにすること
・刈取・脱こくクラッチレバーを"**切**"にする。
・変速レバーを"**中立**"にする。
・警報パネルの表示を確認してメインスイッチを"**切**"にする。

警報パネルの表示	原因	点検箇所	処置	参照ページ
もみランプが点灯している。	ホッパ内ともみ袋が満杯。	吐出口	・もみ袋を左右とも交換する。	40
脱こくランプが点灯している。	フィードチェーン終端部が詰まっている。	フィードチェーン終端部	・フィードチェーン終端部にわらが詰まっていないか点検し，詰まりがあれば取り除く。	56
	排わらチェーン部が詰まっている。	排わらチェーン部	・排わらチェーン部にわらが詰まっていないか点検し，詰まりがあれば取り除く。	56

ブザー音が鳴らずにエンジンが止まる

すぐにすること	原因	点検箇所	処置	参照ページ
・刈取・脱こくクラッチレバーを"**切**"にする。 ・変速レバーを"**中立**"にする。 ・メインスイッチを"**切**"にする。	燃料がなくなった。	燃料タンク	・燃料（ディーゼル軽油）を補給する。 （燃料タンク容量：約11L）	65

こぎ残しがでる

すぐにすること	原因	点検箇所	処置	参照ページ
・刈取・脱こくクラッチレバーを“**切**”にする。 ・変速レバーを“**中立**”にする。	こぎ深さ調節が浅い。（こぎ深さ自動の場合）	センサアーム（穂先センサ）	・センサーアームの調節で，脱こく機入口の“**こぎ深さ指示穂先マーク**”の指示の位置に穂先を合わせる。	33
	こぎ深さ調節が浅い。（こぎ深さ手動の場合）	こぎ深さ手動スイッチ	・こぎ深さ手動スイッチで，脱こく機入口の“**こぎ深さ指示穂先マーク**”の指示の位置に穂先を合わせる。	33
・刈取・脱こくクラッチレバーを“**切**”にする。 ・変速レバーを“**中立**”にする。 ・メインスイッチを“**中立**”にする。	脱こく駆動ベルトがスリップしている。	脱こく駆動ベルト	・脱こくクラッチを調整する。	81

もみの飛散が多い

すぐにすること	原因	点検箇所	処置	参照ページ
・刈取作業を中止し，搬送部にある作物を流しきる。	作物が濡れている。	作物の濡れ程度	・作物が充分乾いてから作業する。	―
	排じん調節板が下に下がっている。	排じん調節板	・排じん調節板を上に上げる。	46
	刈取速度が速すぎる。	変速レバー	・刈取速度を下げる。	39

選別が悪くなった

現象	原因	点検箇所	処置	参照ページ
・切りわら・ゴミが入る。	脱こく機の回転数が低い。	アクセルレバー	・アクセルレバーを“**刈取・走行位置**”（エンジン回転数最大）に合わせる。	6
	刈取速度が速すぎる。	変速レバー	・刈取速度を下げる。	39
・こく粒の傷みが多い。	縦スクリュ･吐出口が詰まっている。	縦スクリュ吐出口	・縦スクリュ・吐出口が詰まっていないか点検し，詰まりがあれば取り除く。	55
	シーブケースが詰まっている。	シーブケース	・シーブケース上面にわらくずが留まっていないか点検し留まりがあれば取除く。	54

コンバインの不調と処置

吐出口からもみが出てこない

すぐにすること	原　因	点検箇所	処　置	参照ページ
・刈取・脱こくクラッチレバーを“**切**”にする。 ・変速レバーを“**中立**”にする。 ・メインスイッチを“**切**”にする。	作物が濡れている。	吐出口 1番スクリュ 作物の濡れ程度	・濡れた作物によって詰まりが発生していないか点検し，詰まりがあれば取除く。 ・作物が充分乾いてから作業する。	―
	ホッパ内が詰まっている。	ホッパ内	・ホッパ上部開閉カバーを開けて内部のもみを排出する。	55
	縦スクリュが詰まっている。	縦スクリュ	・縦スクリュの掃除口を開けて掃除する。 ・ホッパ内の縦スクリュの出口を掃除する。	55
	1番スクリュが詰まっている。	1番スクリュ	・排じんカバーを開けて1番スクリュを掃除する。	55

カッタでわらが切れない

すぐにすること	原　因	点検箇所	処　置	参照ページ
・刈取・脱こくクラッチレバーを“**切**”にする。 ・変速レバーを“**中立**”にする。 ・メインスイッチを“**切**”にする。	カッタのベルトがスリップしている。	2番～カッタベルト	・2番～カッタベルトを張る。	82
	カッタの刃が切れない。	カッタの刃	・カッタの刃が摩耗していないか点検し，摩耗している場合は交換する。	92

刈取部（パッカ）で詰まる

すぐにすること	原　因	点検箇所	処　置	参照ページ
・刈取・脱こくクラッチレバーを“**切**”にする。 ・変速レバーを“**中立**”にする。 ・メインスイッチを“**切**”にする。	株元搬送通路に泥やわらくずがたまっている。 （湿田や倒伏作物，雑草の多いほ場で刈取作業を行なったとき，搬送通路が泥やわらくずでふさがる。）	刈刃の後方やパッカ下部などの搬送通路	・搬送通路に泥やわらくずがたまっている場合は，刈刃に注意して泥やわらくずを取除く。	―

付　表

主要諸元

<table>
<tr><td colspan="4">商　品　名</td><td colspan="2">AR-J211</td></tr>
<tr><td colspan="4">農機型式名</td><td colspan="2">クボタ　R0401</td></tr>
<tr><td colspan="4">区　　分</td><td>ー</td><td>W</td></tr>
<tr><td rowspan="3">機体寸法</td><td colspan="3">全　　長（㎜）</td><td colspan="2">2630（デバイダ先端～フレーム後端）</td></tr>
<tr><td colspan="3">全　　幅（㎜）</td><td colspan="2">1440（右ウインカ～サイドデバイダ収納位置）</td></tr>
<tr><td colspan="3">全　　高（㎜）</td><td colspan="2">1550（地面～ホッパ上端）</td></tr>
<tr><td colspan="4">機体質量〔重量〕（kg）</td><td>620</td><td>650</td></tr>
<tr><td rowspan="8">エンジン</td><td colspan="3">種　　類</td><td colspan="2">水冷４サイクル２気筒立形ディーゼル</td></tr>
<tr><td colspan="3">型　式　名</td><td colspan="2">Z482-E2-C-3</td></tr>
<tr><td colspan="3">総排気量（L｛cc｝）</td><td colspan="2">0.479｛479｝</td></tr>
<tr><td colspan="3">最大出力／回転速度
（kW｛PS｝/rpm）</td><td colspan="2">7.7｛10.5｝/2900</td></tr>
<tr><td colspan="3">使用燃料</td><td colspan="2">ディーゼル軽油</td></tr>
<tr><td colspan="3">燃料タンク容量（L）</td><td colspan="2">11</td></tr>
<tr><td colspan="3">始動方式</td><td colspan="2">セルモータ式</td></tr>
<tr><td colspan="3">バッテリ（V･Ah）</td><td colspan="2">12V・27Ah［34B19L］</td></tr>
<tr><td rowspan="9">走行部</td><td rowspan="3">クローラ</td><td colspan="2">中心距離（㎜）</td><td colspan="2">760</td></tr>
<tr><td colspan="2">幅×接地長（㎜）</td><td>280×830</td><td>330×830</td></tr>
<tr><td colspan="2">平均接地圧
（kPa｛kgf/cm^2｝）</td><td>12.7｛0.13｝</td><td>11.3｛0.12｝</td></tr>
<tr><td colspan="3">最低地上高（㎜）</td><td colspan="2">180</td></tr>
<tr><td colspan="3">変速方式</td><td colspan="2">油圧モータ式　〔HST〕</td></tr>
<tr><td colspan="3">変速段数</td><td colspan="2">前進無段・後進無段　〔副変速：前進のみ２段〕</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">走行速度(m/s)
〔エンジン定格
回転速度時〕</td><td>前　進</td><td colspan="2">〔副変速〕刈取：０～0.50　走行：０～0.90</td></tr>
<tr><td>後　進</td><td colspan="2">０～0.50</td></tr>
<tr><td colspan="3">旋回方式</td><td colspan="2">爪式ブレーキターン</td></tr>
<tr><td rowspan="6">刈取部</td><td colspan="3">刈取り条数（条）</td><td colspan="2">2</td></tr>
<tr><td colspan="3">刈幅〔デバイダ先端間隔〕
（㎜）</td><td colspan="2">795～845</td></tr>
<tr><td colspan="3">刈取装置形式</td><td colspan="2">往復動刃式</td></tr>
<tr><td colspan="3">刃　　幅（㎜）</td><td colspan="2">750</td></tr>
<tr><td colspan="3">刈高さ範囲（㎜）</td><td colspan="2">40～150</td></tr>
<tr><td colspan="3">こぎ深さ調節方式</td><td colspan="2">自動電動モータ式</td></tr>
<tr><td rowspan="5">脱こく部</td><td colspan="3">脱こく方式</td><td colspan="2">下こぎ・単胴・軸流式</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">こぎ胴</td><td>径×幅(㎜)</td><td colspan="2">370×330</td></tr>
<tr><td>回転速度
(rpm)</td><td colspan="2">559</td></tr>
<tr><td colspan="2">揺動板</td><td>幅×長さ
（㎜）</td><td colspan="2">300×780</td></tr>
<tr><td colspan="3">選別方式</td><td colspan="2">揺動・圧風・ストローラック方式</td></tr>
</table>

＊この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

付　表

商　品　名			AR-J211	
農機型式名			クボタ　R0401	
区　　分			―	W
こく粒処理部	ホッパ	容　　量（L）	100	
		吐出口数（口）	2	
排わら処理部	工場出荷仕様		標準カッタ（60㎜）・短切カッタ（30㎜）・結束機	
	ディーラーオプション		ドロッパ：D-11	
諸装置	自動化装置	自動こぎ深さ制御	○	
		自動エンジン停止装置	○ {枕扱き，もみ満杯，排わら詰まり，フィードチェン詰まり}	
	警報装置		冷却水温，脱穀２番回転数，もみ満杯， 排わら詰まり，フィードチェン詰まり	
適応作物範囲〔全長〕（㎜）			700～1200	
倒伏適応性（度）			追刈り：85以下・向刈り：70以下	
作業能率〔計算値〕 (a/hr {分/10a})			10～6 {61～102}	
安全鑑定番号			―	

＊この主要諸元は，改良のため予告なく変更することがあります。

付属部品

次の部品が付属していますのでお調べください。

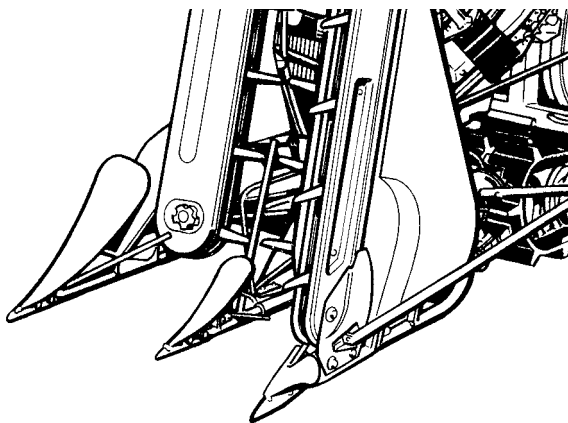
＊取扱説明書収納袋	
・取扱説明書（本冊子）	1
・保証書	1
・油差し	1
＊工具袋	1
・ボックスレンチ	1
＊本機カバー	1
＊小物部品	1 セット
＊デバイダ	1 式
＊デバイダカバー（機体に締付け）	1
＊左分草かん	1

オプション（別売品）（純正品を使いましょう）

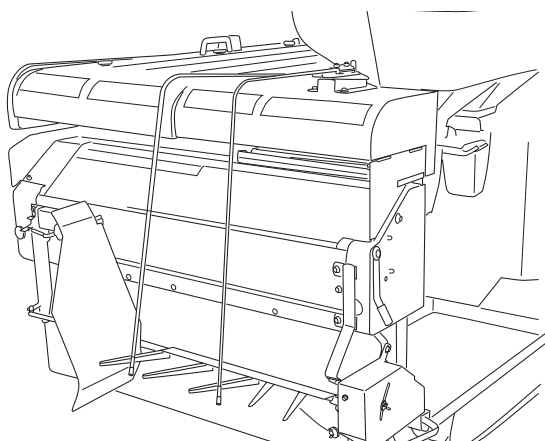
◆刈取部

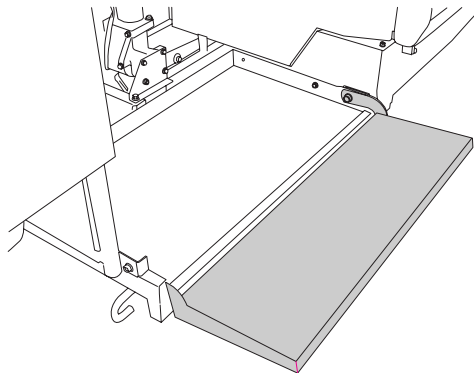
■ スイスイデバイダ

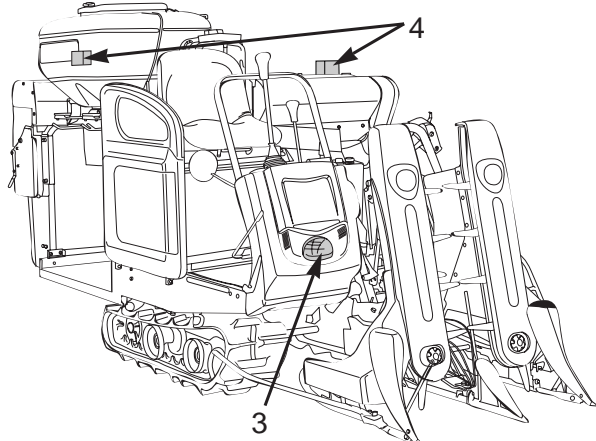
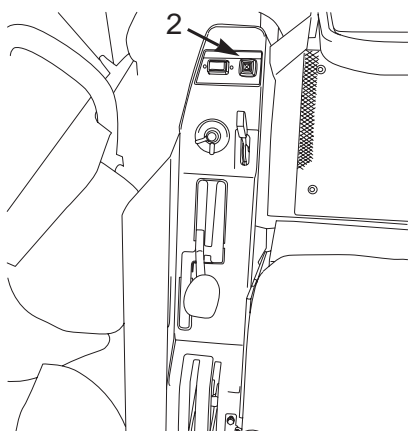
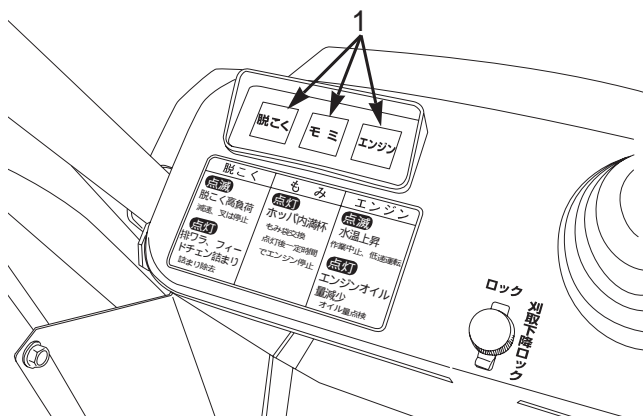
倒伏した作物が能率よく刈取りできます。

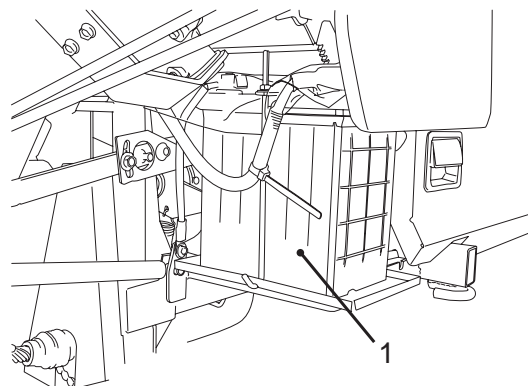
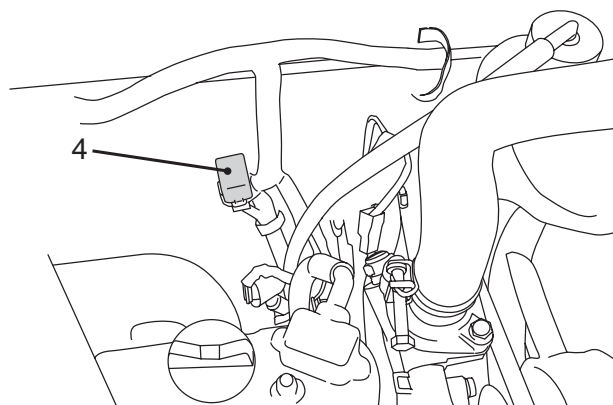
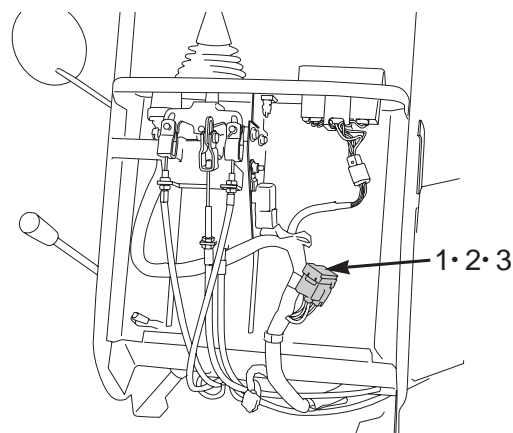
品　　番	品　　名
5H279-00000	ARM217　スイスイデバイダ

◆排わら処理部

■ 集束ドロッパ

品　　番	品　　名
5F983-00000	D-11　集束ドロッパ

■ 延長もみデッキ

品　　番	品　　名
5H297-00000	MD-11　延長もみデッキ

消耗部品（純正部品を使いましょう）

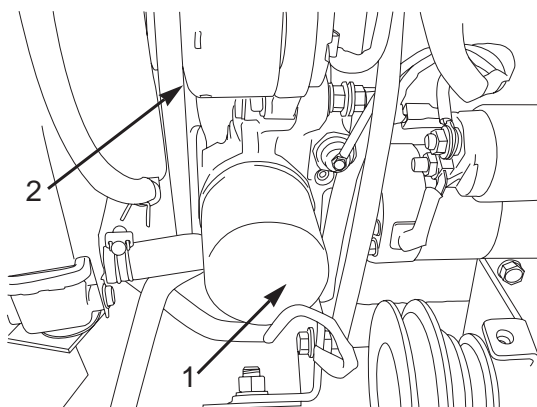
◆ランプ（電球）

図番	品　　名	品　番
1	バルブ	52300-41421
2	ランプバルブ	5H251-41211
3	デンキュー	66591-55631
4	バルブ	LM004-00160

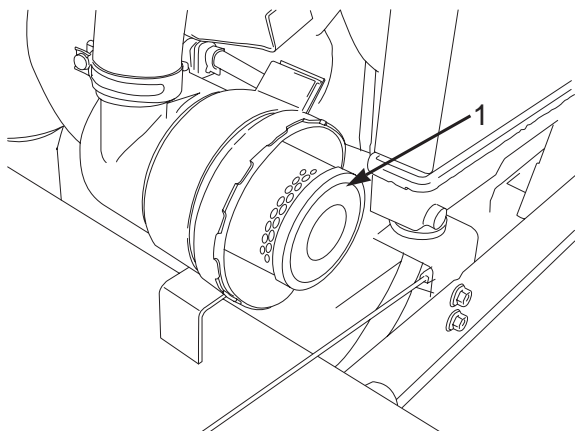
◆バッテリ

図番	品　　名	品　番
1	バッテリ	5H215-41911

◆ヒューズ

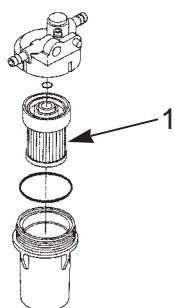
[エンジンルーム内]

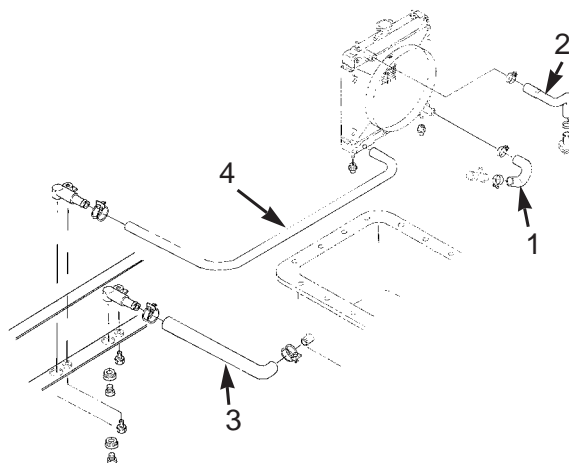
図番	品　　名	品　番
1	10Aオートヒューズ	LM004-00070
2	15Aオートヒューズ	LM004-00080
3	20Aオートヒューズ	LM004-00090
4	40Aスローブローヒューズ	LMC02-10401

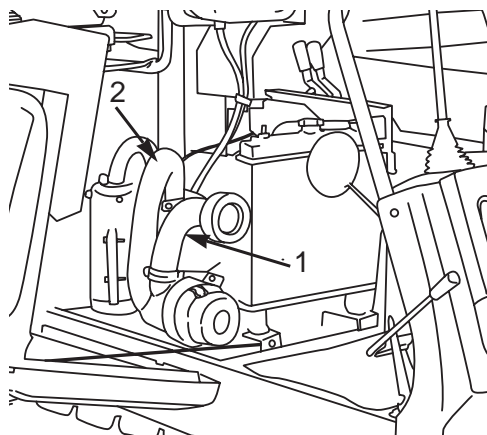
消耗部品（純正部品を使いましょう）

◆オイルフィルタカートリッジ
◆ファン駆動ベルト

図番	品　　名	品　番
1	フィルタ（オイル，カートリッジ）	15853-32435
2	34.5Ｖベルト	15881-97011

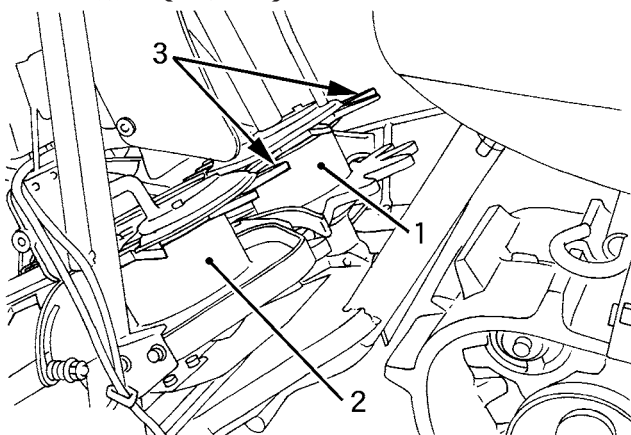
◆エアクリーナエレメント

図番	品　　名	品　番
1	エレメント，アッシ	6A100-82632

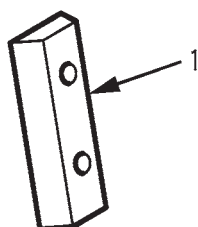
◆フューエルフィルタ

図番	品　　名	品　番
1	フィルタ	6A320-59931

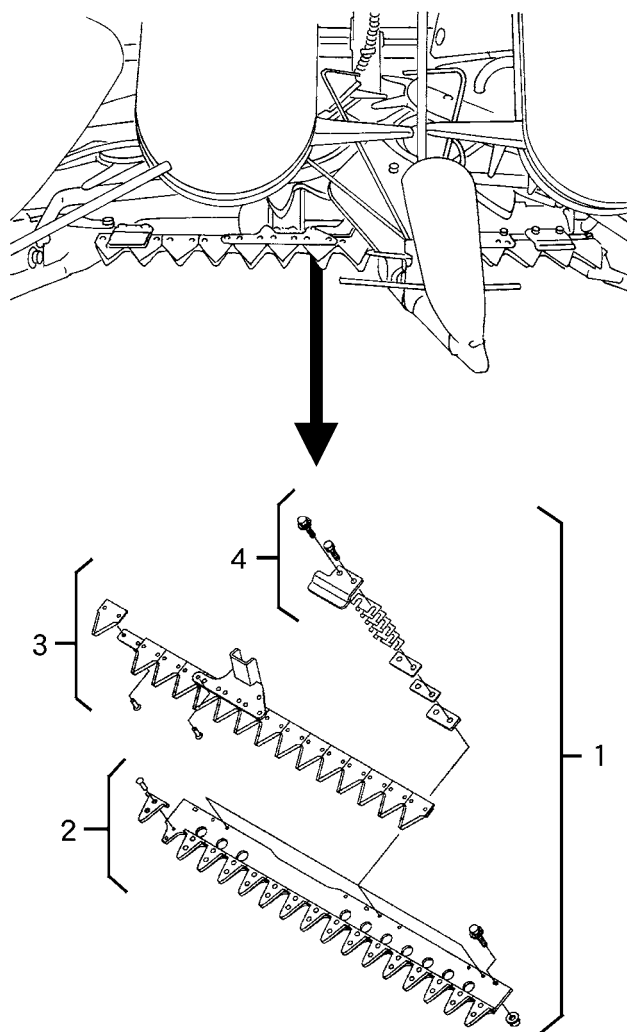
◆ラジエータホース，オイルドレーンゴムホース

図番	品　　名	品　番
1	ホース（ウォータパイプ１）	52170-25392
2	ホース（ウォータパイプ２）	52170-25442
3	チューブ（ハイユ）	LMC01-10901
4	チューブ（ハイスイ）	LMC01-10311

◆インレットパイプ

図番	品　　名	品　番
1	チューブ（インレットパイプ１）	5H215-25422
2	チューブ（インレットパイプ２）	5H215-25433

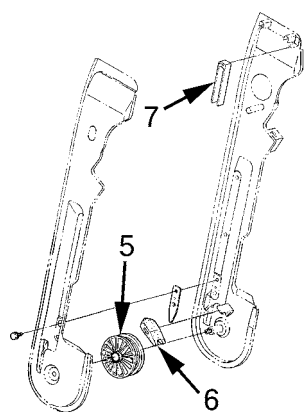
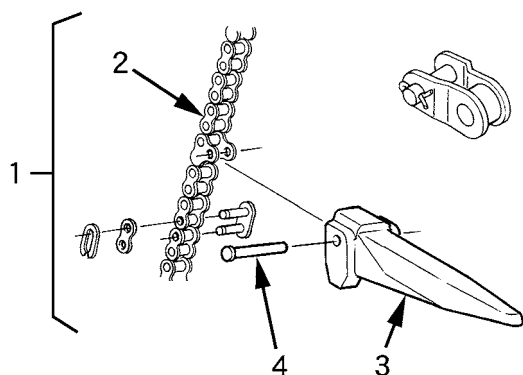
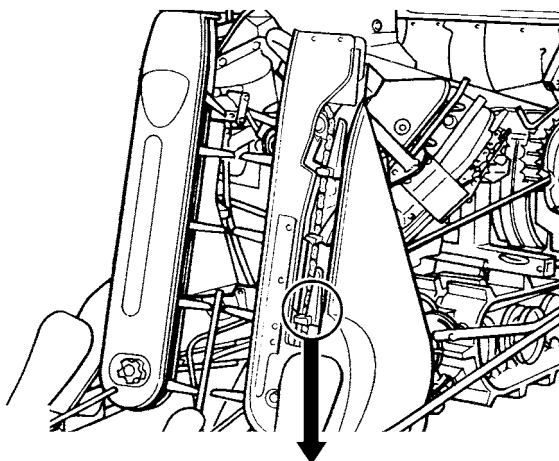
消耗部品（純正部品を使いましょう）

◆パッカ
◆補助搬送（突起付）ベルト

図番	品　　名	品　番
1	パッカ（R）	5H215-61216
2	パッカ（L）	5H215-61156
3	ベルト（32．トッキ）	5H215-61811

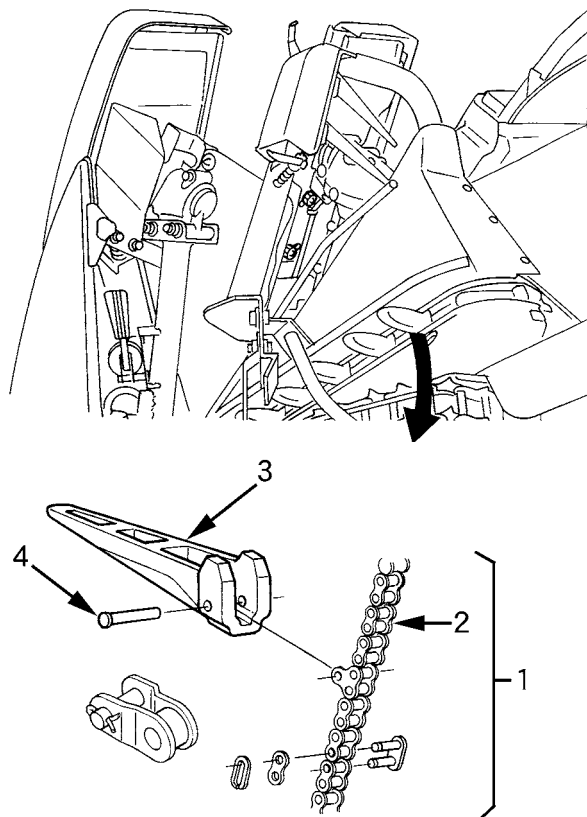
◆ゴム（ブレーキ）

図番	品　　名	品　番
1	ゴム（ブレーキ）	5H281-27331

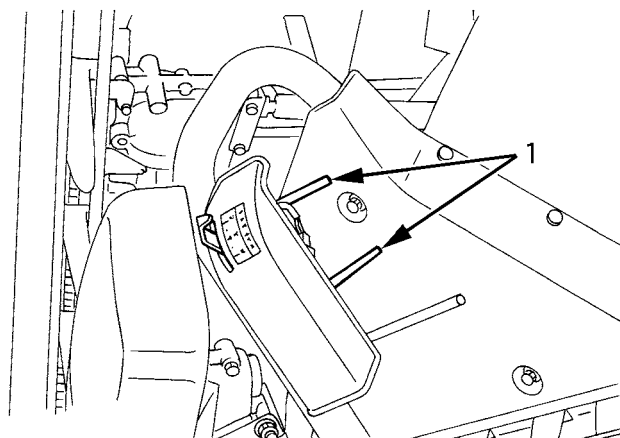
◆刈刃

図番	品　　名	品　番
1	刈刃アッシ	5H276-58201
2	受刃コンプ	5H552-58301
3	刈刃コンプ	5H276-58401
4	ナイフクリップ	5H215-58513

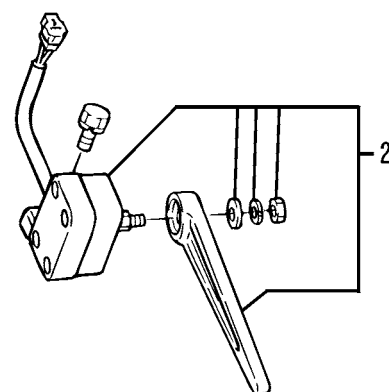
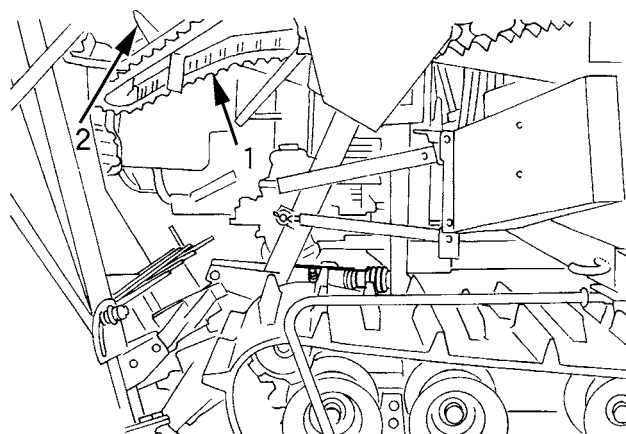
消耗部品（純正部品を使いましょう）

◆引起しチェーン
◆引起し110ローラ・ゴム

図番	品　　名	品　番
1	チェーン，アッシ（ヒキオコシ）	5H215-53011
2	チェーン（ヒキオコシ）	5H215-53201
3	引起し爪	56713-54225
4	爪取付ピン	56713-54312
5	110ローラ	52300-53133
6	ゴム（ツメオコシ）	5H215-53281
7	ゴム（ツメアタリ）	5H215-53331

消耗部品（純正部品を使いましょう）

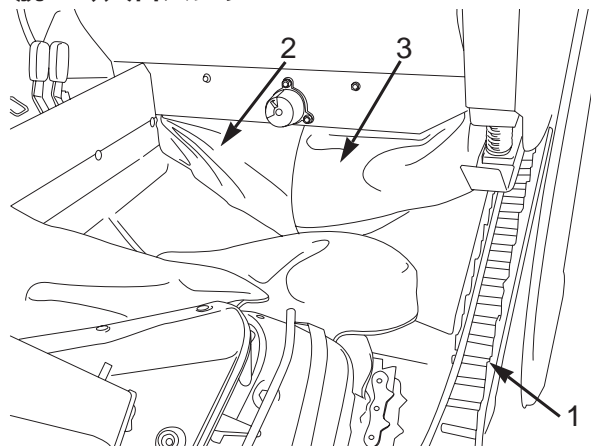
◆株元穂先チェーン

図番	品　　名	品　番
1	チェーン，コンプ（ホサキ）	5H215-66701
2	チェーン，アッシ（ホサキ）	5H215-66801
3	搬送爪	55411-63622
4	穂先爪ピン	55411-63632

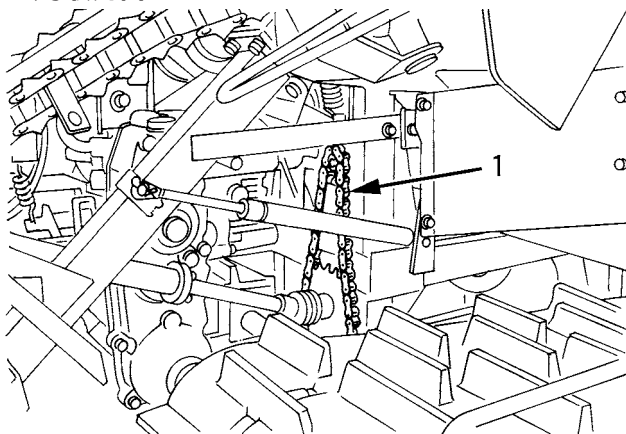
◆穂先センサ

図番	品　　名	品　番
1	センサ，アッシ（ホサキ）	5H215-75301

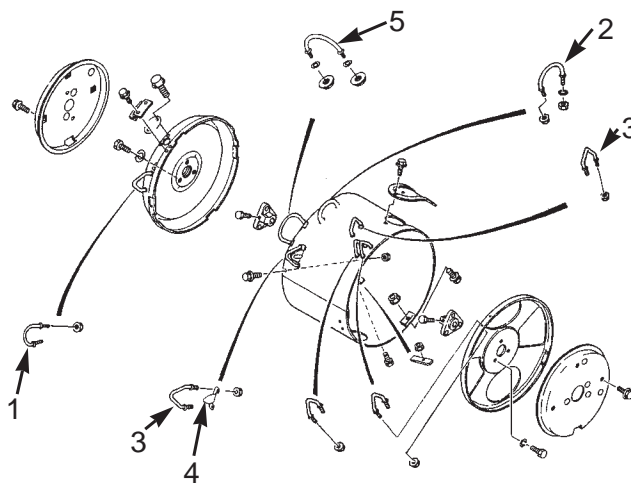
◆供給株元チェーン
◆株元センサ

図番	品　　名	品　番
1	チェーンアッシ（キョウキュウ）	5H215-66201
2	ホサキセンサアッシシタ	58540-95601

付　表

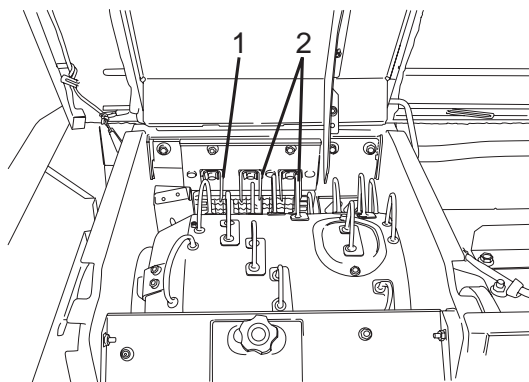
消耗部品（純正部品を使いましょう）

◆フィードチェーン
◆脱こく入口ハンプ

図番	品　　名	品　番
1	チェーン（フィード）	LMC03-10801
2	ハンプ （1，ヒサンボウシ）	LMC03-12321
3	ハンプ （2，ヒサンボウシ）	LMC03-12311

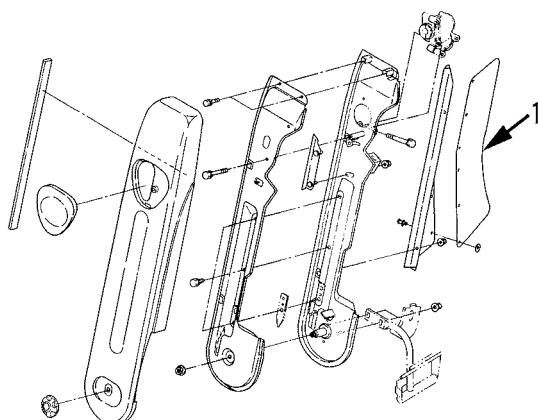
◆刈取昇降チェーン

図番	品　　名	品　番
1	チェーン （ショウコウクドウ）	5H281-27161

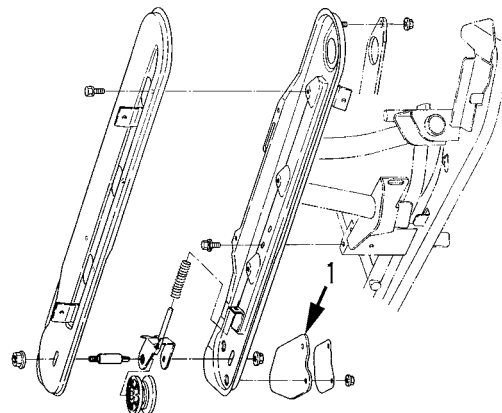
◆こぎ歯

図番	品　　名	品　番
1	セイリュウバE	LMC03-12821
2	セイソシB	LMC03-00131
3	ナミハ	LMC03-10761
4	コギハ	LMC03-00021
5	セイソシB	LMC03-12961

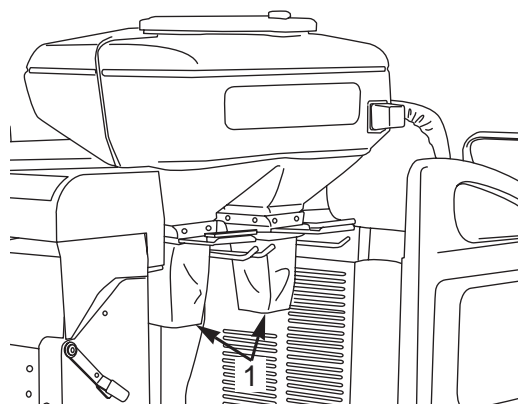
消耗部品（純正部品を使いましょう）

◆わら切刃

図番	品　　名	品　番
1	セツダンバ	LMC03-10461
2	セツダンバ	LMC03-12971

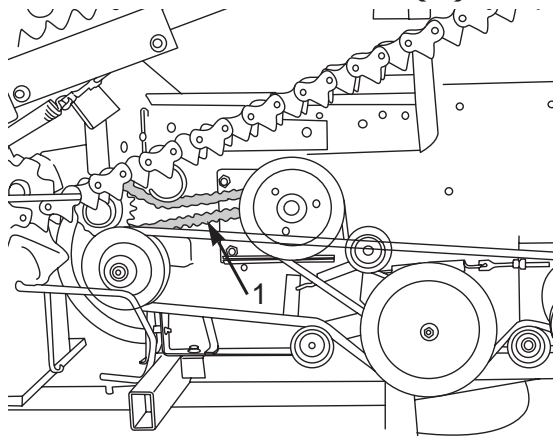
◆ハンプ

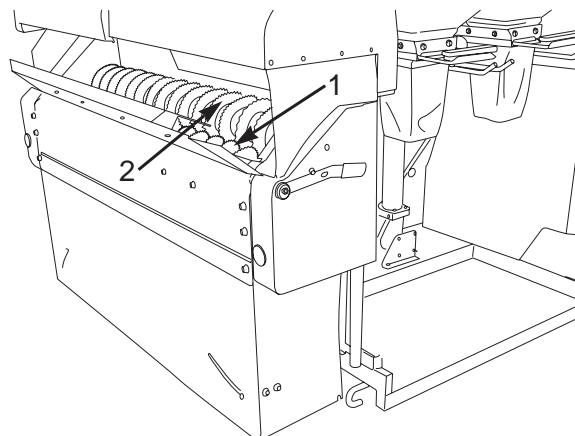
●　引起しフレーム左側

図番	品　　名	品　番
1	ハンプ（ヒキオコシ）	5H215-53491

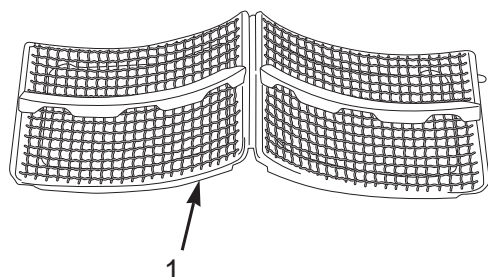
●　供給穂先フレーム

図番	品　　名	品　番
1	ハンプ（ホサキ）	5H215-66852

◆吐出口ブーツ

図番	品　　名	品　番
1	ブーツ	LMC03-10731

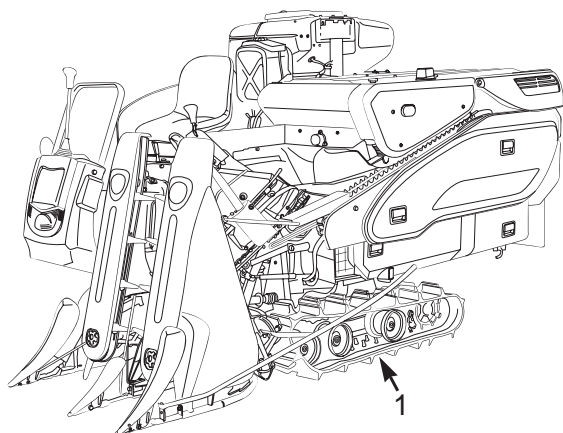
消耗部品（純正部品を使いましょう）

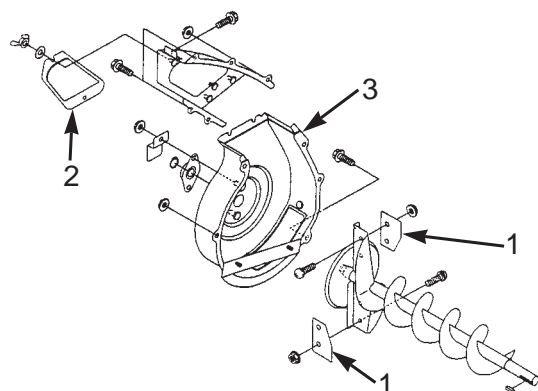
◆フィードチェーン駆動チェーン（1）

図番	品　　名	品　番
1	チェーン	LM013-90010

◆カッタ刃・供給刃

図番	品　　名	品　番
1	セツダンバ	LMC04-10481
2	ロータ	LMC04-10271

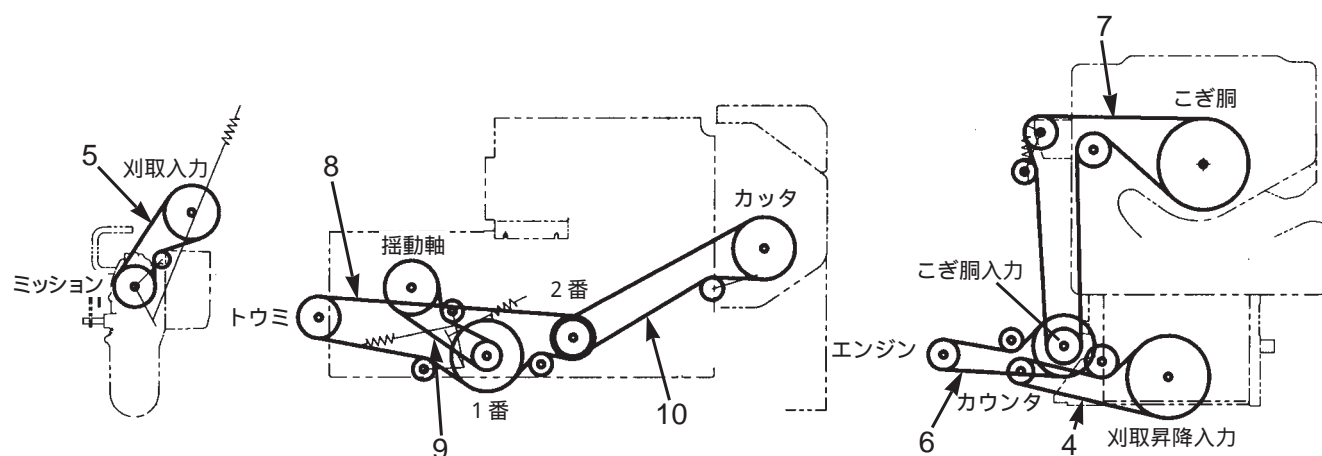
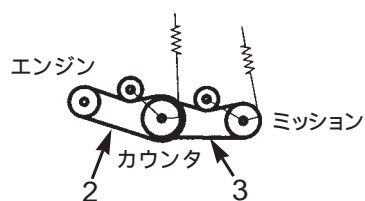
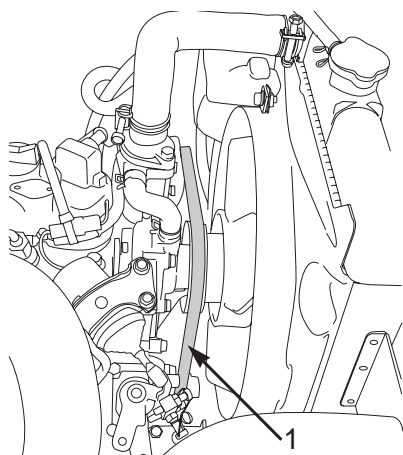
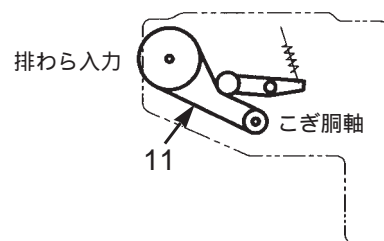
◆受あみ

図番	品　　名	品　番
1	受けあみ	LMC03-11551

消耗部品（純正部品を使いましょう）

◆クローラ

図番	品　　名	品　番
1	クローラ（280-28）	LMC01-10231
1	クローラ（330-28）	LMC01-10241

◆２番ハネ（1）
◆２番プレート（2，3）

図番	品　　名	品　番
1	ハネ（２バン）	LMC03-11151
2	プレート （２バンスロワフタ）	LMC03-11171
3	ケース	LMC03-12082

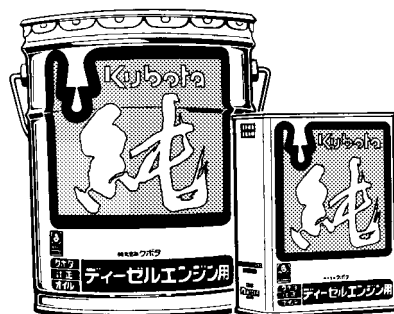
消耗部品（純正部品を使いましょう）

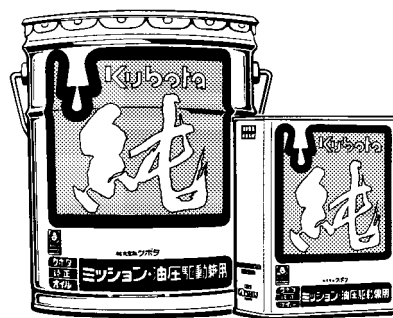
◆各ベルト関係

図番	品　　名	品　番
1	ファンベルト	15881-97011
2	Vベルト	LM002-00100
3	Vベルト	LM002-00130
4	Vベルト	LM001-00040
5	Vベルト	LMC01-10121
6	Vベルト	LM002-00110
7	Vベルト	LM002-00120
8	Vベルト	LM002-00080
9	Vベルト	LM001-00020
10	Vベルト	LM002-00080
11	Vベルト	LM001-00030

クボタ純オイル

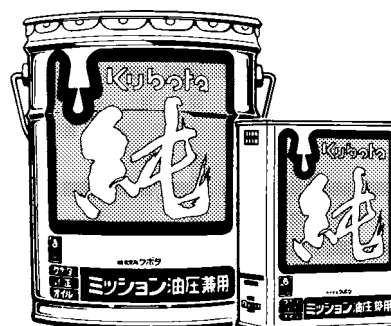
■オイルはクボタ純オイルをお使いください。

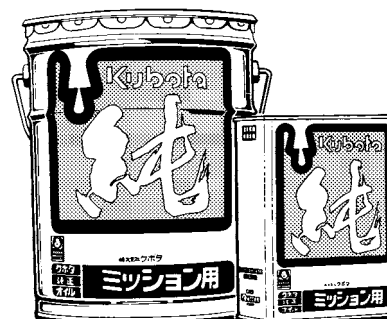
オイルは，コンバインの開発研究から生まれたクボタ純オイルを，必ずお使いください。
市販のオイルをご使用になりますと，あなたの大切なコンバインの寿命を縮めることがあります。

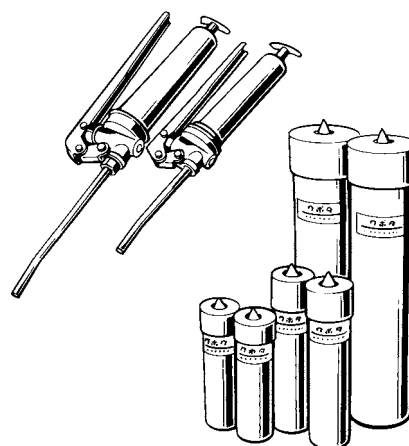
お買求めは，ご購入先へご用命ください。

● **D30又はD10W30（ディーゼルエンジン用）**

20L　　4L

● **スーパーUDT**
（油圧駆動・ミッション油圧・各ギヤ兼用）

20L　　4L

● **M80B（ミッション油圧兼用）**

20L　　4L

● **M90（一般ミッション・各ギヤ用）**

20L　　4L

■クボタスペアグリース

60　100　400

修理・取扱い・手入れなどでご不明の点はまず，購入先へ　ご相談ください。

おぼえのため，記入されると便利です

購入先名　　　　担当　　　　電話（　　）　ー			
ご購入日	型式	車台番号	
エンジン型式　機番		その他装着型式　機番	

万一ご購入先でご不明の点がございましたら，下記にお問い合わせください。

株式会社クボタ

部署	電話	郵便番号	住所
機械札幌事務所	電(011)662-2121	〒063-0061	札幌市西区西町北16丁目１番１号
機械東日本事務所	電(048)862-1121	〒338-0832	さいたま市桜区西堀５丁目２番36号
機械西日本事務所	電(06)6470-5970	〒661-8567	尼崎市浜１丁目１番１号
機械福岡事務所	電(092)606-3161	〒811-0213	福岡市東区和白丘１丁目７番３号

クボタ機械サービス株式会社

部署	電話	郵便番号	住所
本社営業技術部	電(072)241-8092	〒590-0823	堺市石津北町64番地
北海道営業技術推進部	電(011)662-2121	〒063-0061	札幌市西区西町北16丁目１番１号
秋田営業技術推進部	電(018)845-1601	〒011-0901	秋田市寺内字大小路207-54
仙台営業技術推進部	電(022)384-5162	〒981-1221	名取市田高字原182番地の１
東京営業技術推進部	電(048)862-1588	〒338-0832	さいたま市桜区西堀５丁目２番36号
新潟営業技術推進部	電(025)285-1263	〒950-0992	新潟市上所上１丁目14番15号
金沢営業技術推進部	電(076)275-1121	〒924-0038	白山市下柏野町956-1
名古屋営業技術推進部	電(0586)24-5111	〒491-0031	一宮市観音町１番地の１
大阪営業技術推進部	電(06)6470-5860	〒661-8567	尼崎市浜１丁目１番１号
米子営業技術推進部	電(0859)33-5011	〒683-0804	米子市米原７丁目１番１号
岡山営業技術推進部	電(086)279-4511	〒703-8216	岡山市宍甘275番地
株式会社四国クボタ　営業技術課	電(087)874-8500	〒769-0102	香川県綾歌郡国分寺町国分字向647－3
福岡営業技術推進部	電(092)606-3725	〒811-0213	福岡市東区和白丘１丁目７番３号
熊本営業技術推進部	電(096)357-6181	〒861-4147	熊本県下益城郡富合町大字廻江846－1

株式会社クボタアグリ東日本

部署	電話	郵便番号	住所
東北系統推進部	電(018)845-1601	〒011-0901	秋田市寺内字大小路207-54
関東・甲信越系統推進部	電(048)862-1124	〒338-0832	さいたま市桜区西堀５丁目２番36号

株式会社クボタアグリ西日本

部署	電話	郵便番号	住所
中部・近畿系統推進部	電(06)6470-5850	〒661-8567	尼崎市浜１丁目１番１号
株式会社四国クボタ　系統推進部	電(087)874-8500	〒769-0102	香川県綾歌郡国分寺町国分字向647－3

株式会社クボタアグリ九州

部署	電話	郵便番号	住所
九州系統事業推進部	電(092)606-3166	〒811-0213	福岡市東区和白丘１丁目７番３号

No.090602-358K8542009

Kubota

安全はクボタの願い

このマークは「お客様」「ディーラ」「クボタ」の三者が一体となって安全宣言を行うための統一マークです。

株式会社クボタ
〒556-8601
大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号
TEL.06-6648-2111
FAX.06-6648-3862

品番　5H293-85429